

四国横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第三十六冊

金毘羅山遺跡 I
塔の山南遺跡
庵の谷遺跡

2000. 8

香 川 県 教 育 委 員 会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日 本 道 路 公 団
香 川 県 土 木 部

序 文

四国横断自動車道（津田～引田）の建設は、県内の高速道路網の早期完成を目指して、平成5年度の施工命令以後、建設を継続して進められているところであります。

この道路の建設に伴い、香川県教育委員会では、平成8年度から埋蔵文化財の発掘調査を財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して行ってまいりました。また、発掘調査と並行して、平成11年度からは出土品の整理業務を同センターに委託して実施いたしております。

このたび、「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第三十六冊」として刊行いたしますのは、大川郡大内町に所在する金毘羅山遺跡及び塔の山南遺跡並びに同郡引田町に所在する庵の谷遺跡についてであります。

金毘羅山遺跡の調査では、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が検出されております。特に縄文時代早期末～前期初頭の玦状耳飾は、県内では初めて事例であります。また、古墳時代前期の土器群は、県内における古墳時代の土器についての基準資料になるものと考えられます。塔の山南遺跡の調査では、尾根上に並ぶ墳墓群が検出されております。庵の谷遺跡の調査では、弥生時代の集落跡と多量の石器が検出されており、これは同時代の石器生産を考える上で貴重な資料と考えられます。

本報告書が香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間、日本道路公団及び関係諸機関並びに地元関係各位には多大な御援助と御協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成12年8月

香川県教育委員会

教育長 折原 守

例 言

1. 本報告書は、四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第三十六冊で香川県大川郡大内町水主下屋敷に所在する金毘羅山遺跡（こんびらやまいせき）、同大内町杖の端に所在する塔の山南遺跡（とうのやまみなみいせき）及び同引田町黒羽に所在する庵の谷遺跡（あんのたにいせき）の報告を収録した。ただし、金毘羅山遺跡については、斜面地の調査が一部しか終了していないことから、本報告では平地部分についてのみ金毘羅山遺跡Ⅰとして報告し、斜面地部分は、調査が完全に終了した段階で、金毘羅山遺跡Ⅱとして報告する。

2. 発掘調査は、香川県教育委員会が日本道路公団から委託され、香川県教育委員会が調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3. 発掘調査の期間及び担当は以下の通りである。

金毘羅山遺跡	予備調査	期間	平成8年10月
		担当	大久保徹也、住野正和、高橋作織里
	期間	平成10年4・5月	
塔の山南遺跡	予備調査	期間	平成9年
		担当	樋本清輝、香西亮、糸山晋
	本調査	期間	平成11年1月1日～平成11年3月26日
庵の谷遺跡	予備調査	期間	平成9年9・10月
		担当	西岡達哉、森格也、松岡宏、信早芳紀、豊島修
	本調査	期間	平成9年10月1日～平成10年3月31日
		担当	樋本清輝、香西亮、糸山晋

4. 調査にあたって、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

香川県土木部横断自動車道対策総室、同長尾土木事務所横断道対策課、大内町横断道対策室、引田町横断道対策室、引田町歴史民俗資料館、四国横断自動車道建設大内町水上地区対策協議会、同引田町黒羽地区対策協議会、地元自治会

（財）長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター 川崎保、フォッサマグナミュージアム 宮島宏

5. 本報告書の作成は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。
本報告書の執筆、編集は山下平重が担当した。
6. 本報告書で用いる方位の北は、国土座標系第Ⅳ系の北であり、標高はT. P. を基準としている。
また、遺構は下記の略号により表示している。
SB 掘立柱建物跡 SD 溝状遺構 SK 土坑 SP 柱穴
SX 不明遺構 SR 川跡
7. 遺構名の後の（ ）内の表記は、付図での遺構の位置を示している。
8. 石器実測図中、薄く黒く表現している部分は摩滅痕を、輪郭線の回りの実線は潰れを、同じく破線は顕著な研磨あるいは摩滅を、同じく点線はあまり顕著でない研磨あるいは摩滅をそれぞれ表す。剥離面の風化の程度が違う場合、新しい剥離面は黒丸で、古い剥離面は白丸で表す。なお、現代の折損は濃く黒で潰している。石器石材は特に表記が無い限り、サヌカイトである。
9. 挿図の一部に国土地理院地形図 三本松及び引田 (1/25,000)、大内町都市計画図 (1/2,500) を使用した。
10. 本遺跡の報告にあたっては、下記の機関等に分析を依頼・委託した。
別府大学 本田光子 京都大学原子力実験所 薬科哲男
11. 遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値(単位:m)である。
12. 土器観察表の中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1992年度版』を使用して表す。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。

目 次

序文	
例言	
第1章 調査の経緯	1
第1節 調査にいたる経過	1
第2節 調査の経過と体制	5
1 調査の経過	5
2 発掘調査及び整理作業の体制	5
第2章 金毘羅山遺跡の調査	7
第1節 立地と環境	7
1 地理的環境	7
2 歴史的環境	7
第2節 予備調査	12
第3節 調査の方法	18
第4節 土層序	18
第5節 遺構と遺物	22
1 縄文時代早期～前期	22
2 縄文時代晩期	22
3 弥生時代中期	26
4 弥生時代後期	29
5 古墳時代前期	58
6 古墳時代後期～終末期	68
7 中世	76
8 近世以降	88
9 時期不明の遺構	93
10 包含層等出土の遺物	100
第3章 塔の山南遺跡の調査	101
第1節 立地と環境	101
1 地理的環境	101
2 歴史的環境	101
第2節 予備調査	101
第3節 調査の方法	101
第4節 土層序	101
第5節 遺構と遺物	101
第4章 庵の谷遺跡の調査	111
第1節 立地と環境	111
1 地理的環境	111

2 歴史的環境	111
第2節 予備調査	114
第3節 調査の方法	116
第4節 土層序	116
第5節 遺構と遺物	117
1 縄文時代後期	117
2 弥生時代中期末～後期初頭	117
3 中世	143
4 包含層出土の遺物	143
第5章 自然科学分析の成果	144
第1節 金毘羅山遺跡出土縄文土器に付着した赤色顔料について	144
第2節 庵の谷遺跡出土のサヌカイト及び碧玉製管玉の産地分析	146
1 庵の谷遺跡出土の管玉の産地分析	146
2 庵の谷遺跡出土のサヌカイト製遺物の石材産地分析	161
第6章 まとめ	172
第1節 金毘羅山遺跡	172
1 遺構の変遷	172
2 石器について	176
第2節 庵の谷遺跡	177
1 遺構の変遷	177
2 石器について	178
金毘羅山遺跡土器観察表	185
金毘羅山遺跡石器観察表	221
庵の谷遺跡土器観察表	223
庵の谷遺跡実測石器観察表	236
庵の谷遺跡未実測石器観察表	242
庵の谷遺跡金属器観察表	252
写真図版	
報告書抄録	
付図 2枚	

挿図目次

第1章

第1図	四国横断自動車道(津田~引田)埋蔵文化財包蔵地(遺跡名番号).....	2
-----	-------------------------------------	---

第2章 金毘羅山遺跡

第2図	遺跡位置図(1).....	8	第36図	S R01出土土器(3)(1/4).....	42
第3図	周辺の遺跡(1/25,000).....	9	第37図	S R01出土土器(4)(1/4).....	43
第4図	遺跡位置図(1/5,000).....	10	第38図	S R01出土土器(5)(1/4).....	44
第5図	予備調査トレンチ位置図(1/2,000).....	13	第39図	S R01出土土器(6)(1/4).....	45
第6図	平成8年度予備調査トレンチ柱状図(1/40).....	14	第40図	S R01出土土器(7)(1/4).....	46
第7図	平成10年度予備調査トレンチ断面図(1).....	15	第41図	S R01出土土器(8)(1/4).....	47
第8図	平成10年度予備調査トレンチ断面図(2).....	16	第42図	S R01出土土器(9)(1/4).....	48
第9図	平成10年度予備調査トレンチ断面図(3).....	17	第43図	S R01出土土器(10)(1/4).....	49
第10図	調査区割図(1/1,000).....	19	第44図	S R01出土土器(11)(1/4).....	50
第11図	Ⅱ区中央堆土層断面図(1/80).....	20	第45図	S R01出土土器(12)(1/4).....	51
第12図	Ⅰ区北壁土層断面図(1/80).....	21	第46図	S R01出土土器(13)(1/4).....	52
第13図	縄文土器(1/4)・玖玖耳飾(1/2)実測図.....	22	第47図	S R01出土土器(14)(1/4).....	53
第14図	縄文土器実測図(1/4).....	23	第48図	S R01出土土器(15)(1/4).....	54
第15図	縄文土器実測図(1/4).....	24	第49図	S R01出土土器(16)(1/4).....	55
第16図	縄文土器実測図(1/4).....	25	第30図	S R01出土土器(17)(1/4)・石器(1)(1/2).....	56
第17図	S X28平・断面図(1/100).....	26	第51図	S R01出土土器(18)(1/4)・石器(2)(1/2)・鉄器(1/2).....	57
第18図	S D01断面図①(Ⅱ区中央畦)部分.....	26	第52図	Ⅱ区S H05・06平・断面図(1/80)・出土土器(1/4)・石器(1/2-1/3).....	59
第19図	S D01断面図②(1/40).....	27	第53図	Ⅰ区S K01平・断面図(1/20)・出土土器(1/4).....	60
第20図	S D01出土土器(1/4-1/6)・石器(1/2-1/3).....	28	第54図	Ⅰ区S K06平・断面図(1/40).....	60
第21図	Ⅱ区S X28出土土器(1/2)及びS R01断面図(1/100).....	29	第55図	Ⅰ区S K08平・断面図(1/40)・出土土器(1/2).....	60
第22図	S H03出土土器(1/4).....	29	第56図	Ⅰ区S K21平・断面図(1/20)・出土土器(1/4)及びⅠ区S X01平・断面図(1/40)・出土土器(1/2).....	61
第23図	S H04平・断面図(1/100).....	30	第57図	Ⅰ区S X02平・断面図(1/40).....	62
第24図	S H04出土土器(1/4)・石器(1/2)・鉄器(1/2).....	31	第58図	Ⅰ区S X02出土土器(1)(1/4).....	63
第25図	Ⅱ区S K23平・断面図(1/50)及び出土土器(1/4).....	32	第59図	Ⅰ区S X02出土土器(2)(1/4).....	64
第26図	Ⅱ区S K25平・断面図(1/50).....	32	第60図	Ⅰ区S X02出土土器(3)(1/4).....	65
第27図	Ⅱ区S K32平・断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石鏃(1/2).....	33	第61図	Ⅰ区S X02出土土器(4)(1/4).....	66
第28図	Ⅱ区S K33・S T02平・断面図(1/50・1/10)及び出土土器(1/4).....	34	第62図	Ⅰ区S X02出土土器(5)(1/4).....	67
第29図	Ⅰ区S X04平・断面図(1/40)・出土土器(1/4).....	35	第63図	Ⅰ区S X02出土土器(6)(1/4)・石器(1/2).....	68
第30図	Ⅰ区S X07出土土器(1/4).....	35	第64図	S H02平・断面図(1/80)及びⅡ区S K26・30平・断面図(1/100).....	69
第31図	Ⅱ区S X24平・断面図(1/20).....	35	第65図	S H02壘平・断面図(1/20).....	70
第32図	Ⅱ区S X27平・断面図(1/80)・出土土器(1/4).....	36	第66図	S H02出土土器(1/4)・石器(1/2).....	71
第33-1図	S R01平面図(1/200).....	37	第67図	Ⅰ区S B01平・断面図(1/100)・出土鉄器(1/2)・Ⅰ区S K02平・断面図(1/40)及びⅡ区S K26・30平・断面図(1/100)・出土土器(1/2).....	72
第33-2図	S R01断面図(1/80).....	38	第68図	Ⅱ区S X15出土土器(1/4)・石器(1/2, 1/3).....	73
第34図	S R01出土土器(1)(1/4).....	40			
第35図	S R01出土土器(2)(1/4).....	41			

第69回	Ⅱ区S X25平・断面図 (1/80) 及びⅡ区S X25・26出 土土器 (1/4)・石器 (1/2)・鉄器 (1/2) ……………	74	第83回	Ⅱ区S X11平・断面図 (1/50) ……………	88
第70回	Ⅱ区S X26平・断面図 (1/80) ……………	75	第84回	Ⅱ区S X11出土土器 (1/4) ……………	89
第71回	S R03断面図 (1/50) ……………	77	第85回	I区S K11・12・22・14・15・17平・新西園 (1/40・1/50)・出土土器 (1/4) ……………	90
第72回	S R03出土土器 (1/4)・石器 (1) (1/2) ……………	78	第86回	I区S K20・S X05、Ⅱ区S K02平・断面図 (1/40・1/50)・出土土器 (1/4) ……………	91
第73回	S R03出土土器 (2) (1/2・1/3) ……………	79	第87回	I区S E01平・断面図 (1/40)・出土土器 (1/4) ……	92
第74回	Ⅱ区S B02平・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4) ……	79	第88回	I区S F01出土層検出状況平・断面図 (1/40) ……	93
第75回	Ⅱ区S B03平・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4) ……	79	第89回	I区S F01平・断面図 (1/40)・出土土器 (1/4) ……	94
第76回	Ⅱ区S B04・06・S D04平・断面図 (1/100)・S K04 平・新西園 (1/50) 及び出土土器 (1/4)・石器 (1/2) ・銅鉄 (1/2) ……………	80	第90回	S R02断面図 (1/50)・出土土器 (1/4)・石器 (1/2)・ I区柱穴列、I区S K04平・断面図 (1/40) ……	95
第77回	Ⅱ区S B07・08平・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4) ……………	81	第91回	I区S K05・07・09・23・27平・断面図 (1/40・1/25) ・出土土器 (1/4)・石器 (1/2) ……………	96
第78回	柱穴出土の土器・土埴 (1/4) ……………	82	第92回	Ⅱ区S K24・31・34平・断面図 (1/50)・出土土器 (1/2) ……………	97
第79回	Ⅱ区S K01・03・05平・断面図 (1/50)・出土土器 (1/4)・石器 (1/3) ……………	83	第93回	包含層等出土土器 (1/4)・石器 (1) (1/2) ……………	98
第80回	Ⅱ区S K06平・断面図 (1/50)・出土土器 (1/4) ……	84	第94回	包含層等出土土器 (2) (1/2) ……………	99
第81回	Ⅱ区S K07・12平・断面図 (1/50)・出土土器 (1/4) ・銅鉄 (1/2) ……………	85	第95回	包含層等出土土器 (3) (1/2・1/3) ……………	100
第82回	Ⅱ区S K13・16・20平・断面図 (1/50)・出土土器 ……………				

第3章 塔の山南遺跡

第96回	別所地区子備調査トレンチ配置図 (1/1,000) ……	102	第99回	箱式石棺墓平・断面図 (1/30) ……………	106
第97回	塔の山南遺跡遺構配置図 (1/500) 及び出土土器 (1/5) ……………	103	第100回	S T01・02平・断面図 (1/30) ……………	107
第98回	石蓋土坑墓平・断面図 (1/30) ……………	105	第101回	S T03・04平・断面図 (1/30) ……………	109
			第102回	S T05・S K01・02平・断面図 (1/30) ……………	110

第4章 庵の谷遺跡

第103回	庵の谷遺跡及び周辺の遺跡位置図 (1/25,000) ……	112	第119回	Ⅱ区S K01平・断面図 (1/50) ……………	124
第104回	庵の谷遺跡位置図 (1/2,000) ……………	113	第120回	Ⅱ区S K02付近平面図及びS K02断面図 (1/100)・ 出土土器 (1/4) ……………	124
第105回	I2トレンチ出土土器 (1/4) ……………	114	第121回	壁穴住居跡分布想定図 (1/200) ……………	125
第106回	黒羽地区子備調査トレンチ位置図 (1/4,000) ……	115	第122回	I・Ⅱ区柱穴出土土器 (1/4)・石器 (1/2・1/3) ……	126
第107回	I区中央断面図 (1/80) ……………	116	第123回	I区S T01平・断面図 (1/20)・出土土器 (1/4) ……	127
第108回	Ⅲ区断面図 (1/80) ……………	117	第124回	I区S T01出土土器 (1/2,1/3) ……………	128
第109回	縄文土器 (1/4) ……………	118	第125回	I区S X02出土土器 (1/4) ……………	128
第110回	S H01平・断面図 (1/100) ……………	119	第126回	I区S X03・05出土土器 (1/4) ……………	128
第111回	S H01区画割図 (1/150) ……………	119	第127回	I区S D01断面図 (1/50)・出土土器 (1/4)・石器 (1) (1/2) ……………	129
第112回	主柱穴平面図 (1/150) ……………	119	第128回	I区S D01出土土器 (2) (1/2・1/3)・鉄器 (1/2) ……………	130
第113回	S H01出土土器 (1/4)・石器 (1) (1/2) ……………	120	第129回	Ⅱ区S D01断面図 (1/50)・出土土器 (1/2) ……	131
第114回	S H01出土土器 (2) (1/2) ……………	121	第130回	I区包含層出土土器 (1) (1/4) ……………	132
第115回	S H01出土土器 (3) (1/2・1/3)・鉄器 (1/2) ……	122	第131回	I区包含層出土土器 (2) (1/4)・石器 (1) (1/2) ・鉄器 (1) (1/2) ……………	133
第116回	S H02平・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4)・石器 (1/2) ……………	123			
第117回	I区S K01平・断面図 (1/50)・出土土器 (1/4) ……	124			
第118回	I区S K03出土土器 (1/4) ……………	124			

第132回	I区包含層出土石器 (2) (1/2)	134	第138回	II区包含層出土石器 (2) (1/4)・石器 (1) (1/2) ・鉄器 (2) (1/2)	140
第133回	I区包含層出土石器 (3) (1/2)	135	第139回	II区包含層出土石器 (2) (1/2・1/3)・鉄器 (3) (1/2)	141
第134回	I区包含層出土石器 (4) (1/2・1/3)	136	第140回	III区S B01~03平・断面図 (1/100)	142
第135回	I区包含層出土石器 (5) (1/2・1/3)	137	第141回	III区ピット・包含層出土石器 (1/4)・石器 (1/2)・ 鉄器 (1/2)・銅銭 (1/2)	143
第136回	I区包含層出土石器 (6) (1/2・1/3)・鉄器 (2) (1/2)	138			
第137回	II区包含層出土石器 (1) (1/4)・鉄器 (1) (1/2)	139			

第5章 自然科学分析

第142回	花山山麓磐玉原石の蛍光X線スペクトル	147	第146回	庵の谷遺跡出土菅玉 (64596) の蛍光X線スペクトル	157
第143回	碧玉及び碧玉様石の原産地と弥生(統縄文)時代の 碧玉製管玉の原材料使用分布図	149	第147回	庵の谷遺跡出土菅玉 (64597) の蛍光X線スペクトル	158
第144回	磐玉原石のESRスペクトル	153	第148回	庵の谷遺跡出土菅玉の析号 (III) のESRスペクトル	158
第145回 (1)	碧玉原石の析号 (II) のESRスペクトル	154	第149回	サヌカイト及びサヌカイト標岩石の原産地	163
第145回 (2)	碧玉原石の析号 (III) のESRスペクトル	155	第150回	産地分析サヌカイト実測図 (1/2)	150
第145回 (3)	碧玉原石の析号 (IV) のESRスペクトル	156			
第145回 (4)	碧玉原石の析号 (V) のESRスペクトル	157			

第6章 まとめ

第151回	金尾羅山遺跡遺構変遷図 (1) (1/600)	173	第154回	石器類のとりつけ側の名称と位置 (1/200)	178
第152回	金尾羅山遺跡遺構変遷図 (2) (1/600)	174	第155回	サヌカイト製石標類出土分布密度図 (1/200)	179
第153回	金尾羅山遺跡遺構変遷図 (3) (1/600)	175	第156回	サヌカイトの種類別出土点数分布図	180

表 目 次

第1表	四国横断自動車道 (津田から引田) 建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧 (1)	3	均値と標準偏差値	164	
第2表	四国横断自動車道 (津田から引田) 建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧 (2)	4	第15表2	各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値	165
第3表	調査の体制	6	第15表3	原石産地不明の組成の似た漢物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値	166
第4表	遺跡地図関連文献	11	第16表	岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果	167
第5表	下屋敷地区予備調査トレンチャー一覧表 (平成10年度)	18	第17表	和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果	167
第6表	S R01新西園土層名	29	第18表	和歌山山梅原産地からのサヌカイト原石21個の分類結果	167
第7表	別所A地区予備調査トレンチャー一覧表	102	第19表	庵の谷遺跡出土サヌカイト製剥片の元素比分析結果	168
第8表	別所B地区予備調査トレンチャー一覧表	102	第20表	庵の谷遺跡出土サヌカイト製剥片石器の原産地推定結果	170
第9表	遺跡地図関連参考文献	113	第21表	金尾羅山遺跡の製品以外の石器類一覧表	176
第10表	黒羽地区予備調査トレンチャー一覧表	114	第22表	金尾羅山遺跡石器製品一覧表	176
第11表	赤色顔料分析試料の分析結果	145	第23表	庵の谷遺跡サヌカイト製品一覧表 (1)	181
第12表	碧玉の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値	159	第24表	庵の谷遺跡サヌカイト製品一覧表 (2)	182
第13表	庵の谷遺跡出土菅玉の分析結果	160			
第14表	庵の谷遺跡出土菅玉の分析結果	160			
第15表1	各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平				

第25表	庵の谷遺跡陶製石器一覧表	182
第26表	庵の谷遺跡陶石制製品累計表(磨製石器を除く)	182
第27表	庵の谷遺跡礫石器一覧表	182
第28表	庵の谷遺跡サヌカイト剥片等一覧表	183
第29表	庵の谷遺跡サヌカイト剥片累計表	183
第30～65表	金毘羅山遺跡土器観察表(1)～(49)	185～220

第66～67表	金毘羅山遺跡石器観察表(1)～(2)	221～222
第68～80表	庵の谷遺跡土器観察表(1)～(13)	223～235
第81～86表	庵の谷遺跡尖頭石器観察表(1)～(6)	236～241
第87～97表	庵の谷遺跡未実測石器観察表(1)～(10)	242～252
第98表	庵の谷遺跡金属器観察表	252

図版目次

金毘羅山遺跡

図版1	調査前 東から I区 空中写真
図版2	I区 全景 南から II区 空中写真
図版3	II区 全景 南から II区 全景 東から
図版4	II区 中央畦断面 南東から II区 北壁断面 南から
図版5	I区 北壁断面 南から 块状耳輪出土状況 II区 SX29断面 I区 SD01断面
図版6	I区 SH04完掘状況 南東から I区 SH04炭化材出土状況
図版7	I区 SH04炭化材出土状況 北東から II区 中央畦断面の遺構 南東から II区 SK23断面 南東から
図版8	II区 SK25断面 東から II区 SK32断面 北から II区 SK33断面 北東から
図版9	II区 ST02断面 東から I区 SX04断面 西から II区 SX24燼土出土状況 東から
図版10	II区 SX27断面 南東から II区 SH05・06完掘 西から I区 SK01土器出土状況 北から
図版11	I区 SK06断面及び土器出土状況 北から I区 SK08断面 南から
図版12	I区 SK21土器出土状況 南から I区 SX01完掘 南から I区 SX02土器出土状況 西から
図版13	I区 SX02土器出土状況 北から SH02完掘状況 南東から

図版14	SH02竈 南東から SH02埋道 南西から
図版15	SH02K1遺物出土状況 南から I区 SB01完掘 北東から I区 SK02断面 南西から
図版16	II区 SK26断面 南東から II区 SK27断面 南東から II区 SK28断面 北から
図版17	II区 SK29断面 南東から II区 SK30断面 南東から II区 SX15断面 南から
図版18	II区 SX25・26完掘 南西から II区 SX25東西断面(1) 南西から II区 SX25東西断面(2) 南西から
図版19	SR03断面(北) 南東から SR03断面(南) 南東から II区 中世建物群 南西から
図版20	II区 SK04銅鏡出土状況 北から II区 SD04断面 北から II区 SK01断面 北から II区 SK03断面 北から II区 SK05断面 西から
図版21	II区 SK06断西 北から II区 SK07断面 東から II区 SK08断面 北から
図版22	I区 SK09断西 北から II区 SK10断面 北から II区 SK11断面 北から
図版23	II区 SK12断面 北から II区 SK16断面 北西から II区 SK17断面 南から
図版24	II区 SK18断西 南から II区 SK19断面 西から II区 SK20断面 北東から

図版25	Ⅱ区 SX11遺物出土状況 東から	I区 SK04断面 北から
	I区 SK11断面 西から	I区 SK05断面 北から
	I区 SK12断面 西から	I区 SK07断面 北から
	I区 SK22断面 南から	I区 SK09断面 南東から
	I区 SK14断面 南から	図版28 I区 SK23断面 北から
図版26	I区 SK15断面 南から	I区 SK24断面 西から
	I区 SK17断面 南から	I区 SK25断面 西から
	I区 SK20断面 北から	I区 SK26断面 南西から
	I区 SX05断面 南から	I区 SK27断面 東から
	Ⅱ区 SK02断面 北から	Ⅱ区 SK24断面 北から
	I区 SE01 南西から	Ⅱ区 SK31断面 西から
	I区 SF01完掘 南西から	Ⅱ区 SK34断面 東から
図版27	I区 SH01出土上出土状況 南東から	図版29～62 出土遺物写真
	SR02断面 南から	

塔の山南遺跡

図版63	塔の山南遺跡空中写真	図版71	箱式石棺墓側石検出 東から
図版64	遺跡遠景 東から		箱式石棺墓完掘 東から
	遺跡近景 南東から		ST01完掘 東から
図版65	遺跡全景 南から		ST01断面 東から
	石蓋土坑墓・箱式石棺墓 蓋石検出 南から	図版72	ST01断面 北から
図版66	石蓋土坑墓・箱式石棺墓 蓋石検出 東から		ST02断面 東から
	石蓋土坑墓・箱式石棺墓 蓋石検出 北から		ST02断面 北から
図版67	石蓋土坑墓断面 東から		ST02完掘 東から
	石蓋土坑墓蓋石検出 東から	図版73	ST03断面 東から
	石蓋土坑墓蓋石検出 北から		ST03断面 南から
図版68	石蓋土坑墓埋土断面 北から		ST03完掘 東から
	石蓋土坑墓埋土断面 東から		ST04西面 東から
	石蓋土坑墓完掘 東から		ST04断面 北から
図版69	箱式石棺墓検出 北から	図版74	ST04完掘 北から
	箱式石棺墓蓋石検出断面 東から		ST05断面 北から
	箱式石棺墓蓋石検出 北から		ST05完掘 北から
図版70	箱式石棺墓蓋石検出 東から	図版75	SK01断面 西から
	箱式石棺墓蓋石除去 北から		SK01完掘 東から
	箱式石棺墓側石検出 北から		SK02完掘 西から

庵の谷遺跡

図版76	調査地遠景 北東から	Ⅱ区 北壁断面 南から	
	I区 空中写真	図版80	I区 SH01床面検出状況 東から
図版77	I区 全景 北から		I区 SH01完掘 北から
	Ⅱ区 空中写真	図版81	SH01断面 北から
図版78	Ⅱ区 全景 南から		SH01中央ビット断面 東から
	Ⅲ区 空中写真		SH02完掘 北から
図版79	Ⅲ区 全景 東から		SH02断面 北から
	I区 中央断面 南から		I区 SK01 北から

Ⅱ区 SK01 北から
図版82 Ⅱ区 SK02 北から
Ⅰ区 ST01検出状況 北から
Ⅰ区 ST01北から

Ⅰ区 ST01完掘 東から
Ⅱ区 SD01断面 西から
Ⅰ区 SD01断面 東から
図版83～128 竜の谷遺跡出土遺物写真

第1章 調査の経緯

第1節 調査にいたる経過

四国横断自動車道津田～引田間の建設については、平成5年度に建設大臣から日本道路公団総裁に対して建設の施工命令が下され、平成6年度には路線の中心杭の打設が行われた。

これに伴う埋蔵文化財保護については、平成4年度から県教育委員会と日本道路公団高松建設局とで事前協議が開始された。平成7年6・7月には県教育委員会が「国庫補助事業として分布調査^{*1}を行い、津田～引田間については22地区について埋蔵文化財の保護に配慮する必要があることを日本道路公団に通知した。日本道路公団は、県教育委員会の意見を踏まえ、平成7年10月文化庁と協議を行った。平成8年1月文化庁から「工事の施工に先だって発掘調査を実施すること」等の回答がなされた。これにより、平成4年度からの事前協議は終了し、平成8年4月、県教育委員会と日本道路公団とで埋蔵文化財発掘調査についての委託契約が締結され、さらに県教育委員会と財団法人香川県埋蔵文化財調査センターとで発掘調査の委託契約が締結された。

一方、県教育委員会では、明石大橋開通にあわせた津田～引田間の高速道路の整備は香川県の緊急かつ重要な課題であることから、平成8年度及び9年度に文化財専門職員を新規採用し、調査体制の充実を図ることで対応した。

津田～引田間22地区の調査対象地区のうち、大内町では11地区、引田町では4地区がある。平成8年度からは、この調査対象地区の具体的な遺跡の内容を把握するため、用地買収の進捗にあわせて、予備調査を実施し、随時本調査の範囲を確定した。

平成11年度現在の遺跡位置及びその遺跡内容は第1図及び第1・2表のとおりである。

金毘羅山遺跡は、前記の平成7年度の県教育委員会による大内町下屋敷地区の分布調査ののち、平成8年1月には、県営ほ場整備事業の実施に伴う分布調査及び試掘調査^{*1}が行われた。この結果、横断道路線内を含めて、金毘羅山遺跡の範囲が県教育委員会から示された。平成8年6月には、横断道予定地内で行われる県営ほ場整備事業に伴う給排水管理設工事の範囲について、県教育委員会が立会調査を行っており、弥生時代後期の集落を想定している^{*2}。当センターでは、下屋敷地区は平成8年度に予備調査を一部実施し、残りの予備調査は平成10年度に行い、本調査範囲の確定を行った。なお県営ほ場整備に伴う本調査は、平成8年4～5月に大川地区広域行政振興整備事務組合が実施している^{*2}。

塔の山山遺跡は、大内町別所A地区に含まれ、平成9年度に予備調査を実施した。

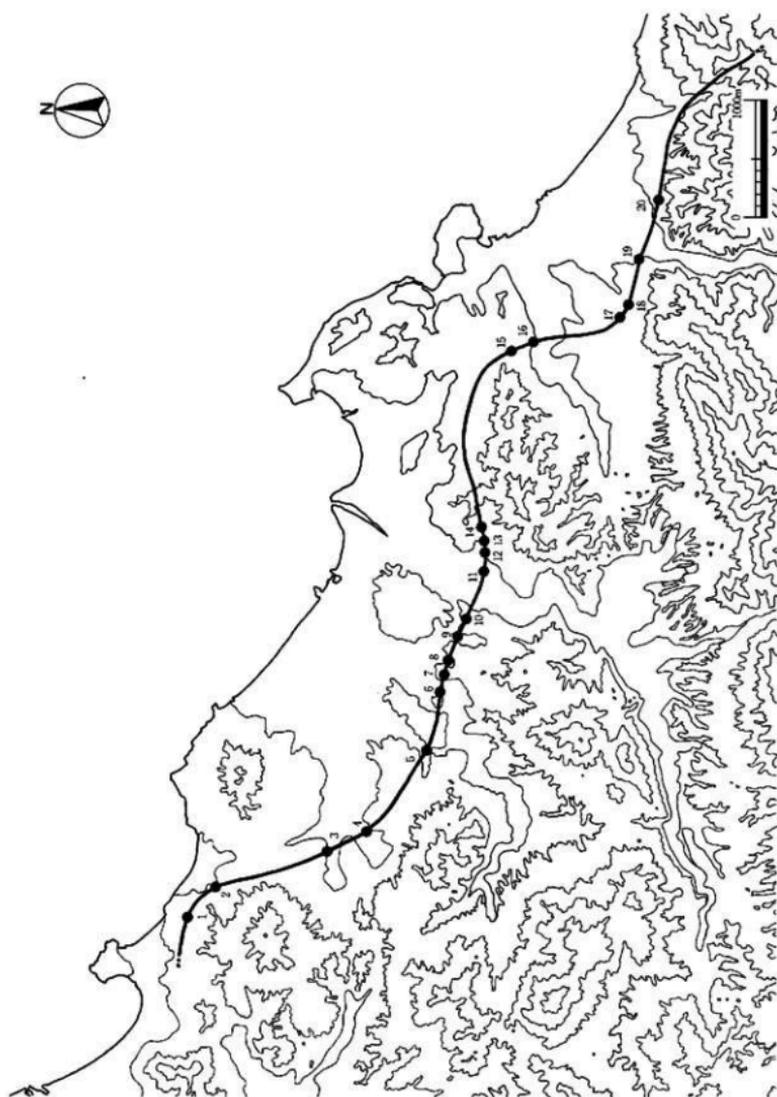
庵の谷遺跡は、引田町黒羽地区に含まれ、平成9年度に予備調査を実施した。

なお整理作業については、平成11年度から開始している。ただ、杖の端地区西谷遺跡については、平成9年度の概報^{*3}をもって報告書作成作業は終了となっている。

*1 香川県教育委員会「埋蔵文化財試掘調査報告書 国道バイパス等事業予定地内の調査」1996、3

*2 香川県教育委員会「香川県埋蔵文化財調査年報 平成8年度」1997、3

*3 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査概報 平成9年度」1998 香川県教育委員会、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター、日本道路公団四国支社、建設省四国地方建設局、香川県土木部



第1図 四国横断自動車道（津田～引田）埋蔵文化財包蔵地（遺跡名番号）

地区名	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	調査期間	遺構	遺物	備考
1 中谷	1 中谷遺跡	大川郡津田町鶴羽	518	8.10.1～9.1.31	中世：柱穴 弥生：溝・土壇・柱穴・土坑 ・溝、土坑墓	瓦器、土師器 弥生土器、瓦器、 土師器	
2 大山	2 大山遺跡	大川郡津田町鶴羽	2,113	8.10.1～9.1.31	(予備調査)		平成9年度概報で報告完了
3 馬塚	3 馬塚	大川郡大内町馬塚	620	9.7.1～9.8.31	(予備調査)		平成9年度概報で報告完了
4 小砂	4 小砂	大川郡大内町小砂	100	9.6.1～9.6.30	(予備調査)		
5 中山	3 坪井遺跡	大川郡大内町中山	6,556	10.9.1～11.3.31	奈良：掘立柱建物跡 (予備調査)	刷印付き須恵器 土師器、黒色土器	
6 二殿	4 二殿口遺跡	大川郡大内町二殿	135	11.7.1～11.7.31	(予備調査)		
7 町田			6,370	11.4.1～11.6.30	近世：砂櫓墓 (予備調査)	弥生土器、土師器、 須恵器	平成10年度概報で報告完了
8 楠谷	5 楠谷遺跡	大川郡大内町楠谷	69	10.9.1～10.9.30	(予備調査)		
9 高取			460	8.12.1～8.12.31	(予備調査)		
10 下屋敷	6 金比羅山遺跡	大川郡大内町水玉下屋敷	1,578	9.7.1～10.3.31	弥生：掘立柱建物跡・溝・川 (予備調査)	弥生土器	
11 別所	7 塔の山南遺跡	大川郡大内町山栗杖の 畑	1,000	11.3.1～11.3.31	(予備調査)		
12 秋の塚	8 西谷遺跡	大川郡大内町川東	11	9.9.1～9.9.30	(予備調査)		
13 原間	9 原間遺跡	大川郡大内町川東原間	446	8.11.1～8.11.30	(予備調査)		
14 南渚	10 南渚1・2号墳、 埋藏2号墳外、 藤橋遺跡、神造3 号墳外	大川郡白島町西番井	100	10.3.1～10.3.31	弥生：竪穴住居跡 古墳：竪穴住居跡 (予備調査)	縄文土器、弥生土 器、土師器、鉄杖 耳飾	
			3,600	10.7.1～10.8.31	弥生：竪穴住居跡、壺棺 古墳：竪穴住居跡 (予備調査)		平成9年度概報で報告完了
			1,300	11.12.1～11.12.31	(予備調査)		
			15	9.9.1～9.9.30	弥生：墳墓群 (予備調査)		
			1,300	11.1.1～11.3.26	弥生：溝、中世：建物 (予備調査)	弥生土器、土師器	平成9年度概報で報告完了
			2,092	9.6.1～10.3.31	弥生：古墳、中世：古墳		
			500	9.2.1～9.2.28	弥生：建物住居跡・掘立柱 建物跡、古墳	弥生土器、勾玉、 須恵器、耳環、 鉄鏃、青銅鏡	
			19,254	9.4.1～10.3.31	弥生：墳墓、古墳：古墳		
			24,243	10.4.1～11.3.31	弥生：墳墓、古墳：古墳		
			3,590	10.12.1～11.3.31	弥生：墳墓、古墳：古墳		
			1,647	11.9.1～11.10.31			

第1表 四国横断自動車道(津田～引田)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧(1)

第2節 調査の経過と体制

1 調査の経過

金毘羅山遺跡は、平成10年度の予備調査を実施した後、ただちに本調査を開始した。

調査期間は、平成10年5月7日から平成10年8月31日である。調査面積は、3,600㎡である。発掘調査は調査員3名で、直営方式で実施した。本遺跡は平成10年度で調査終了の予定であったが、山の斜面の切り土が頂上まで及ぶことがあきらかになり、この拡張部分について予備調査を追加した。この結果、新たに1,300㎡の本調査が必要となり、この部分の調査は平成11年度以降に実施することとなった。平成11年4月～8月には、整理作業を実施したが、本調査を実施した範囲に含まれている山の斜面地部分(190㎡)は、残りの斜面地の本調査を実施した後にあわせて整理作業を行ったほうが良いことから、今回は作業対象としなかった。そのため、今回の整理作業の結果は、「金毘羅山遺跡Ⅰ」として報告し、斜面地部分は後日、「金毘羅山遺跡Ⅱ」として報告する予定である。整理作業は、調査員1人、整理作業員8名で行った。

塔の山南遺跡は、平成11年1月1日～平成11年3月26日に本調査を実施した。調査面積は、1,300㎡である。発掘調査は調査員3名で、直営方式で実施した。整理作業は平成11年9月に、調査員1名、整理作業員8名の体制で実施した。

庵の谷遺跡は、平成9年10月1日～平成10年3月31日に、本調査を実施した。調査面積は3,000㎡である。発掘調査は調査員3名で、直営方式で実施した。整理作業は平成11年10月～平成11年3月に、調査員1名、整理作業員8名の体制で実施した。

いずれの遺跡の発掘調査及び整理作業の概要とも、概報及び年報^{*1}で既に報告している。

2 発掘調査及び整理作業の体制

発掘調査及び整理作業の体制は第3表のとおりである。

その他、日々雇用職員として、発掘調査に携わった方々は以下のとおりである。

現場整理作業員 川畑妙子、國信亜希、三谷百合江

現場事務員 大島見芳子

普通作業員 赤松広一、板嶋秀一、入谷慶博、江元忍、川田悟、川野清、木村勇、木村由貴夫、監物英治、小西忠三郎、篠原密夫、曾川満広、多田敏夫、多田勝、富田英三、永峰藤雄、中山秀男、西川昭彦、新田勝、根ヶ山岩太郎、橋本得雄、橋本正利、平川宗義、藤岡範彦、水口重治、三宅強、三好徹雄、森澤明義、山田馨

*1 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成9年度』1998及び『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成10年度』1999 香川県教育委員会、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター、日本道路公園四国支社、建設省四国地方建設局、香川県土木部
『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成9年度』1998及び『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成10年度』1999

香川県教育委員会 文化行政課

		平成9年度	平成10年度	平成11年度
総括	課長	菅原 良弘	小原 克己	小原 克己
	課長補佐	北原 和利	北原 和利	小国 史郎
総務	係長	山崎 隆	幹 渡部 明夫	幹 廣瀬 常雄
	主任	査 星加 宏明 (～5.31)	副主幹兼係長 西村 隆史	係長 中村 慎伸
聖蹟文化財	主任	査 松村 崇史 (6.1～)	係長 中村 慎伸	主任 査 二宅 陽子
	主任主事	打越 和美	主任 査 三宅 陽子	主任 査 松村 崇司
	副主幹	渡部 明夫	主任 査 松村 崇司	主任 査 松村 崇司
	文化財専門員	木下 晴一	主任 査 松村 崇司	主任 査 松村 崇司
	技師	塩崎 誠司	主任技師 西村 尋文	主任技師 塩崎 誠司
			主任技師 森 格也	主任技師 塩崎 誠司
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター				
総括	所長	大森 忠彦	菅原 良弘	菅原 良弘
	次長	小野 善範	小野 善範	川原 裕章
総務	副主幹兼係長	田中 秀文 (6.1～)	副主幹兼係長 田中 秀文	副主幹兼係長 田中 秀文
	係長	長 前田 和也 (～5.31)	主任 査 新 一郎 (6.1～)	係長 新 一郎
調査	主任主事	西川 大	主任主事 西川 大 (～5.31)	
	主任文化財専門員	大山 眞充	主任文化財専門員 大山 眞充	主任文化財専門員 大山 眞充
	文化財専門員	橋本 清輝	主任文化財専門員 中西 昇	文化財専門員 木下 晴一
	技師	香西 亮	文化財専門員 植松 邦浩	文化財専門員 山下 平重
	調査技術員	糸山 晋	文化財専門員 島田 英夫	
			技師 豊島 修	
		調査技術員 陶山 仁美		
		調査技術員 糸山 晋		
		調査技術員 香川 直孝		

第3表 調査の体制

軽作業員 荒木和美、石浜君子、石原雅子、大久保尚子、大野雅代、大森禎子、岡田カネ子、川野弘子、
藤田英子、楠木エミ子、桑島糸枝、下地秋子、高橋美佐子、多田由美子、出口多和子、寺元文代、土
手添久美子、永峰幸子、中山輝子、野網民子、野中シゲノ、橋本トキ、福島保子、丸山智子、水口恵
美子、水田サダ子、水谷優美、三谷登志子、三谷房子、村尾重子、村川充了、榎本梅子、森明美、森
高三智代、藪下文子、吉川喜美子、芳澤否代、古鷹里恵、

整理作業に携わった方々は以下のとおりである。

整理員	葛西薫
整理補助員	三谷和子 小林里美 赤熊久子
整理作業員	横井あゆみ 中村千賀子 満岡稔恵 真鍋穂 田村里美 溝淵さや香 坂川弘実

第2章 金毘羅山遺跡の調査

第1節 立地と環境

1 地理的環境（第2・3図）

当遺跡は、大内町下屋敷の独立丘陵金毘羅山の頂上から東斜面及びその東側の平地に位置する遺跡である。今回、報告するのは東側の平地部分である。遺跡は、与田川左岸に位置しており、調査地東側と南側の段丘は、与田川の旧流路により削平されていることが考えられ、今回の調査の対象外とされている。また、調査地すぐ南（第10図網目部分）には予備調査の結果、表上直下に花崗岩の基盤層が検出されており、丘陵が削平されているものと考えられている。また、調査区内は、川の氾濫の影響は地形図では確認できないが、聞き取りでは、近年まで何度も与田川による洪水被害を受けているようである。

2 歴史的環境

ここでは与田川流域の遺跡を紹介しておくに留めたい（第3、4図）。参考文献は第4表にまとめた。

縄文時代

与田川の大社遺跡で縄文時代及びそれより以前の石器が採集されている。

縄文時代草創期

与田川中流域で、有舌尖頭器が採集されている。

縄文時代前期

当遺跡で、縄文時代前期の所産と考えられる球状耳飾りが出土している。

縄文時代後期

原間遺跡で川跡に打ち込まれた杭と縄文時代後期の土器が出土している。

縄文時代晩期

当遺跡では、多量の夾帯文土器が出土している。また、当遺跡の本書での報告範囲の北側隣接地^{*1}で

*1 第4表 文献8。

も、流路や包含層から土器が出土している。

弥生時代

時期は不明であるが、幸代池西遺跡では、高杯・磨製石斧等が出土している。

弥生時代前期

落合遺跡で、前期新段階の土器や石器が多数出土している。

弥生時代中期

当遺跡では清跡が確認されている。発掘調査が行われた仲善寺遺跡では、中期末の竪穴住居跡等を検出している。水主神社遺跡では、中期後半の土器が出土している。

弥生時代後期

当遺跡は北山裾部の開墾時に弥生後期の土器が出土したことから知られている^{*1}が、今回の調査では丘陵部では壺棺が検出され、平地部では川跡及び壺棺が検出されている。

また、次章で報告する塔の山南遺跡は、当遺跡とは与田川をへだてて対岸にあるが、尾根上に土坑墓及び箱式石棺墓が検出されており、土器は出土していないものの、その立地等から当時期と考えられる。また、壺棺は笠塚遺跡、高原遺跡からも出土している。

原間遺跡では、後期中葉の集落跡が検出されている。仲善寺遺跡では、後期中葉から庄内式段階のか



第2図 遺跡位置図(1)

*1 第4表 文献5。



- | | | |
|-----------|----------|-------------|
| ①. 金山遺跡 | ⑬. 岩瀬古墳 | ⑳. 小僧遺跡 |
| ②. 毘羅山南遺跡 | ⑭. 瀨呂遺跡 | ㉑. 大日山1号墳 |
| ③. 塔の古墳 | ⑮. 高原遺跡 | ㉒. 大日山2号墳 |
| ④. 清塚古墳 | ⑯. 高塚遺跡 | ㉓. 大日山3号墳 |
| ⑤. 西村古墳 | ⑰. 籠ノ内遺跡 | ㉔. 大松廢寺遺跡 |
| ⑥. 落合遺跡 | ⑱. 別所池遺跡 | ㉕. 高松間池西1号墳 |
| ⑦. 与田寺山古墳 | ⑲. 別所古墳 | ㉖. 高原間池西2号墳 |
| ⑧. 楠谷古墳 | ⑳. 別所遺跡 | ㉗. 幸代遺跡 |
| ⑨. 北山遺跡 | ㉑. 飛谷遺跡 | ㉘. 楠越遺跡 |
| ⑩. 仲善寺遺跡 | ㉒. 杖の端遺跡 | ㉙. 神越遺跡 |
| ⑪. 大社遺跡 | ㉓. 西谷遺跡 | |
| ⑫. 長尾山遺跡 | ㉔. 住屋遺跡 | |

第3図 周辺の遺跡 (1/25,000)



第4図 遺跡位置網(2) (1/5,000)

番号	書名	発行者	発行年月日
1	大内町落合遺跡調査報告	香川県教育委員会	1978.9.21
2	香川の前期古墳	日本考古学協会昭和58年度大会香川県実行委員会	1983.11.1
3	新編香川叢書 考古編	新編香川叢書刊行企画委員会	1983.3.31
4	香川県埋蔵文化財調査概報 大日山古墳,吉岡神社古墳,原岡古墳,御座廻山古墳,磨臼山古墳,鶴ヶ峰4号	香川県教育委員会	1984.2.29
5	大内町史 上巻	大内町	1985.12.1
6	香川県埋蔵文化財発掘調査報告 平成5年度香川県土木部道路整備事業に伴う発掘調査報告集 五条遺跡,八丁地遺跡,仲善寺遺跡,(西尾遺跡)	香川県教育委員会	1994.3
7	埋蔵文化財試掘調査報告Ⅹ 香川県内遺跡発掘調査	香川県教育委員会	1997.3
8	香川県埋蔵文化財年報平成8年度	香川県教育委員会	1997.3.31
9	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査説明会発掘調査から大内町の歴史を探る	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	1998.10.25
10	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 白鳥町内遺跡の説明会上が語る白鳥の歴史 成重遺跡 池の奥遺跡 善門池西遺跡	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	1998.11.14
11	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成9年度*	香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 日本道路公団四国支社 建設省四国地方建設局 香川県土木部	1998.3.31
12	県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成9年度 川津六反地遺跡 元塚遺跡 多肥松林遺跡 多肥宮尻遺跡 尾湯遺跡 住屋遺跡 原岡遺跡	香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	1998.3.31
13	埋蔵文化財試掘調査報告Ⅺ 香川県内遺跡発掘調査	香川県教育委員会	1999.3
14	ふるさと歴史見つけた! 引田・白鳥・大内	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	1999.3.25
15	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成10年度	香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 日本道路公団四国支社 建設省四国地方建設局 香川県土木部	1999.3.31

第4表 遺跡地図関連文献

けての遺構・遺物が検出されている。楠谷遺跡では、後期後半から古墳時代初頭にかけての建物跡、溝跡及び川跡を検出している。飛谷遺跡では、後期前半の壺が出土している。また、別所遺跡では、器台が発見されている。水主神社遺跡、幸代池西遺跡、別所池田遺跡、風呂遺跡等も集落遺跡と考えられている。

古墳時代

尾長山古墳、楠谷古墳、岩瀬庵古墳、百髮姫古墳、西村古墳、清塚古墳、与田寺山古墳などが知られているが、時期は明らかではない。西村古墳は、直径約20mとされている^{*1}。以下は、時期の明らかな例である。

古墳時代前期

当遺跡では、堅穴住居跡及び土坑を検出している。仲善寺遺跡では、布留式古段階から中段階よりやや新しい時期の遺構・遺物が出土している。

古墳としては、旧大内郡内唯の前方後円墳である大日山古墳が知られている。前期後半から中期初頭頃の年代^{*2}が考えられている。この大日山古墳の北側50mほどのところには箱式石棺の大日山2号墳が知られている。

*1 第4表 文献6。

*2 第4表 文献6。

古墳時代後期

当遺跡では、堅穴住居跡を検出している。住居遺跡では、6世紀頃の堅穴住居跡が多く検出されている。また杖の端遺跡では須恵器の壺が発見されている。

古墳としては、横穴式石室の原岡1号墳及び2号墳がある。原岡2号墳は、横断道建設に伴い発掘調査が行われ、6世紀末～7世紀初頭の古墳であることが判明した。また、原岡遺跡の西丘陵上で検出された古墳群は、5世紀末から6世紀初頭と考えられている。原岡遺跡の東丘陵にある原岡6号墳は、朝鮮半島との関連が考えられる古墳時代中期の木椁構造の主体部を持つ古墳である。原岡遺跡東丘陵の東側にある尾根には、6世紀～7世紀初頭の槌罐1・2号墳が検出されている。

古代（飛鳥～奈良時代）

原岡遺跡で、建物群を検出している。

平安時代

原岡遺跡で、建物群を検出している。高松庵寺は平安時代の瓦が出上しているとされている。花崗岩製の礎石が1点残っているのみである。

中世前半

当遺跡では、川跡が埋没した後に建物群が形成されている。仲善寺遺跡では、この時期の集落が検出されており、西側の谷奥部にある仲善寺跡との関連が考えられている。西谷遺跡では、13世紀後半から15世紀前半にかけての集落跡が検出されている。川田池西遺跡では試掘調査の結果、古代末～中世前半の集落跡が想定されている。

近世以降

当遺跡では、砂糖製造用の竈が検出されている。同様な竈は、原岡遺跡及び三殿出口遺跡で検出されている。讃岐三白と呼ばれる名産品の一つである砂糖の製造の中心的地域であった東讃地方を象徴する遺構である。

第2節 予備調査

金匙羅山遺跡は、大川郡大内町下屋敷地区における平成8年度及び10年度の予備調査の結果、本調査範囲及び方法が確定した。ここでは、下屋敷地区の予備調査の結果を報告しておく。

平成8年度は、10月に約4,100㎡について調査を実施した。調査対象範囲及びトレンチ位置は第5図のとおりである。なおトレンチ番号の前に調査年度をつけて区別している（たとえば、平成8年度調査のトレンチは8-1Tr.）。各トレンチの土層柱状図は第6図である。いずれのトレンチも耕作土及び客土以下は、砂層の堆積が見られ、遺構及び遺物はほとんど見られなかったため、本調査対象とはしなかった。

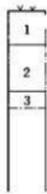
平成10年度は、4月・5月に、残りの9,827㎡について調査を実施した。調査対象範囲及びトレンチ位置は第5図のとおりである。各トレンチの内容は、第5表のとおりである。また、トレンチ断面図は第7～9図のとおりである。調査の結果、トレンチ1及びトレンチ7・8周辺の平坦面は、丘陵が削平されたあとで遺構が検出できないため本調査対象とはしなかった。トレンチ10以西の斜面部も遺構が検出されず、本調査対象とはしなかった。トレンチ2～6は山裾を巡る弥生土器をわずかに包含する旧河道及び埋没谷が検出されたものの、明確な遺構は確認できないため、本調査対象とはしなかった。トレンチ9では弥生時代の壺棺墓が検出されたため、同様な地形が続く東西の近接地を本調査対象とした。



第5図 予備調査トレンチ位置図 (1/2,000)



1. 黒灰色砂混じりシルト
2. 淡灰褐色砂混じりシルト
3. 黄褐色粗砂
4. 灰褐色砂～シルト
5. 灰褐色粗砂
6. 褐色粗砂



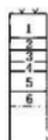
1. 黒灰色砂混じりシルト
2. 淡灰褐色砂混じりシルト
3. 黄褐色粗砂

第1トレンチ



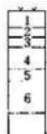
1. 黒灰色砂混じりシルト
2. 淡灰褐色砂混じりシルト (砂多)
3. 淡褐～黄褐色粗砂

第2トレンチ



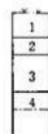
1. 灰褐色細礫混じり粗砂
2. 淡褐色細礫混じり粗砂
3. 淡灰褐色細礫混じり粗砂
4. 黄灰色細礫混じり粗砂
5. 灰色細礫混じり粗砂
6. 淡褐色粗砂

第3トレンチ



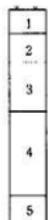
1. 暗灰色砂混じりシルト
2. 淡褐色砂混じりシルト (砂多)
3. 淡灰色砂混じりシルト (砂多)
4. 淡灰色シルト
5. 淡灰色中砂～シルト
6. 淡褐色粗砂

第4トレンチ



1. 灰褐色砂混じりシルト
2. 暗褐色砂混じりシルト
3. 淡灰褐色シルト (粗砂少)
4. 淡褐色中砂

第5トレンチ

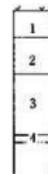


1. 暗灰色砂混じりシルト
2. 灰褐色砂混じりシルト
3. 暗灰色粗砂
4. 暗青灰色シルト
5. 灰色粗砂

第6トレンチ



1. 暗灰色砂混じりシルト (砂多)
2. 灰色砂混じりシルト (砂多)
3. 淡灰色砂混じりシルト (シルト多)
4. 淡黄色シルト (砂少)



1. 暗灰色砂混じりシルト
2. 淡灰褐色粗砂 (粗砂混)
3. 褐色含礫粗砂
4. 褐色粗砂

第7トレンチ



1. 暗灰色砂混じりシルト
2. 淡褐色粗砂～中砂
3. 暗灰色砂混じりシルト (砂多)
4. 灰色砂混じりシルト (砂多)
5. 淡褐色中砂

第6図 平成8年度予備調査トレンチ柱状図 (1/40)



1. 花崗岩ばいり土
2. 残土

予備調査トレンチ1 東壁土層断面図
(S=縦1/40・横1/200)



0. 砂上・整地土 (上80cm程花崗土、下50cm程残土)
1. 深褐色泥砂質土 (耕作土)
2. 明灰色泥砂シルト (床上)
3. 灰黄褐色泥砂シルト
- 3'. 橙茶褐色泥砂シルト
- 3''. 赤灰色泥砂粘質土
4. 灰黄褐色泥砂シルト (φ5~30mm程の小円礫まばらに含む)
- 4'. 灰茶褐色泥砂シルト
5. 茶褐色泥砂シルト
6. 暗茶褐色泥砂シルト (φ5~30mm程の小円礫まばらに含む)
7. 白茶褐色砂質土 (同上)
- 7'. 茶褐色粘質土 (同上)
- 7''. 赤茶褐色砂質土 (φ5~10mm程の小円礫比較的多く含む)
8. 暗茶褐色泥砂質土 (φ5~10mm程の小円礫まばらに含む)
9. 灰黄褐色泥砂シルト (同上)
- 9'. 暗橙茶褐色泥シルトブロック粗砂 (2~5mm程の粗砂粒主体)
10. 暗灰茶褐色シルト質細砂
11. 茶淡灰色シルト質細砂
- 11'. 暗橙茶褐色シルト質細砂 (φ30mm程円礫まばらに含む)
12. 茶褐色泥シルト粗砂
- 12'. 赤褐色泥地砂シルト
13. 明褐色シルト質細砂
14. 薄橙褐色泥塊層一掃砂 (3~7cm角の歪角礫比較的多く含む)
15. 薄橙灰黄色泥シルト粗砂
16. 暗橙褐色泥砂シルト
17. 薄暗橙茶褐色泥砂シルト

予備調査トレンチ2 西壁土層断面図
(S=縦1/40・横1/200)

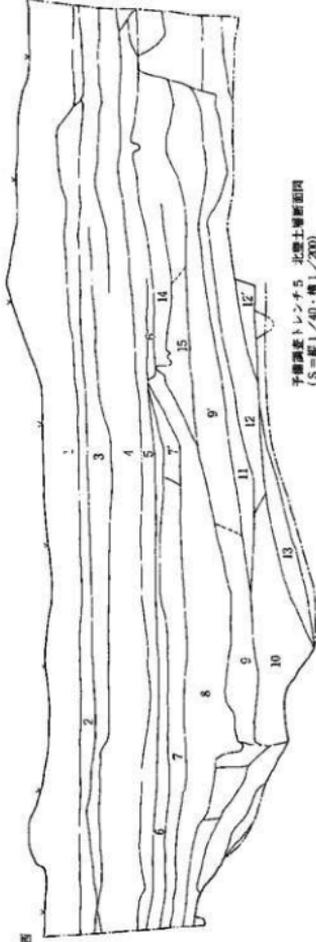


予備調査トレンチ3 東壁土層断面図
(S=縦1/40・横1/200)

- | | |
|----------------|---------------|
| 0. 花崗土盛土 | 5. 灰色泥砂シルト |
| 0'. 耕作土の盛土 | 6. 暗灰褐色泥砂粘質土 |
| 0''. 花崗土の盛土 | 7. 茶淡灰色シルト |
| 1. 砂質土 | 8. 橙淡灰色シルト質細砂 |
| 2. 明灰色泥砂シルト | 9. 黄淡灰色シルト質細砂 |
| 3. 淡茶褐色泥砂シルト | 10. 暗灰色粘質土 |
| 3'. 橙灰色泥砂シルト | 11. 黄淡灰色粘質土 |
| 4. 暗淡灰色泥砂シルト | 12. 茶褐色泥砂シルト |
| 4'. 灰黄褐色泥砂シルト | 13. 暗茶褐色砂礫 |
| 4''. 薄橙褐色泥砂シルト | 14. 茶淡灰色泥塊シルト |
| | 15. 橙灰色泥塊粗砂 |

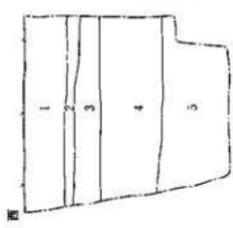
第7図 平成10年度予備調査トレンチ断面図(1)

1. 耕作土 (花崗土)
2. 黄褐色砂シルト
3. 黄褐色砂シルト
4. 黄褐色砂シルト
5. 黄褐色砂シルト
6. 黄褐色砂シルト
7. 黄褐色砂シルト
8. 黄褐色砂シルト
9. 黄褐色砂シルト
10. 黄褐色砂シルト
11. 黄褐色砂シルト
12. 黄褐色砂シルト
13. 黄褐色砂シルト
14. 黄褐色砂シルト
15. 黄褐色砂シルト

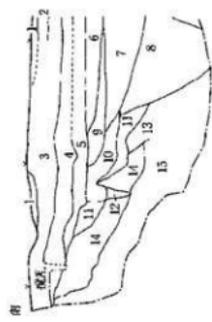


予備調査トレンチ5 北郷土層断面図
(S=縦1/40・横1/200)

1. 耕作土
2. 黄褐色砂シルト (硬土)
3. 黄褐色砂シルト
4. 黄褐色砂シルト
5. 黄褐色砂シルト



予備調査トレンチ4 北郷二層断面図
(S=縦1/40・横1/200)



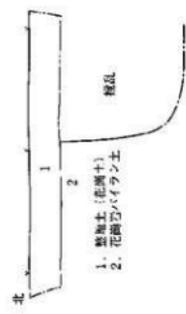
予備調査トレンチ6 西郷二層断面図
(S=縦1/40・横1/200)

1. 耕作土 (花崗土)
2. 黄褐色砂シルト
3. 黄褐色砂シルト
4. 黄褐色砂シルト
5. 黄褐色砂シルト
6. 黄褐色砂シルト
7. 黄褐色砂シルト
8. 黄褐色砂シルト
9. 黄褐色砂シルト
10. 黄褐色砂シルト
11. 黄褐色砂シルト
12. 黄褐色砂シルト
13. 黄褐色砂シルト
14. 黄褐色砂シルト
15. 黄褐色砂シルト

1. 耕作土 (花崗土)
2. 花崗岩・花崗土



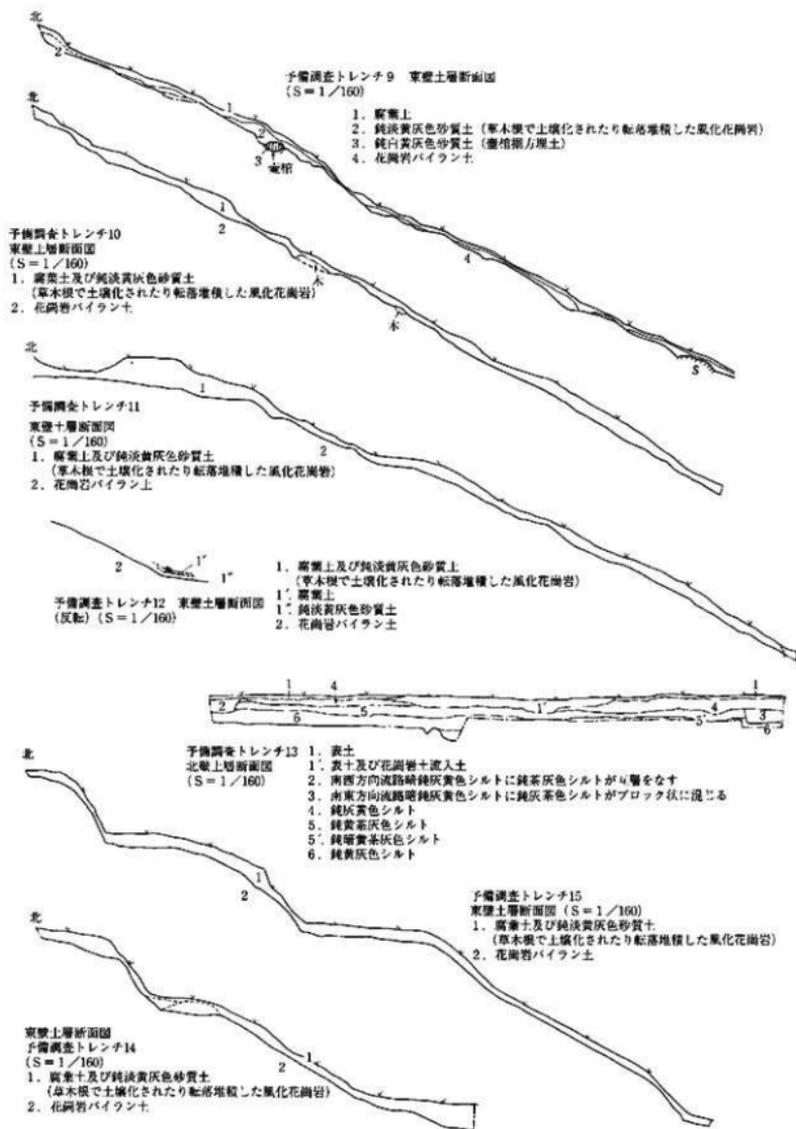
予備調査トレンチ7 北郷土層断面図
(S=縦1/40・横1/200)



予備調査トレンチ8 東郷土層断面図
(S=縦1/40・横1/200)

9. 黄褐色砂シルト
10. 黄褐色砂シルト
11. 黄褐色砂シルト
12. 黄褐色砂シルト
13. 黄褐色砂シルト
14. 黄褐色砂シルト
15. 黄褐色砂シルト

第8図 平成10年度予備調査トレンチ断面図(2)



第9図 平成10年度子備調査トレンチ断面図(3)

トレンチ番号	規模	地形	遺構	遺物
1	2.8×16.0	丘陵（風化花崗岩）	無し	無し
2	3.0×19.2	旧河道（シルト）微高地（砂層）	無し	弥生土器
3	3.0×27.4	旧河道（シルト）微高地（砂層）	無し	弥生土器
4	2.7×8.3	微高地（砂層）	無し	無し
5	2.7×38.7	埋没谷（シルト・粘質土）ベース（シルト）	無し	弥生土器・石鏝
6	2.2×13.8	埋没谷（シルト・粘質土）ベース（シルト）	無し	須恵器・弥生土器
7	4.3×21.6	丘陵（風化花崗岩）	無し	無し
8	4.1×11.6	丘陵（風化花崗岩）	無し	無し
9	1.7×22.6	丘陵（風化花崗岩）	竈棺墓	弥生土器
10	1.6×23.1	丘陵（風化花崗岩）	無し	無し
11	2.0×25.0	丘陵（風化花崗岩）	無し	埴瓦・磁器
12	1.4×5.8	丘陵（風化花崗岩）	無し	無し
13	1.4×18.3	埋没谷（砂質土）ベース（風化花崗岩）	無し	弥生土器・瓦質土器・陶器
14	1.3×15.2	丘陵（風化花崗岩）	無し	無し
15	1.5×22.2	丘陵（風化花崗岩）	無し	土師質土器

第5表 下屋敷地区予備調査トレンチ一覧表（平成10年度）

なお、平成11年3月には、新たに切り土が及ぶことになった北側について、予備調査を実施し遺構を検出したので、平成11年度に調査を実施した。この調査の詳細については、「金毘羅山遺跡Ⅱ」でⅢ区と合わせて報告する予定である。

第3節 調査の方法

調査地は、調査工程に従い、第10図のようにⅠ区からⅢ区の調査区名を付けた。Ⅲ区は斜面地にあたり、本報告では扱わない。また各調査区名には、さらに①②という小区画を併用して調査を実施したが、本報告ではこの小区画名は使用しない。調査時の遺構番号は、調査区ごとに1から始まる連番を使用し、たとえば、Ⅰ区S K01、Ⅱ区S K01のように遺構名を付けている。本報告では、報告遺構名として、調査時の遺構名をそのまま使用することにする。なお、遺構名の後ろの（ ）内の表記は、付図上でがす位置である。国土座標にそった20m四方を1区画として、アルファベットと数字で表記する。この区画名については付図を参照されたい。

遺構の測量については、平面図はおもに航空測量で行い、その他は手書きで実施した。

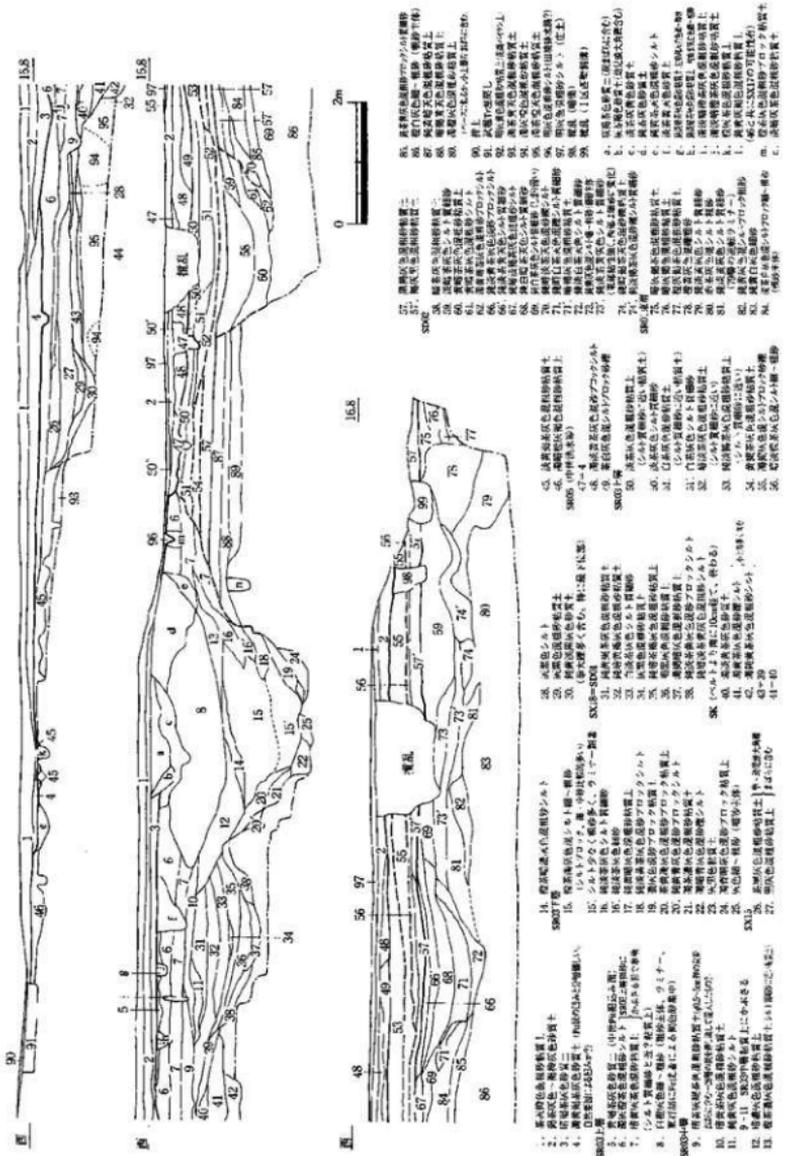
第4節 土層序（図版4・5）

付図に土層断面図作成位置を示している。断面図第11図（図版4 Ⅱ区中央畦）左側は、予備調査時に削平された丘陵部分として、本調査対象としなかった部分である。表土直下で、基盤層の黄色系粘質土が現れる。調査地西から東へかけて、この基盤層は低くなっていくが、これは、川跡S R01によって調査地北東の半分の基盤層が大きく削られ、その後川跡が埋まっていくことによって生じたものと考えられる。S R01は、弥生時代後期の遺物を出土することから、弥生時代後期頃には埋没したのと考えられる。なお、これ以前には南から北へ流路方向をとるS R04があるが、弥生時代中期末のⅠ区S H04を壊していること及びS R01に壊されていることから、弥生時代中期末から弥生時代後期中葉までの間に埋没していたものと考えられる。S R01は、その後埋没が進み、6世紀末頃には、一度、洪水による堆積と考えられる粗砂層（第11図55層）に覆われる。そして、7世紀後半頃の川跡S R03の検出面が、現

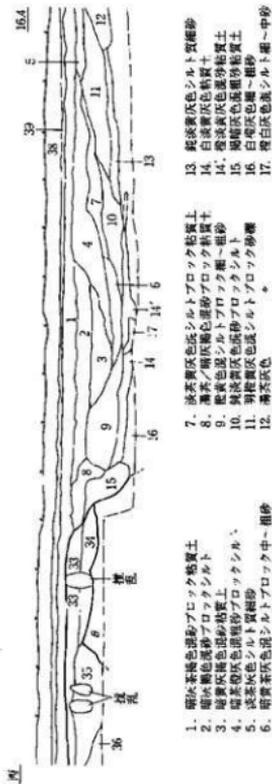
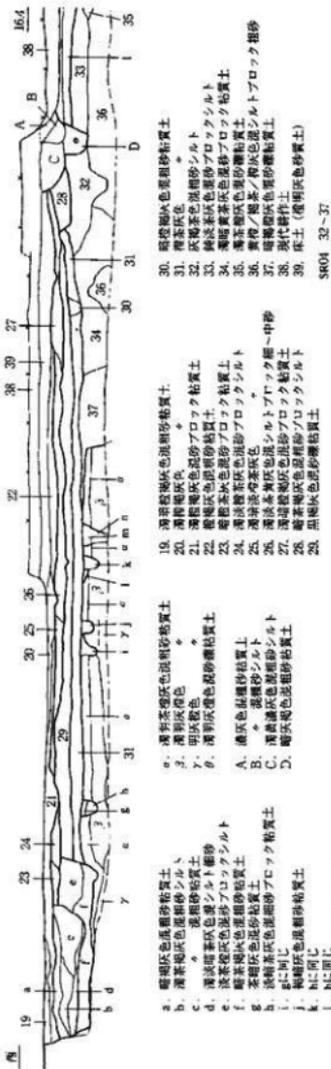
耕作土下40cmで検出できるまでになっている。さらにこの後、この上には鎌倉時代末頃の砂層（SR05，第11図4，47～49層）が覆い、ほぼ現在の地表面と同じ様な状況になったものと考えられる。古代までの流路の方向は、南東から北西方向と考えられるが、近世以降の時期と考えられるSR02の方向はこれとは異なり、南西方向から北東方向へとになっている。



第10図 調査区割図 (1/1,000)



第11図 II区中央軸十層断面図 (1/80)



第12図 I区北壁十層断面図(1/80)

第5節 遺構と遺物

1 縄文時代早期～前期

当時期の遺構は無い。遺物としては、縄文土器及びS R01から出土した完形の缺状耳飾19がある。

1は前期前葉の羽島下層式と考えられる。2も摩滅しているが同様の時期であろう。3は中期前葉の船元皿式土器と考えられる。

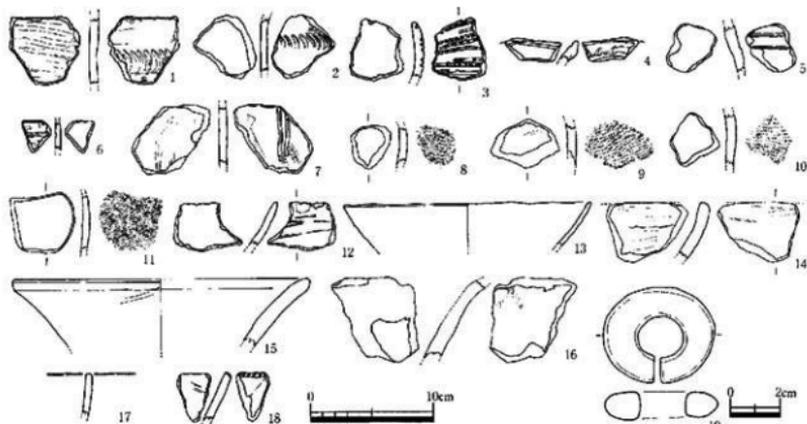
4～18は所属時期不明の縄文土器であるが、ここで一緒に報告しておく。8の外面には赤色顔料が付着している。

19は、I区S X02のトレンチ掘削時に、下層のS R01埋上から出土したものである。出土位置は、S X02南北トレンチ内で、S X02の南端から40cm程度南側である。石材は蛇紋岩と考えられる。堀江武史氏の分類^{*1}によれば、切目率27.5%、厚さ率76.9%で、A類に分類され、縄文時代早期末葉～前期初頭の時期が考えられるが、羽島下層式の上器が出土していることから、前期前葉に所属する可能性もある。

2 縄文時代晚期

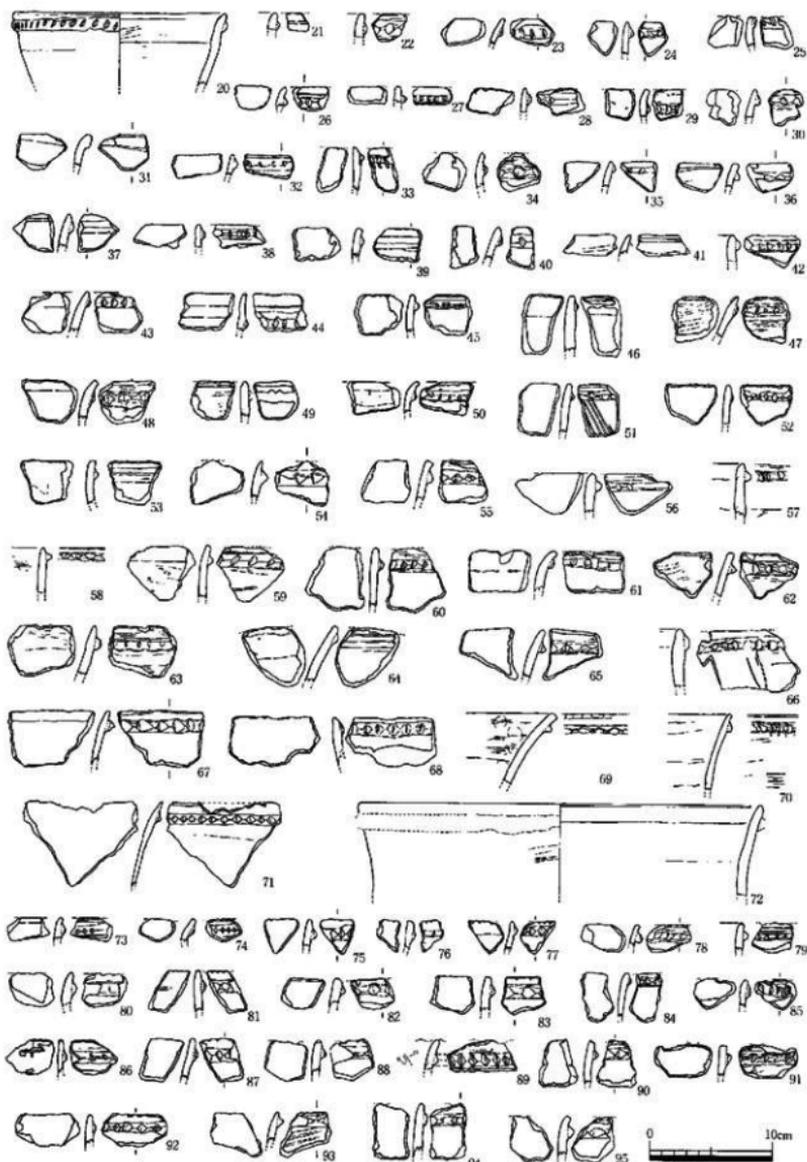
当時期の遺構は無い。遺物としては、突帯文土器及びそれよりわずかに古いと考えられる土器が出土している。いずれも後世の遺構の埋土から出土している。口縁部破片のみを数えると約200点出土している。

20～143は突帯文土器深鉢である。110の口縁端部にはハケ目状原体による押しきりがみられる。138～140は2条突帯深鉢と考えられる。144～202は浅鉢と考えられる。147には外面沈線内に赤色顔料の付着がみられる。151の外面右側に見られるのは穿孔であろうか。206は弥生前期の甕であろうか。

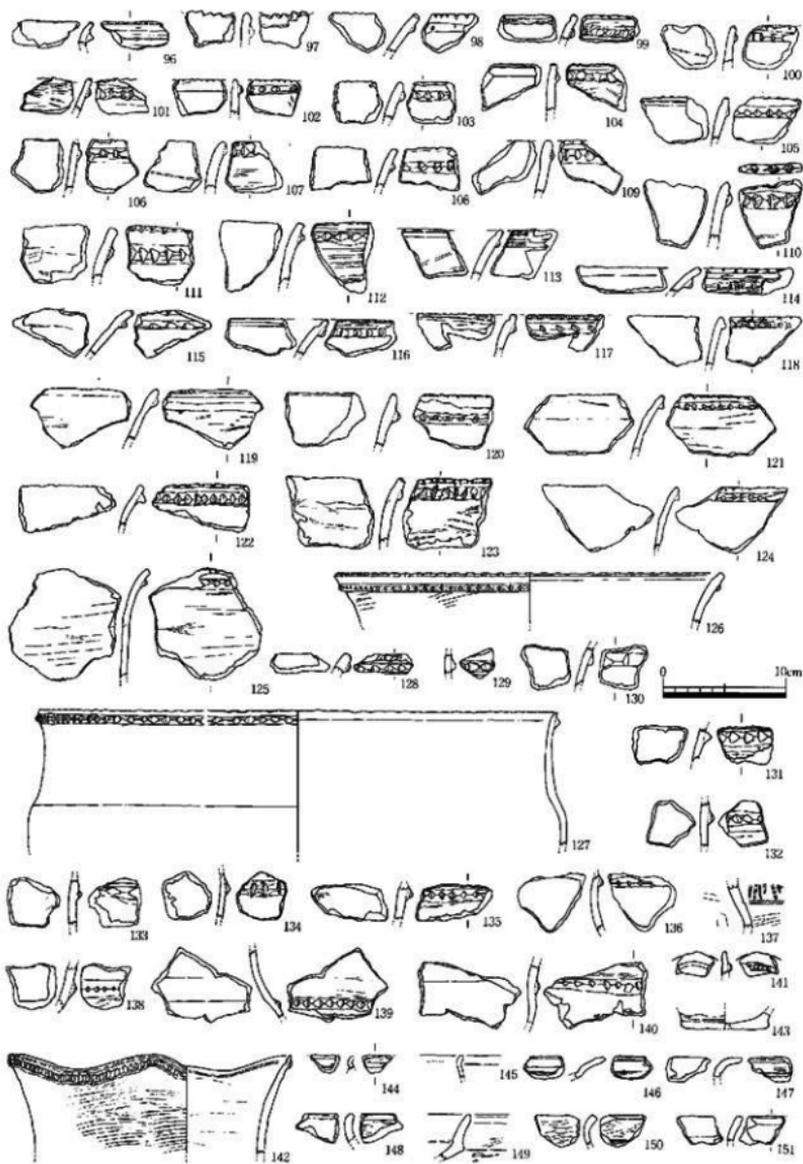


第13図 縄文土器 (1/4)・缺状耳飾 (1/2) 実測図

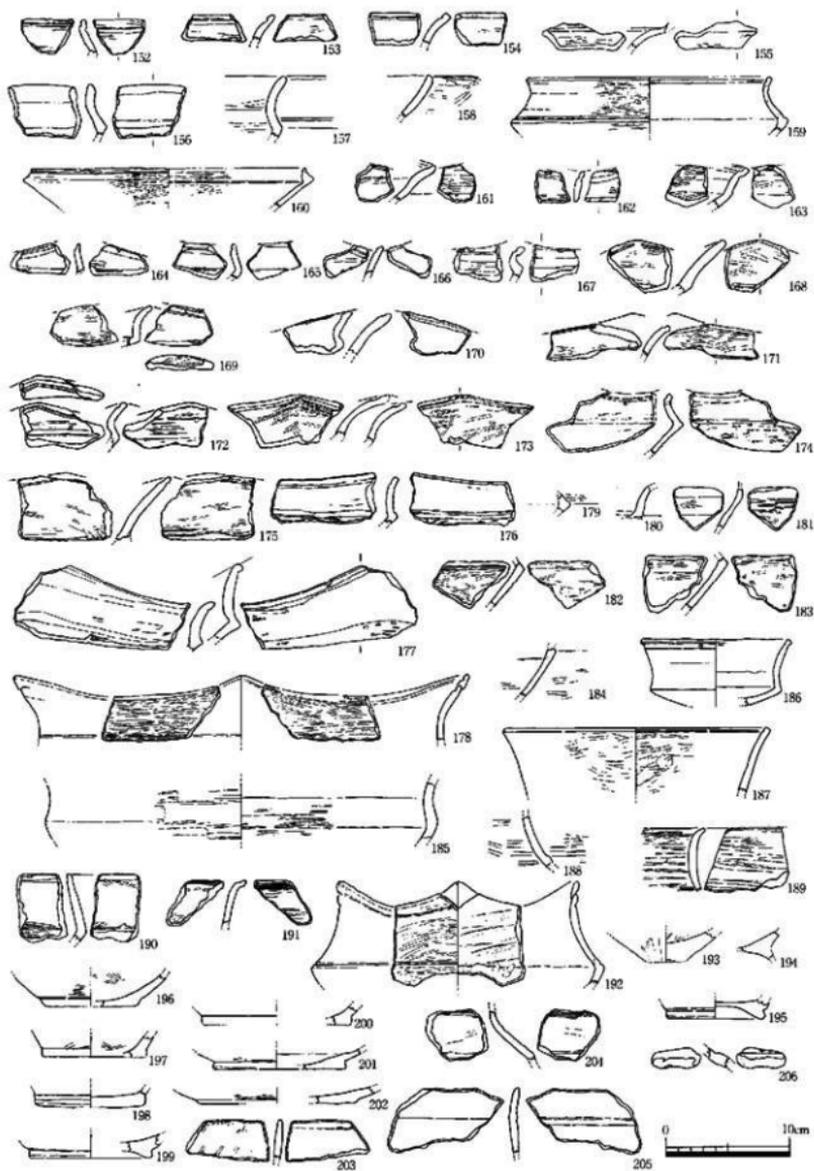
*1 堀江武史「缺状耳飾の分類と製作工具について」『國學院大學考古学資料館紀要第8輯』1992



第14图 縄文土器実測图 (1/4)



第15图 縄文土器实测图 (1/4)



第16图 縄文土器実測图 (1/4)

3 弥生時代中期

I区SX29 (B1, 第17図)

焼土を含んだ埋土を持つ。SD02より古いことから、弥生時代後期以前の竪穴住居跡の炉跡の可能性はある。遺物は出土していない。柱穴219, 222, 224はその配置及び規模から、支柱穴の可能性はある。柱穴の深さは11~26cmを測る。

溝跡

SD01 (第18~20図)

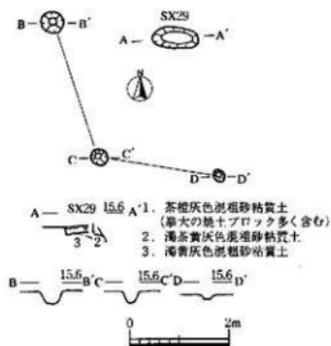
調査区南東部から北西方向へ延びる溝で、断面(第18図)から考えるとほぼ同じ位置に2つの溝が重なっているものと考えられる。古い方をSD01b, 新しい方をSD01aとする。溝の北西端は、調査時はSX18として調査を行っているおり、この溝はここでとぎれている。SD01a埋土は、中位に基盤層起源と考えられる淡灰黄色シルト層の堆積が検出範囲全面に渡っており、これは当時期の付近での竪穴住居跡等の掘削が考えられる。SD01bは、埋土の大部分が基盤層と類似していることから、埋戻されたものと考えられる。SD01aの底のレベルは、ほぼ同じである。

SD03は、埋土がSD01bに類似していること及び部分的にSD01の西側に現れているにすぎないことから、SD01bの一部と考えることができよう。

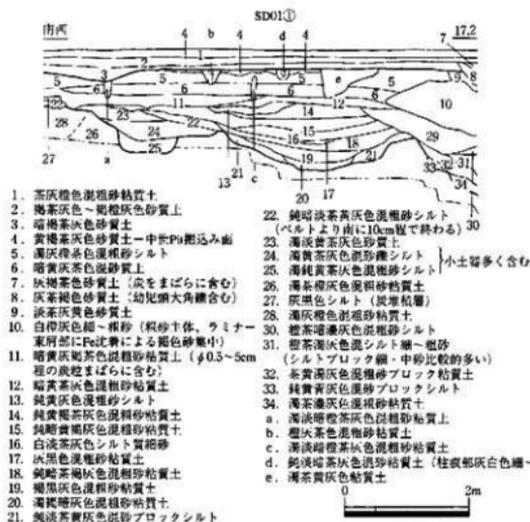
出土遺物は、コンテナ1箱で

ある。207~217は弥生中期後葉の土器である。207には頸部にハケ目原体とよるものと思われる刺突文がある。213は口縁部をヨコナア調整を行っておらず、変形が著しい。

218は石鏃である。219は石鏃で、楔形石器の削片を素材とするものであろう。中図面を打面とする二次加工により成形されている。220は安山岩製の打製石庖丁である。左図礫面には一部摩滅が見られる。221・222は楔形石器である。223は安山岩の脈岩製と考えられる叩き石である。



第17図 SX29平・断面図 (1/100)



第18図 SD01断面図① (I区中央畦)部分

不明遺構

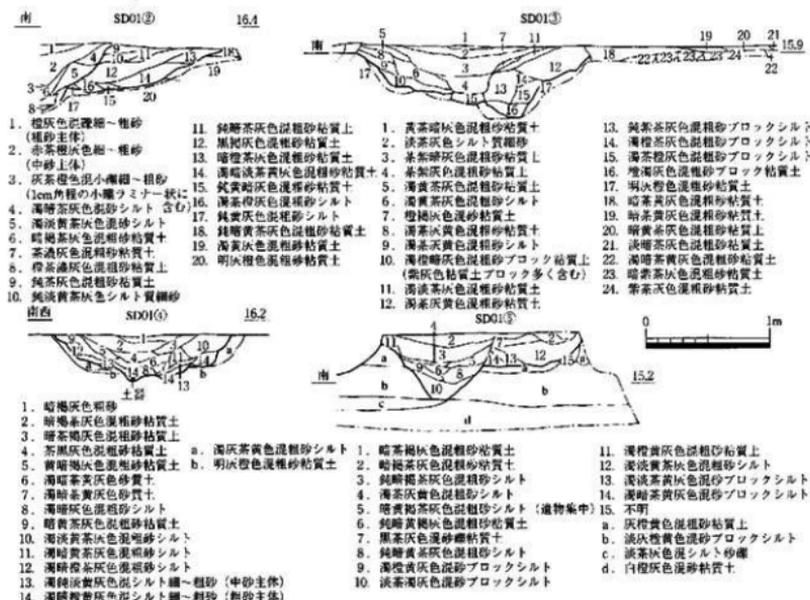
Ⅱ区SX28(A2, 第21図)

深さ数cmの浅い遺構である。埋土は不明である。弥生時代中期の土器を含む。22は楔形石器である。

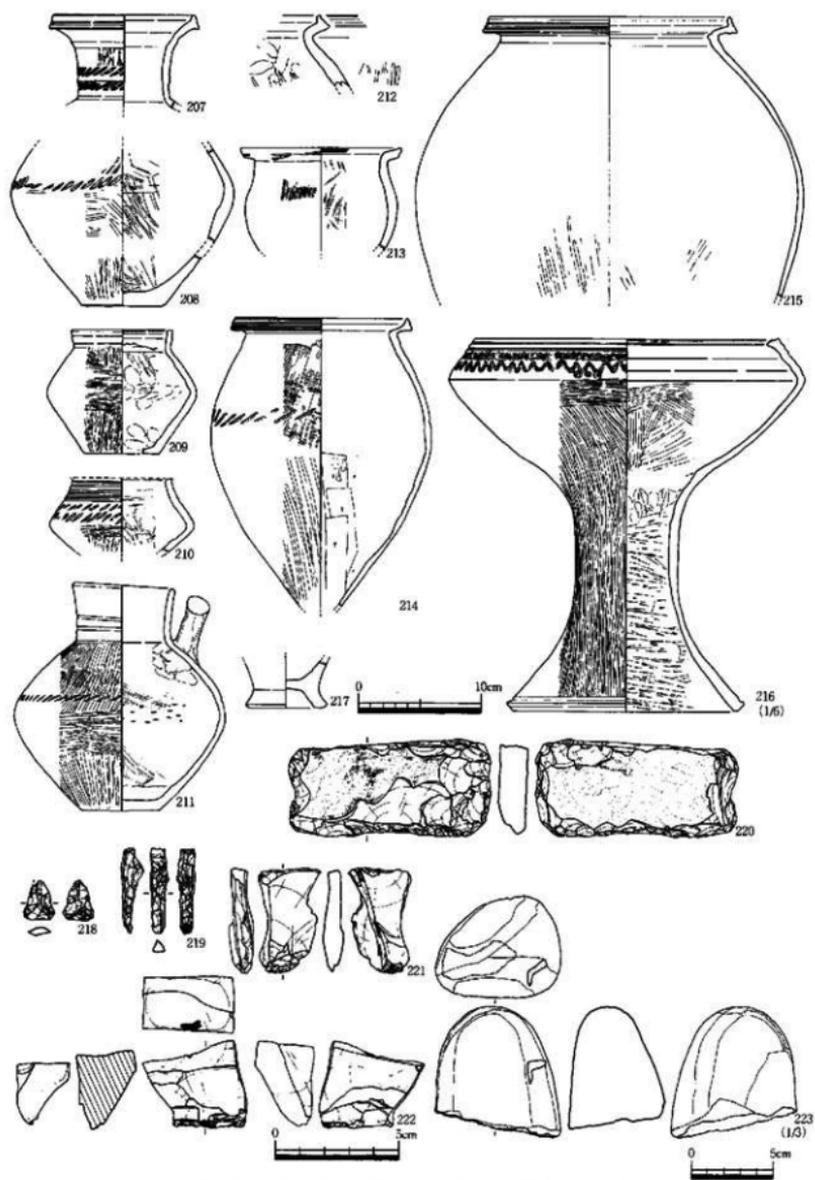
川跡

SR04(第21図)

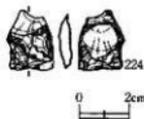
第21図はC2区画北東部での断面図である。3・4層がSR04埋土で、1・11~13層は、SR01埋土で、他は竪穴住居跡SH04の埋土である。7層は11~13層より新しく見えるが、平面的にみた新旧関係からは7層の方が古い。これによるとSR04が弥生時代中期末のSH04を壊していることがわかる。また、弥生時代後期のSR01に壊されていることから、弥生時代中期末から弥生時代後期前葉の時期が考えられる。



第19図 SD01断面図② (1/40)



第20图 SD01出土土器 (1/4·1/6)·石器 (1/2·1/3)



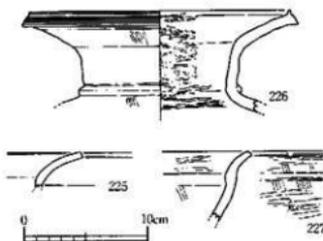
第21図 II区S X28出土石器 (1/2) 及びSR04断面図 (1/100)

4 弥生時代後期

竪穴住居跡

SH03 (C1, 第22図)

浅い落ち込み状の遺構である。調査時には竪穴住居跡とされているが、積極的な根拠は無い。225～227は弥生時代後期の上器である。



第22図 SH03出土土器 (1/4)

SH04 (C1・C2, 第23・24図)

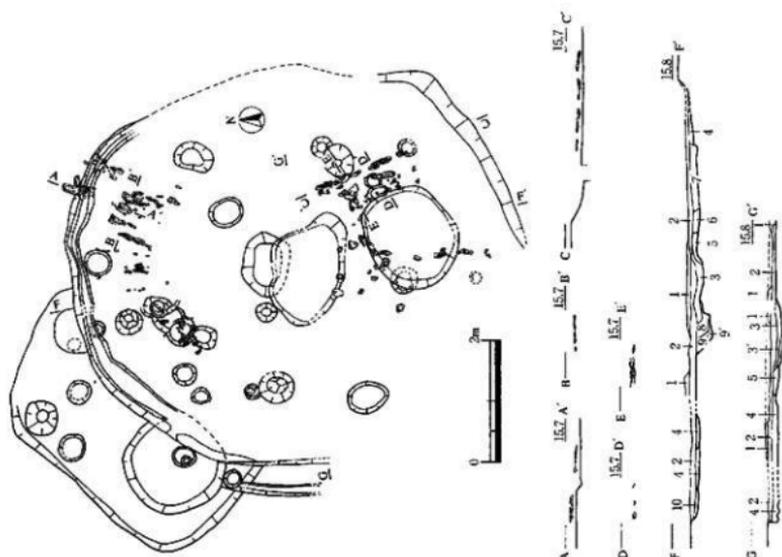
川跡SR01及びSR04に壊されている。

焼失家屋である。炭化材が住居跡中心から放射状に分布

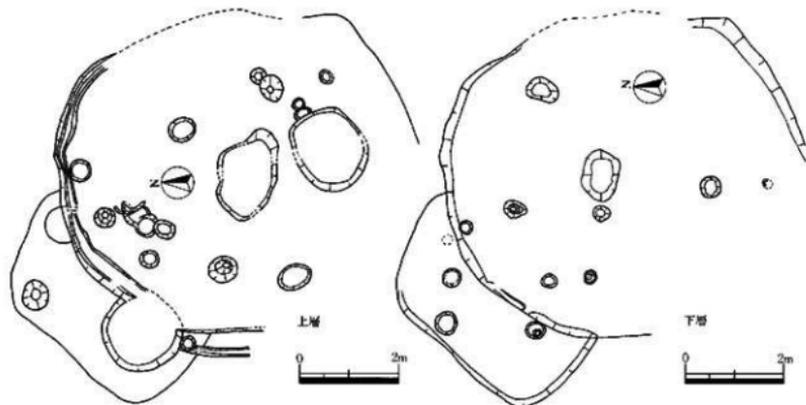
することから、これらの炭化材は垂木材と考えられる。垂木材は大きいもので幅15cm、厚さ10cm弱を測る。炭化材の一部は竪穴住居跡掘り込みより外へはみ出してあり、垂木の接地部分は掘り込み部分より外側に設定されている可能性が指摘できる。また、これらの掘り込み部分より外の炭化材の標高は、掘り込み検出面から約7cmである*1。床面からは、12cmほど上になり、これが当時の壁面の高さを示している可能性がある。

2つの炉跡が重なって検出された。断面図の5・6層は、新炉跡3層形成時の貼床層と考えられる。5層下位及び中位には、一部炭層を薄く含むことから、基盤層面を生活面とした時期がある可能性が考えられる。これが旧炉跡に伴う床面の可能性もある。新炉跡に伴う床面(2層直下)は、南へ向かって高くなっている。主柱穴は5穴と考えられる。貼床上面では、3穴しか確認できなかったが、貼床を除去して基盤層まで検出した時点で、4穴が検出された。このうち貼床面上とその下で補完的に検出された3つの柱穴は位置を変えずに使用されたものと考えられるが、若干ずれた位置で検出された柱穴は、やはり建て替えを示すものと考えられる。また、貼り床下面の柱穴列と上面の柱穴列を比較すると、上面の方がやや北西に拡張気味であることから、上面で床面積拡張の建て替えが行われたのではないと考えられる。また、東側には当住居跡に沿うように、細い溝が検出されているが、これは当住居跡と関連を持つ塋溝と考えられ、これも住居跡の拡張をしめすものといえるであろう。

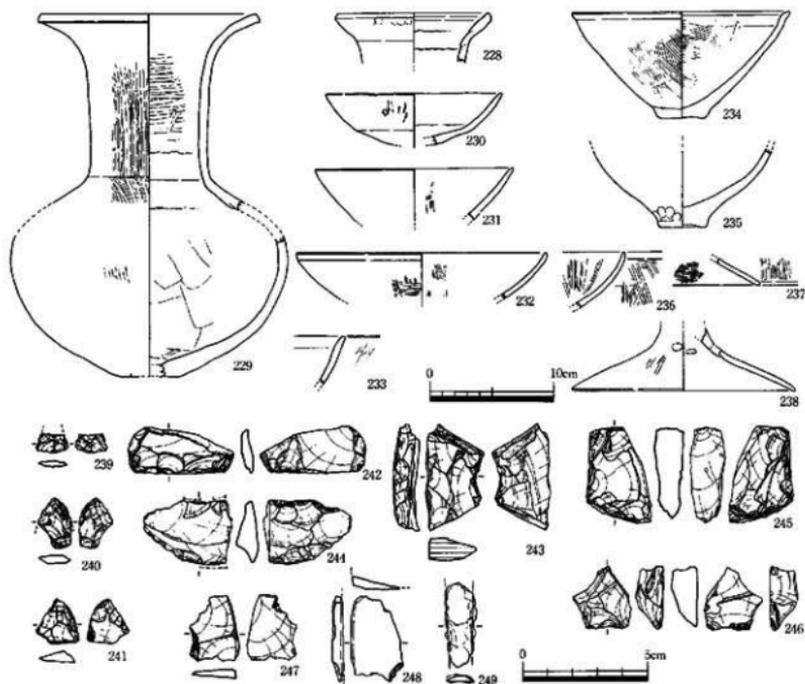
*1 この断面図の床面の標高は、断面図作成位置からやや離れた場所で測定された平面図の標高値をもとに、復元したものである。



1. 炭化材バック層上、暗褐色灰色泥相砂粘質土（炭化材、炭粒、焼土ブロック小含む）
2. 炭化材バック層下、暗褐色灰色泥相砂粘質土（炭粒まばらに含む）
3. 庭床時の砂、暗褐色灰色泥相砂粘質土（炭、焼土ブロックφ1cm程度含む）
4. 庭床時の砂、暗褐色灰色泥相砂粘質土
5. 庭床産土、深褐色灰色泥相砂粘質土
6. 庭時の加かき出し層、黄褐色灰色泥相砂粘質土（炭の層が下位もしくは中に帯状に入る）
7. 庭床面、鈍黄褐色灰色泥相砂粘質土
8. 庭時の砂、暗黄褐色灰色泥相砂粘質土（φ1-2cmの炭粒まばらに含む）
9. 庭時の砂、赤褐色灰色泥相砂粘質土
10. 庭床時の砂、茶褐色灰色泥相砂粘質土



第23図 SH04平・断面図 (1/80・1/100)



第24図 S H04出土土器 (1/4)・石器 (1/2)・鉄器 (1/2)

また貼床上面で検出されたX01は、深さは浅いものであり、明瞭な掘り込みと考えられない。

228～238は弥生時代後期の上器である。このことから、概報では、時期を弥生中期としていたが、後期とする方が良いと考えられる。

239・240は石鏝である。241は石鏝未製品と考えられ、片面のみ二次加工が顕著である。242～245は楔形石器である。243は左図の剥離が「番新しく、中図下の剥離面は折れ面（あるいは截断面）を打点とする。244は、トレンチ9から出土したもので、当遺構から出土したものと考えられる。246は線状痕を伴う摩滅面があり、石斧を転用したものと考えられる。247は左図左側に一部二次加工が見られる。剥片の大きさから考えれば石鏝の未製品の可能性があろう。248は結晶片岩製で、柱状片刃石斧の破片である。249は、刀子の破片と考えられる鉄器である。

中央畦断面の遺構（第11図）

中央畦断面の西から11～21mの位置に、竪穴住居跡の可能性のある部分が観察されるので、ここで報告しておく。ただ、調査時には、平面的な遺構の広がりとしてはとらえられていないので確実ではない。

28層は炭の堆積層であり、この部分を床面と考えれば27層の西側の立ち上がりが畝面とすることがで

きよう。28層の右側の9層は西側が壁溝状に立ち上がっている。また11層は基盤層起源の土層であることから、9あるいは10層下面を床面と考えた場合、11層は整地層の可能性を考慮することができよう。これは弥生時代中期の溝埋土より新しいことからここでは弥生時代後期としておく。

土坑

Ⅱ区SK23 (B2, 第25図)

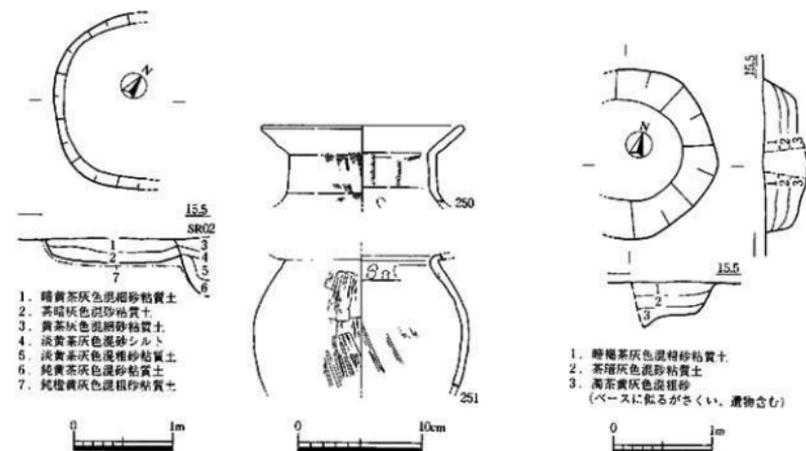
調査時にはSR01より新しくしていたが、出上土器及び埋土の類似より、あまり時期差が無いものと考えられる。出土遺物は弥生土器の他に縄文土器が出土している。250・251は弥生土器である。

Ⅱ区SK25 (B1, 第26図)

SR03より古い。遺物は弥生土器及び縄文土器が出土している。埋土は最下層が基盤層に類似しており、この層から土器が出土した。この層から出土した土器が、どのような土器かは不明であるが、この遺構から縄文土器が出土していることから、この最下層は、弥生時代以降の基盤層で、かつ縄文土器の包含層の可能性があるのでないか。

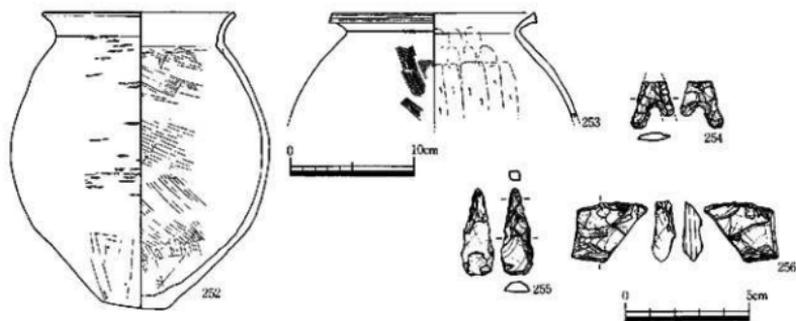
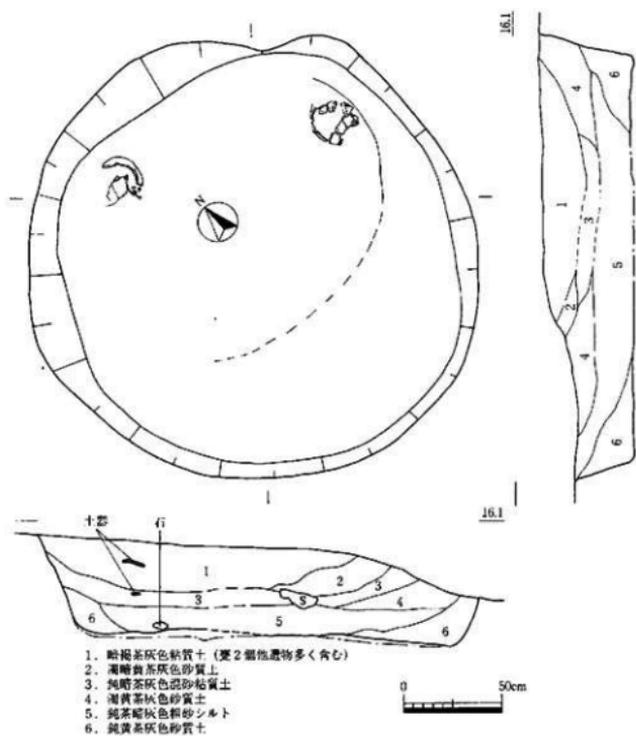
Ⅱ区SK32 (B2, 第27図)

埋土は大きく2層に分かれ、上層からはほぼ完形の弥生土器の他、縄文土器等が出土している。252・253は弥生土器で、253は、後期初頭の時期と考えられる。254は石鏃である。255は石錐である。256は楔形石器である。



第25図 Ⅱ区SK23平・断面図 (1/50) 及び出土土器 (1/4)

第26図 Ⅱ区SK25平・断面図 (1/50)



第27図 II区SK32平・断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2)

Ⅱ区SK33 (B2, 第28図)

埋土は、SK32に類似する。弥生土器の他、縄文土器が出土している。

査棺墓

Ⅱ区ST02 (B2, 第28図)

調査時に埋土は、8層に分層されているが、4・6層下面が墓坑底の可能性が考えられる。上器は壺257で、頸部以上は残存していない。

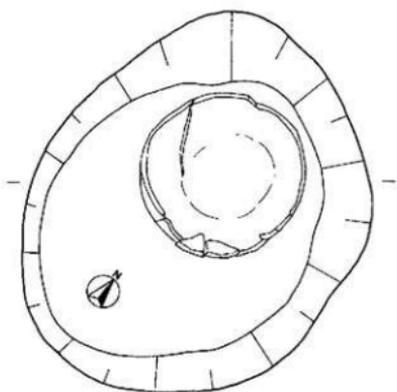
不明遺構

Ⅰ区SX04 (D2, 第29図)

埋土からは、縄文土器ほか、弥生時代後期までの土器が2袋程度出土している。258~260は弥生土器である。

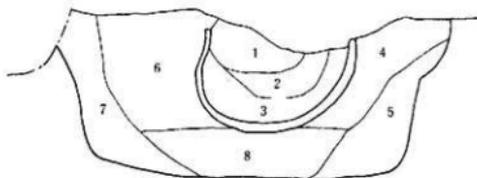
Ⅰ区SX07 (C2, 第30図)

深さ約40cmである。弥生後期の土器261が出土している。

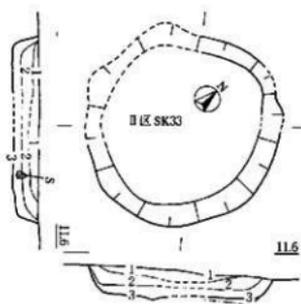


Ⅱ区ST02

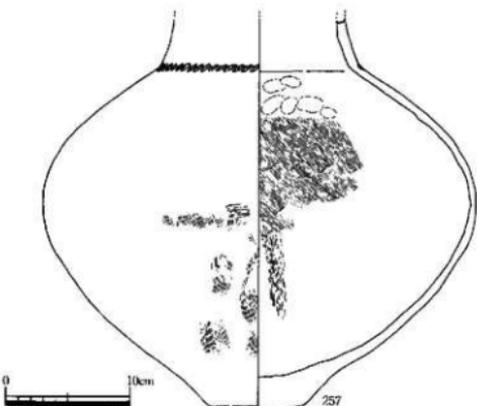
16.0



1. 暗淡黄茶灰色混砂シルト
2. 暗淡茶黄灰色混砂ブロックシルト
3. 暗淡茶黄灰色シルト
4. 暗淡茶灰色混砂粘質土
5. 純黄茶灰色混砂シルト
6. 暗淡茶灰色混砂粘質土
7. 純淡茶灰色混砂シルト
8. 暗淡黄茶灰色混砂シルト



1. 純暗茶灰色混砂粘質土
2. 純暗茶灰色混砂シルト
3. 暗茶灰色混砂粘質土



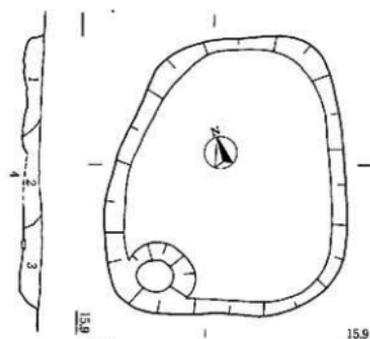
第28図 Ⅱ区SK33・ST02平・断面図(1/50・1/10)及び出土土器(1/4)

I区SX24 (B2, 第31図)

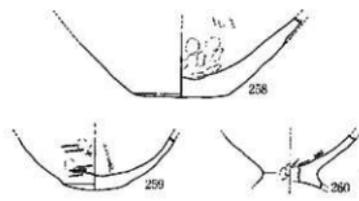
埋土上面に焼土塊を敷き詰めたような状況で検出された。遺物は縄文土器のみが出土しているが、弥生時代中期の溝跡SD01より新しいことから、弥生時代中期以降と考えられるので、ここで報告する。

II区SX27 (A1, 第32図)

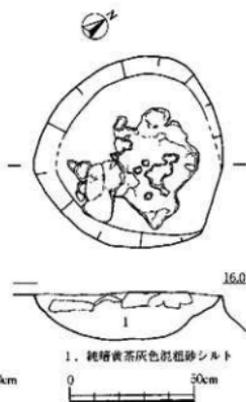
上層からは、SX26及びSII05・06より古いことがわかる。平面形及び底面形状も不整形である。南東側は、SX26に壊されている。底面標高は、北西方向から南東へ低くなっており、溝跡の可能性も考えられる。これを溝跡とすれば、斜面地からの流水に関連するものと考えられ、この遺構の南東方向への延長上にあるSX18 (SD01) との関連性を考える必要があるかもしれない。遺物は縄文土器及び弥生土器が出土している。262～265はいずれも弥生土器である。265は下川津B類土器である。



1. 暗茶灰色泥砂礫粘質土
2. 黒赤灰色泥砂礫粘質土
3. 薄淡茶灰色泥砂礫粘質土
4. 薄明褐色シルト

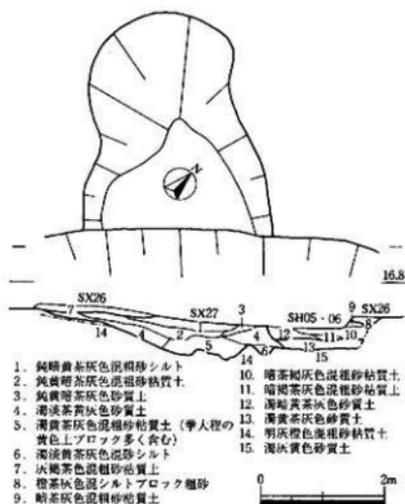


第30図 I区SX07出土土器 (1/4)



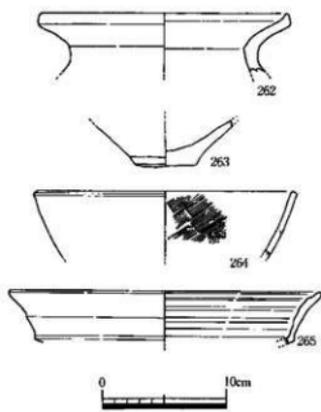
第29図 I区SX04平・断面図 (1/40)・出土土器 (1/4)

第31図 II区SX24平・断面図 (1/20)



1. 鈍暗黄茶灰色泥質砂シルト
2. 鈍黄暗茶灰色泥質砂粘質土
3. 鈍黄暗茶灰色砂質土
4. 薄黄茶灰色砂質土
5. 薄黄茶灰色泥質砂粘質土 (學人程の黄色土ブロック多く含む)
6. 薄黄茶灰色泥質シルト
7. 灰黄茶灰色泥質砂粘質土
8. 橙茶灰色泥質シルトブロック粘質土
9. 暗茶灰色泥質砂粘質土
10. 暗茶褐色泥質砂粘質土
11. 暗黄茶灰色泥質砂粘質土
12. 薄黄茶灰色砂質土
13. 薄黄茶灰色砂質土
14. 明灰褐色泥質砂粘質土
15. 薄灰黄色砂質土

第32図 II区 SX27平・断面図 (1/80)・出土上器 (1/4)



川跡

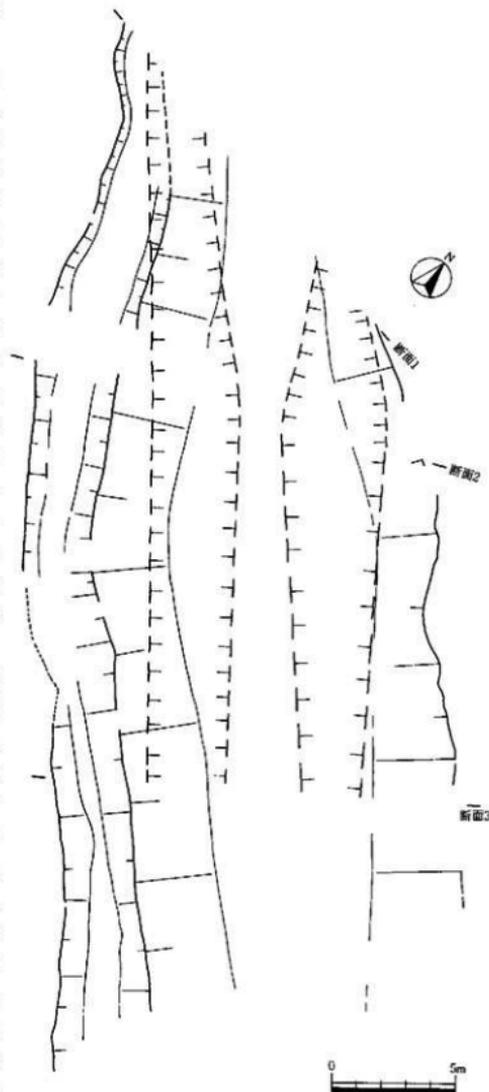
SR01・SD02 (第33~51図)

黄色系シルト層の基盤層をえぐって形成されている。下部の埋土は砂層である。上部の埋土はシルト層であるが、このシルト層の堆積は、基盤層をえぐって形成された川幅の中に3条認められ、これらは旧流路と考えられる。西側からそれぞれ流路A, B, Cとする。

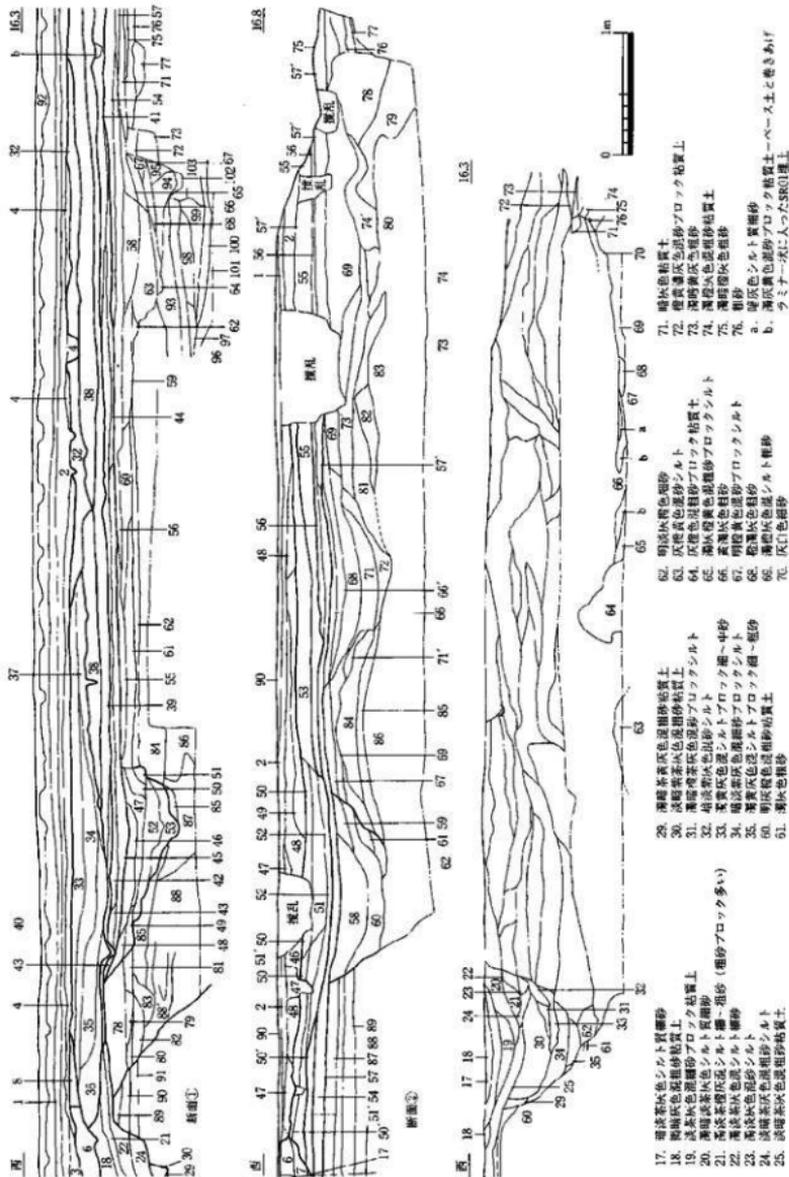
流路Aは、SD02としたものである。川跡断面図を見ると断面2・3 (第33図参照)では流路が3条きれいに現れているが、断面1では明瞭なものは2条である。調査時にはSD02として、流路Aを断面図1の46~53層に比定しているが、断面2・3での流路の位置と川跡が北へ向かうにつれ西へ曲がる傾向にあることから考えて、断面図1の46~53層は流路Bに比定したほうが良いのではないかと考えられる。そして、断面図1の78~83層が流路A (SD02)に相当するものと考えられる。ただ、SR01の埋土の大部分は、機械掘削しているため、流路の詳細な平面形は不明であるため、以上は断面図から推測に過ぎない。シルト層一括で出土した土器 (325~385)は、旧流路BのC2区画のほぼ中央の埋土から出土したものと考えられる。なお、SR01埋土を掘り込んで作られた古墳時代前期のI区SX02から出土した弥生時代後期の土器もこのSR01埋土に含まれていた可能性は高いと考えられるので、後述するI区SX02出土上器も参照されたい。

266~324は流路A (SD02)から出土したものである。268と269は同一個体の可能性がある。268には2種類のハケ目原体が認められる。270の頸部ハケ目は一部装飾的に施している。272は下川津B類上器である。273の高さは不確実である。281の外底面にはカヤ状の植物の圧痕がある。282の高さは不確実である。287の外底面には木葉圧痕がある。292は下川津B類土器である。293にはモミガラの圧痕があり、外面調整は型離れ成形後に施しているように見える。外底面には木葉圧痕がある。300の高さは不確実である。304の底部の木葉圧痕は、同じ葉が方向を変えて二度押しつけられている。307の外面へ

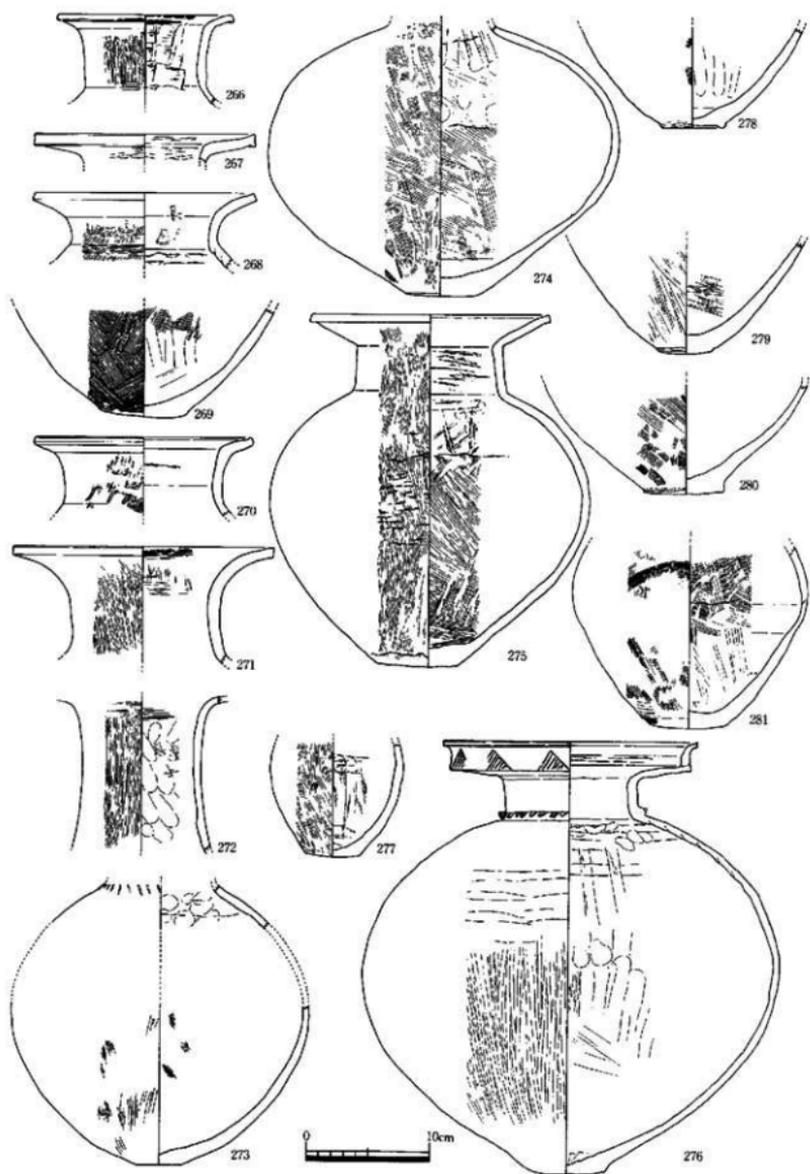
ラケズリは上からドへ行っている。314のハケ目原体は2種類ある。315の口縁部には赤色顔料が残存している。323・324は土師器である。325～385は先述した同一層から出土した土器である。331・332は下川津B類土器で、332は口縁部と体部が同一個体かどうかは不確実である。342はゆがみが著しく左外形は不確実である。360は胎土・器形は下川津B類土器と同じであるが、外面上半部にハケ目が無く、ヘラミガキもまばらであり、やや異なる。363は2孔1対の補修孔がある。382は焼成前穿孔穴であるが表裏両側からの穿孔である。386～424は上層出土とされる土器である。389・390は弥生時代中期の土器であろう。402～405・418は下川津B類の土器である。422は半截竹管文による連続刺突文がある。424は土師器で、上部からの混入品であろう。425～627は詳細な出土位置不明の土器である。425は内面に黒色塗膜状の物質が付着している。428はローリングを受けており、表面にはMn状の黒色物質が付着している。433下部には煤が付着しており、底部は赤変している。437の下部は赤変している。450は甕であるが、口縁部と胴部上半に煤が付着している。454は高さは不確実である。456は突帯上下に横方向のヘラミガキがある。489と490は同一個体の可能性がある。510の頸部外側には貼り付け突帯状に補強が見られる。517～525は下川津B類土器である。526は下川津B類に類似した器形であるが、角閃石は見られない。590は内面に4回穿孔を試みた痕跡がある。609は杯部内面に3本1組の荒いハケ目がある。611は蓋の可能性もある。615は内面端部の一部に煤が付着してい



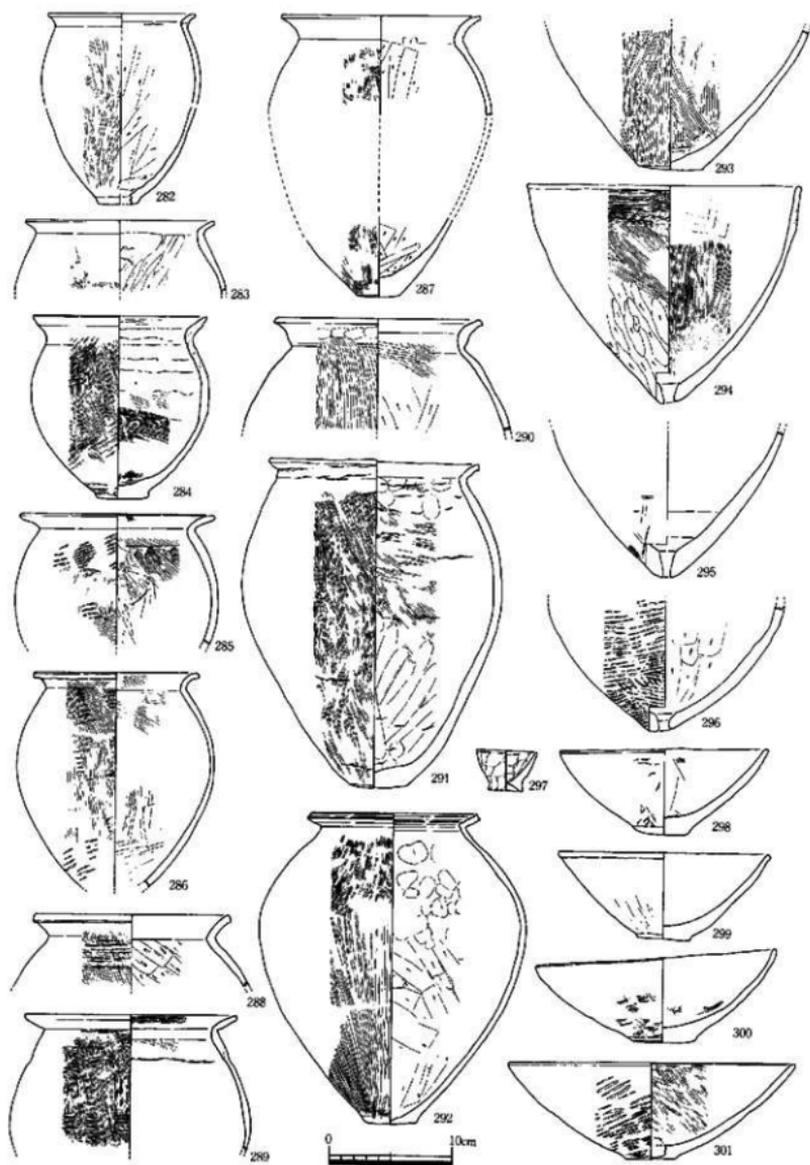
第33-1図 S R 01平面図 (1/200)



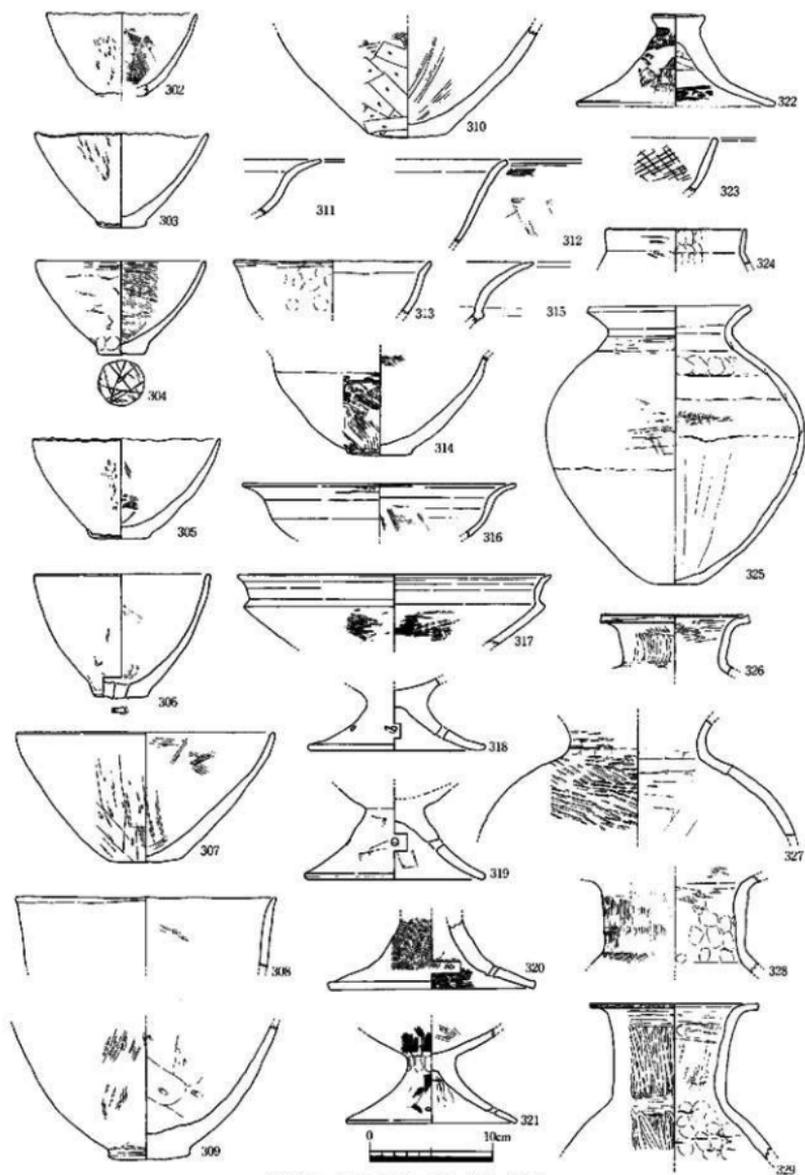
第33-2図 S R01断面図 (1/80)



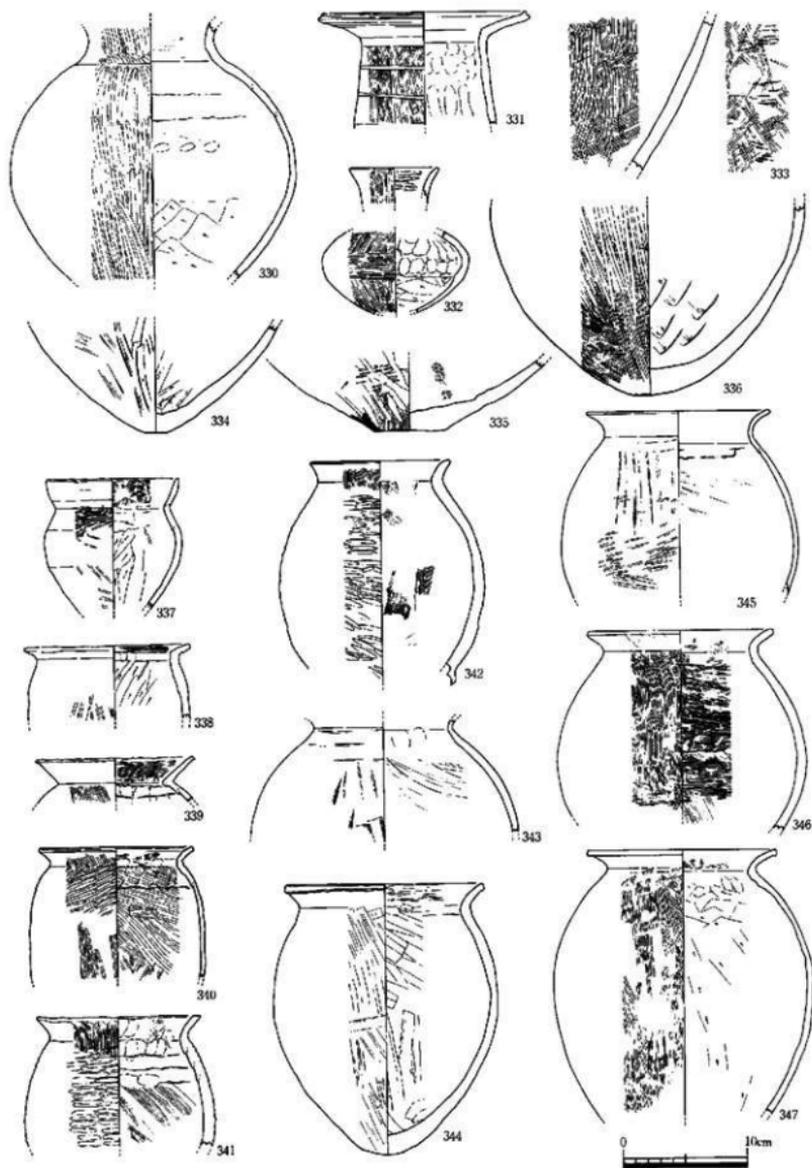
第34图 S R01出土土器 (1) (1/4)



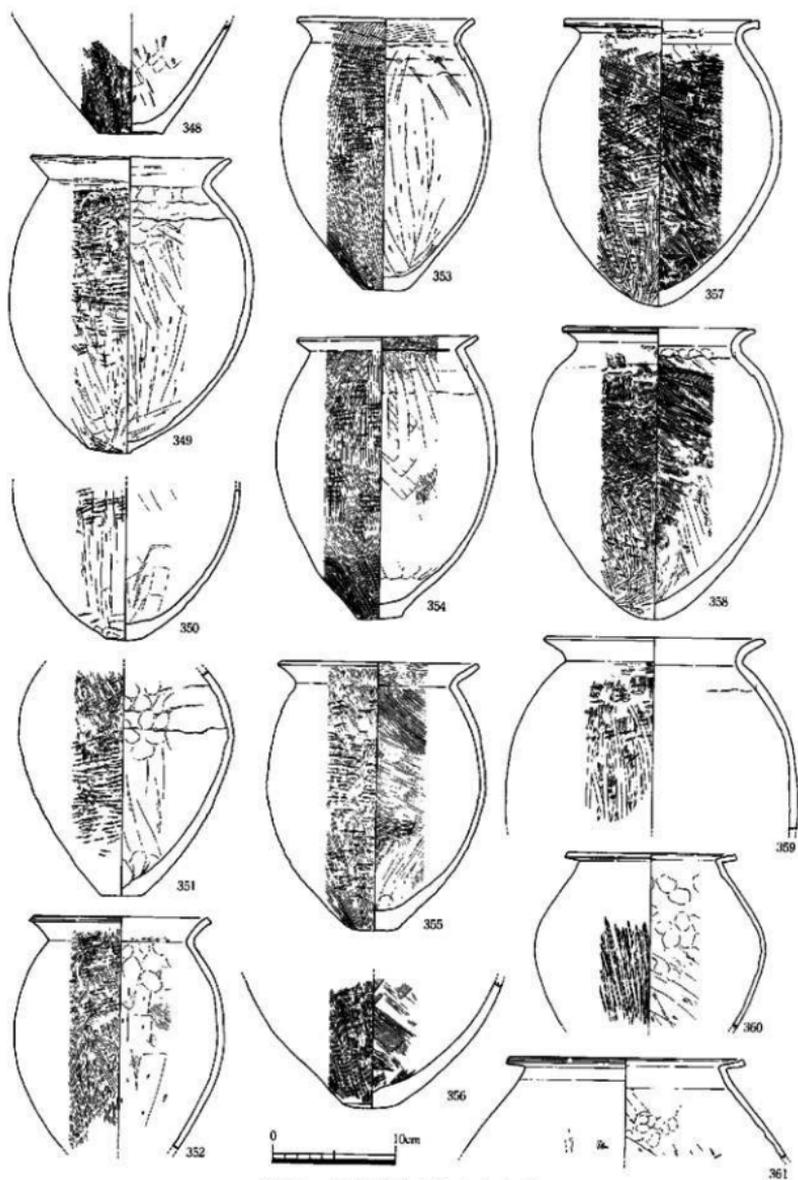
第35图 S R01出土土器 (2) (1/4)



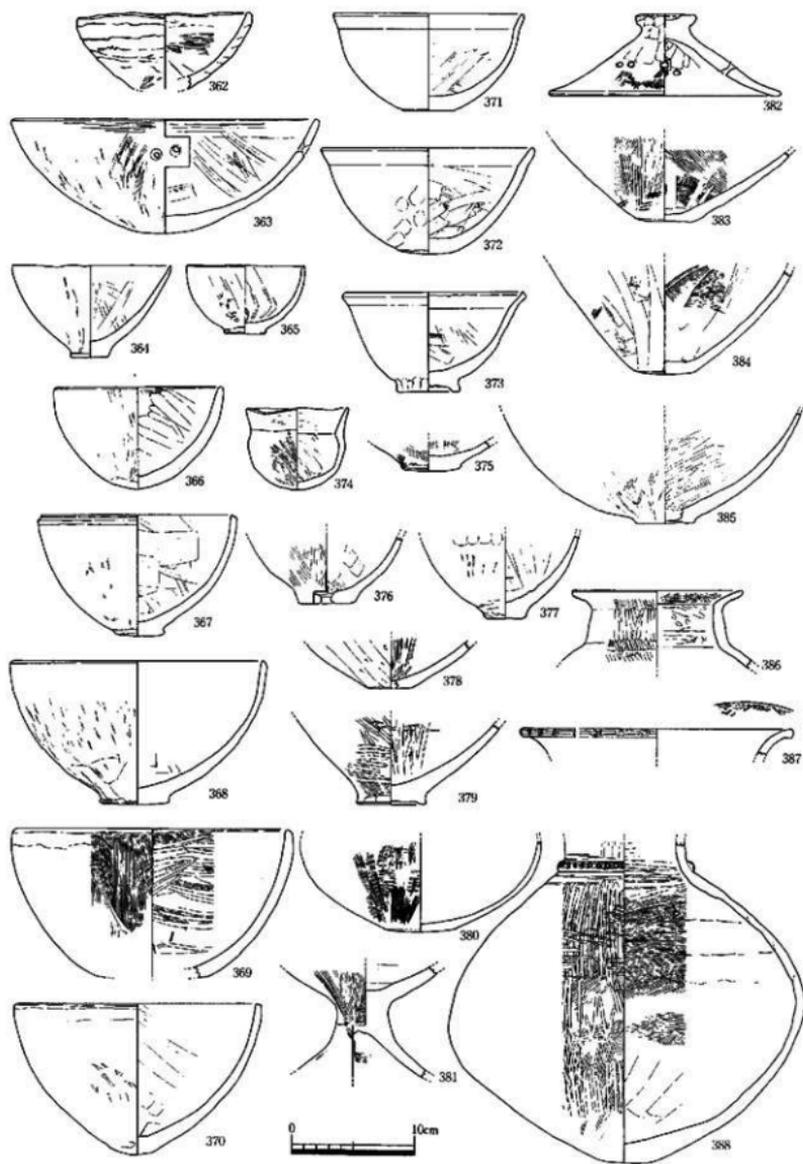
第36图 S R01出土器(3)(1/4)



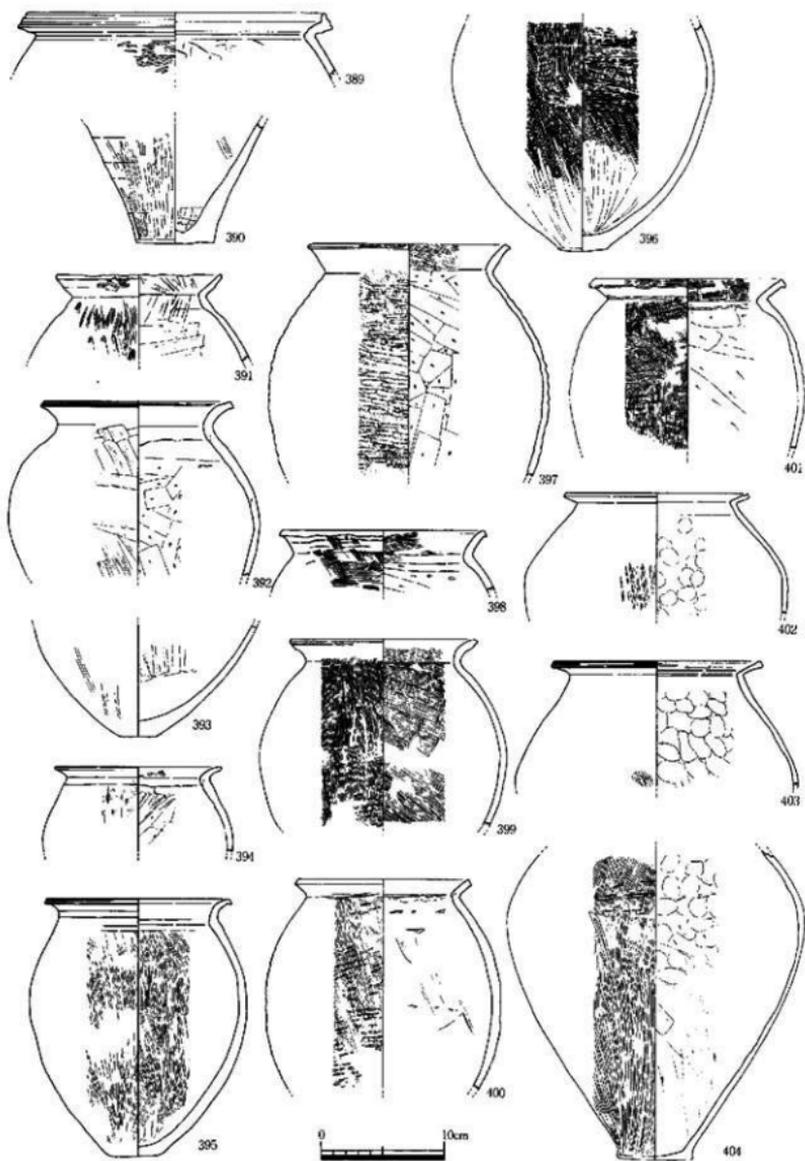
第37図 S R01州上器 (4) (1/4)



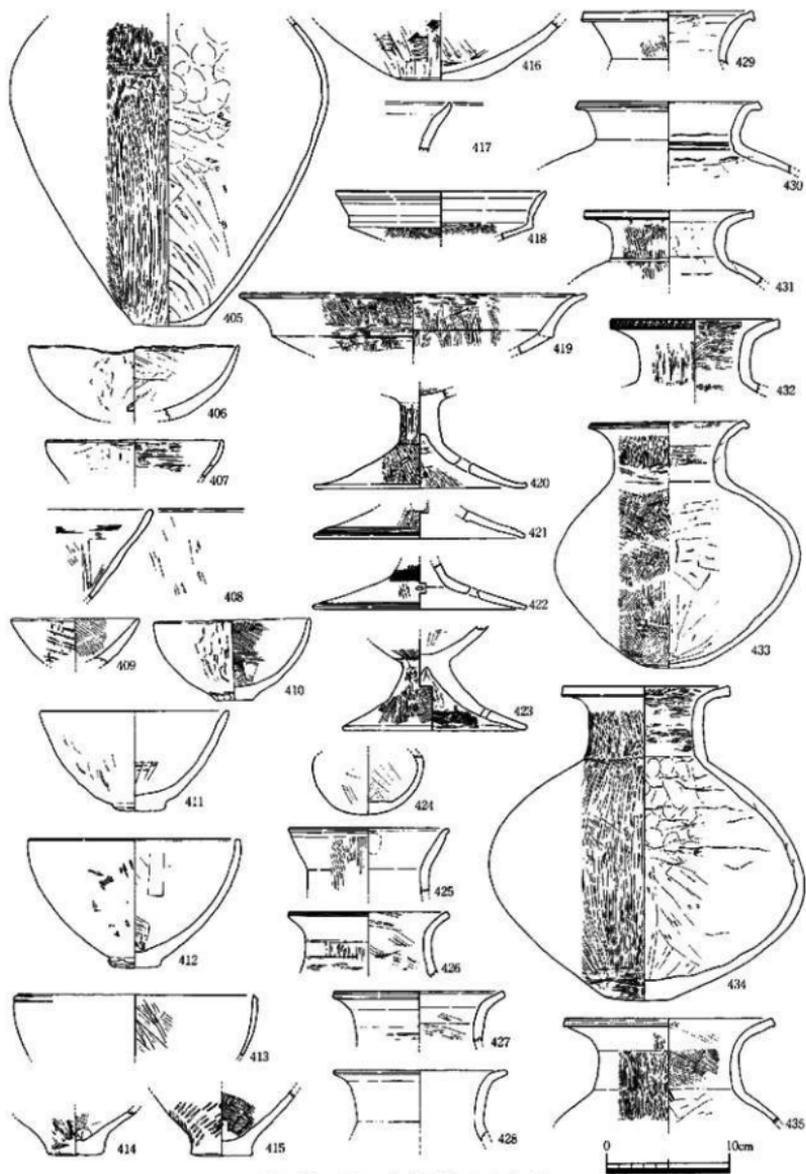
第38圖 S R01出土土器 (5) (1/4)



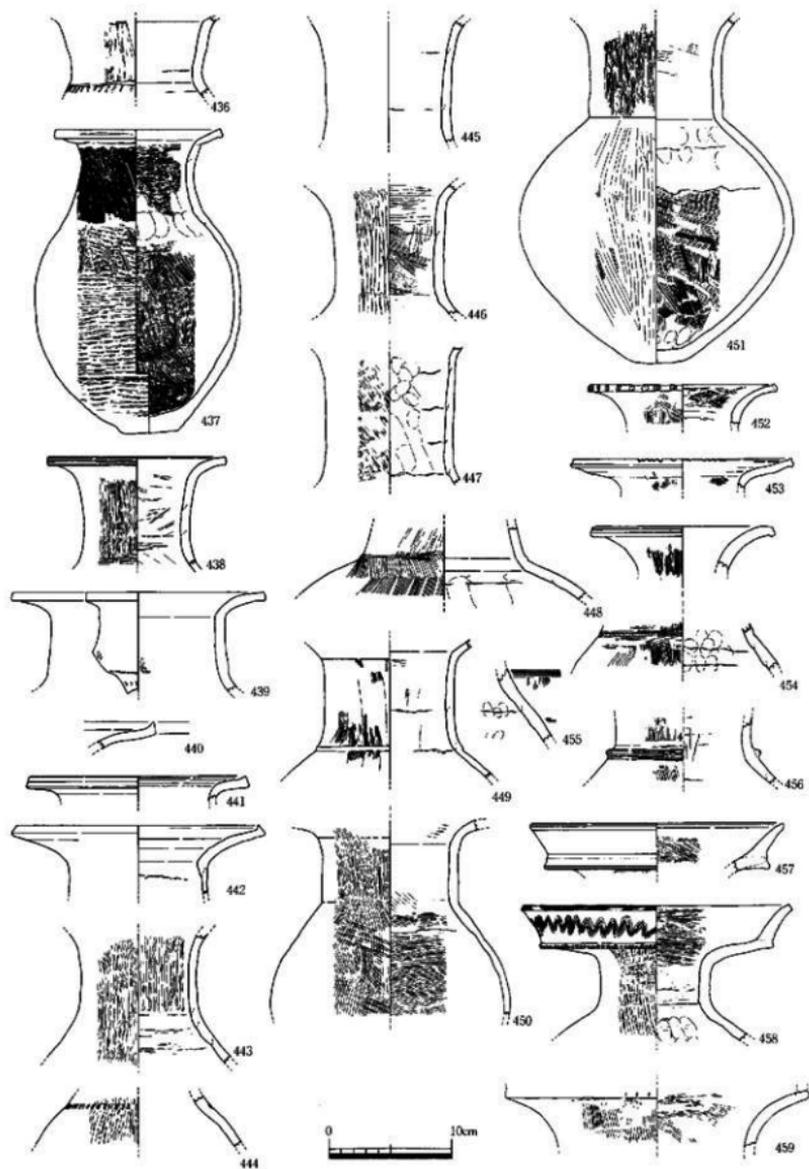
第39图 S R01出土土器(6)(1/4)



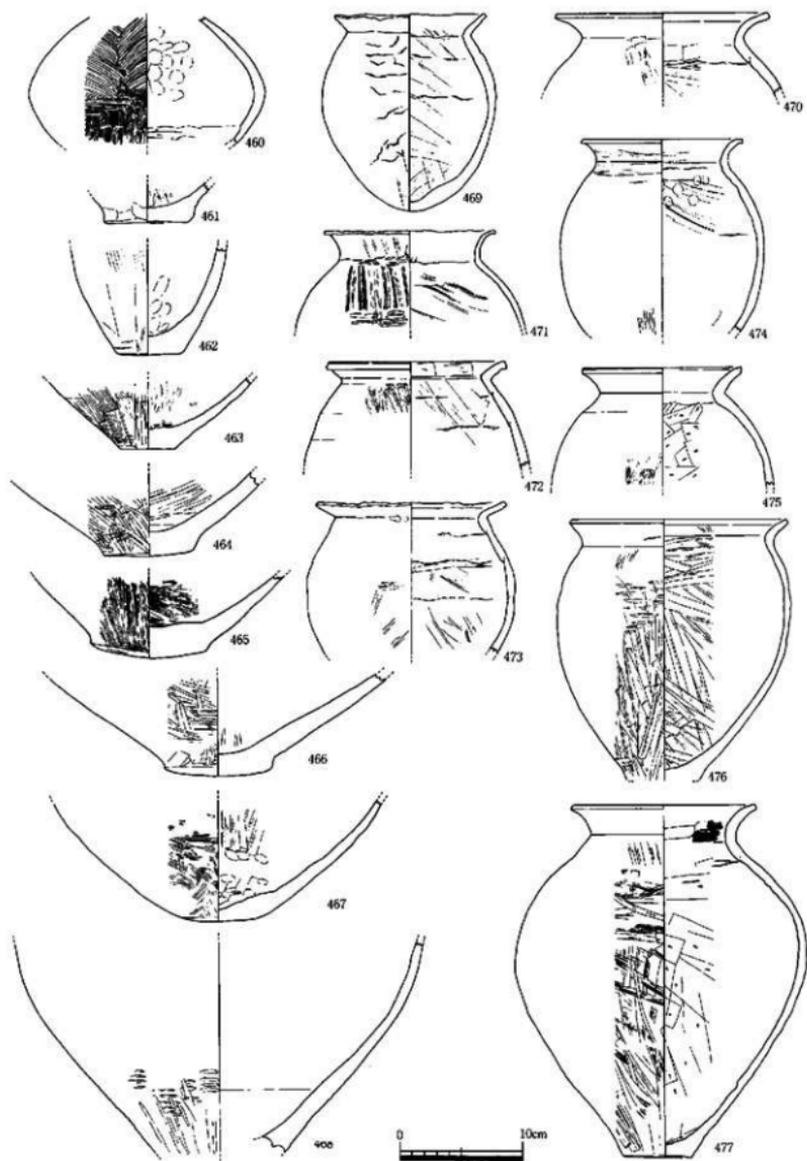
第40图 S R 01出土器(7)(1/4)



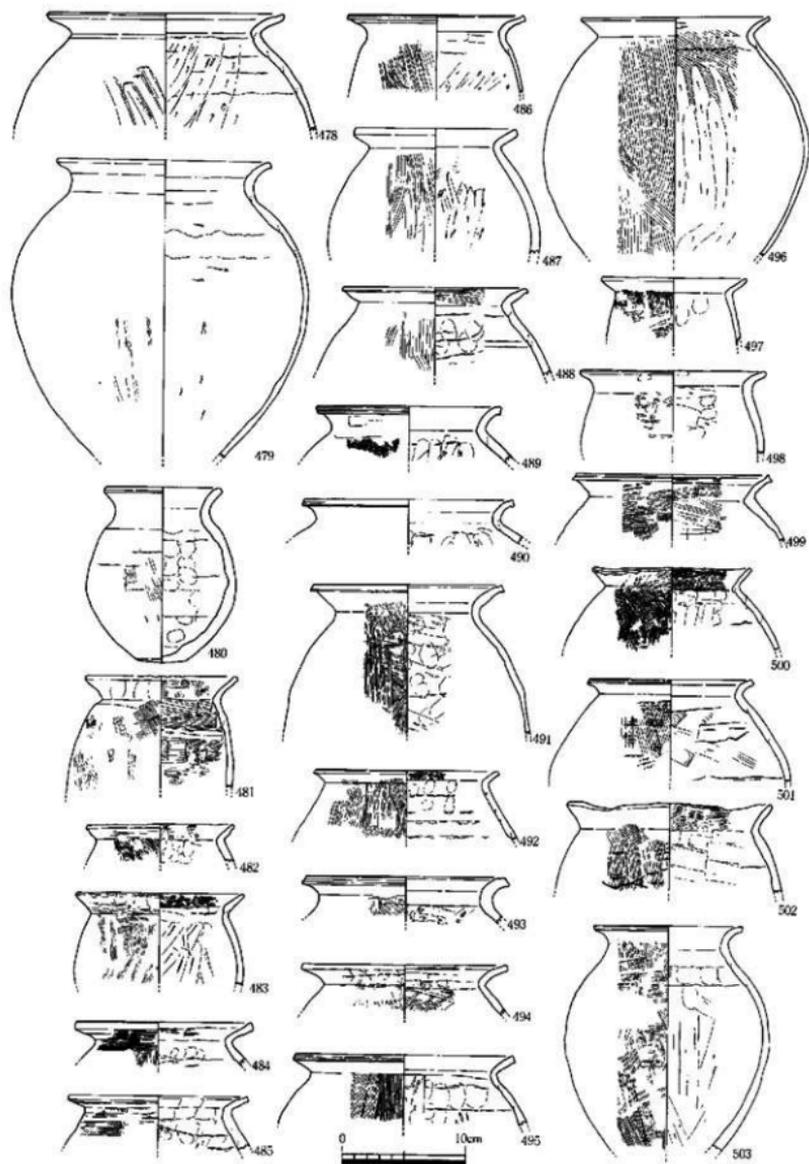
第41图 SR01出土土器(8)(1/4)



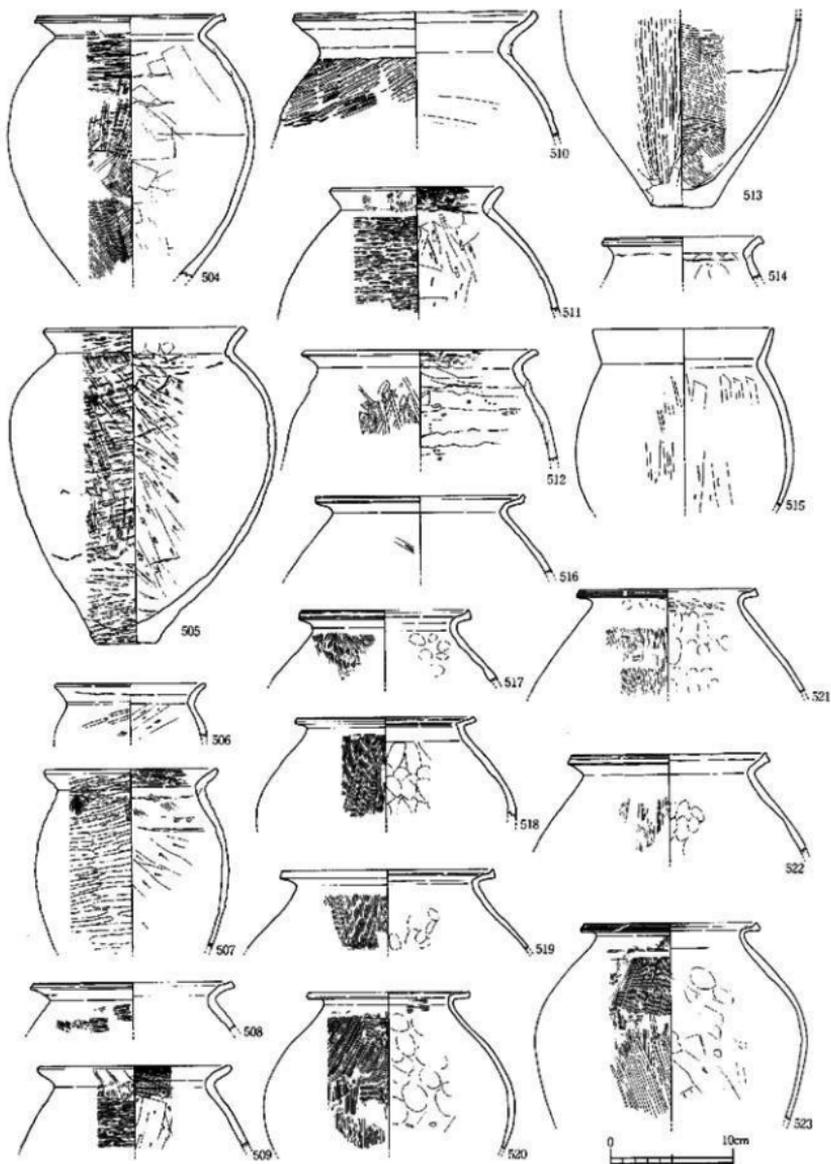
第42图 SR01出土上器(9)(1/4)



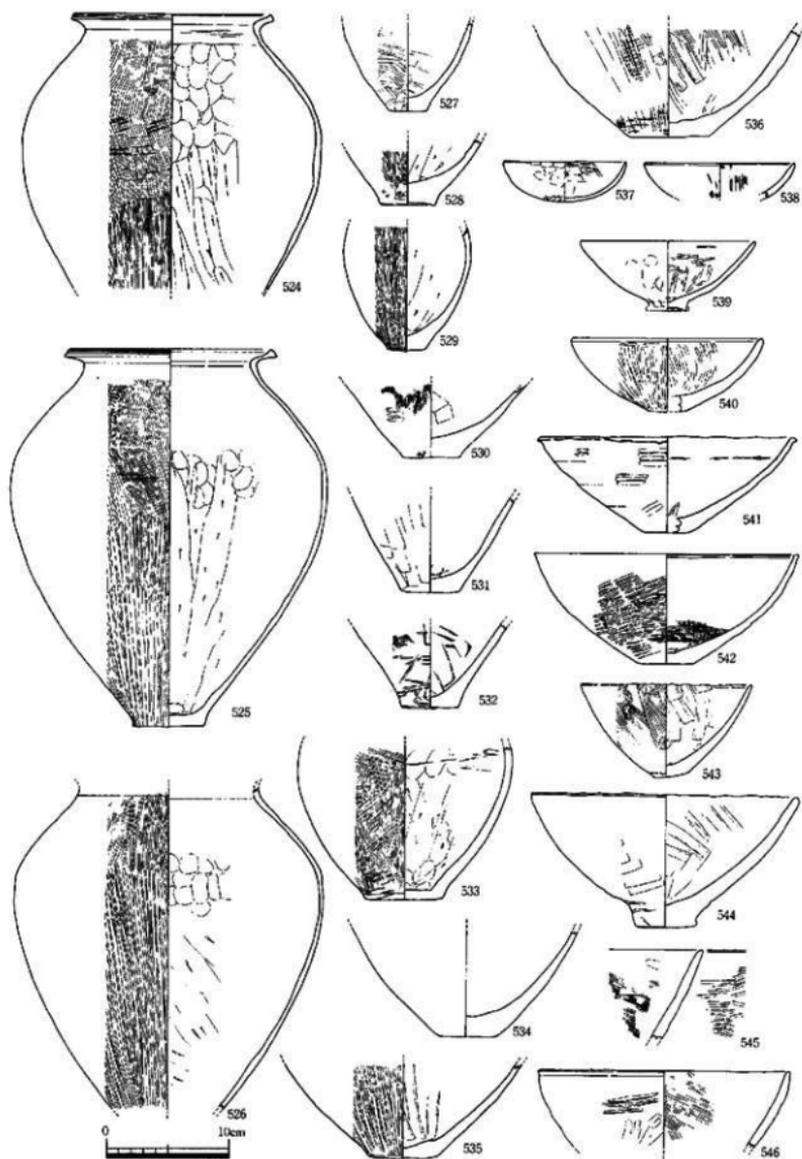
第43图 SR01出土上器 (10) (1/4)



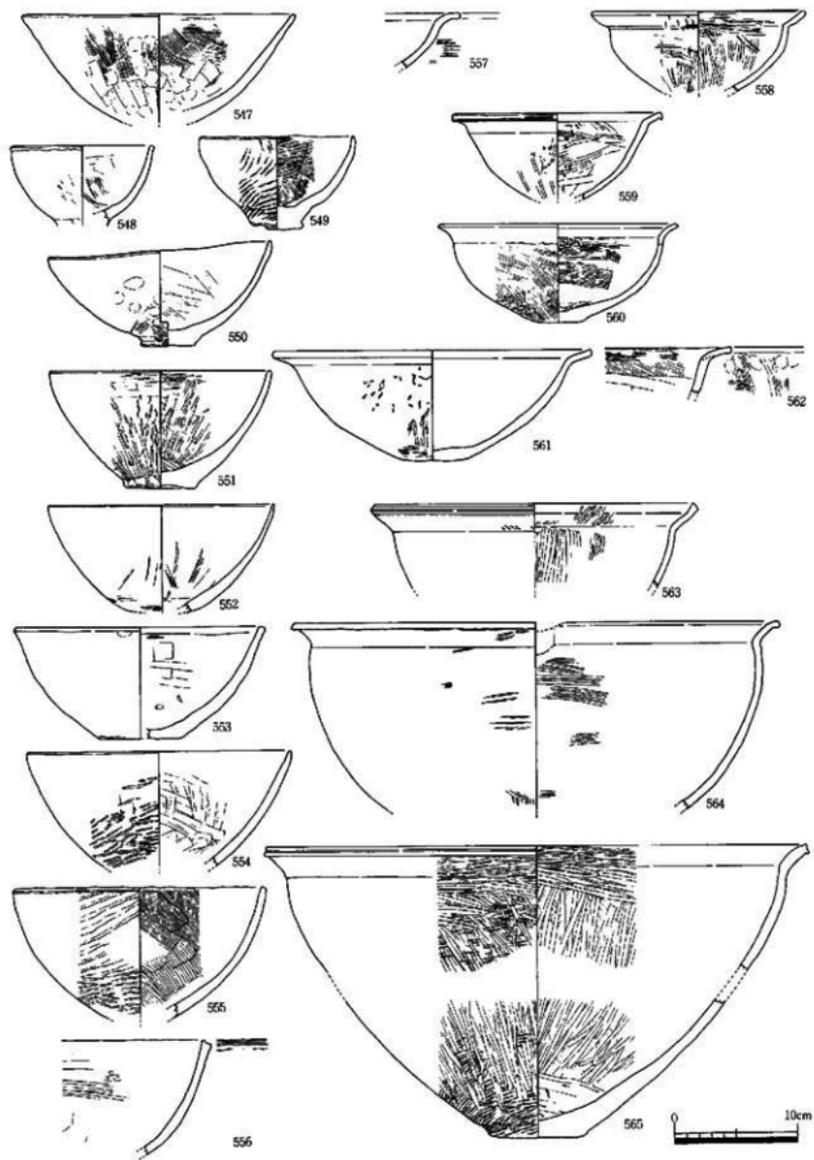
第44图 SR01出土土器 (11) (1/4)



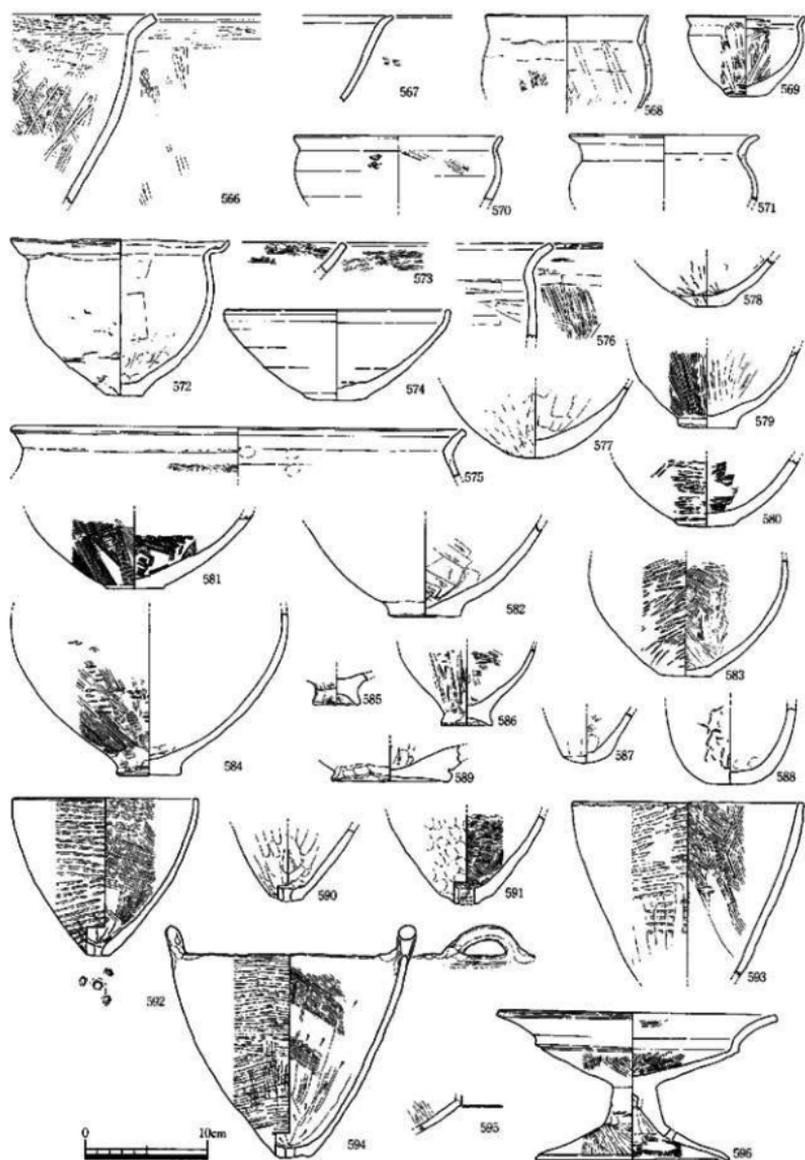
第45图 S R01出土上器 (12) (1/4)



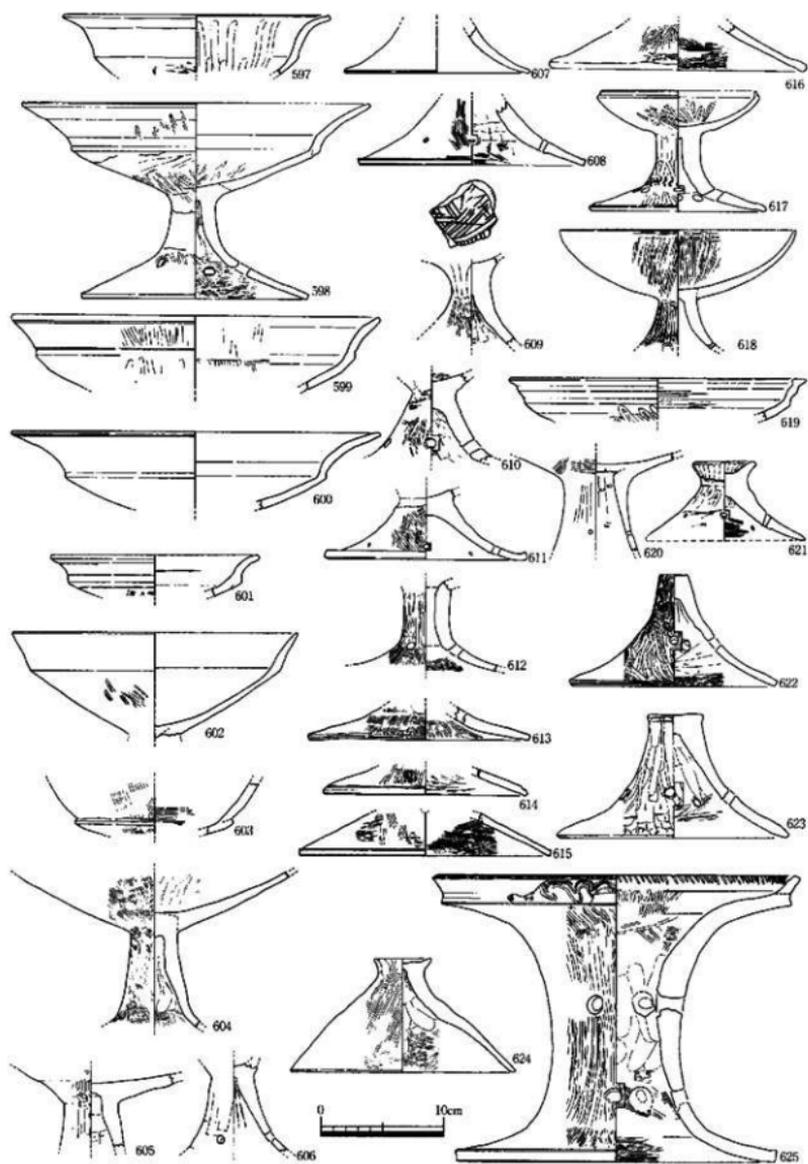
第46图 S R01出土土器 (13) (1/4)



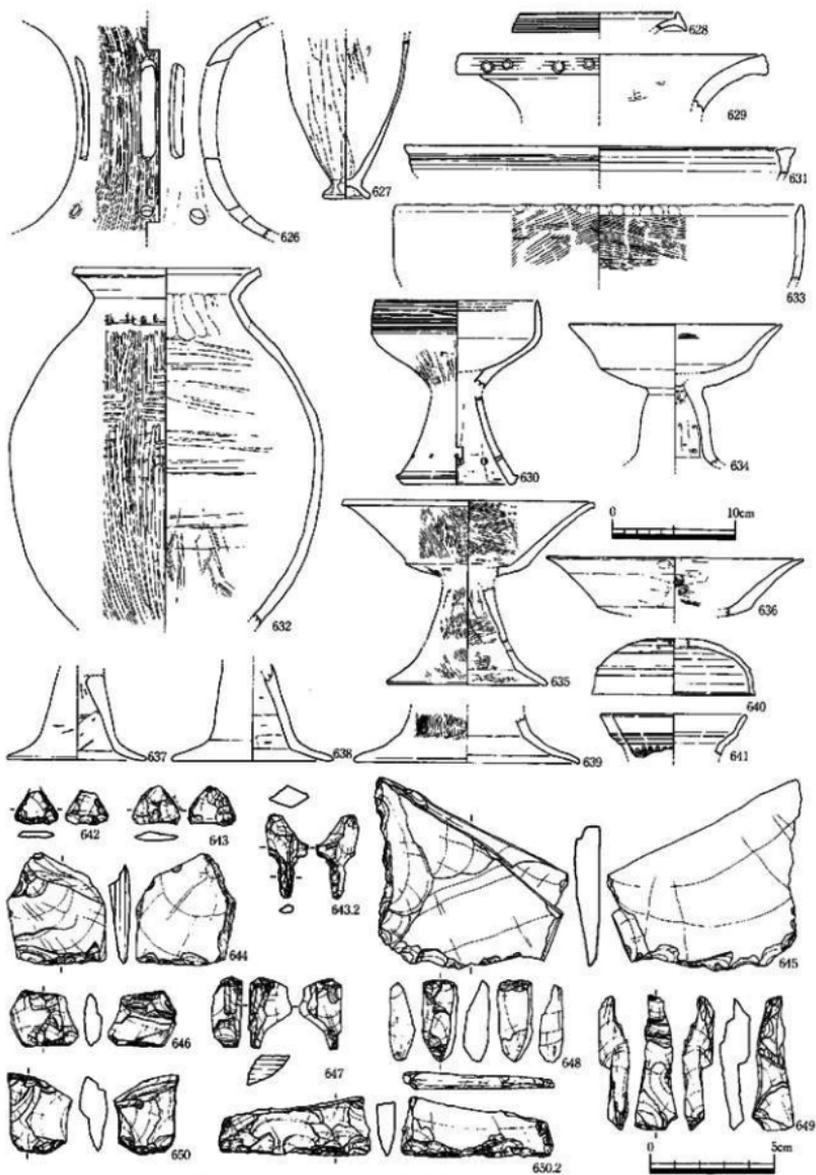
第47図 SR01出土上器 (14) (1/4)



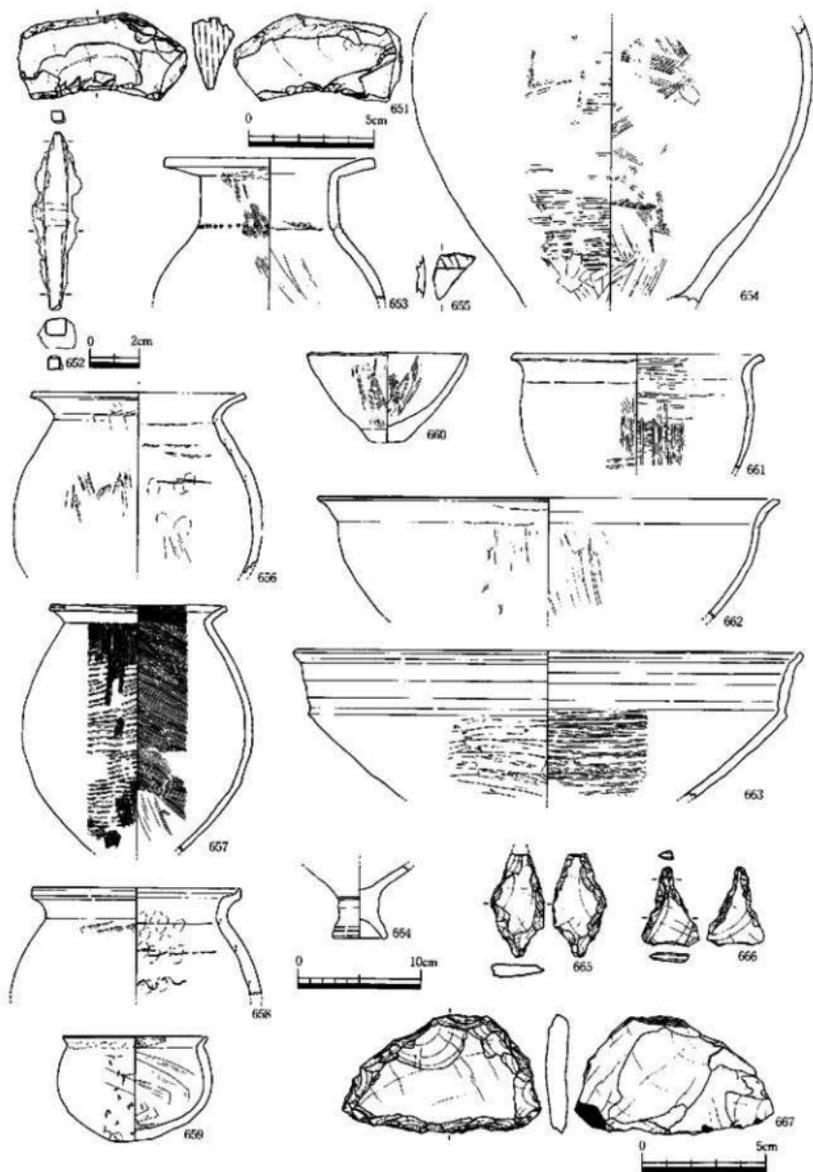
第48图 SR01出土土器 (15) (1/4)



第49图 S R 01出土十器 (16) (1/4)



第50图 S R01出土土器 (17) (1/4) · 石器 (1) (1/2)



第51图 S R01出土器(18)(1/4)·石器(2)(1/2)·铁器(1/2)

ることから蓋の可能性もある。617は半截竹管文による刺突文がある。619・620は下川津B類土器である。627は製塩土器である。628～631は弥生時代中期の土器と考えられる。632～639は土師器である。638は、胎土に下川津B類の上器の小片を含む。640・641は須恵器である。642・643は石鏃木製品と考えられる。642は先端部の特定はできない。643の二次加工はすべて点状打面による軽い敲打状の剥離による。643.2は石鏃である。楔形石器の削片のように板状素材から剥離した剥片を加工して製作している。644・645はスクレイパーで、644は左図上側には加撃による分割面がある。646～651は楔形石器である。652は鉄鏃と考えられる。653～667は、予備調査時のトレンチから出土したものであるが、当遺構から出土したと考えられるものである。653は頸胴部境に竹管状工具で下方から刺突した文様がある。この刺突文は、一部のみ二段になっている。657下部には煤が付着している。667の刃部（図下側）はや急斜度の調整である。

5 古墳時代前期

竪穴住居跡

Ⅱ区SH05・06（A1，第52図）

SX26より古い。SH06の上面にSH05が作られている。SH06からは縄文土器のみが出土しており、詳細な時期は不明である。床面でピットが検出されているが、確実に支柱穴と考えられるものは無い。また、壁溝や炉跡も無い。

SH05からは古墳時代前期の土器が出土している。薄い焼上層及び炭層が検出されたが、炉跡は検出されなかった。主軸方位は、N26°Wである。

668～673は土師器である。674は弥生土器である。668は胴部上半に煤が付着しており、下半は赤変している。672の高さは不確実である。675～677は石鏃である。678は石鏃木製品と考えられる。679～681は楔形石器である。682は安山岩の脈岩製と考えられる磨石である。

土坑

Ⅰ区SK01（C1，第53図）

SH04の上位で検出された遺構である。埋土上部からは、古墳時代前期の土器片が詰まった状態で出土している。コンテナ1箱程度の量が出土している。

684・685は底部が赤変している。

Ⅰ区SK06（C1，第54図）

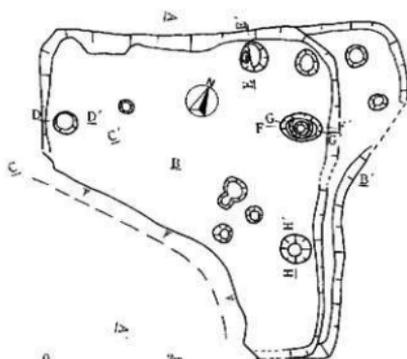
埋土には炭を含む。遺物は弥生時代後期～古墳時代前期の土器が出土している。

Ⅰ区SK08（C1，第55図）

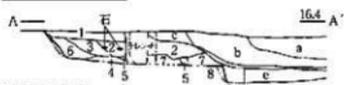
SH04より新しい。円形の浅い皿状の土坑である。古墳時代前期までの遺物が出土している。また、鉄鏃686も出土している。

Ⅰ区SK21（D2，第56図）

遺構検出面は、土器の集中する標高から若干低い位置である。写真から判断すれば、中央の集中した一群はこの土坑に伴うものと考えられるが、この周囲にある土器については確実に伴うものかどうかはわからない。なお、土器は一括してとりあげているものと考えられる。また、周囲の土器については、位置関係からSX02に伴う可能性も考えられる。埋土は基盤層土を多く含む。埋土の下部から完形の土器693が出土している。690は弥生土器と考えられる。

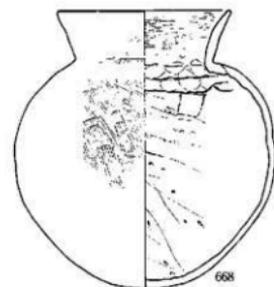


0 2m



SH05

- a 堆白灰色～雑砂 (中砂主体) 準大・幼児人シルトブロック
- b 白褐色細～雑砂 (粗砂主体)
- c 灰茶灰色混シルトブロック粗砂
- d 暗茶灰色混粗砂粘質土
- e 冲灰土層～雑砂



668



669



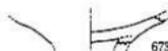
670



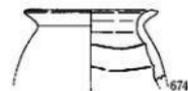
671



672



673



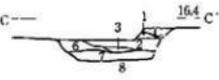
674

0 10cm

- 1 暗茶灰色混粗砂粘質土
- 2 暗茶褐色混粗砂粘質土
- 3 暗褐色灰色混粗砂粘質土
- 4 暗褐色灰色砂質土
- 5 純暗茶褐色混粗砂粘質土
- 6 暗褐色灰色砂質土
- 7 海苔茶灰色砂質土 SH06
- 8 海苔茶灰色砂質土



16.4 B



16.4 C'



16.1 D'



16.1 E'



16.1 F'



15.6 G'



16.1 H'

- 9 淡暗褐色灰色混粗砂シルト
- 10 淡黄褐色灰色砂質土
- 11 暗淡黄褐色灰色砂質土
- 12 純淡黄褐色灰色砂質土
- 13 黒褐色灰色混粗砂粘質土

- 14 海苔茶褐色灰色砂質土
- 15 淡暗褐色灰色混粗砂シルト
- 16 暗黄褐色灰色混粗砂粘質土
- 17 純黄褐色灰色砂質土



675



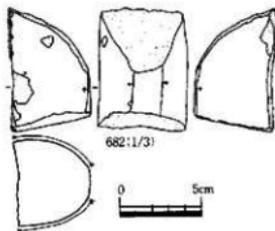
676



677



678



682:1/3

0 5cm



679



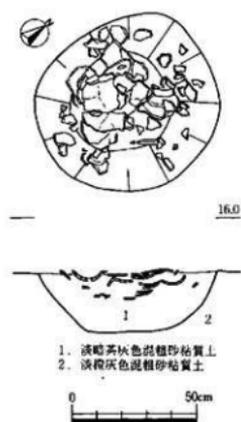
680

0 2cm

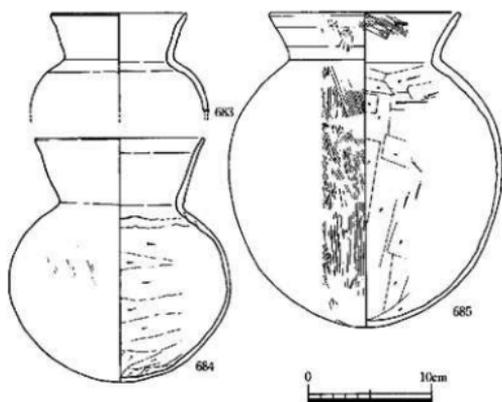


681

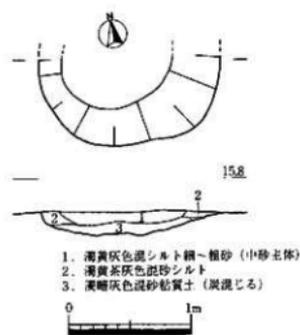
第52図 II区SH05・06平・断面図(1/80)・出土土器(1/4)・石器(1/2・1/3)



1. 淡褐色灰色泥砂粘質土
2. 淡褐色泥砂粘質土

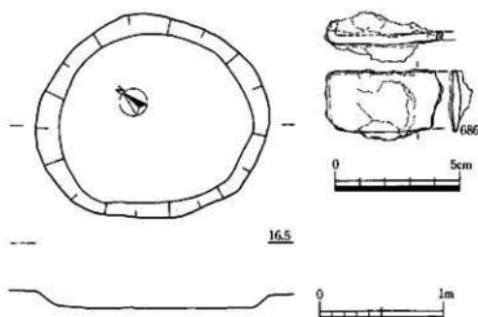


第53図 I区SK01平・断面図 (1/20)・出土土器 (1/4)



1. 淡褐色灰色泥シルト質～粗砂 (中砂主体)
2. 淡褐色灰色泥砂シルト
3. 淡褐色灰色泥砂粘質土 (炭混じり)

第54図 I区SK06平・断面図 (1/40)



第55図 I区SK08平・断面図 (1/40)・出土鉄器 (1/2)

不明遺構

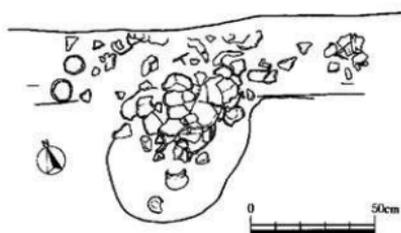
I区SX01 (C1, 第56図)

断面図からは、2つの遺構が重なっていると考えられるが、調査時には1つの遺構としている。掘り込み面も、異なるようであり、下位の5層は古墳時代前期の遺構の検出面である。上位の掘り込み面の上の1・2層は中世包舎層である。遺物は弥生時代後期までのものが出土している。

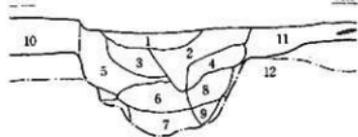
701は楔形石器である。

I区SX02 (C2, 第57～63図)

平面形が隅丸方形と考えられる遺構である。埋土から多量の土師器が出土した。床面は南から西へまた西から東へ低くなっており、北部には落ち込みがある。この落ち込み床面検出時に、土器705の周囲で掘り込みが検出されている。この掘り込みと土器の出土位置から考えれば、掘り込みの掘削開始面は



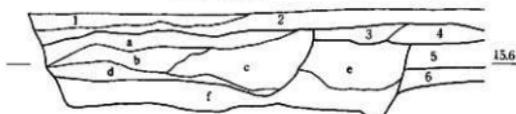
I 区SK21 15.9



- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 薄暗淡黄茶灰色シルト | 7. 薄暗灰色混砂粘質土 |
| 2. 薄淡黄灰色シルト | 8. 薄黄茶灰色混粗砂シルト |
| 3. 薄暗褐色灰色混粗砂シルト | 9. 薄黄茶灰色混シルト粗砂 |
| 4. 薄茶黄灰色混粗砂シルト | 10. 薄黄茶灰色混粗砂粘質土 |
| 5. 薄灰黄灰色混粗砂シルト | 11. 薄黄茶灰色混砂粘質土 |
| 6. 薄暗黄灰色混粗砂シルト | 12. 薄暗黄灰色混砂粘質土 |



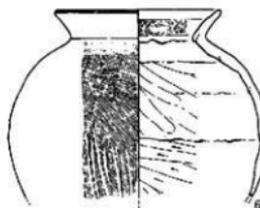
I 区SX01



- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 薄暗褐色灰色混粗砂粘質土 | a. 暗褐色灰色混粗砂粘質土 |
| 2. 薄暗褐色灰色混砂ブロック粘質土 | b. 薄茶褐色灰色混粗砂シルト |
| 3. 暗褐色灰色混砂ブロック粘質土 | c. 薄茶褐色灰色混粗砂粘質土 |
| 4. 薄淡褐色灰色混粗砂ブロックシルト | d. 薄淡褐色灰色混シルト粗砂 |
| 5. 薄褐色灰色混砂粘質土 | e. 淡茶褐色灰色混砂ブロックシルト |
| 6. 薄褐色灰色混粗砂粘質土 | f. 暗茶褐色灰色混粗砂粘質土 |



687



688



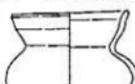
691



692



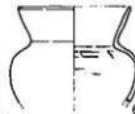
689



693



690



694



695



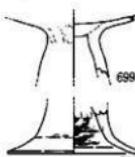
696



697



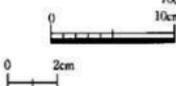
698



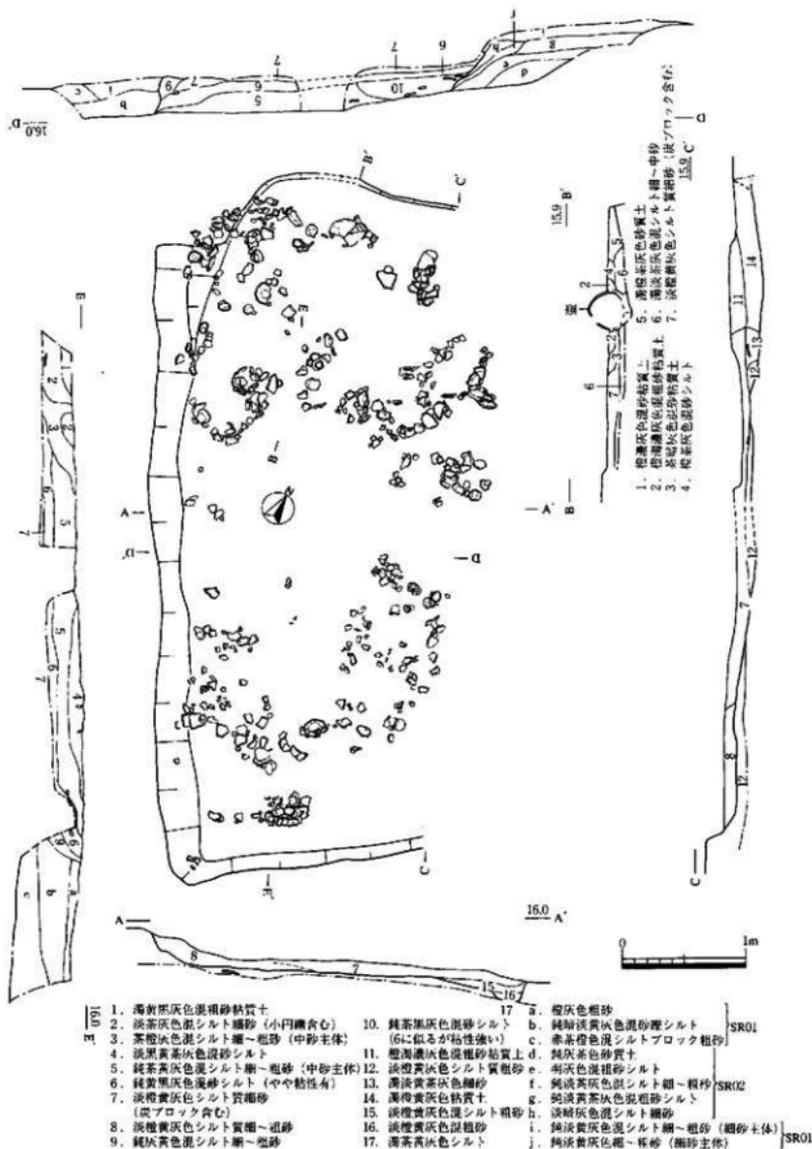
699



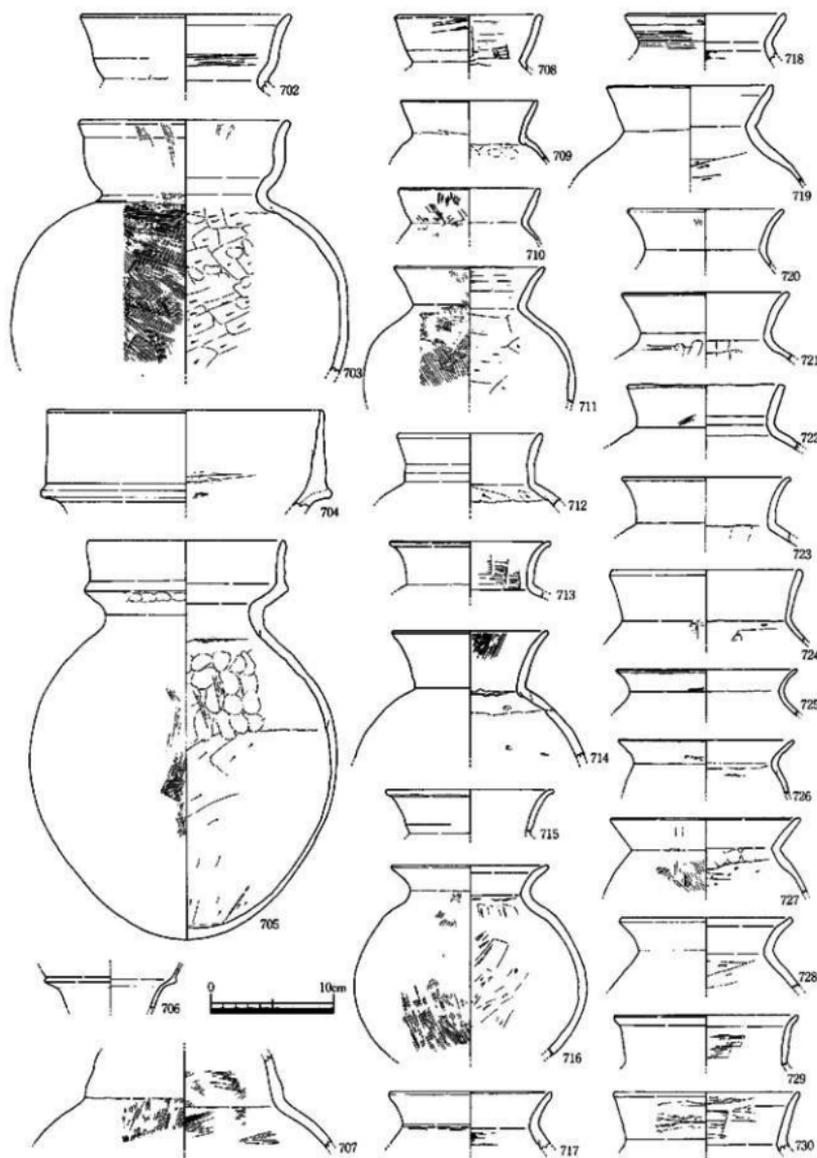
701



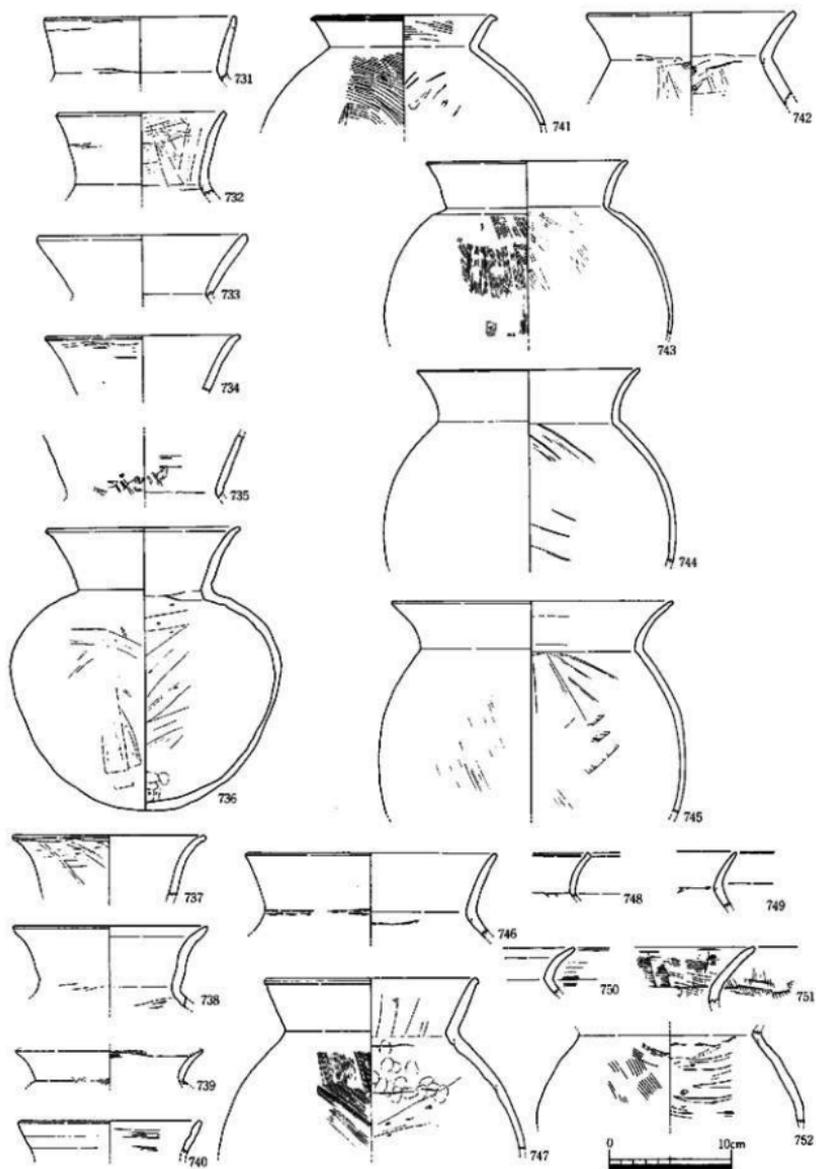
第56図 I 区SK21平・断面図(1/20)・出土上器(1/4)及びI 区SX01平・断面図(1/40)・出土石器(1/2)



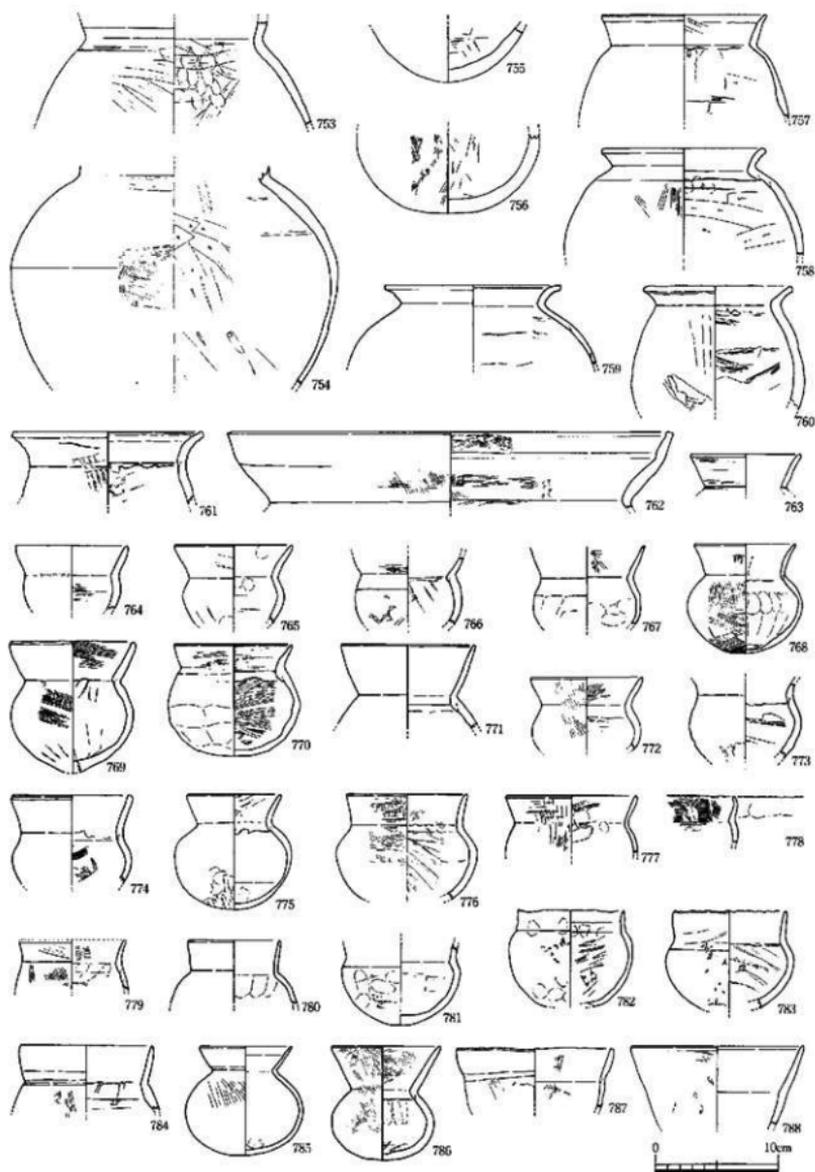
第57図 I区SX02平・断面図 (1/40)



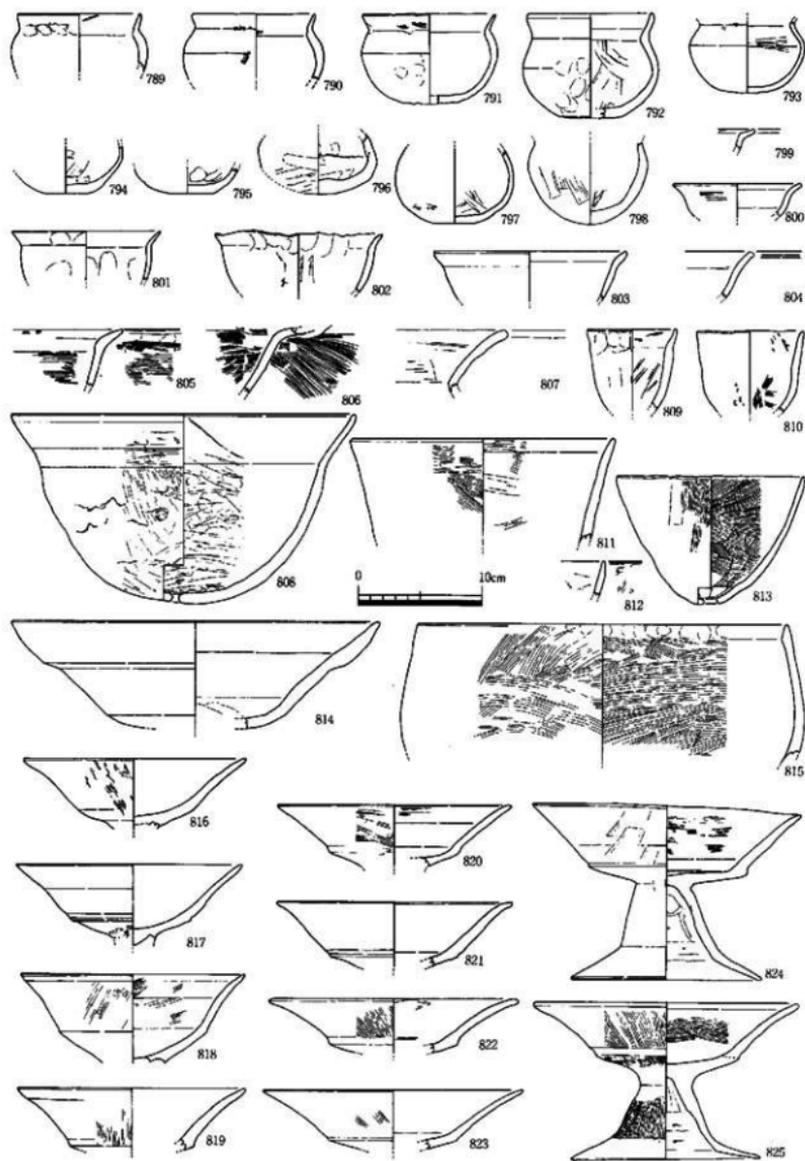
第58图 I区SX02出土上器(1)(1/4)



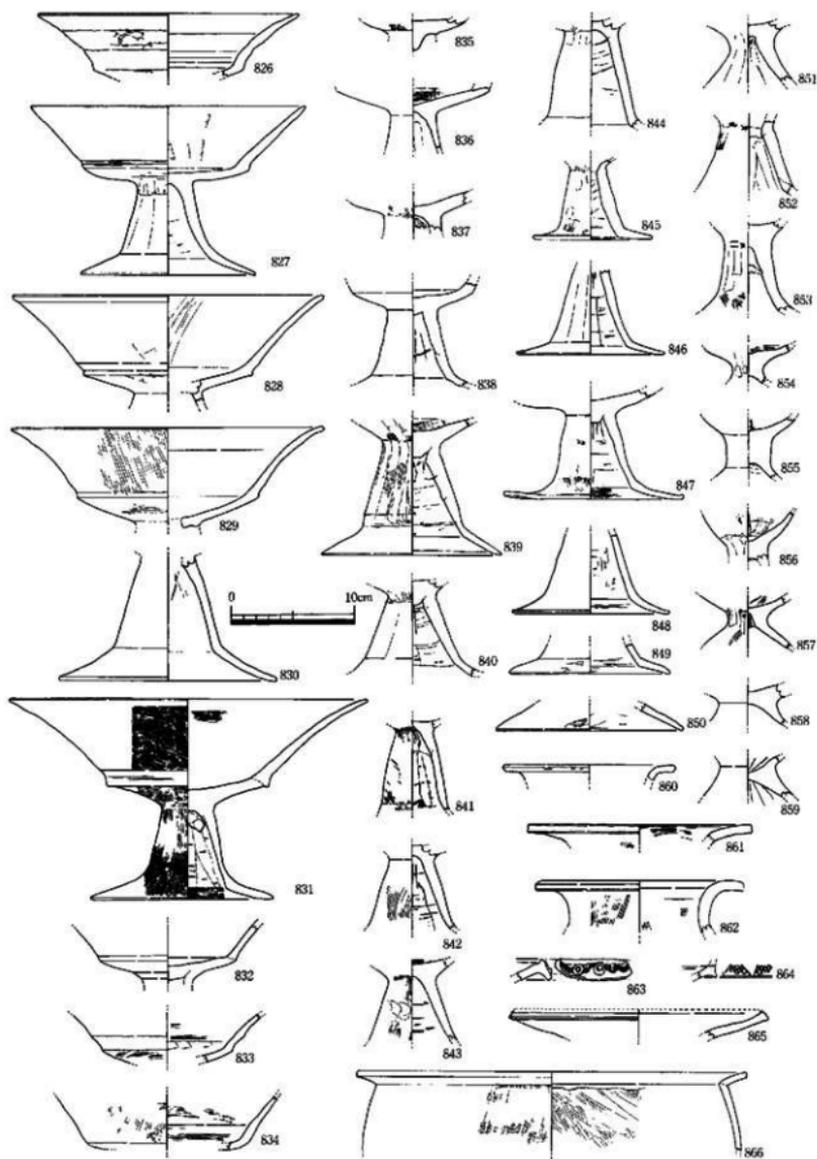
第59图 I区S X 02出土上器(2)(1/4)



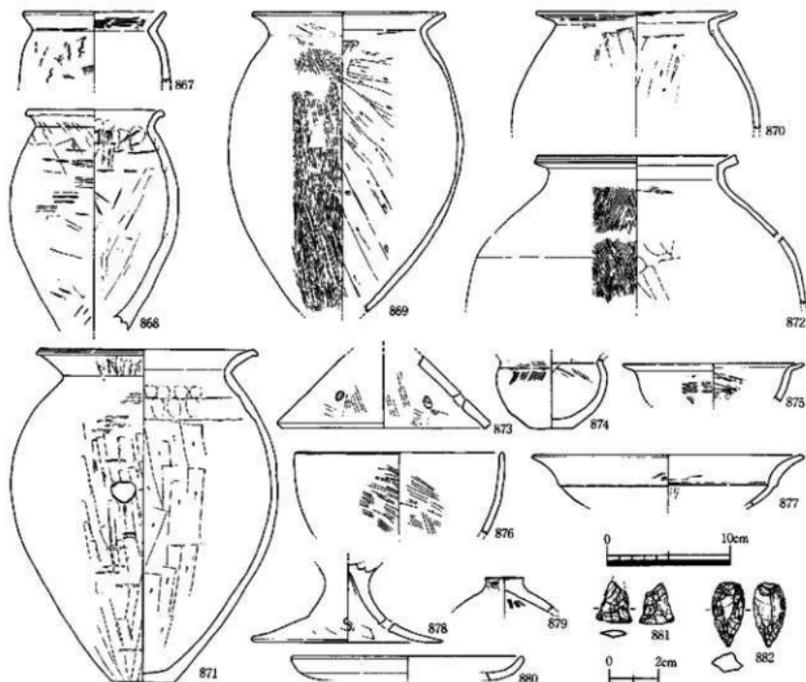
第60图 I区S X02出土器(3)(1/4)



第61图 I区SX02出土土器(4)(1/4)



第62图 I区SX02出土土器(5)(1/4)



第63図 I区S X02出土土器(6) (1/4)・石器(1/2)

検出面よりかなり上になる可能性があり、S X02埋没後に掘削された可能性も考えられる。

702～859は上師器である。703は口縁部と体部の接合点はないが、胎土・調整から同一個体と考えた。708外面には煤が付着している。736は底部が被熱により赤変している。胎土に明瞭な土器片を含む。742は外面に煤が付着している。808には体部に穿孔塗上の穴がある。860～879は弥生土器と考えられる。871の胴部には穿孔がある。872は下川津B類土器である。880は後世の土師器の皿である。

881は石鏃である。882は石錐である。

6 古墳時代後期～終末期

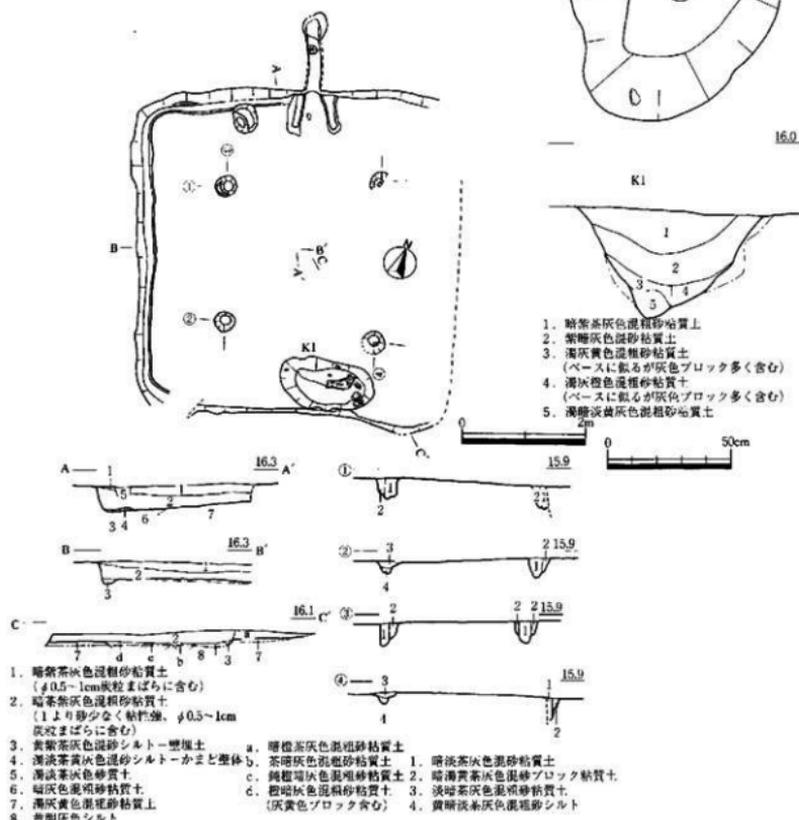
竪穴住居跡

SH02 (B 2, 第64～66図)

北辺に竈をもつ竪穴住居跡である。上柱穴は4穴である。南辺の竈と相対する部分には土坑(K1)があり、須恵器及び炭化材が出土した。東辺は下層の溝SD02の埋土を掘りこんで作られているため、壁面の検出ができなかった。竈は残存状況がよく、壁面より外側は煙道がトンネル状に残っており、壁面から約1mのところまで煙だしが検出できた。竈埋土からは土器片が出土した。竈袖部は盛土により構

築されており、この盛土内には土器片を含む。また袖内面は赤変している。ただ、左右の赤変範囲はやや異なる。竈中央よりやや西の位置に円礫を使用した支柱石がある。この支柱石より焚口側の床面は赤く焼けている。十坑K1は、床面はやや不整形で、埋土からは炭化材及び須恵器等が出土している。これらの遺物は遺構検出面から中央部底へ傾斜したような状況で出土している。

883~895は須恵器である。896~898は上師器である。899は弥生土器と考えられる。このうち、上坑K1から出土したものは、一部の破片が接合したものも含めて、883・884・886・887・890・893・895・896である。898は柱穴5から出土した。900は石織である。901・902は石織未製品である。903は楔形石器である。

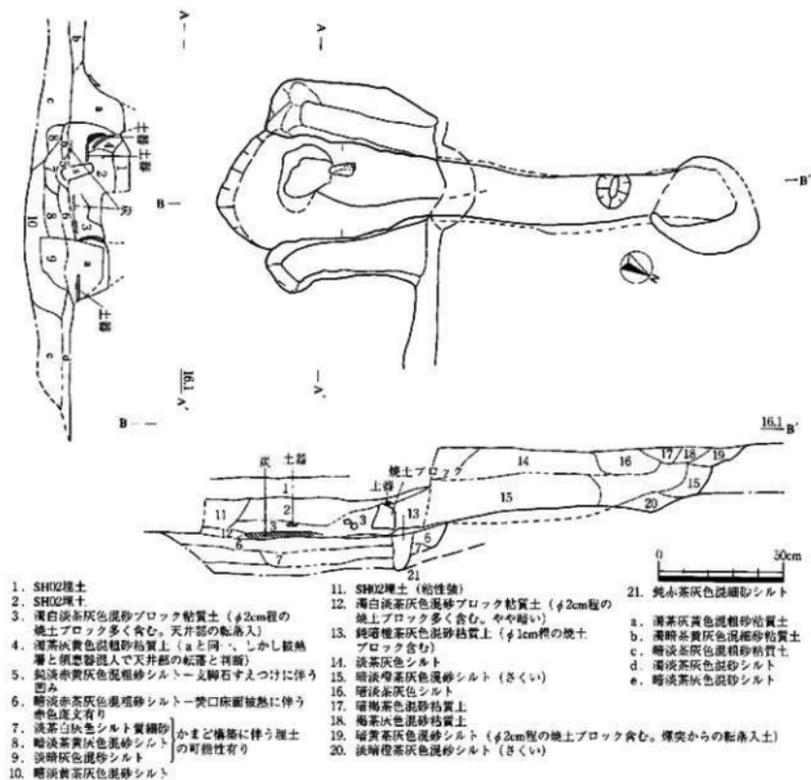


第64図 SH02平・断面図 (1/80) 及びK1平・断面図 (1/20)

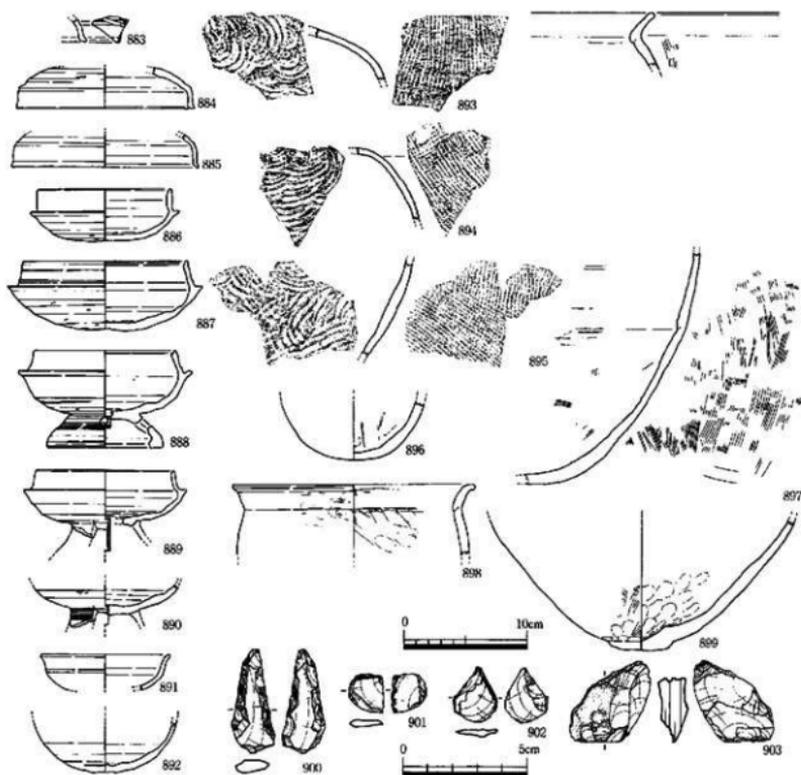
掘立柱建物跡

I区SB01 (C2, 第67図)

時期を特定できる遺物はないが、柱間距離の揃い方及び梁行と桁行のなす角度がほぼ正確に直角であることから、古代の掘立柱建物跡であると考えられる。また、主軸方向はSR03とほぼ同じN28°Wであることから、SR03と同時期の可能性もあろう。遺物は柱穴2から縄文土器及び鉄釘904が出土しているのみである。



第65図 SH02竈・断面図 (1/20)



第66図 S H02出土土器 (1/4)・石器 (1/2)

土坑

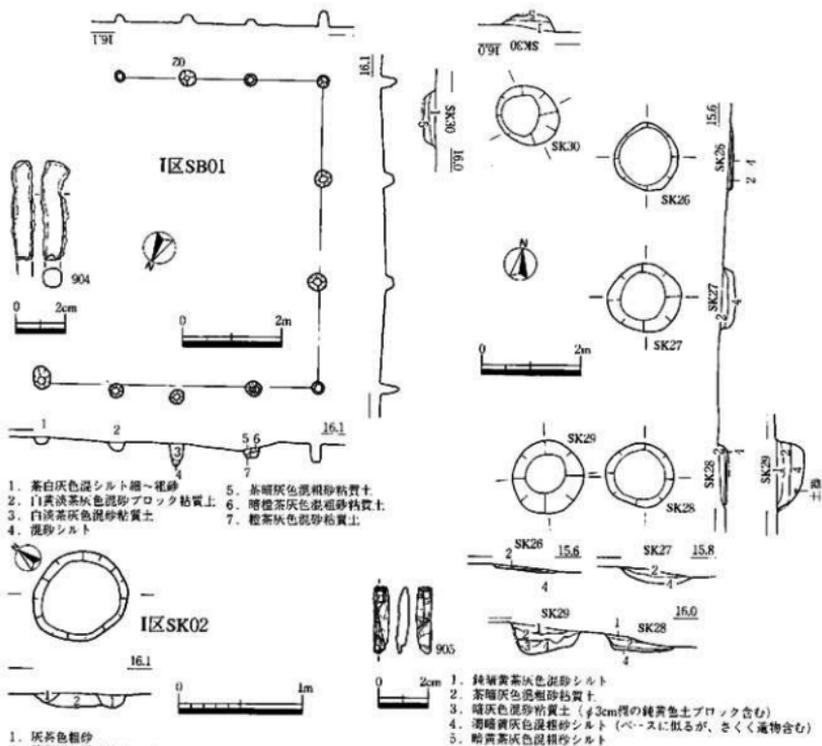
I区SK02 (B2, 第67図)

竪穴住居跡S H02の埋土に掘り込まれた遺構である。遺物はT K209段階と考えられる須恵器破片1点のほか上御器破片数点が出土している。

II区SK26~30 (A1・A2, 第67図)

ほぼ同じ大きさの土坑が近接している。埋土もほぼ同じである。このうち、4層は基盤層に類似し、土器片が出土している。遺物は、弥生土器、縄文土器がわずかに出土しているが、SK28・30からは須恵器小片が出土している。時期は不詳である。SK30については、断面図作成位置が不正確である。

905は楔形石器の削片である。



第67図 I区SB01平・断面図 (1/100)・出土鉄器 (1/2), I区SK02平・断面図 (1/40) 及びII区SK26~30平・断面図 (1/100)・出土石器 (1/2)

不明遺構

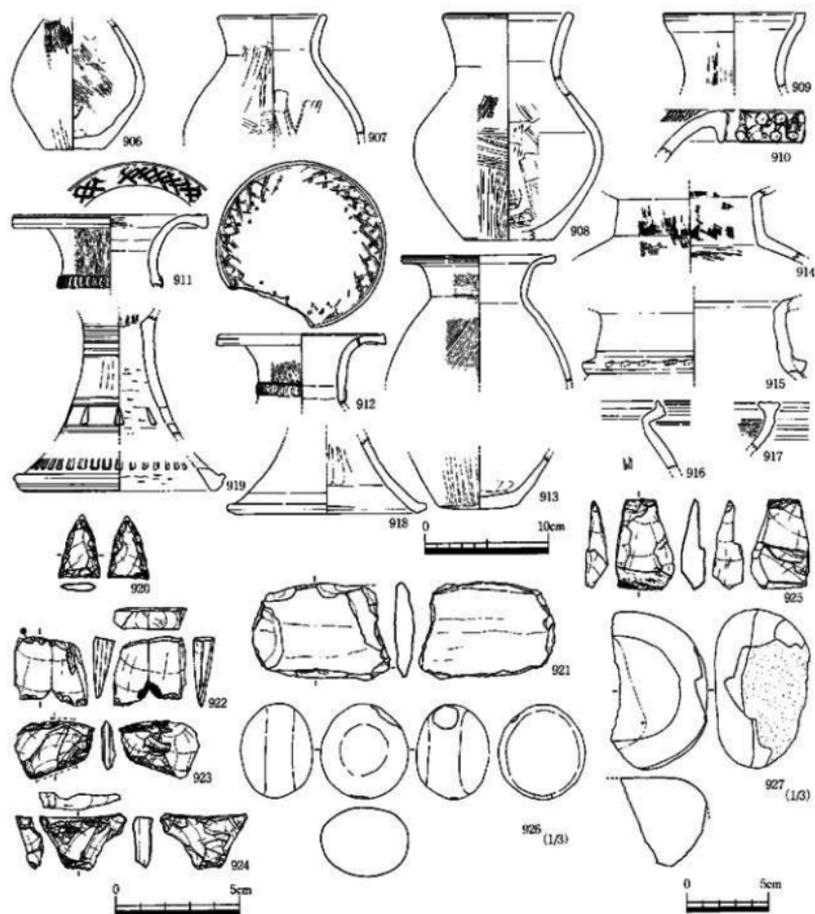
II区SX15 (A2・B2, 第68図)

調査時には、II区中央畦部分より南までしか検出していないが、調査区北壁断面で、SR03断面の西側で、類似した黒色土層の堆積が見られることから、これがその延長となる可能性もある。

土器は弥生中期の土器を含むが、須恵器もわずかに含むことから、当時期と考える。906~919は弥生上器で、914・915が弥生後期であるほかは、中期後葉の土器と考えられる。920は石鏃である。921は結晶片岩製の打製石庖丁である。922はスクレイパーである。923~925は楔形石器である。926は石材不明の叩き石である。927は安山岩の兼岩と考えられる磨石で、全体的に摩滅しており、特に1点鎖線の範囲が顕著であるが、使用痕でない可能性も考えられる。

II区SX16 (B3)

埋土は幼児頭人の糞を多く含む暗褐色灰色泥粗砂粘質土である。遺物は縄文土器及び弥生土器が数片出



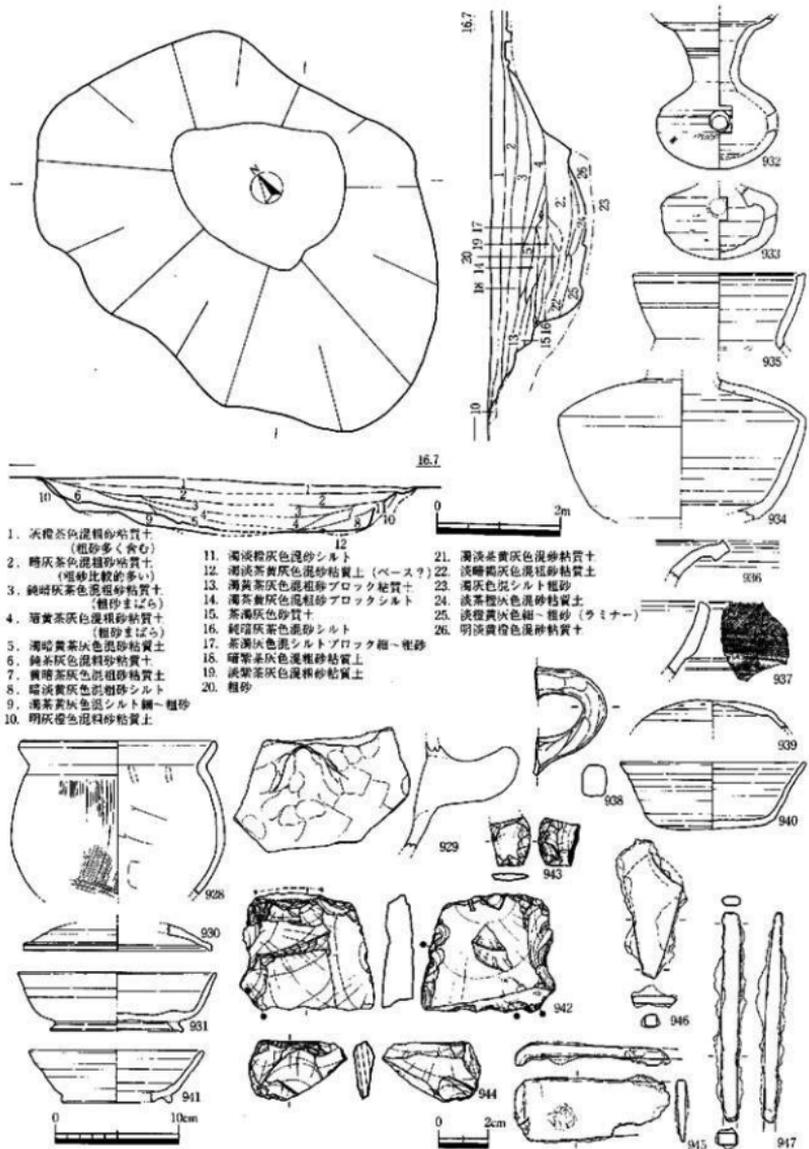
第68図 II区S X15出土土器 (1/4)・石器 (1/2・1/3)

土している。深さは40cmを測る。

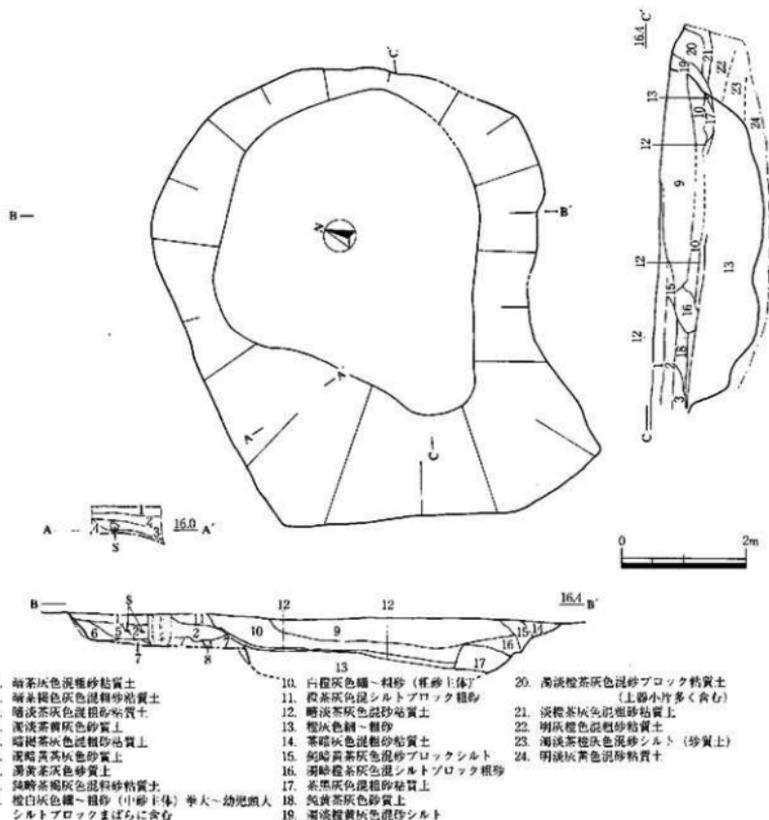
I区S X25・26 (第69・70図)

不定型な落ち込みである。いずれも山の斜面側の断面が緩やかで、反対側の断面が急角度になっていること及び埋土が粗砂と細砂のラミナ-状の堆積であることから、斜面からの一時的な流水によって形成された落ち込みの可能性も考える必要があろう。また、底面の一部は粗砂層が露出しているところがあり、調査時は湧水が見られた。遺物はコンテナ1箱程度出土した。

S X26は土層の観察からS II05より新しい。また、S X25とS X26の新旧関係は明らかではない。



第69図 II区S X25平・断面図 (1/80) 及びII区S X25・26出土土器 (1/4)・石器 (1/2)・鉄器 (1/2)



第70図Ⅱ区 S X 26平・断面図 (1/80)

928~938は S X 25から出土した土器で、928・929は土師器である。930~938は須恵器である。931はかなり変形している。934は S X 26から出土した破片が接合している。937口縁部にはハケ目原体による連続刺突文である。また、頭部には櫛描文がある。938の本体との接着面には平行タタキ目の圧痕がある。939~941は S X 26から出土した須恵器である。942は S X 25から出土した楔形石器である。943は S X 26から出土した石鉄木製品と考えられるが、二次加工Tはかなり平坦な剝離でありやや異質な加工である。944は S X 26から出土した楔形石器である。

945~947は S X 25から出土した鉄器で、945は鉄鎌、946は鉄鍬で、947は鉄鍬であろうか。

川跡

SR03 (C4~B1, 第71~73図)

埋土は、粗砂層からなる上層と下層に大きくわかれる。下層からは7世紀後半頃の遺物が出土している。

SR03の断面図①のうち、北側の17層~19層は基盤層に類似した層であるが、やや色が濁り、軟弱であることから基盤層ではなく遺構埋土と考え、この部分はSR03rとする。

948~952は下層の粘質土から出土した須恵器である。953~961は出土層位不明で、953~955は土師器、956~961は須恵器である。955の下部には煤が付着している。959の透かしはきれいに切り取られている。962~977は弥生土器である。978・979はSR03rから出土した弥生土器である。

980は石鏃である。981・982は石鏃未製品である。983は石鏃である。984は安山岩の脈岩製の磨石としたが、摩滅は周辺から徐々に1点鎖線内部へ向かって著しくなる。985は結晶片岩製の石器である。磨製石斧の未製品の可能性もあるが、石の縞状の構造の方向が、通常の磨製石斧とは異なる。986は砂岩製の不明石器である。

7 中世

竪立柱建物跡

Ⅰ区SB02 (B2, 第74図)

主軸方位は、N50°Eである。遺物は、平面図中に番号を記した柱穴から、瓦器碗ほか土師器の杯・皿が出土している。特にSP75からはまとまって出土している。998が瓦器であるほかは、土師器である。

Ⅰ区SB03 (第75図)

主軸方位は、N35°Eである。遺物は、平面図中に番号を記した柱穴から、弥生土器・土師器・瓦器等が出土している。999はSP052から出土した土師器碗である。

Ⅰ区SB04, SK04 (A2, 第76図)

主軸方位は、N35°Eを測る。遺物は、平面図中に番号を記した柱穴から出土し、柱穴242から黒色土器A類碗1000・土師器、247から土師器1001・瓦器碗等が出土している。

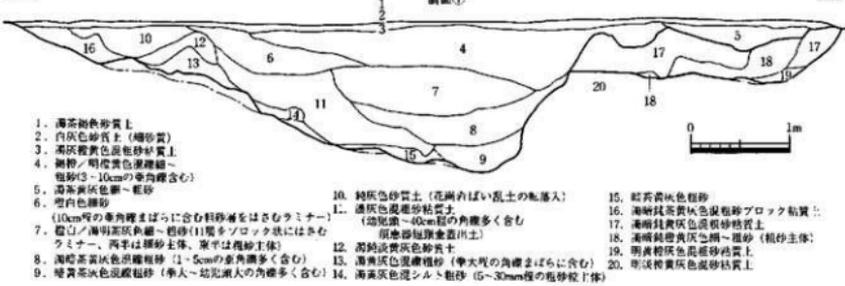
SK04はSB04と重なる位置にあるが、関連性については不明である。北西壁に沿うような形で、北宋銭「元豊通寶」(初鑄1078年)1002が出土している。「中世の上出銭」¹⁾51-13あるいは51-14に類似する。その他、土師器の杯・皿が出土している。埋土には石を含んでいるが、柱痕跡は見られない。

Ⅰ区SB05, SD04 (A2・B2, 第76図)

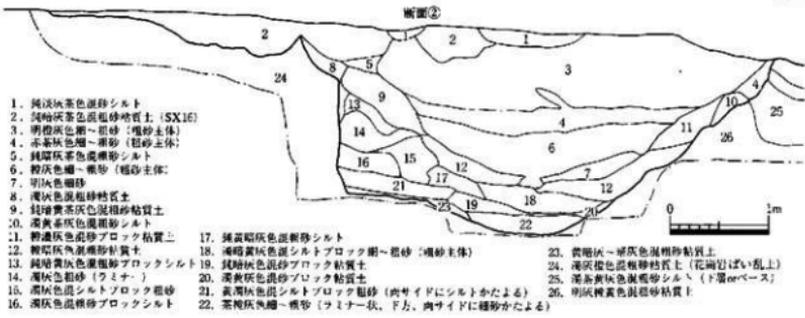
SB05の主軸方位は、N16°Eである。遺物は、平面図中に番号を記した柱穴から、土師器(1003~1007)・瓦器・備前焼・中国産青磁(1009)等が出土している。1008は瓦質焼成の鉢である。

SD04は溝北端がⅠ区中央部分までしか検出されていない。Ⅰ区中央畔断面図(第11図)では、対応する層がはっきりとしないため、この溝は中央畔付近で浅くなってとぎれてしまっている可能性がある。畔より北側で検出されていないのはそのためであろう。位置から考えて、SB05に関連する溝と考

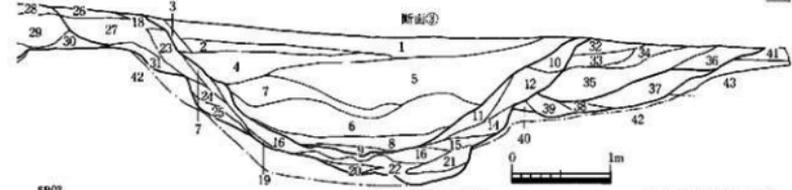
*1 永井久美男編『中世の上出銭 出上銭の調査と分類』兵庫埋蔵銭研究会 1994



- 1. 薄茶褐色砂質土
- 2. 白灰色砂質土 (礫砂質土)
- 3. 深茶褐色色泥岩砂質土
- 4. 細砂、明茶褐色泥岩層 - 粗砂 (10cmの専角礫含む)
- 5. 薄茶褐色色礫 - 粗砂
- 6. 暗白色細砂
- 7. 礫 (10cm角の専角礫まばらに含む) 粗砂 (11mm径の角礫をばらに含む) ラミナー、大半は粗砂主体、東半は粗砂主体
- 8. 薄茶褐色灰色泥岩層砂質土 (5cmの専角礫多く含む)
- 9. 暗茶褐色灰色泥岩層砂質土 (専角 - 粗角礫大の角礫多く含む)
- 10. 純灰色砂質土 (花崗岩の乱土の混入)
- 11. 薄灰色泥岩砂質土 (角礫 - 40cm径の角礫多く含む) 須藤砂層遺棄出土
- 12. 高純度灰色砂質土
- 13. 薄茶褐色色泥岩層砂質土 (専角礫まばらに含む)
- 14. 薄茶褐色色泥岩層砂質土 (粗砂 15~30mm径の粗砂主体)
- 15. 暗茶褐色色泥岩層
- 16. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 17. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 18. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 (花崗岩の乱土)
- 19. 明茶褐色灰色泥岩層砂質土
- 20. 明茶褐色灰色泥岩層砂質土

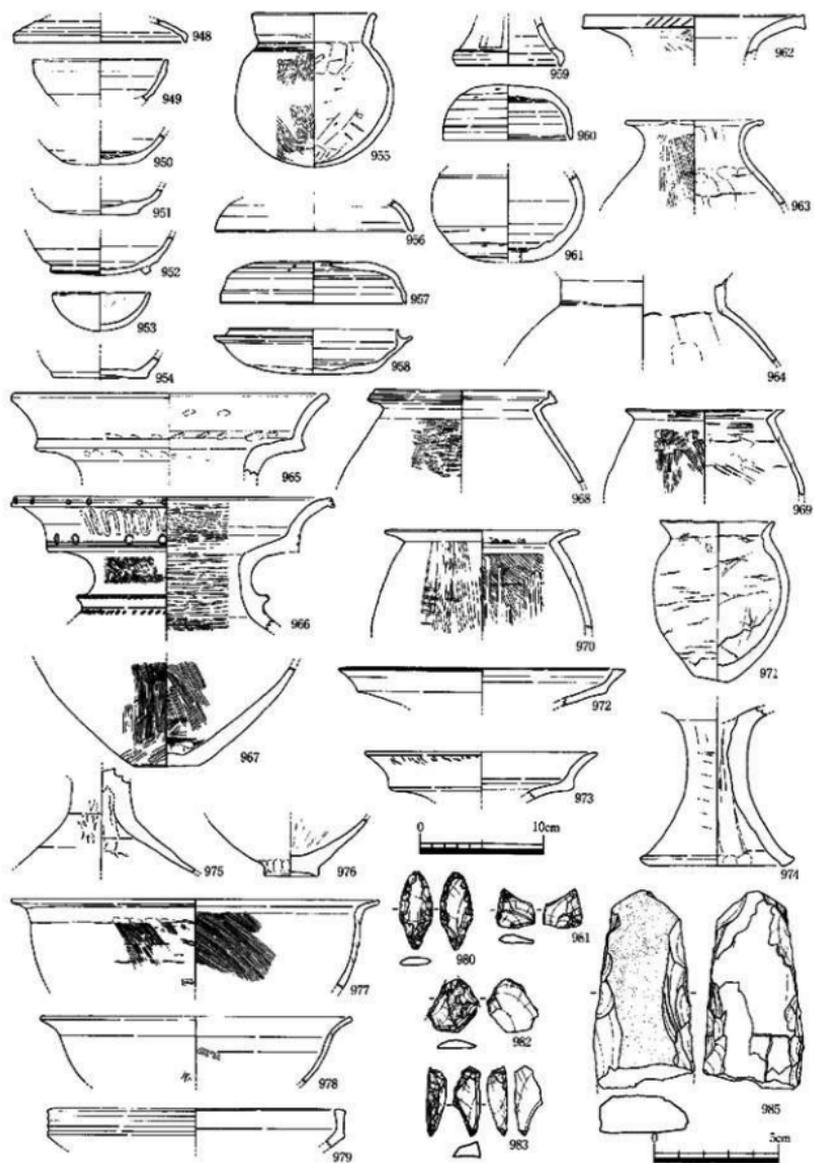


- 1. 薄淡茶褐色泥岩層砂質土
- 2. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 (SX16)
- 3. 明茶褐色色泥岩層砂質土 (粗砂主体)
- 4. 赤茶褐色色泥岩層砂質土 (粗砂主体)
- 5. 純暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 6. 暗茶褐色色泥岩層砂質土 (粗砂主体)
- 7. 明茶褐色色泥岩層砂質土
- 8. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 9. 暗茶褐色色泥岩層砂質土 (粗砂主体)
- 10. 薄茶褐色色泥岩層砂質土
- 11. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 12. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 13. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 14. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 15. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 16. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 17. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 18. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 (粗砂主体)
- 19. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 20. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 21. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 (両サイドにシルトかたまる)
- 22. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 (粗砂主体)
- 23. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土
- 24. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 (花崗岩の乱土)
- 25. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 (トラスorベース)
- 26. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土

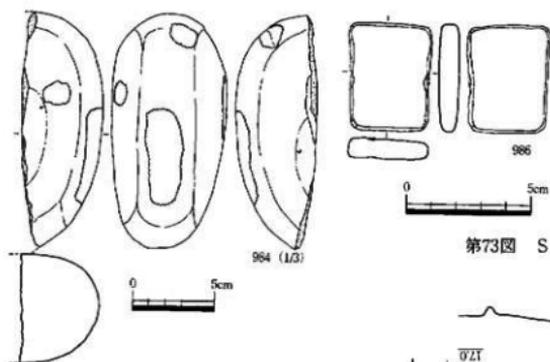


- | | | |
|---|---|--|
| <p>SR03</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 薄茶褐色色泥岩層 - 粗砂 (礫砂主体) 2. 薄茶褐色色泥岩層 - シルト質細砂 3. 明茶褐色色泥岩層砂質土 4. 赤茶褐色色泥岩層 - 粗砂 (粗砂主体) 5. 赤茶褐色色泥岩層 - 粗砂 (中砂主体) 6. 赤茶褐色色泥岩層 - 粗砂 (1cm角の角礫ラミナーを含む) 7. 赤茶褐色色泥岩層 - シルト質細砂 8. 赤茶褐色色泥岩層 - 粗砂 (粗砂主体) 9. 赤茶褐色色泥岩層 - 粗砂 10. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 11. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 12. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 13. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 14. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 15. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 | <p>下層 粘質土</p> <ul style="list-style-type: none"> 16. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 17. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 18. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 19. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 20. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 21. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 22. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 23. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 24. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 25. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 26. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 27. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 (φ 5mm径の角礫まばらに含む) 28. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 29. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 (φ 5mm径の角礫多く含む) ベースに混入が遺物、混入がばらに含む 30. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 | <p>上層</p> <ul style="list-style-type: none"> 31. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 32. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 33. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 34. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 35. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 36. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 37. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 38. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 39. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 40. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 41. 薄暗茶褐色色泥岩層砂質土 |
|---|---|--|

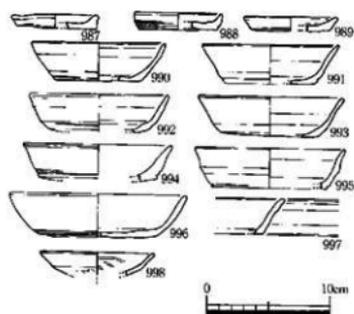
第71図 SR03断面図 (1/50)



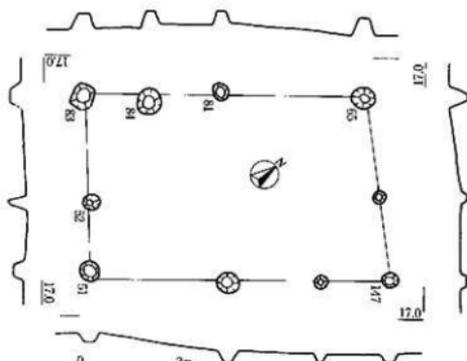
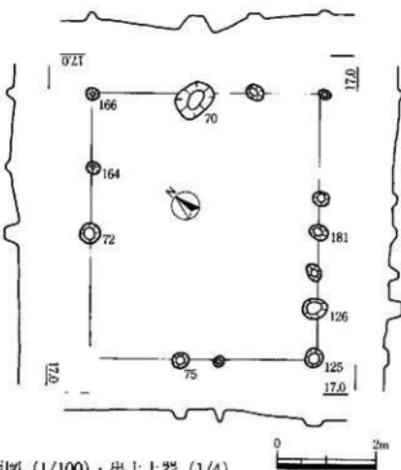
第72図 S R03出土土器 (1/4)・石器 (1) (1/2)



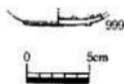
第73图 S R03出土石器(2) (1/2·1/3)

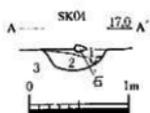
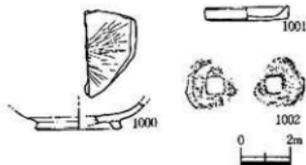
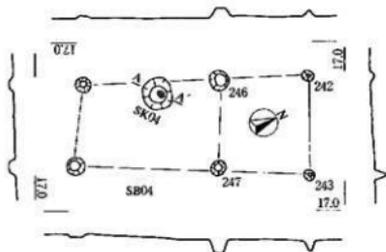


第74图 II区S B02平·断面图(1/100)·出土上器(1/4)

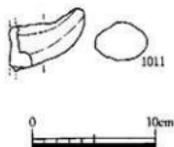
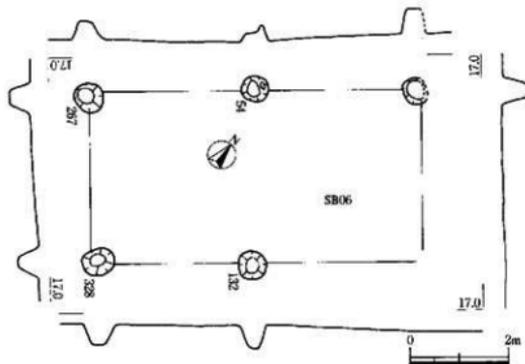
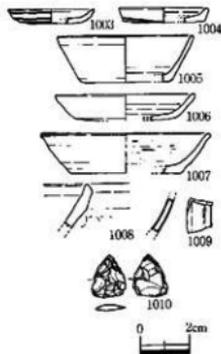
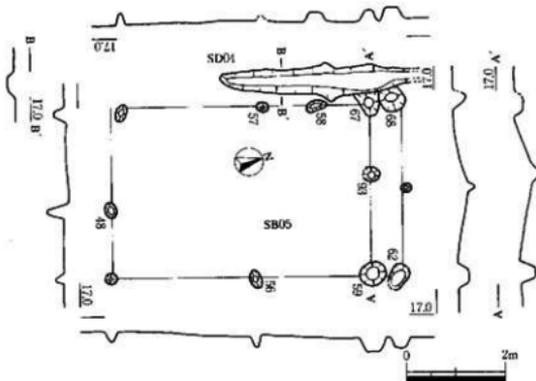


第75图 II区S B03平·断面图(1/100)·出土土器(1/4)





1. 淡茶黄灰色泥シルトブロック中～堆砂
2. 暗橙茶灰色泥砂ブロックシルト
3. 暗褐茶灰色泥粘砂粘土



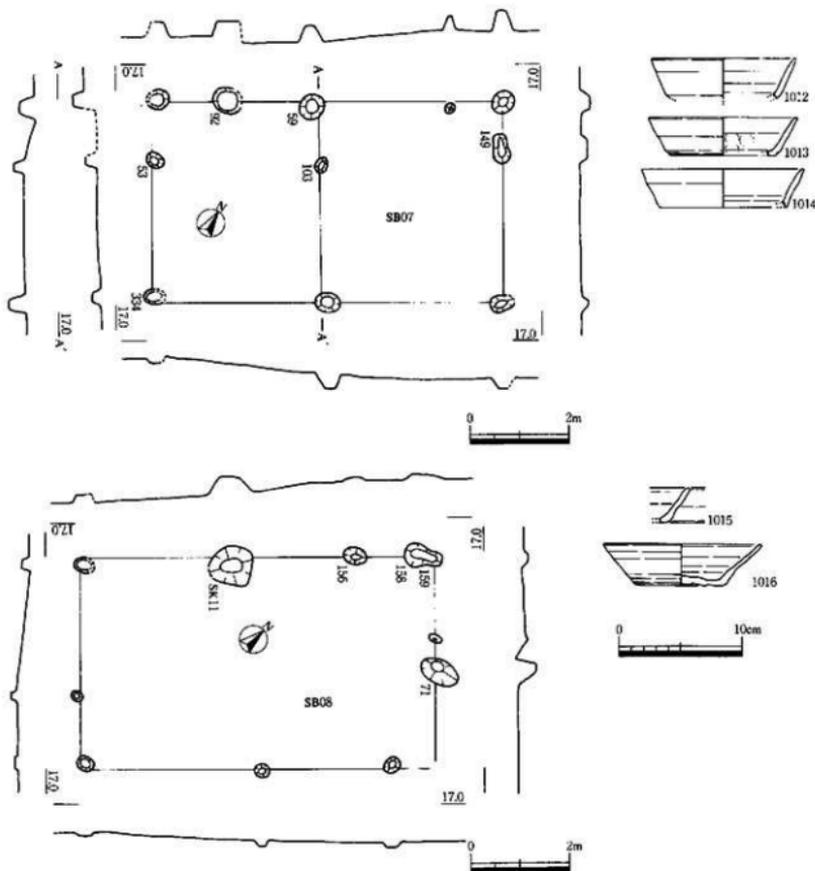
第76図 II区SB04～06・SD04平・断面図(1/100), SK04平・断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2)・銅銭(1/2)

える。備前焼等中世までの遺物が出土している。

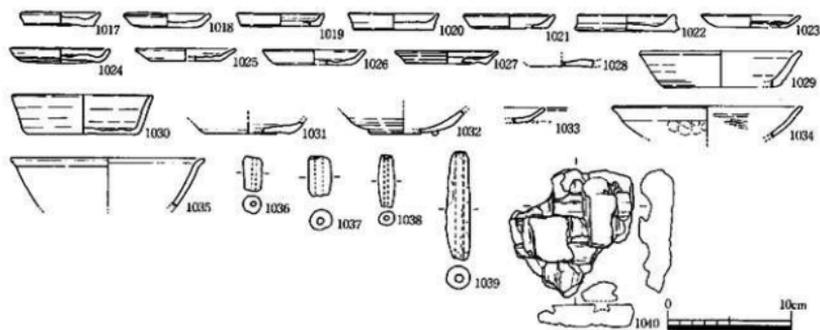
1010はS D04から出土した石甌である。

Ⅱ区S B06 (B 2, 第76図)

平面形から考えると中世以前の建物跡の可能性もあるが、柱穴54から中世の土器が出土していることから当時期と考えた。主軸方位は、 $N47^{\circ} E$ である。遺物は南の4つの柱穴から出土している。1011は上師器の把手である。



第77図 S B07・08平・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4)



第78図 柱穴出土の土器・土壁 (1/4)

Ⅱ区SB07 (B2, 第77図)

S P334はSB08に属する可能性もある。S P59はSB05とどちらに属するかは不明である。主軸方位は、N57° Eである。遺物は、平面図中に番号を記した柱穴から、縄文土器・弥生土器・須恵器及び土師器等が出土している。1012～1014は土師器杯である。

Ⅱ区SB08 (B2, 第77図)

S P334はSB07に属する可能性もある。主軸方位は、N40° Eである。遺物は、平面図中に番号を記した柱穴から、弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・備前焼及び焼土等が出土している。1015・1016は土師器杯である。

柱穴出土の土器 (第78図)

掘立柱建物跡を復元できなかった柱穴から出土した遺物をここで掲載する。すべて中世の時期のものであろう。

1017～1031は土師器である。1032は瓦質土器椀である。1033・1034は瓦器である。1035は中国産青磁椀である。破断面に漆状の物質が付着している。1036～1039は土師器である。1040は土壁破片で、竹の部分は残存していない。

土坑

Ⅱ区SK01 (C1, 第79図)

この遺構が検出された部分は、中世遺構検出面と古代の遺構の検出面の標高差がほとんど無い部分であり、掘り込み面は不明とせざるを得ない。また、遺物も出土していないので、詳細な時期は不明であるが、ここで報告する。断面図作成位置はやや不正確である。

Ⅰ区SK03 (A1, 第79図)

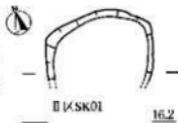
埋土にはこぶし大の礫を含む。遺物は、土師器杯や足釜等が出土している。断面図作成位置はやや不正確である。1041は土師器杯である。1042は石材不明の磨石である。

I区SK05 (A2, 第79図)

遺物は上師器杯・皿・足釜及び瓦器碗が出土している。断面図作成位置はやや不正確である。1043～1045は土師器である。

II区SK06 (B2, 第80図)

埋土は、焼土ブロック及び炭をまばらに含む。また、備前焼の碗の破片が多数出上している。破片は、その特徴から3個体分の破片の一部が混ざっているものと考えられる。他に土師器の杯・皿が出土している。断面図作成位置は不正確である。1046～1050は土師器で、1050は3足鉢と考えられる。1051～1054は備前焼である。1054はII区SK11出土破片と接合している。備前焼については、多数破片が出土しているが、一部のみ図化した。

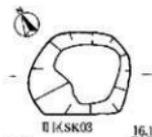


II区SK07 (B2, 第81図)

埋土は、焼土を含む。平面形は東部分が突出したような形態であるが、これはこの部分の土層が異なることから別の遺構の可能性がある。遺物は、土師器杯の他に、備前焼、東播系須恵器、西村産瓦質土器碗を含む。断面図作成位置はやや不正確である。1055は土師器皿である。1056は東播系須恵器鉢である。



1. 濃赤褐色灰土砂質土
2. 暗赤褐色灰土混雑粘質土



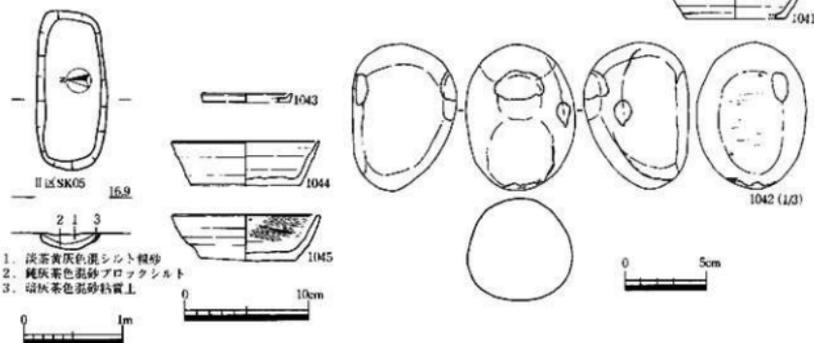
1. 暗褐色灰土砂質土
2. 純白褐色灰土砂質土
3. 明灰褐色泥混雑粘質土
4. 暗赤褐色混雑シルト(砂質土)

II区SK08 (A2, 第81図)

遺物は、土師器杯及び皿の他に、東播系須恵器鉢が出土している。断面図作成位置はやや不正確である。1057は土師器皿である。1058は東播系須恵器鉢である。

II区SK09 (B2, 第81図)

埋土には、焼土をまばらに含んでいる。遺物は土師器の杯及び皿のほか、

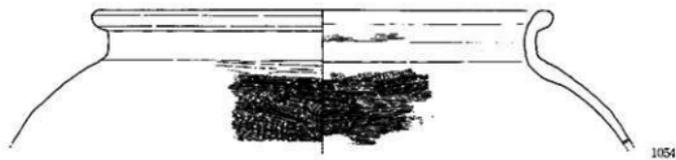
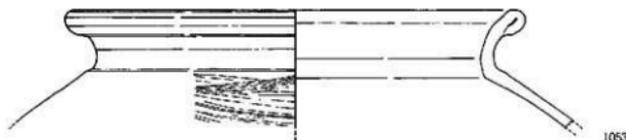
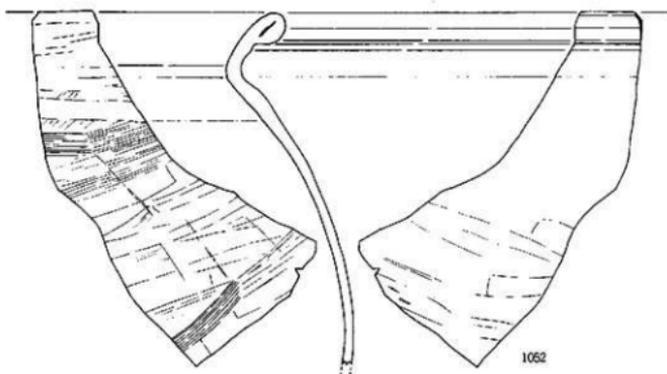
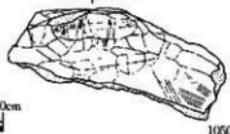
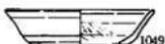


1. 淡赤褐色灰土混雑シルト粘砂
2. 純灰褐色泥砂ブロックシルト
3. 暗赤褐色泥砂粘質土

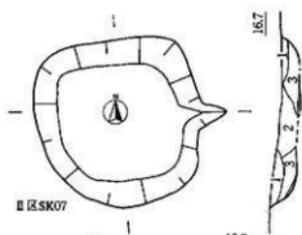
第79図 II区SK01・03・05平・断面図(1/50)・出土土器(1/4)・石器(1/3)



1. 黄茶褐色砂質土
2. 純黄茶灰色泥砂シルト
3. 暗茶灰色粘質土
4. 灰茶色泥シルト細砂

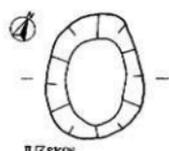


第80图 II区SK06平・断面图 (1/50)・出土土器 (1/4)



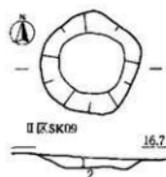
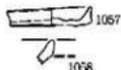
II区SK07

1. 暗黄褐色泥砂粘質土
2. 黄褐色泥砂ブロック粘質土
3. 黄褐色砂質土
4. 暗茶褐色泥砂シルト
5. 淡褐色灰色泥砂粘質土
6. 灰褐色泥砂ブロックシルト



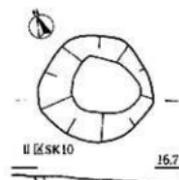
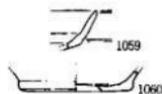
II区SK08

1. 暗茶褐色砂質土
2. 鈍茶褐色砂質土
3. 暗褐色灰色泥砂粘質土
4. 黒褐色灰色泥砂粘質土
5. 鈍灰色泥砂シルト



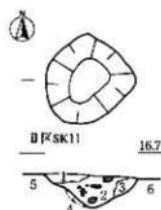
II区SK09

1. 暗褐色砂質土 (φ2cm程の大粒ブロックまばらに含む)
2. 淡褐色灰シルト質細砂



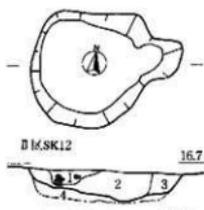
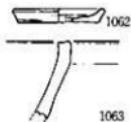
II区SK10

1. 薄暗黄褐色泥砂粘質土 (φ4cm程の塊Iブロック・炭素を含む)
2. 鈍黄褐色泥砂シルト (φ2cm程の塊土ブロック・炭まばらに含む)
3. 淡黄褐色泥シルト・細砂



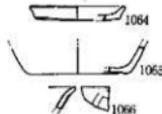
II区SK11

1. 黄褐色泥砂ブロック粘質土 (φ0.5cm程の塊土まばらに含む)
2. 鈍黄褐色泥砂ブロックシルト (φ2~4cm程の塊土ブロック・炭素を含む)
3. 鈍黄褐色泥シルトブロック細砂
4. 鈍灰シルト
5. 灰褐色シルト細砂
6. 淡黄褐色泥シルト細砂



II区SK12

1. 薄暗黄褐色泥砂粘質土 (φ3~4cm塊土・炭素を含む)
2. 鈍黄褐色泥砂粘質土 (φ1cm程の塊土・炭まばらに含む)
3. 暗黄褐色泥砂粘質土 (φ1cm程の塊土・炭まばらに含む)
4. 暗黄褐色シルト質細砂



第81図 II区SK07~12平・断面図 (1/50)・出土上器 (1/4)・銅銭 (1/2)

備前焼が出土している。断面図作成位置はやや不正確である。1059・1060は上師器である。

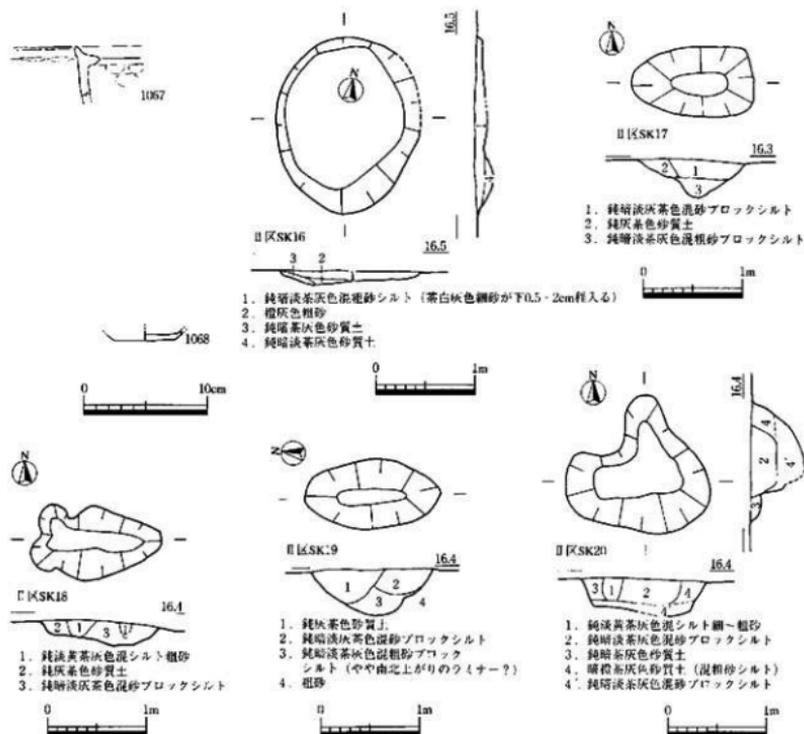
Ⅱ区SK10 (B2, 第81図)

埋土は大きく2層に分かれる。上層は、焼土塊や炭を多量に含み、下層には焼土塊や炭はまばらにし
か含まれていない。上層下面付近で、遺構検出面から10cm程度の深さから、北宋銭「政和通寶」(初铸
1111年)1061が出土している。「中世の出土銭」*68-10に類似する。断面図作成位置はやや不正確であ
る。上器は出土していない。

Ⅱ区SK11 (B2, 第81図)

埋土には、炭や焼土塊が多量に含まれている。

遺物は、上師器杯のほか瓦器碗や備前焼が出土している。断面図作成位置はやや不正確である。
1062・1063は土師器である。



第82図 Ⅱ区SK13・16～20平・断面図(1/50)・出土上器(1/4)

*1 永井久美男編「中世の出土銭 出土銭の調査と分類」兵庫種蔵鉄研究会 1994

Ⅱ区SK12 (B2, 第81図)

平面形は、東側には張り出しを持つものであるが、この部分の土層が異なることから、別の遺構の可能性があり、写真で見ると3層中央には柱痕状の土層が観察されることから柱穴であることが考えられる。埋土には、炭や焼土が含まれている。遺物は、土師器杯及び皿(1064・1065)の他に、中国産青磁碗(1066)が出土している。断面図作成位置はやや不正確である。

Ⅱ区SK13 (A2, 第82図)

中央上層断面(第11図)3層の落ち込み部分を検出したものと考えられる。埋土は、暗褐色灰色砂質土である。深さは約15cmである。1067は土師器足釜である。

Ⅱ区SK16 (B2, 第82図)

中世の遺物を出すⅡ区SK13より古い。遺物は、土師器の杯あるいは皿の他に中国産白磁皿1068が出土している。

Ⅱ区SK17・18・19・20

ほぼ同じ規模で、埋土も類似した土坑が近接している。特にSK17・18・20は主軸方向がほぼ同じである。なお、いずれの遺構も断面図作成位置はやや不正確である。

SK17 (B2, 第82図)

埋土は、砂質土を中心としている。遺物は、土師器の杯あるいは皿及び焼土などが出土している。

SK18 (B2, 第82図)

平面形は不整形で、埋土は砂質土を中心としたものである。土層断面図から考えると、柱穴が重なっている可能性がある。遺物は、土師器杯等が出土している。

SK19 (B2, 第82図)

上層断面から考えると、いくつかの遺構が重なっている可能性がある。埋土は砂質土を中心としたものである。遺物は土師器杯他が出土している。

SK20 (B2, 第82図)

平面形は不整形で、砂質土を中心とした埋土である。1層を柱痕と考えれば、2つの遺構が重なっている可能性がある。遺物は土師器杯のほかに、瓦器碗等が出土している。

不明遺構

Ⅱ区SX11 (B2, 第83・84図)

平面形は、不整形な遺構である。完形及びそれに近い土師器の皿・杯が多量に出土した。遺物は炭や焼土とともに底面からは浮いた状態で出土しており、並べたような形跡も無いことから、廃棄されたものと考えられる。遺物はその他、東播系須恵器鉢、和泉産瓦器碗、中国産青磁等が出土している。断面図作成位置は、やや不正確である。

1069～1114・1117～1119は土師器である。1115・1116は須恵器系土器である。1120は龍泉窯系青磁碗である。土師器の皿及び杯の製作時のろくろ回転方向は、判明するものはすべて時計回りである。また、底部にはヘラ切り後の線状の圧痕のあるものが多い。

I区SX13 (B2)

埋土は不明である。深さは20cm程度である。土師器及び瓦器が出土している。

8 近世以降

土坑

I区SK11・12・22 (D2, 第85図)

いずれも近世以降の土坑である。SK11は土師質の甕が残存している。SK12には甕の裏込め土が残存している。SK22は底面近くの埋土が、SK11・12の裏込め土に似ていることから、おそらく同様に甕が埋められていたものと考えられる。SK11・12については完全な断面図を作成していないため、ここでは割愛した。遺物はSK22から近世陶器が出土している。

I区SK14 (D2, 第85図)

埋土1～3層は再掘削後の埋土と考えられる。掘えていた甕を除去した痕跡かもしれない。埋土から古墳時代の上師器・須恵器の他、近世以降と考えられる軒丸瓦が出土している。

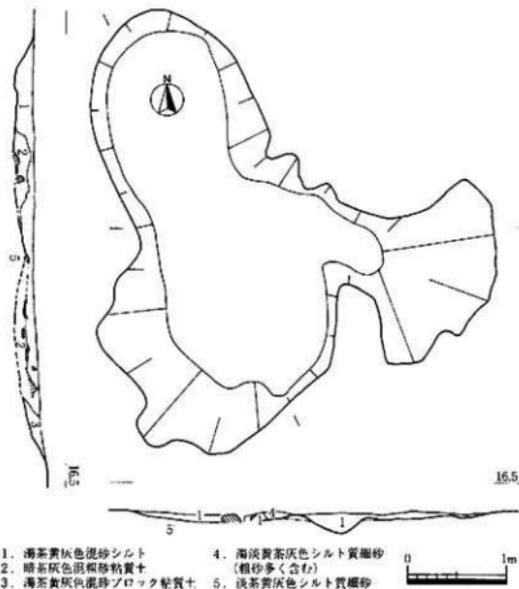
1121～1123は古墳時代の土師器と考えられる。

I区SK15 (D2, 第85図)

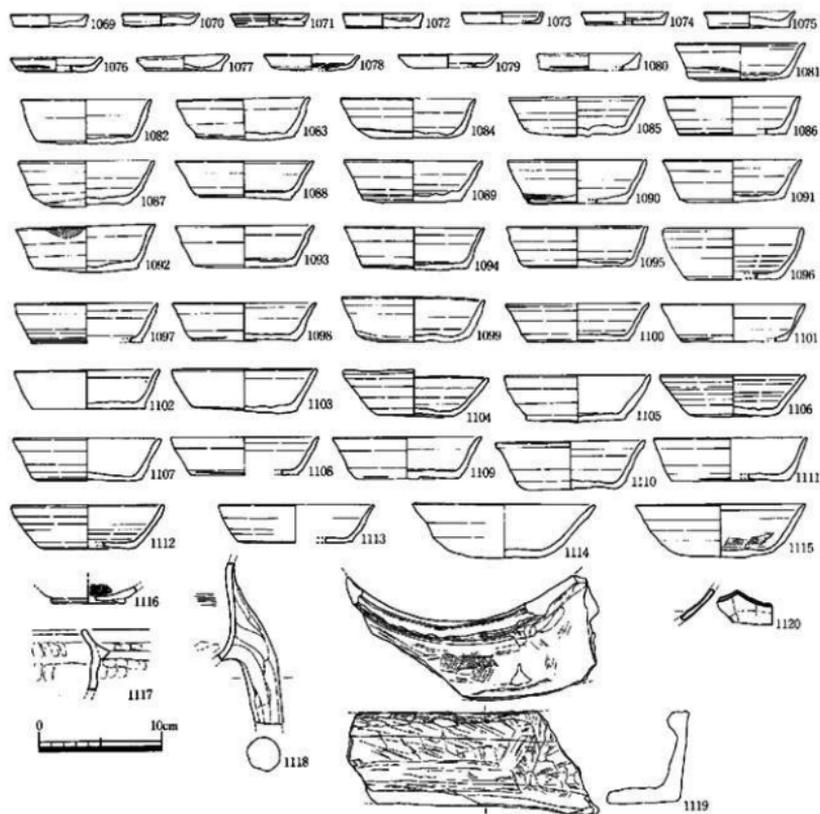
埋土から埴埴が出土している。1層は基盤層上由来の埴埴上と考えられ、別の遺構が重なっている可能性も考えられよう。1124は弥生土器高坏である。1125は土師器碗である。

I区SK17 (C2, 第85図)

断面図からは、遺構検出面は本米の掘り込み面からかなり下がっ



第83図 II区SX11平・断面図 (1/50)



第84図 II区SX11出土土器(1/4)

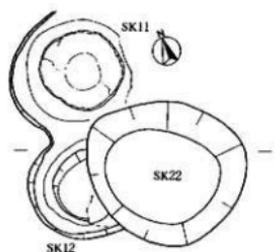
た位置と考えられる。このため、半面形はかなり不確実である。埋土最下層は、基盤層土上来上を底面に敷いており、甕を埋設した痕跡と考えられる。埋土からは縄文土器及び弥生土器が数片出土している。

I区SK20(D1, 第86図)

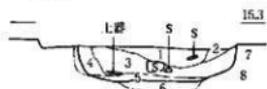
断面図及び平面図から考えると、2つの遺構が重なっている可能性がある。埋土から遺物は出土していない。SR02埋土を掘り込んでいることから、近世以降と考えられる。

I区SX05(D2, 第86図)

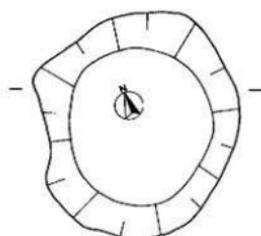
近世以降の流路SR02の埋土を掘り込んで作られたものである。埋土は、1層は基盤層土ブロックを含み、2層は礫を含むことから、埋められたものと考えられる。3層は甕を埋設した土坑の裏込め土に類似していることから、この土坑にも甕が埋められていた可能性がある。埋土からは、いぶし瓦や近世



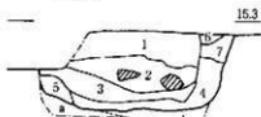
SK12



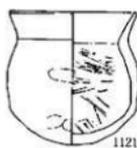
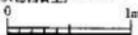
1. 薄灰褐色粘質土
2. 淡灰褐色細中砂
3. 薄黄褐色泥砂シルト
4. 薄黄褐色粘質土
5. 薄茶灰色泥砂粘質土
6. 茶灰色泥砂
7. 薄黄褐色泥砂シルト
8. 薄黄褐色シルト砂



I区SK14



1. 薄淡茶黄褐色泥粘砂粘質土 (華大粒の黄色土ブロック多く含む)
2. 鈍淡茶灰色泥粘砂粘質土 (φ3-5cm程の黄色土ブロック多く含む)
3. 薄黄褐色泥砂ブロックシルト
4. 薄明淡黄褐色泥粘砂粘質土
5. 薄淡褐色シルトブロック粘質土
6. 明黄褐色粘土
7. 薄茶白色泥粘砂粘質土
- a. 赤茶褐色泥砂
- b. 暗灰色粘質土 SR02層土
- c. 暗灰色粘質土



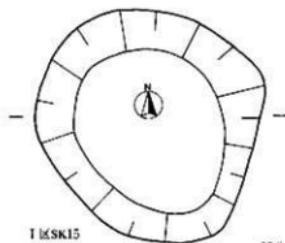
1121



1122



1123

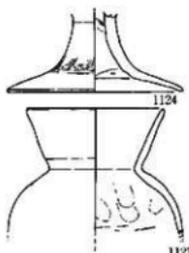


I区SK15

15.6



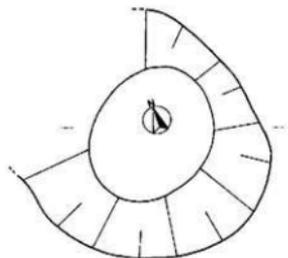
1. 鈍灰黄色泥粘砂粘質土
2. 鈍茶灰色泥粘砂シルト
3. 黄褐色泥粘砂シルト (黄色土ブロックまばらに含む)
4. 薄鈍黄茶灰色泥粘砂シルト (φ3cm程の黄色土ブロック多く含む)
5. 薄鈍黄茶灰色泥粘砂シルト (4よりやや粘性強)
6. 薄鈍黄茶灰色泥粘砂粘質土
7. 薄黄褐色泥粘砂シルト
8. 灰黄色泥粘砂粘質土
9. 淡灰黄色泥粘砂
10. 明暗灰色



1124



1125



I区SK17

15.6



1. 明淡灰黄色泥粘砂粘質土 (Lより強)
2. 薄淡明黄茶灰色泥粘砂粘質土



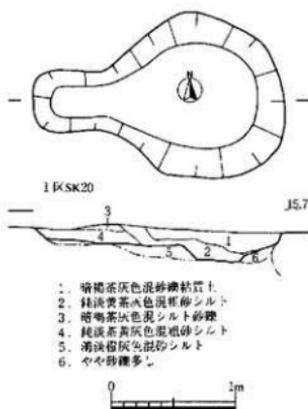
第85図 I区SK11・12・22・14・15・17平・断面図(1/40・1/50)・出土土器(1/4)

陶器が出土している。

I区SK02 (B1, 第86図)

埋土は大きく2層に分かれ、下層の4・5層は基盤層に類似した土層で、整地土の可能性があろう。遺物は、染付皿及び椀、陶器片が出土している。断面図作成位置はやや不正確である。

1126は陶器鉄軸鉢である。見込みに重ね焼きの痕跡がある。1127は白磁椀である。1128は青磁椀である。1129は染付皿である。



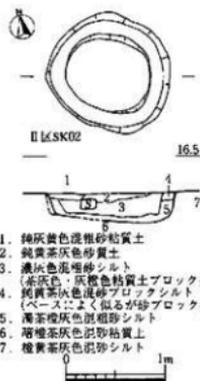
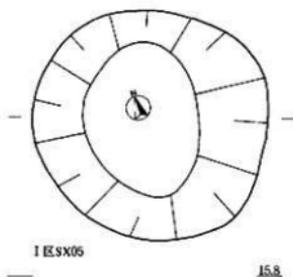
1. 暗褐色灰色泥炭粘質土
2. 粘黄褐色泥炭粘質シルト
3. 暗褐色灰色泥炭シルト砂礫
4. 暗褐色灰色泥炭砂シルト
5. 薄淡褐色泥炭シルト
6. やや砂礫多し



井戸

I区SE01 (D2, 第87図)

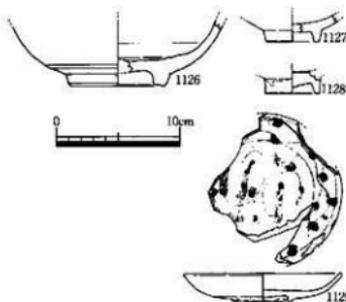
石組みの井戸である。近世以降の陶磁器等が出土している。井筒内埋土は不明である。



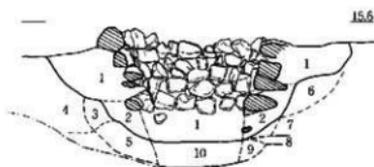
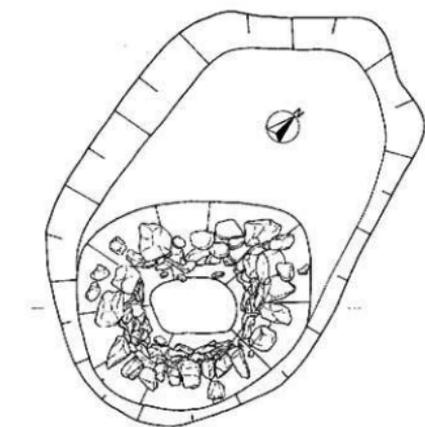
1. 鈍灰黄色泥炭砂粘質土
2. 鈍黄褐色砂質土
3. 濃灰色泥炭砂シルト
4. (赤灰色・灰褐色粘質土ブロック多く含む) 鈍黄褐色泥炭砂ブロックシルト (ベースによく広がる砂ブロック多い)
5. 薄茶褐色泥炭砂シルト
6. 暗褐色灰色泥炭粘質土
7. 粘黄褐色泥炭シルト



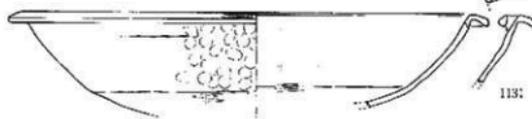
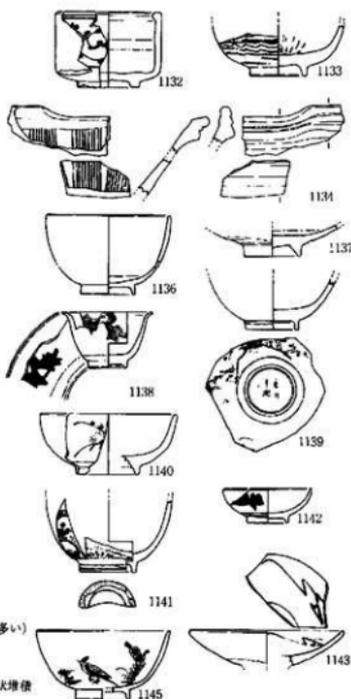
1. 鈍褐色灰色泥炭粘質土 (43-44cm厚の黄色土ブロック多く含む)
2. 鈍黄褐色泥炭シルト (43cm厚の黄色土ブロックまばらに含み幼児頭大型角礫密に含む)
3. 濃黄白色泥炭砂シルト
- a. 暗褐色泥炭シルトブロック粗砂
- b. 茶褐色泥炭シルトブロック粗砂 (シルトの割合多い)
- c. 暗褐色粘質土
- d. 薄淡褐色泥炭砂ブロックシルト (濃灰色土ブロック含む)
- e. 濃灰色泥炭粘質土
- f. 濃灰色泥炭粘質土
- g. 薄淡褐色灰色泥炭シルト (ベース)



第86図 I区SK02・SX05・II区SK02平・断面図 (1/40・1/50)・出土土器 (1/4)



1. 薄層椀茶灰色泥粗砂ブロックシルト
2. 橙暗茶灰色泥粗砂シルト (砂質土)
3. 4にやシルト混じる
4. 橙灰色粗砂 (SR.02増土)
5. 碎礫系茶灰色泥シルト粗砂
6. 橙灰色砂礫 (0.5~3cm程, 歪角礫多い)
7. 橙灰褐~粗砂
8. 淡茶黄灰色細砂
9. 暗橙茶灰色泥シルト砂礫
10. 薄層茶灰色シルトと砂のラミナー状堆積



第87図 I区SE01平・断面図 (1/40)・出土土器 (1/4)

砂箱電

I区SF01 (C3・C4, 第88・89図)

検出面の砂層の基礎層から、長さ3.9m、幅2.2m、深さ60cmほど掘り下げて、床面をつくっている。窯本体は円筒形の窯体が2つ接続したものである。窯壁は粘土に10cm大の石を混ぜて構築されている。周囲に散乱している焼土などと一緒に散乱している石は、窯壁構築に使われたものであろう。また窯壁体床面にも薄く粘土がしかれている。いずれの窯体も焚口側半分程度が破壊されており、焚口の構造は不明である。また、窯壁上部も残存していない。いずれの窯体も接続部分近くの窯壁に煙出があり、窯壁裏側で一つに合流して、排煙されていたものと考えられる。なお、この接続部付近では、裏側に石や煉瓦状のものを詰めている。北側の窯体とそれに焚口部分の床面はほぼ水平であるが、南側は窯床が焚口に向かって低くなっている。焚口から東側の作業床面は粘土による貼り床が見られ、焚口に向かい低くなっており、上面に炭の堆積が見られる。作業床向東端は、階段状に整形されており、この部分には炭の堆積は見られない。

1148は、瓦の転用品である。

川跡

SR02 (C3～E1, 第90図)

近世の遺物が出土している。埋没後には、井戸や土坑が掘削されている。

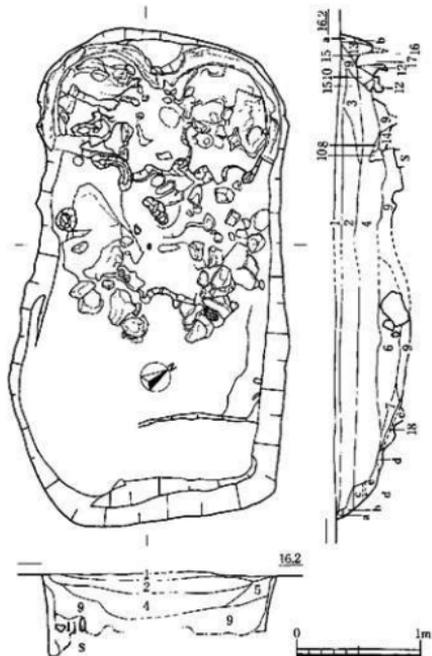
1151は左図上部に2次加工ある剃片である。1152は磨製石斧である。1153は流紋岩裂と考えられる砥石である。

9 時期不明の遺溝

柱穴列

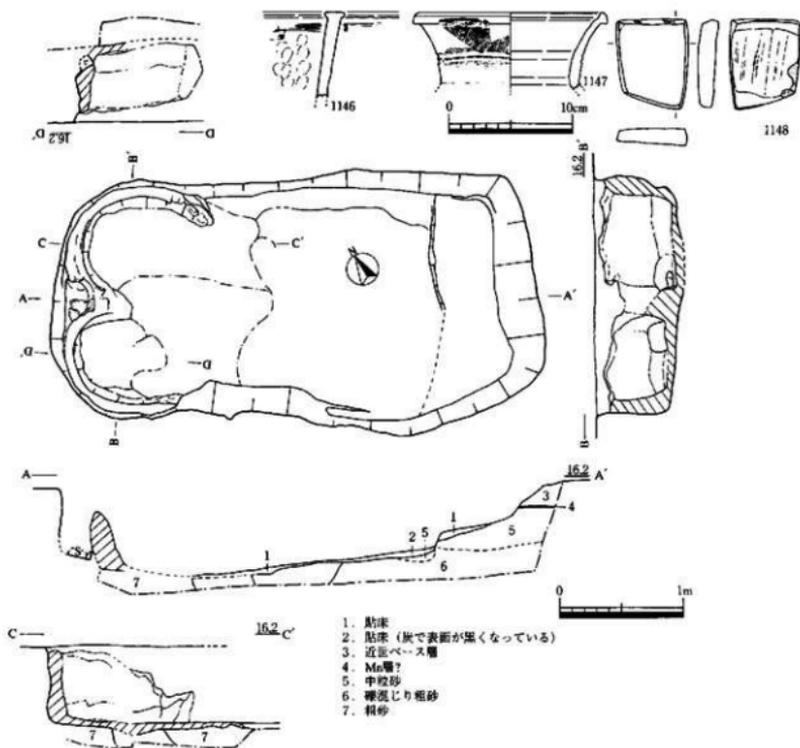
I区柱穴列 (C1, 第90図)

柱穴の並び方が比較的整然としているので、古代以前の時期のものと考えられる。主軸方位は、N79° Eを測る。柱痕はSP06で検出されている。SP01からは縄文土器が出土している。



1. 深褐色灰色泥相砂シルト
2. 深褐色灰色泥相砂シルト (橙黄色土ブロック多い)
3. 純淡茶灰色泥相砂シルト
4. 深褐色灰色砂質土
5. 深褐色灰色砂質土
6. 淡茶褐色砂質土
7. 深茶褐色砂質土 (Mnブロック多い)
8. 白灰灰色砂
9. 淡茶褐色泥相砂シルト
10. 黄褐色砂質土
11. 茶白色泥相シルト
12. 灰色砂質土 (灰込土の転落入か? やや茶色味を帯びる)
13. 灰色砂質土 (塵土混入、やや赤味を帯びる)
14. 深茶褐色粘質土 (堆土の一部と解すべきか?)
15. 橙赤灰色砂質土 (堆土多く含むがもろい)
16. 淡茶褐色粘土
17. 白灰灰色粘土
18. Mn沈着の黒褐色土か炭?
19. 黄褐色砂質土 (近世)
20. 白灰色砂質土 (近世水田層土?)
21. 深茶褐色泥相粘質土 (審土?)
22. 黒褐色土 (Mn沈着層)
23. 明褐色灰色泥相砂シルト相砂 (SR03埋土)

第88図 I区SF01焼土等検出状況平・断面図 (1/40)



第89図 I区SF01平・断面図 (1/40)・出土土器 (1/4)

土坑

I区SK04 (D1, 第90図)

埋土からは弥生土器1片が出土している。

I区SK05 (D1, 第91図)

埋土から、弥生土器及び土師器の破片が数片出土している。

1154は石鏃未製品である。素材の打点は点状打点であり、楔形石器の削片を利用した可能性が考えられる。

I区SK07 (C1, 第91図)

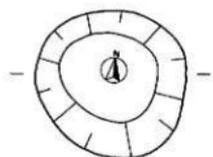
縄文土器片及び弥生土器片が1片ずつ出土しているに過ぎない。

I区SK09 (C1, 第91図)

埋土から、土師器と考えられる小片が出土している。

I区SK23 (C3, 第91図)

埋土下部に焼土及び灰を多く含む層がある。遺物は縄文土器が数点出土している。

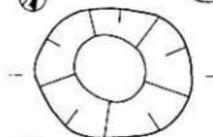


I区SK05

15.7



1. 暗褐色灰色泥相砂シルト
2. 陶質黄灰色泥相砂シルト…下層遺構の可能性大
3. 純黄灰色泥相砂ブロック中へ粗砂

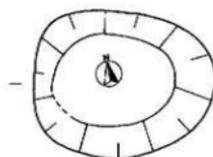


I区SK23

16.1

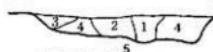


1. 薄黄灰色泥相砂粘質土
2. 黄灰色泥相砂粘質土
3. 純黄灰色泥相砂シルト
4. 純淡褐色色粗砂
5. 薄暗赤黄灰色泥相砂ブロックシルト
6. 薄暗褐色色泥相砂ブロックシルト
7. 純黄褐色色泥相砂ブロック粘質土 (3cm角程の邊土ブロックまばらに含み、灰多く含む)
8. 薄暗褐色色泥相砂粘質土
9. 明灰黄褐色色泥相砂粘質土
10. 薄赤灰黄色泥相砂粘質土

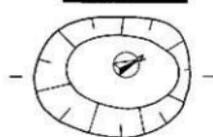


I区SK07

15.6



1. 黄褐色色泥相粘質土 (φ5-10mm小礫含む)
2. 薄明灰褐色色泥相砂粘質土 (φ5-10mm小礫含む、上位に3×4cm角礫含む)
3. 薄黄褐色色泥相粘質土 (3-15cm程の歪角礫多く含む)
4. 薄赤黄褐色色砂質土
5. 薄灰褐色色泥相砂粘質土

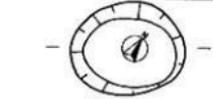
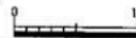


I区SK24

16.1



1. 暗黄灰色泥相砂粘質土 (地或不良の礎土)
2. 赤褐色明灰色泥相砂ブロック粘質土 φ3cm程の礎土ブロック含む)
3. 赤褐色色泥相砂粘質土一南肩部1cm幅で立ちあがるように土上小粒続く
4. 薄暗赤黄灰色泥相砂ブロック粘質土一φ1cm程の灰多く含む、白色物(骨)まばらに含む
5. 薄黄褐色色泥相砂粘質土
6. 黄褐色色泥相砂
7. 淡灰褐色色泥相砂粘質土 (炭粒まばらに含む)
8. 薄灰褐色色泥相砂粘質土
9. 薄黄褐色色泥相砂シルト
10. 薄赤褐色色泥相砂粘質土
11. 薄黄褐色灰色泥相砂シルト

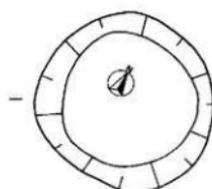


I区SK27

16.1

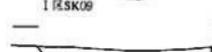


1. 茶暗褐色色泥相砂粘質土
2. 薄赤黄褐色色泥相砂粘質土

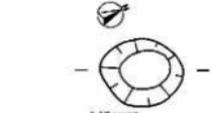


I区SK09

15.8



1. 薄淡赤褐色色砂質土 (黄褐色土ブロック φ3-5cm含む)

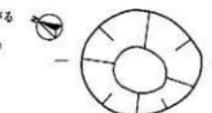


I区SK25

16.1

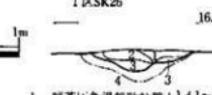


1. 薄暗褐色色泥相砂粘質土
2. 薄暗褐色色砂質土

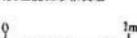


I区SK25

16.1



1. 暗赤褐色色泥相砂粘質土 | φ1-2cm
2. 薄暗赤褐色色泥相砂粘質土 | 層の灰ブロック含む
3. 黄褐色色泥相砂粘質土 (φ0.5cm程の炭まばらに含む)
4. 薄灰褐色色泥相砂粘質土



第91図 I区SK05・07・09・23~27平・断面図 (1/40・1/25)・出土土器 (1/4)・石器 (1/2)

1155は石核で、3枚の剥片の剥離痕が観察されるが、剥離後分割されている。

I区SK24 (C3, 第91図)

埋土に焼土塊及び炭を多く含む。遺物は縄文土器片が数点出土している。

1156は石鏃である。

I区SK25 (C3, 第91図)

埋土からはサヌカイト剥片が1点のみ出土している。

I区SK26 (B2, 第91図)

埋土に炭を含む、遺物は縄文土器片が数点出土している。

I区SK27 (B2, 第91図)

埋土からは弥生土器等破片が数点出土している。1157は土師器皿である。

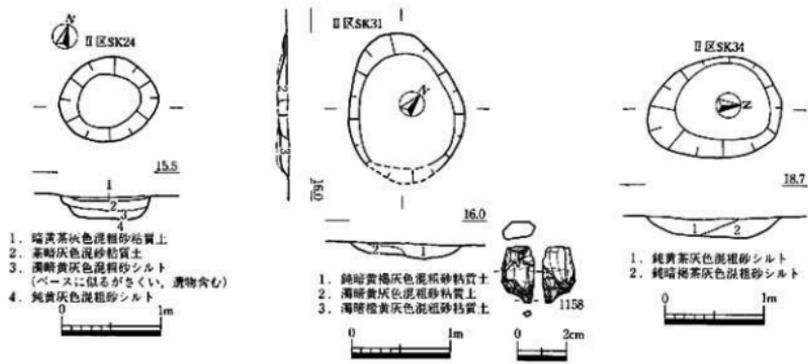
II区SK24 (B1, 第92図)

古代以前の遺構検出面で検出した。

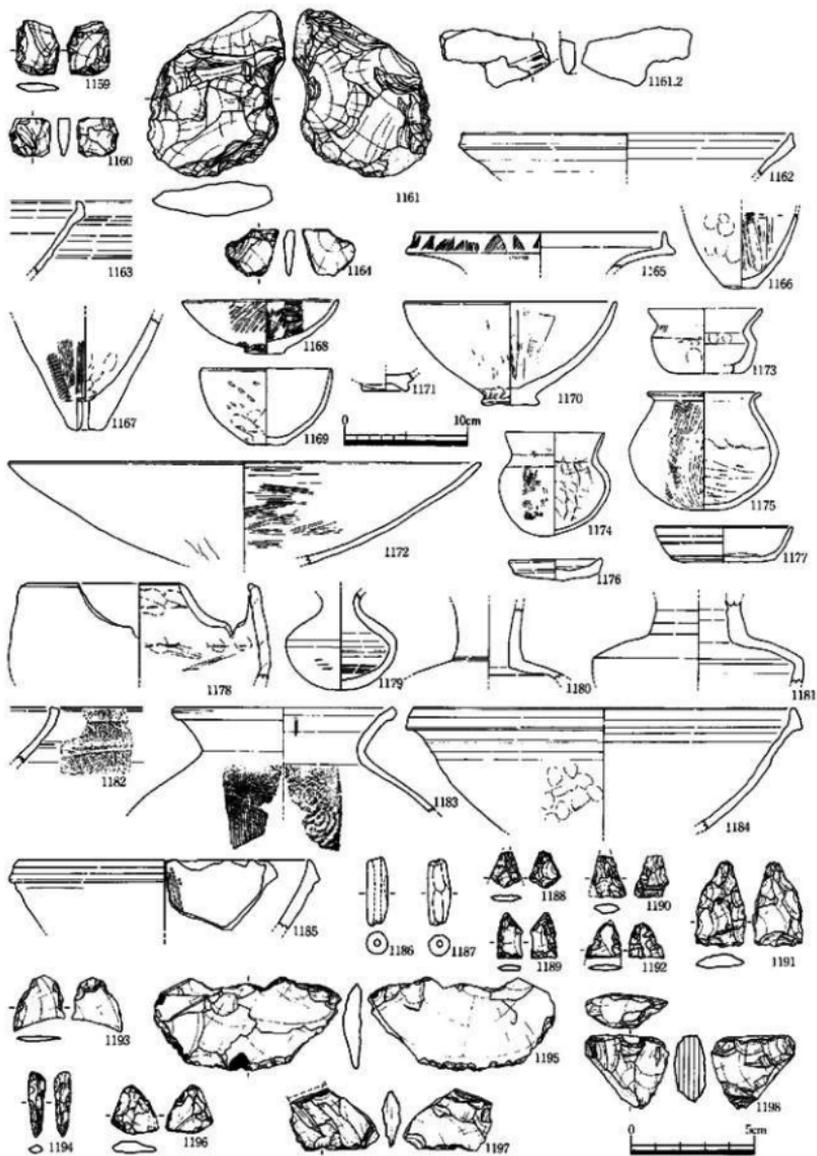
II区SK31 (B2, 第92図)

中世遺構面で検出されたII区SP037より古く、古代以前の遺構検出面で検出したことから、古代以前の時期が考えられる。遺物は縄文土器及び石器が出土している。

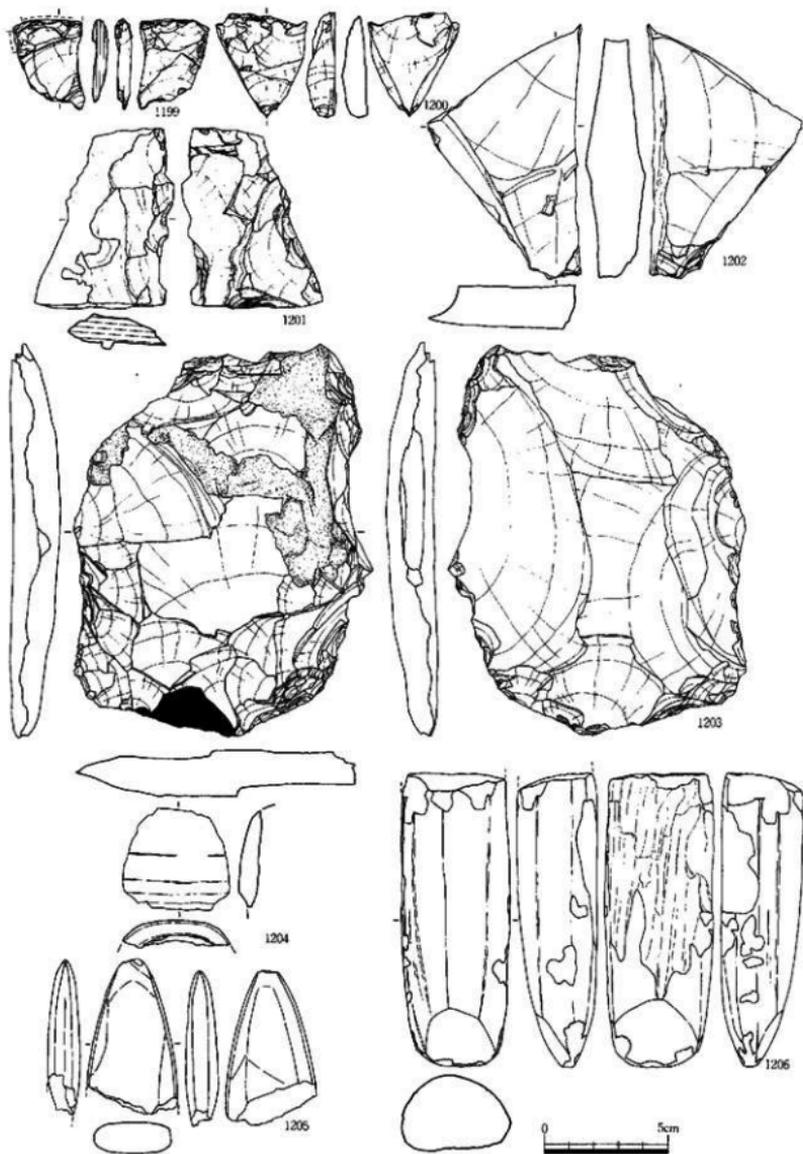
1158は石鏃である。



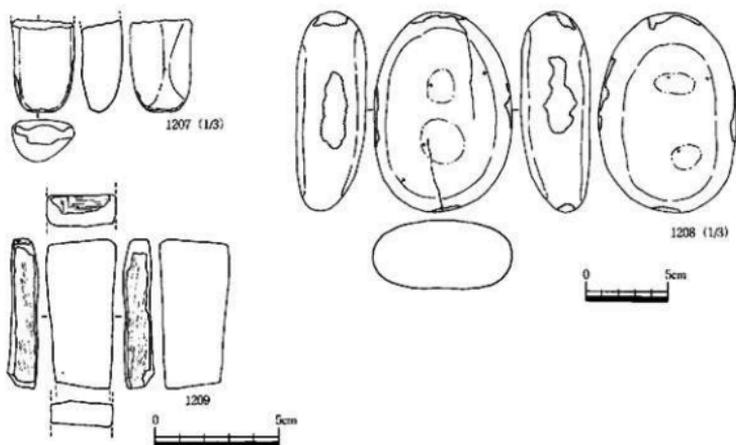
第92図 II区SK24・31・34平・断面図 (1/50)・出土石器 (1/2)



第93图 包含層等出土土器 (1/4) · 石器 (1) (1/2)



第94圖 包含層等出土石器(2)(1/2)



第95図 包含層等出土石器 (3) (1/2・1/3)

Ⅱ区SK34 (A1, 第92図)

中近世の遺構検出面で検出された。遺物は出土していない。

10 包含層等出土の遺物 (第93～95図)

1159～1161.2は、建物を復元できなかった柱穴から出土した石器で、1159は石礫未製品である。1160は楔形石器である。1161は石核で、礫面は円礫面である。1161.2は流紋岩製と考えられる磨製石刃丁である。1162～1164は鎌倉時代末頃の洪水砂 (SR05) から出土した遺物で、1162・1163は東播系須恵器鉢、1164は石礫未製品と考えられる。

1165～1209は遺構検出時等に出土した、正確な出土位置がつかめない遺物である。1165～1172は、弥生土器と考えられる。1167外面は型づくり整形後にハケ目を行っているように見える。1173～1178は土師器と考えられる。1178には口縁部に3つの切り込みがある。1179～1183は須恵器である。1184は東播系須恵器鉢である。1185は備前焼鉢搦鉢である。1186・1187は土師質焼成の上鉢である。

1188～1191は石礫である。1188は右面右下の辺の剥離がやや不整形であるため、石礫製作時の調整剥離ではないと考えられる。1192・1193は石礫未製品と考えられる。1192は先端部がほとんど二次加工されていない。1193は二次加工が小さく先端が厚いことから石礫未製品ではない可能性もある。1194は石錐である。1195はスクレイパーである。1196～1200は楔形石器である。1201～1203は石核である。1204は結晶片岩製の石棒である。1205は石材不明の磨製石斧である。1206は結晶片岩製の柱状片刃石斧である。1207は砂岩製の敲石である。1208は安山岩の脈岩製の磨石である。1209は石材不明の砥石である。

第3章 塔の山南遺跡の調査

第1節 立地と環境

1 地理的環境（第2・3図）

虎丸山から北東へ延びる尾根の末端に近く位置し、標高は30～44mである。第2章で報告した金毘羅山遺跡とは与田川を挟んで向かい側にある。遺跡の西側はすぐ与田川となっており、かなりの急斜面地であり、こちら側に遺跡への道を想定することは難しい。調査地からは、北から北東方向へ向かい与田川右岸の平地を見渡すことができる。大日山古墳や原岡3・4号墳等のある尾根を見ることができる。

2 歴史的環境

第2章第1節で述べたので、ここでは省略する。

第2節 予備調査

塔の山南遺跡を含む地区は、別所地区として平成9年9月に予備調査を実施した。地区内の二つの尾根を対象として調査を実施した。西側の尾根をA地区、東側の尾根をB地区とした（第96図）。各トレンチの概要は、第7・8表のとおりである。この結果、石蓋土壌を検出したA地区の尾根筋を中心に次年度以降、本調査を実施した。

第3節 調査の方法

平面図の作成は、航空測量で行った。断面図と一部平面図については手書きで作成した。また、表土掘削前に現況の平板測量調査を実施した。

第4節 土層序

基盤層は花崗岩風化土である。遺構が検出された部分では、表土層直下で基盤層が露出した。なお、調査区内で一番標高が高い44m付近の平坦地は、地元の聞き取りによれば、数十年前の与田川氾濫時に花崗土採取のために形成されたとしてされている。また、調査地付近の段は戦時中に開墾された畑の段とのことである。なお、表土掘削時に昭和19年の1銭硬貨が出土している。

第5節 遺構と遺物

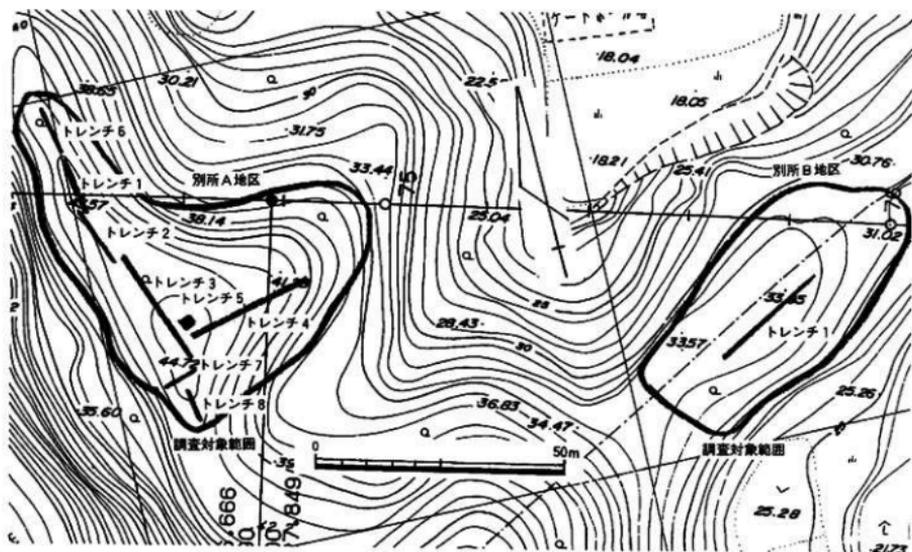
遺構は、土坑墓、石蓋土坑墓、箱式石棺墓を検出した。遺構配置図は第97図である。下の断面図は、遺構が位置する尾根頂部の縦断面図である。第97図は表土掘削前の平板測量図である。遺物はSK01から上器小片が出土したのみで、他の遺構からは出していない。なお、表土掘削中に出土した遺物は第97図である。その出土位置は第97図に掲載した。1は第4地点から出土したもので、弥生土器の壺と考えられる。胎土に石英・長石の粗砂の他、結晶片岩の粗砂を含む。色調は鈍い橙色(7.5YR6/4)である。

トレンチ番号	遺構	遺物	概要
1	上坑	無し	土坑ではないかと思われる落ち込みを2カ所で検出した。
2	溝	無し	溝ではないかと思われる落ち込みを1カ所検出した。
3	無し	無し	南部でテラス状の高まりが見られる。
4	溝	無し	溝ではないかと思われる落ち込みを1カ所検出した。
5	無し	無し	
6	上坑 石蓋土坑	無し	上坑ではないかと思われる落ち込みを1カ所、石蓋土坑を1カ所検出した。
7	無し	無し	
8	無し	無し	

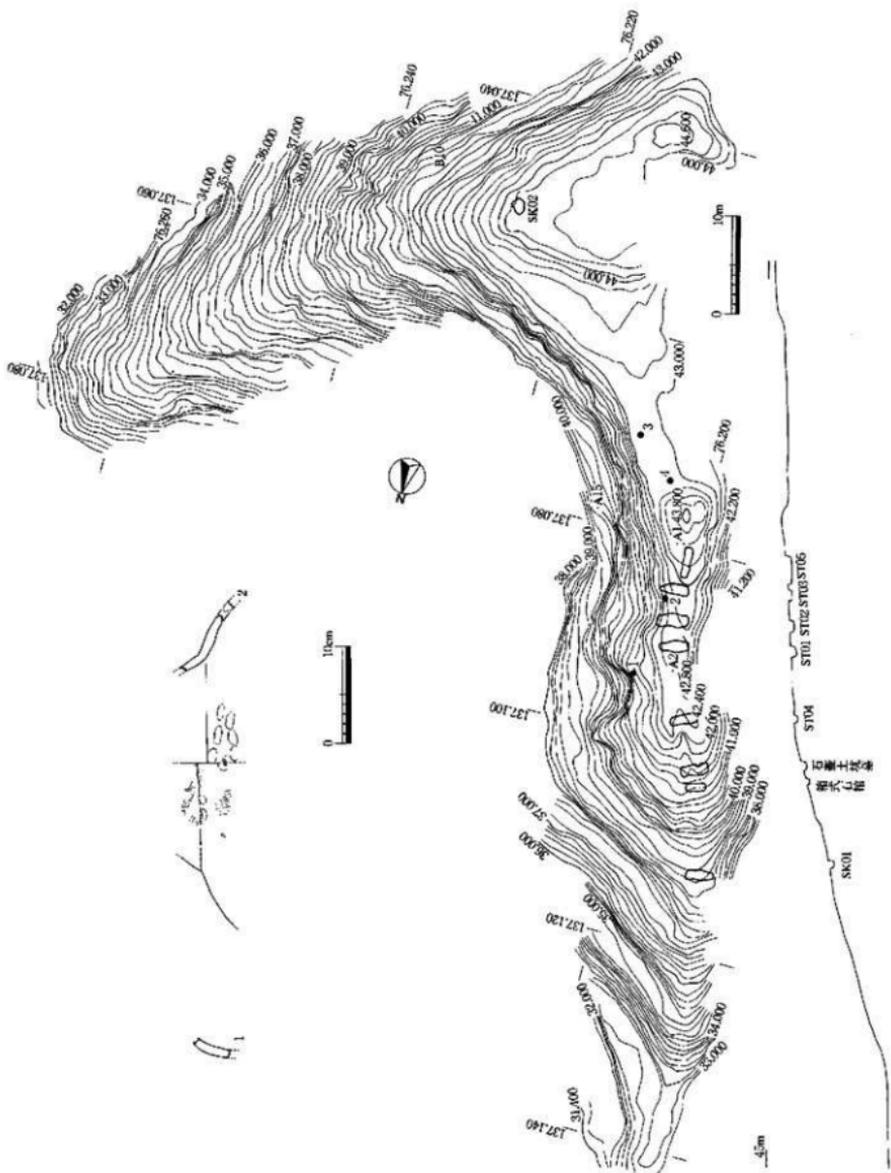
第7表 別所A地区予備調査トレンチ一覧表

トレンチ番号	遺構	遺物	概要
1	無し	無し	地表面下約10cm腐葉土層があり、その下約30cm暗黄褐色砂混じりシルト層がある。基盤層は花崗岩層。

第8表 別所B地区予備調査トレンチ一覧表



第96図 別所地区予備調査トレンチ配置図 (1/1,000)



第97図 塔の山南遺跡遺構配置図 (1/500) 及び出土十器 (1/5)

内外面とも摩滅している。2は第1地点から出土した、弥生土器と考えられる大型の壺である。胴部上半に焼成後の穿孔が1カ所確認できる。胎土は長石・石英・雲母の粗砂を多く含む。色調は明褐色(7.5YR5/6)で、胴部内面には指押さえ、外面には荒いハケ目が見られる。壺棺に使用された可能性が考えられよう。その他、第2地点からは昭和19年の1銭硬貨、第3地点からは結晶片岩の粗砂を多量に含む弥生土器と考えられる小片が出土している。

遺構の主軸方向はST05が尾根の稜線に平行する他は、いずれも尾根に直交する方向である。これらの墓群はほぼ同じ時期に形成されたものと考えられるが、墓坑からは遺物が出土していないので時期は不明とせざるを得ない。ただ、立地状態及び周囲で出土した土器特に、土器棺と考えられる2を参考に、弥生時代終末期(庄内式並行期)が考えられる。

石蓋土坑墓(第98図)

箱式石棺に隣接した位置にある。蓋石の石材は花崗岩である。蓋石の検出状況及び土層断面から考えて後世に攪乱を受けた形跡は無いものと考えられる。土層断面から考えると、掘削開始面は蓋石より上30cm以上の高さで、上坑底は蓋石上面から50cm程度の深さがあるので、当時の地表面から80cm以上の深さを掘り込んでいることがわかる。また、途中には蓋石をかけるために段が作り出されているが、側壁の一部しか残存していないのは後世の崩落によるものと考えられる。蓋石及び掘方とも東に向かい小さくなっている。主軸方位はN68°Eである。遺物は出土していない。

箱式石棺墓(第99図)

主軸方位は、N73°Eである。石材はすべて花崗岩である。蓋石の検出状況及び土層断面から考えて後世に攪乱を受けた形跡は無いものと考えられる。石室内幅は東に向かい小さくなっている。蓋石上面には全面ではないが、灰黄色粘質土の被覆がみられた。側石上部には灰黄褐色砂質土の裏込めが見られた。石棺内は、埋土が充填しておらず空間がある。遺物は出土していない。

ST01(第100図)

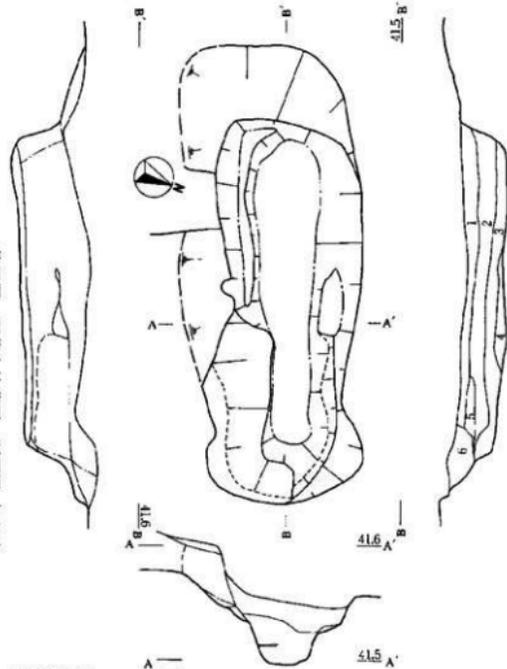
主軸方位は、N76°Eである。第2・3層は埋土が下層及び他の土坑墓と異なることから後世の攪乱により形成されたものと考えられる。二段掘りの構造であるが、底面と段の比高が小さいことから、蓋石をかけるものとは考えられない。また段下の幅は小さく、箱式石棺の側石を支持するための段と考えることはできない。床面には一部凹凸が見られるが、不整形であることから、棺構造に関連したものとは考えられない。遺物は出土していない。

ST02(第100図)

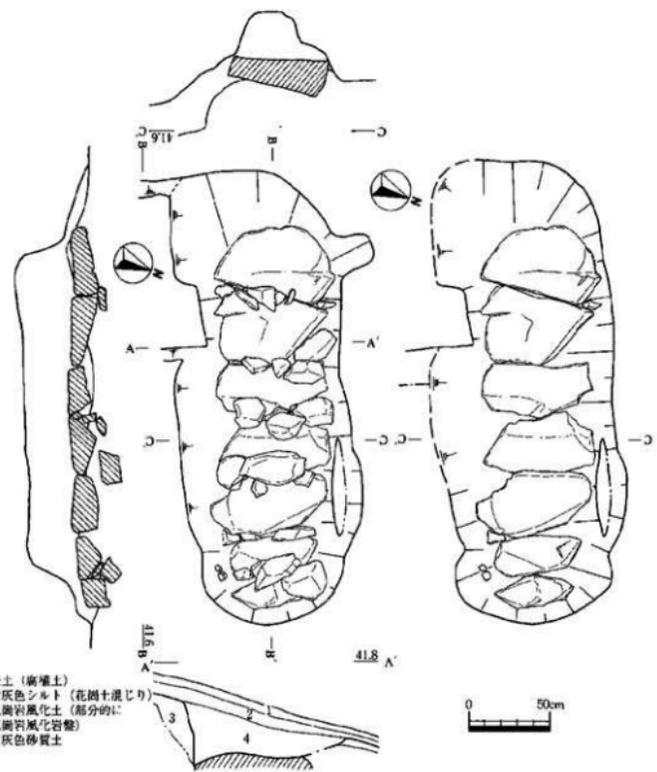
主軸方位は、N76°Eである。東西端は大きく削平されている。二段掘りの構造である。これもST01と同様、側石や蓋石に関連する構造とは考えられない。南側の段部は東半部がやや広いが、この部分は床面が検出面からわずか数cm程度で、本来の状況を留めているかどうかはやや疑問である。段下面は西側のほうがやや広く、これは石蓋土坑墓や箱式石棺墓と同様な状況である。遺物は出土していない。

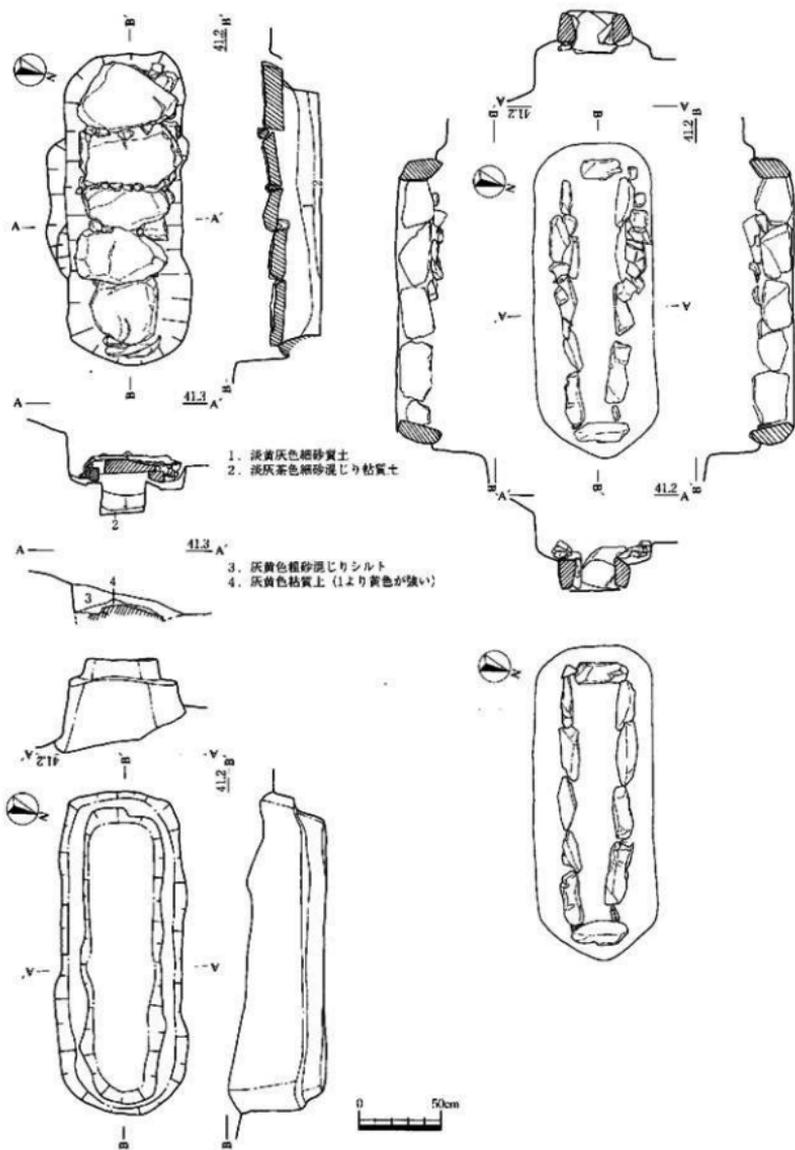
(03/T) 図面・土壘墳墓・石蓋土壘 図86第

1. 灰黄色粗砂質土 (1~2cm程度の小礫を含む)
2. 褐色細砂質土
3. 褐色中砂質土 (2と3の間に花崗土アロック混じる)
4. 灰黄褐色細砂質土 (やや粘性をもつ)
5. 明黄褐色細砂質土
6. 薄黄褐色細砂質土 (樹木根の影響によるものか?)
7. 灰褐色シルト (やや粘性をもつ)

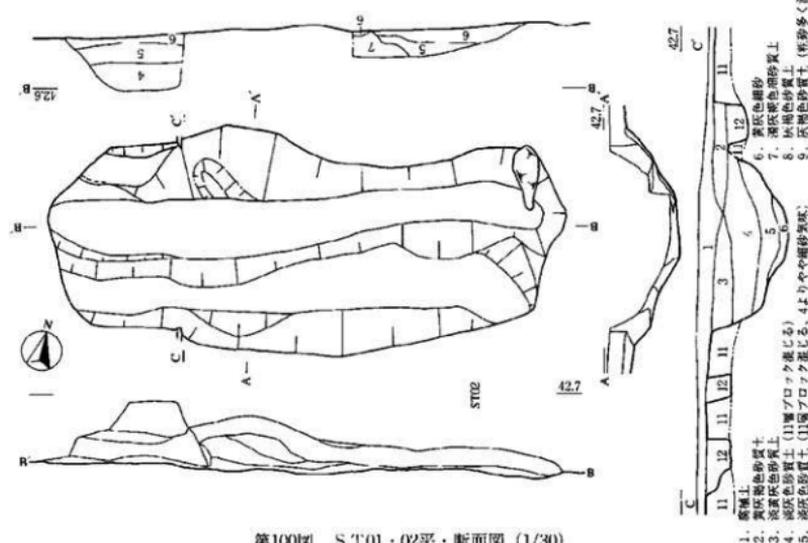
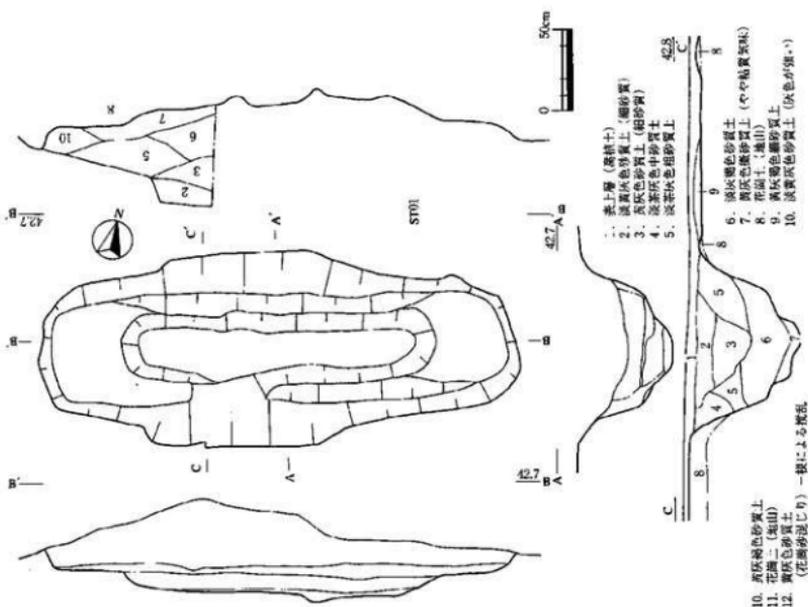


1. 表土 (腐植土)
2. 黄灰色シルト (花崗土混じり)
3. 花崗岩風化土 (部分的に花崗岩風化岩盤)
4. 黄灰色砂質土





第99図 箱式石棺墓基平・断面図 (1/30)



第100図 ST01・02平・断面図 (1/30)

ST03 (第101図)

主軸方位は、N84° Eである。東西端部は大きく削平されている。二段掘りの構造は土層断面作成位置付近でわずかに見られるが、全体にきちんと作られていたかは、確実ではない。また、土坑底面は屈曲しており、これが土坑墓であるかどうかやや疑問が残る。遺物は出土していない。

ST04 (第102図)

主軸方位は、N67° Eである。壁面は垂直で床面も平坦である。西側で、方形鳥状のテラスがあるがこのうち東側の段は、断面図作成のために残した畦の位置に一致していること及び概報^{*1}では、「3方隅に…浅い溝の痕跡」とあることから、本来存在した段ではない可能性がある。また、断面図では、北側側板の痕跡が表現されていない。底面東西端にはやくぼんだ部分が見られ、木棺の痕跡とも考えられる部分もある。ここでは調査時の所見に従い箱式木棺の可能性を考えておく。遺物は出土していない。

ST05 (第102図)

主軸方位は、N3° Wである。当遺跡で、唯一尾根筋に平行する主軸方位をもつ。壁面は北側を除いてほぼ垂直で、二段掘りの構造は認められない。床面に木棺の小口板を納めるためと考えられる落ち込みがある。土層断面では木棺痕跡は確認できない。遺物は出土していない。

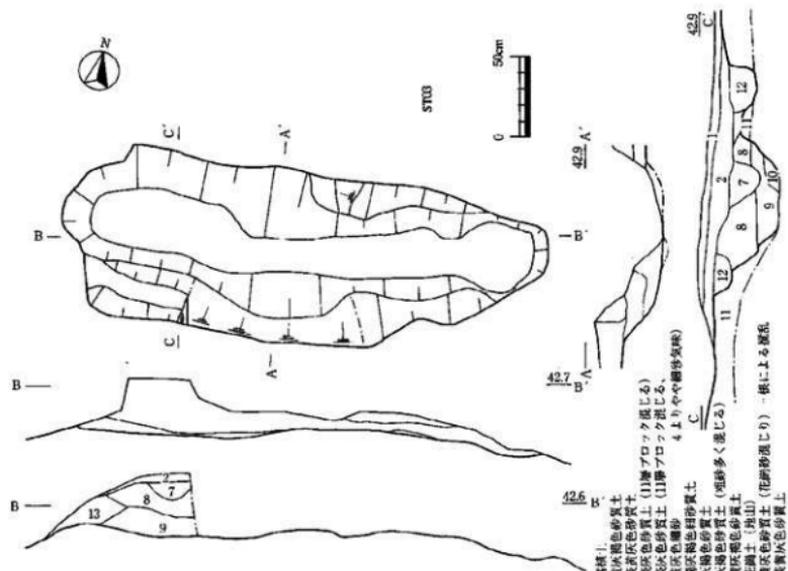
SK01 (第102図)

主軸方位は、N77° Eである。これも尾根筋に直交する遺構で、土坑墓の可能性が考えられるが、他の土坑墓とは異なり、床面、特に横断方向が水平に作られていない上、二段掘り構造や壁面の垂直さも認められないので、土坑墓とは考えがたい。遺物は、弥生土器と考えられる摩滅した小片が出土している。

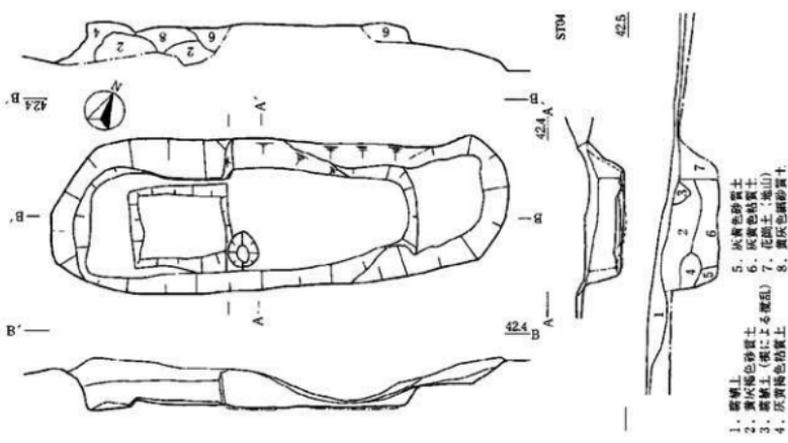
SK02 (第102図)

土坑墓群とは離れて、調査区内におけるピークから東にどったところに位置する。遺物は出土していない。時期も不明である。

*1 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成10年度』香川県教育委員会他 1999.3

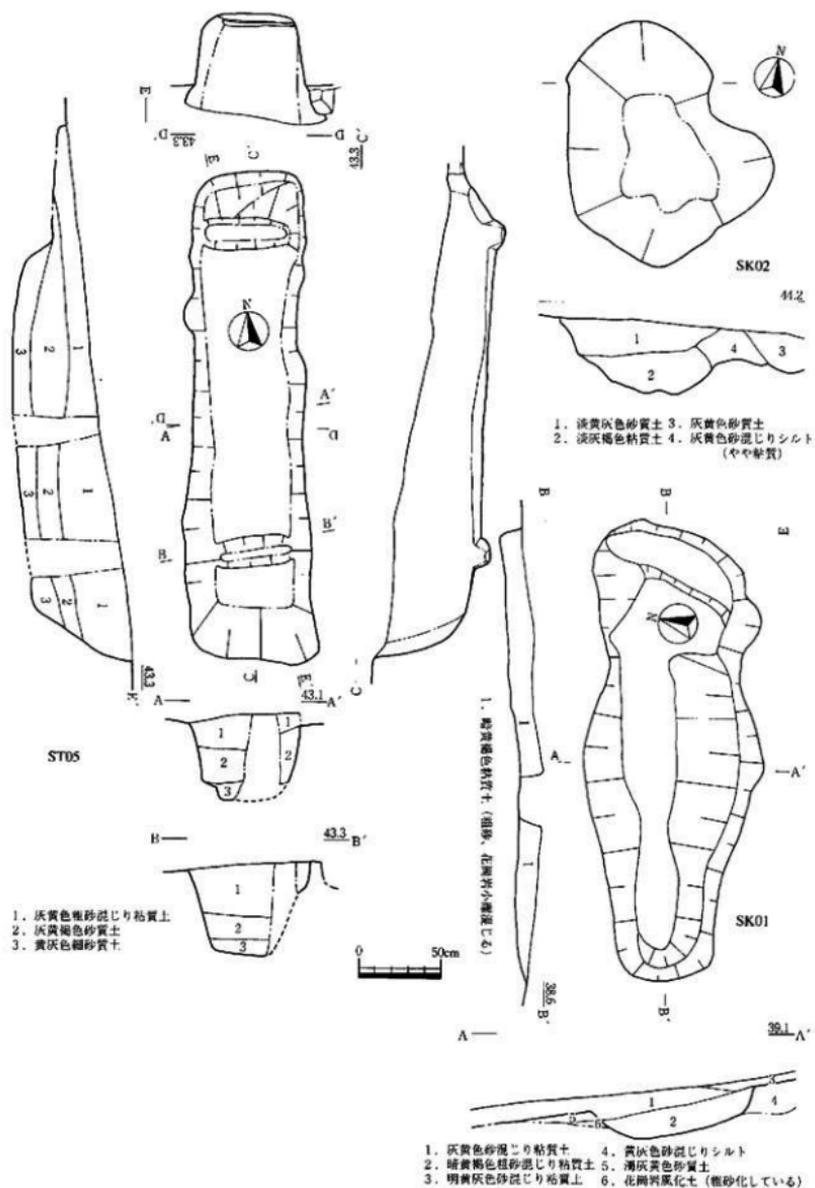


1. 礫積土
 2. 黄灰色砂質土
 3. 赤褐色土 (11層アロックを底とする)
 4. 赤褐色砂質土 (11層アロックを底とする)
 5. 赤褐色土
 6. 赤褐色砂質土 (河跡多く透じる)
 7. 灰褐色砂質土
 8. 灰褐色砂質土
 9. 灰褐色砂質土 (河跡多く透じる)
 10. 黄灰色砂質土
 11. 花崗土 (坪山)
 12. 黄灰色砂質土 (花崗砂質土より) - 根による擾乱
 13. 黄灰色砂質土



1. 礫積土
 2. 赤褐色砂質土
 3. 礫積土 (根による擾乱)
 4. 灰褐色砂質土
 5. 灰褐色砂質土
 6. 灰褐色砂質土
 7. 花崗土 (坪山)
 8. 黄灰色砂質土

第101図 ST03・04平・断面図 (1/30)



第102図 ST05・SK01・02平・断面図 (1/30)

第4章 庵の谷遺跡の調査

第1節 立地と環境

1 地理的環境（第103・104図）

調査地は、平地部から山地部にわずかに入った、小河川菜切川を挟んだ狭い尾根の谷の斜面部に位置する。標高は約30mを測る。

2 歴史的環境（第103図）

引田町域ではこれまで、古墳時代以前の遺跡はほとんど知られていなかった。今回、四国横断自動車道建設に伴い発掘調査を行い、新たな遺跡が発見されている。参考文献は第9表のとおりである。

縄文時代後期

当遺跡で土器片及びそれに伴うと考えられるサヌカイト剥片が出土しているが、遺構は検出できていない。なお、引田町域でその他確認されている縄文時代の遺物として、天王谷で黒曜石製石鏃が採集されている。

弥生時代

表採遺物としては、沖代蟹安で石臼・石斧片・土器片、逸田でサヌカイト製石鏃、塩屋で土器片が採集されている。逸田谷川下池遺跡では、弥生時代の竪穴住居跡の存在が指摘されている。鹿庭遺跡ではサヌカイト集積土坑が検出されている。

弥生時代中期後半

当遺跡で、竪穴住居跡及び多量のサヌカイト製品が検出されている。

弥生時代後期

沖代水田遺跡で、弥生時代後期後半の遺物が出土している。

古墳時代

沖代水田遺跡では、5世紀末葉を中心とする竪穴住居跡が検出されている。また、沖代赤坂と中山池西で土器片が採集されている。また、古墳としては横穴式石室の川北1号墳が知られている。出土した須恵器から6世紀末から7世紀前葉の時期が考えられている。周辺では数基の古墳が存在したとされているが、現存していない。千葬古墳も古墳としての内容は伝えていない。川北1号墳への登り口で、7世紀後半の須恵器を出土する井戸状遺構が検出されている。沖代水田遺跡では、奈良時代の須恵器を包含する砂層に覆われた水田跡が検出されている。

古代

外源蔵、刈畑、内源蔵で奈良時代の土器片が採集されている。川北、坂本大谷では、平安時代の土器片が採集されている。馬宿畑方遺跡では、奈良時代～平安時代初期の製塩土器が出土している。川北遺跡では、奈良時代の比較的大型の掘立柱建物跡群からなる集落跡を検出している。

中世

川原谷で備前焼の焼納骨壺が見ついている。鹿庭遺跡では、鎌倉時代の掘立柱建物跡を10数棟検出している。天王谷遺跡では、中世後半の集落跡を検出している。また、ロストル式の平窯を2基検出している。逸田石垣遺跡では鎌倉時代の掘立柱建物跡や土坑墓を検出している。



第103図 庵の谷遺跡及び周辺の遺跡位置図 (1/25,000)

近世

戦国期から江戸時代初期まで用いられた山城である引田城跡がある。

引田町史 自然・原始～近世・文化財	引田町	1995
香川県埋蔵文化財調査年報平成8年度	香川県教育委員会	1997
四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成9年度	香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団・建設省四国地方建設局・香川県土木部	1998
四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成10年度	香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団・建設省四国地方建設局・香川県土木部	1999

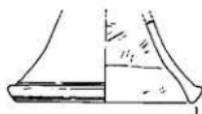
第9表 遺跡地区関連参考文献



第104図 鷹の谷遺跡位置図 (1/2,000)

第2節 予備調査

当遺跡は、引田町黒羽地区の予備調査の結果、本調査をすることになった遺跡である。予備調査は平成9年9月4日～10月23日に実施した。調査時に設定したトレンチの位置は第106図のとおりである。各トレンチの概要は第10表のとおりである。その結果、遺構の検出できた15、19～22トレンチを含む葉切川両岸の平坦地を庵の谷遺跡として全面調査対象地とした。第106図1は12トレンチから出土した土器である。



第106図 12トレンチ出土土器(1/4)

トレンチ番号	遺構	遺物	概要
1	無し	無し	地表面下約1.9mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、砂層。
2	無し	無し	地表面下約0.4～1.4mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、人頭大の石塊を含む砂礫層。
3	無し	無し	地表面下約0.3～1.2mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、人頭大の石塊を含む砂礫層。
4	無し	無し	地表面下約0.6mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、人頭大の石塊を含む砂礫層。
5	無し	弥生土器	地表面下約2.1mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、人頭大の石塊を含む砂礫層。
6	無し	無し	地表面下約2.4mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、人頭大の石塊を含む砂礫層。
7	無し	無し	地表面下約0.8～2mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、人頭大の石塊を含む砂礫層。
8	無し	無し	地表面下約1.5mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、砂礫層。
9	無し	弥生土器	地表面下約1.2mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、砂礫層。
10	無し	無し	地表面下約0.8mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、砂礫層。
11	無し	無し	地表面下約0.9mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、黄色砂質土層。
12	無し	弥生土器	地表面下約2.5mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、砂礫層。
13	無し	弥生土器	地表面下約0.8mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、黄色砂質土層。
14	無し	無し	地表面下約1.4mの基盤土層まで、造成土が充填されている。基盤土は、砂礫層。
15	掘立柱建物跡	弥生土器	人工的に造成された平坦地であり、居住遺構が検出できる。
16	無し	不明土器	南西から北東方向への傾斜地である。地形の変換点に旧表土中の少量の遺物が包蔵される。
17	無し	不明土器	南部は、河川の侵食崖と考えられ、地表面下約2.3mまで造成土が充填されている。北部は、地形の変換点の旧表土中に少量の遺物が包蔵される。
18	無し	無し	南西から北東方向への傾斜地である。
19	柱穴跡	弥生土器	平坦地が存在し、居住遺構が検出できる。
20	柱穴跡	弥生土器	平坦地が存在し、居住遺構が検出できる。
21	竪穴住居跡 穴跡 土坑	柱 弥生土器 イト割片	サヌカ 平坦地が存在し、居住遺構が検出できる。遺構の上位に、遺物包含層が堆積する。
22	竪穴住居跡 穴跡 土坑	柱 弥生土器 イト割片	サヌカ 平坦地が存在し、居住遺構が検出できる。遺構の上位に、遺物包含層が堆積する。

第10表 黒羽地区予備調査トレンチ一覧表



第106図 黒羽地区予備調査トレンチ位置図 (1/4,000)

第3節 調査の方法

調査区を第104図のようにⅠ～Ⅲ区に設定した。遺構平面図は、主に航空測量により作成し、一部平面図と断面図のすべては手書き測量で作成した。

当報告では、遺構名は基本的に調査時の遺構名をそのまま使用する。従って、遺構名は、調査区名を組み合わせたものとなる（たとえば、Ⅰ区SK01）。

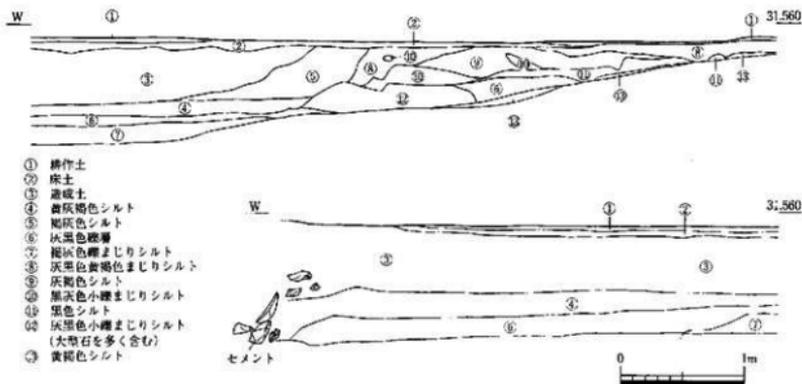
Ⅰ区の調査においては、包含層掘削時に多量のサヌカイト製の石器類が出土したため、一部の範囲で1m四方のグリッドを設定して遺物を取り上げている。グリッド名はアルファベットと数字を用いて表し（たとえばA1）、石器観察表の遺構名欄等でそのグリッド名を使用して、出土位置を表している。なお、グリッドの設定位置とその名称つけの方法は、第6章第2節2の報告のところで、述べる。

第4節 土層序

土層断面図を報告する位置は、付図に表記している。

Ⅰ区（第107図）は調査前は、一面の耕作地となっていたが、調査区断面等からは元々2面あった耕作地が、昭和40年頃に一面に改良されたものと判明した。③層はそのときの埋土である。④層は区画整理前の旧耕作土である。⑤⑧⑨層は、土地改良前の耕作地を造成した際の造成土と考えられる。⑥⑦⑩⑫⑬層は弥生時代の遺物包含層である。Ⅰ区北部では黒褐色小礫混じりシルト層の上層として、黄褐色灰泥粘質土層が見られる。基盤層は、黄褐色礫混じりシルト層である。

Ⅱ区は、調査区壁面では断面図を作成していない。また西北部の耕作地区画はトレンチ調査の結果、旧河道による砂礫層の堆積が見られ、遺構は確認できなかったため、以後は調査を行わなかった。また、南部の耕作地区画のうち西半分でも砂礫層が見られ、遺構は確認できなかった。遺物包含層は4層に分



第107図 Ⅰ区中央断面図 (1/80)

かれる。

Ⅲ区（第108図）は、南西から北東への傾斜地で、北東側半分には遺物包含層の堆積がみられる。北壁と北東壁で断面図を作成した。⑤層が遺物包含層である。基盤層は淡黄褐色礫泥じりシルト層である。

第5節 遺構と遺物

当遺跡では、石器類が大量に出土しているため、時間の制約上、実測できなかった石器の一部については、写真図版で掲載している。写真図版のみに掲載された石器の詳細については観察表を参照されたい。

1 縄文時代後期（第109図）

包含層や遺構から縄文土器が出土している。時期の判明するものとして、2~14, 16が後期前半永井Ⅰ~Ⅲ式*に当たるものと考えられる。なお、後に報告する石器のうち、風化が進んだ凹基式のものは当該期のものであると考えられる。

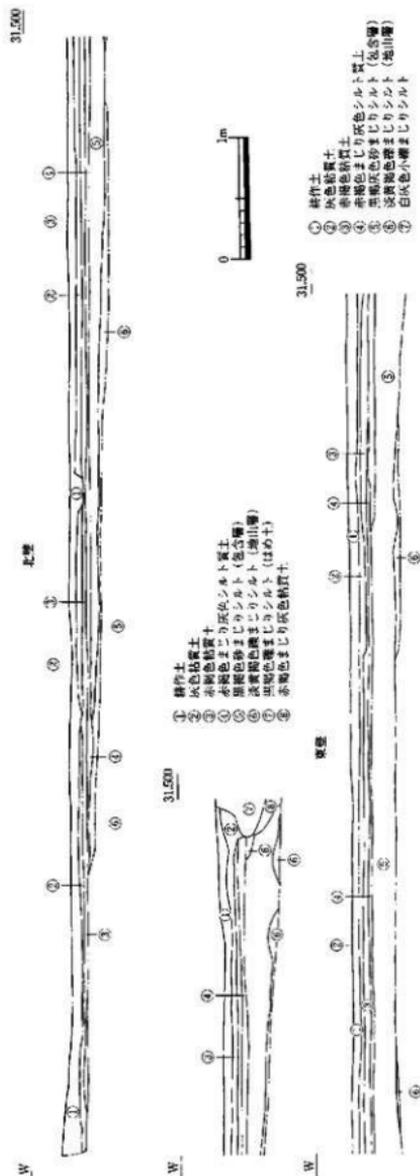
2 弥生時代中期末~後期初頭

竪穴住居跡

SH01（第110~115図）

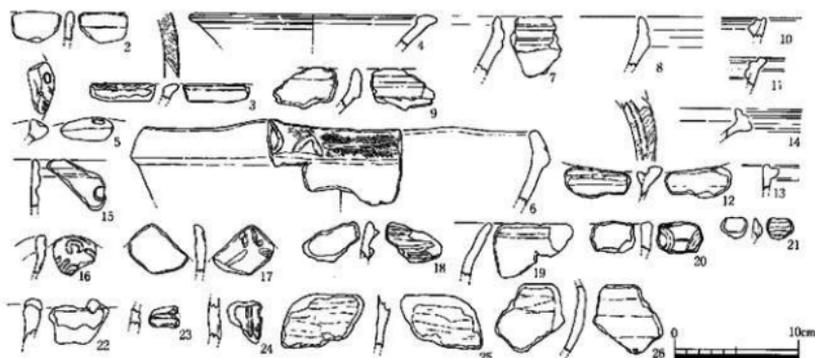
B-B'断面東側にはSH01埋土を切り込む遺構の存在が考えられる。床面の一部（点線で囲んだ範囲、2カ所）は赤変しており、被熱しているものと考えられる。一部には焼土の堆積が認められる（破線で囲んだ範囲）。中央ピットの側には、台石と考えられるものが2つある。

第112図は、深さ約30cm以上の柱穴を抽出したもので、確実な柱穴の組み合わせは



第108図 Ⅲ区断面図 (1/80)

* 1 「西国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第九号 永井遺跡」香川県教育委員会、(財)香川県埋蔵文化財調査センター、日本道路公団 1990



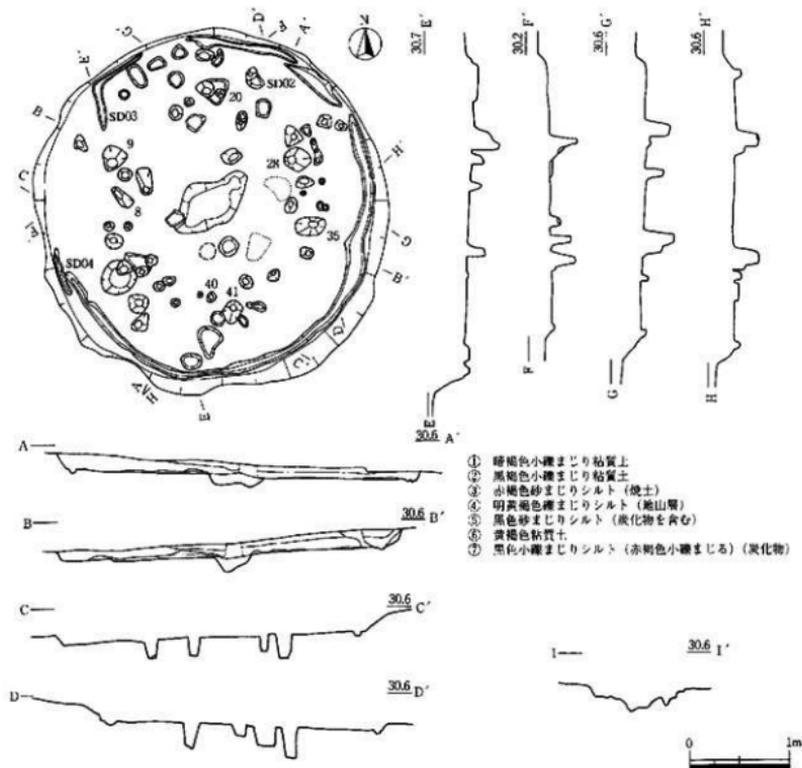
第109図 縄文土器 (1/4)

線で結んだものである。これは、P28とP35の間を除きほぼ他の柱間距離はほぼ等しくなっている。

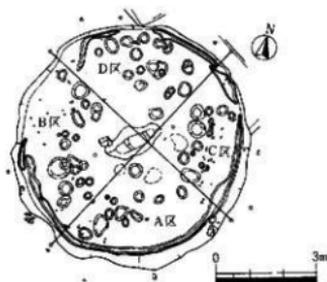
柱穴の組み合わせが複数考えられること、壁溝の一部が二重になっていること（SD02とSD04）等から建て替えが行われたことは確実である。また、壁溝SD03が曲がっているのは、張り出しあるいはベット状遺構の存在を示唆するものであろうか。

埋土から弥生土器の他、多量のサヌカイト製品及び剥片が出土している。石器類の集計は第6章で報告する。遺物は十層断面観察用の畦で区画された区画名（第111図）で、取り上げている。各遺物の出土位置は観察表を参照されたい。

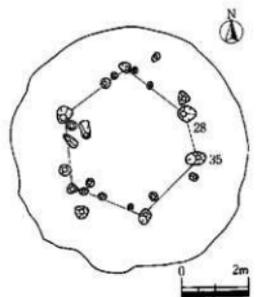
27は、予備調査時に出土したもので、竪穴住居跡の上位の埋土から出土している。頸部に備描文がある。38は水差しの手柄と考えられる。97の主要剥離面打点は点状打点である。114は先端の位置は不明である。132は右図下側に点状打点があり、その上の2枚の剥離面は両極技法による主要剥離面と考えられる。135は左図莖部左側に潰し状の小剥離が見られる。139上部には稜面がある。143は右図右下の折れ面を利用して加工している。145は先端部に向かい厚くなり、先端部側に打点があったと考えられる。149は石鏃未製品としたが、石鏃の可能性もある。151は左図右側は潰れており、楔形石器素材とも考えられる。154は右図右上には潜在割れ面がある。楔形石器削片素材と考えられる。166は稜面を楔形石器に見られるように加撃した素材を利用している。167は主要剥離面は点状打点である。170は左図上部に楔形石器に見られるような裁断面があり、また同左図には大きな階段状剥離面がある。172の主要剥離面は点状打点である。打面には稜面が残存している。174は階段状剥離が多く、楔形石器を素材としたものと考えられる。177は摩滅面があり、石磨丁の転用と考えられる。179右図右側面は折れ面である。182主要剥離面は点状打点である。183左図下側の二次加工は潰れに近い剥離面である。184以降は肉眼では金山産サヌカイトと異なる特徴をもつサヌカイトを素材としたものである。186は側辺の一部に潰れが見られ、点状打点の加撃により二次加工と考えられる。188は点状打点を持つ主要剥離面である。189も同様である。194は柱状片刃石斧転用の石器で、石鏃の様な形であるが、確実に二次加工により成形されているかどうかは不明である。196は穿孔部と外周部がサンドイッチ状に風化している。当遺跡から出土した同形態の石製品は同石材で、同様な特徴をなす。



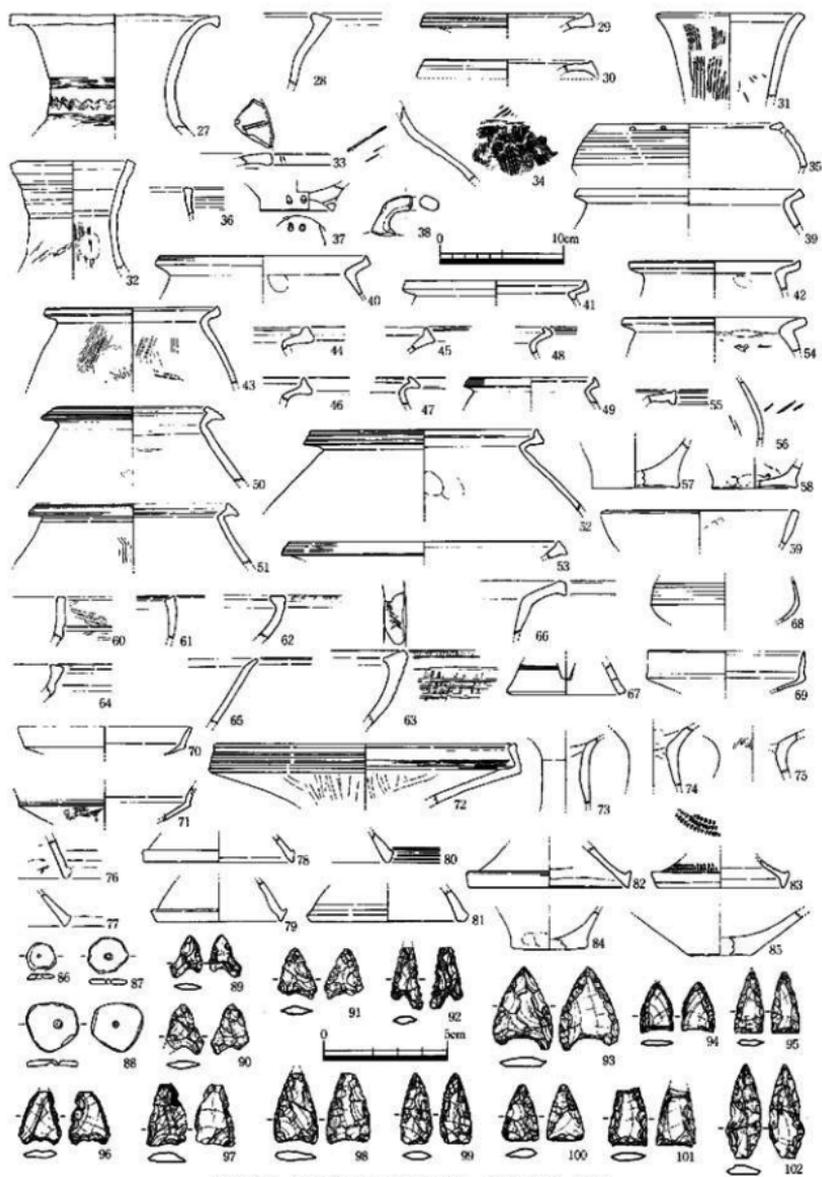
第110図 SH01平・断面図 (1/100)



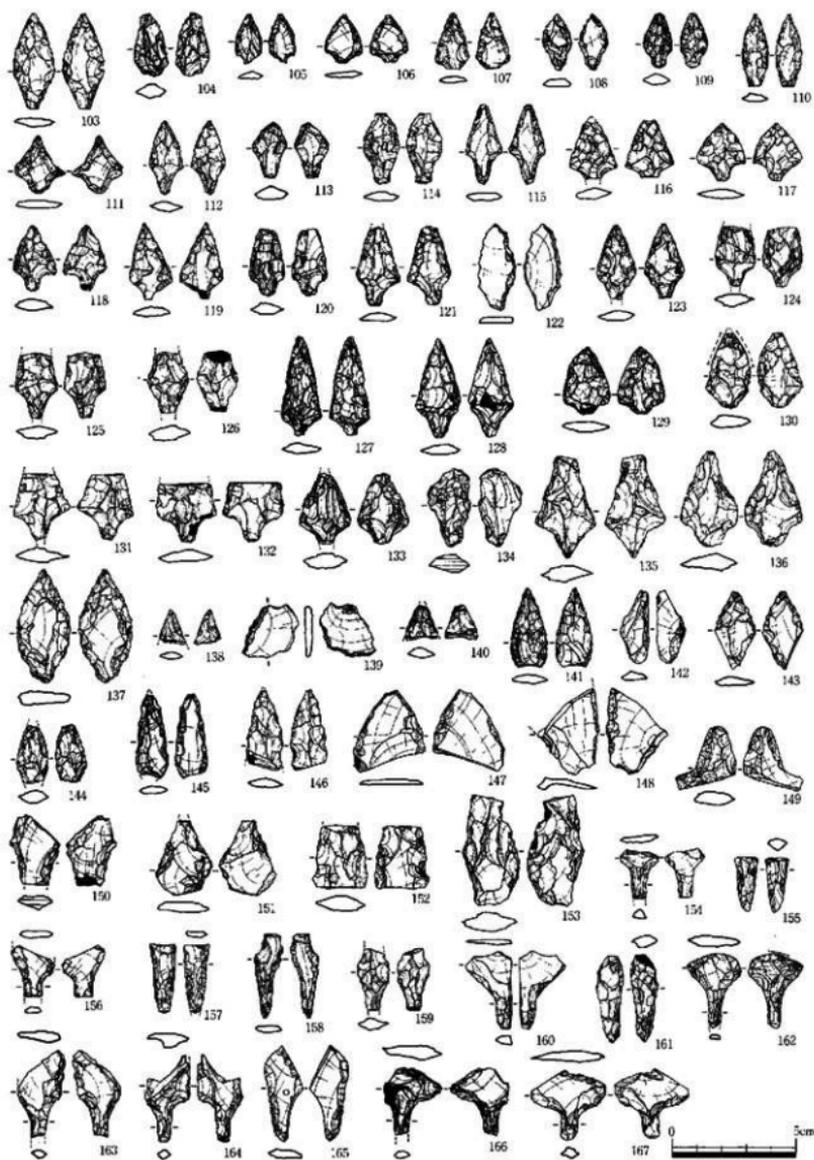
第111図 SH01区画割図 (1/150)



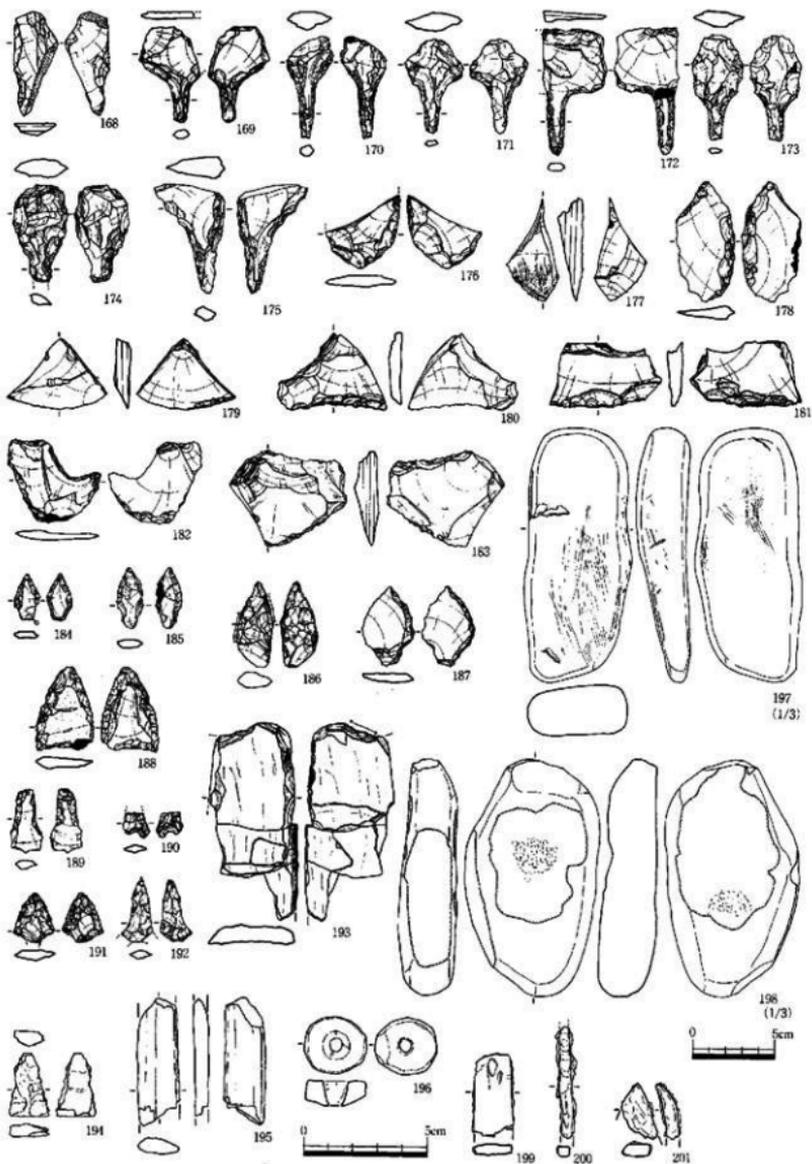
第112図 主柱穴平面図 (1/150)



第113圖 SH01出土上器(1/4)·石器(1)(1/2)



第114图 S H01出土石器(2)(1/2)

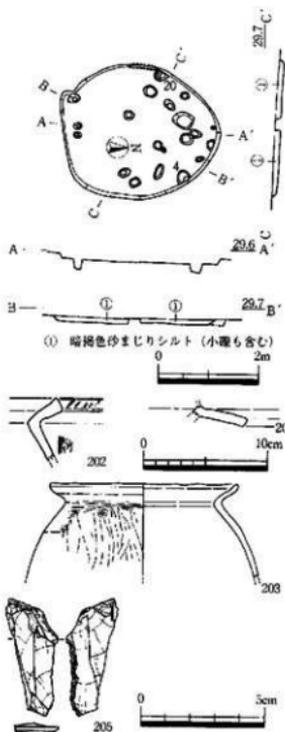


第115圖 SH01出土石器(3) (1/2·1/3)·鉄器(1/2)

I区SH02 (第116図)

床面に支柱穴の組み合わせや中央ピットを検出できていないので、竪穴住居跡とするには問題がある。まわりのピットを含めて、支柱穴構成を復元した方が良いと考えられる。この遺構が竪穴住居跡の一部であるとすれば、一番深く掘り込まれた部分が残存していたに過ぎないものと考えられる。ピット20には焼け石がみられ、このピットから南へ80cm程度は壁面が焼けて赤変している（点線で囲んだ範囲）。

204は、弥生時代中期の高杯の破片である。205は、楔形石器の削片を利用したものと考えられる。



第116図 SH02平・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4)・石器 (1/2)

土坑

I区SK01 (第117図)

方形の掘方を持つ。弥生時代中期の上層が半袋程度出土している。207は短頸壺である。

I区SK05 (第118図)

遺構の位置は不明である。遺物は弥生時代中期後葉の土器が半袋のほか、サヌカイト削片が出土している。

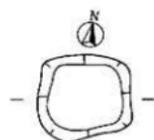
I区SK01 (第119図)

サヌカイト削片1点が出土している。

I区SK02 (第120図)

予備調査時 (19トレンチ) に、この遺構の上位から、鉢210及び20cm大の円礫と一緒に出土している。おそらく、この遺構に伴うものと考えられる。円礫の一つは、写真で見える限りは、上面が平坦で、SK02の東壁際に復元できる。また、予備調査の時にはこの遺構の東側2mのところ、住居跡の壁とも考えられる落ち込みを検出している。そのため、このSK02は竪穴住居跡の中央ピットで、礫は中央ピット側の白石、SK02周囲のピットを柱穴と考えることもできよう。

遺物は、弥生中期後葉の鉢210及びサヌカイト削片が1点出土している。



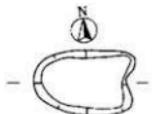
第117図 I区SK01平・断面図(1/50)・出土土器(1/4)



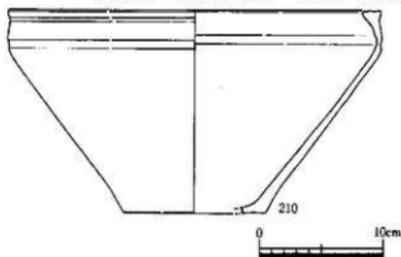
黒褐色小礫まじり粘質土



第118図 I区SK05出土土器(1/4)



第119図 II区SK01平・断面図(1/50)



第120図 II区SK02付近平面図及びSK02断面図(1/100)・出土土器(1/4)

I・II区柱穴群(第121・122図)

この調査区のピットは遺物を出土するものは、縄文土器及び弥生土器のみを出土し、遺構検出面の上の遺物包含層からも弥生時代より新しい遺物はほとんど出上していないことから、ほとんどのピットが弥生時代の建物の柱穴と考えられる。柱穴の深さ及び配置を手がかりに竪穴住居跡の復元を試みた。明確な支柱穴構成が判明しない場合は、おおむねの床面範囲を図示している。なお、包含層等からの石器類の出上量の多さから考えても、SH01のみで構成される集落を想定することは問題があり、複数の竪穴住居跡からなる集落跡を想定した方が良いでしょう。

211~220は柱穴から出土した遺物である。211は摩滅して不明であるが、分銅形土製品の可能性がある。217はわずかに敲打痕が残る敲石である。218は先端近くに素材剝離時の打点がある。219は線状をなす敲打痕がある。220は左同側の面の方が著しく使用されている。

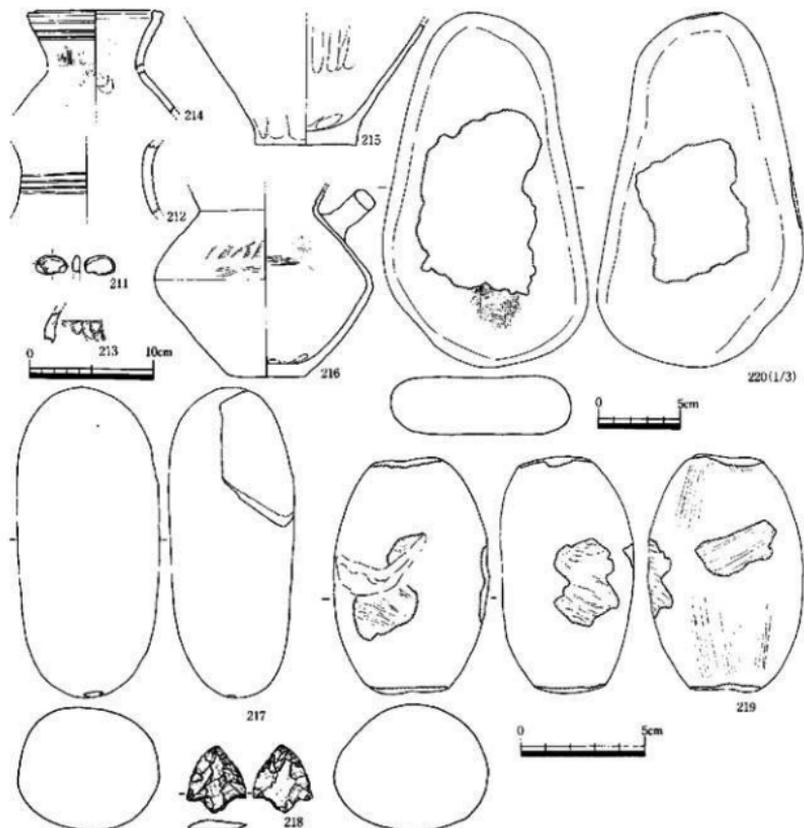
不明遺構

I区ST01(第123・124図)

調査時には、埋葬遺構の遺構記号を使用しているが、埋土に焼け石、土器、炭、焼土が雑然と含まれており、埋葬遺構の可能性は小さい。ただ、掘方が方形で、垂直に近い壁面をもち底面も平らであることから、通常の廃棄土坑とは考えがたい。また、土器片も比較的大きい。焼け石はほとんどが砂岩で、



第121圖 壑穴住居跡分布想定圖 (1/200)



第122図 I・II区柱穴山土器 (1/4)・石器 (1/2・1/3)

コンテナ6箱出土している。なかには石皿の破片と考えられるものもある。なお、壁面及び底面には赤変部は認められない。遺物は、土器の他にサヌカイト製の石器231及び剥片8点が出土している。

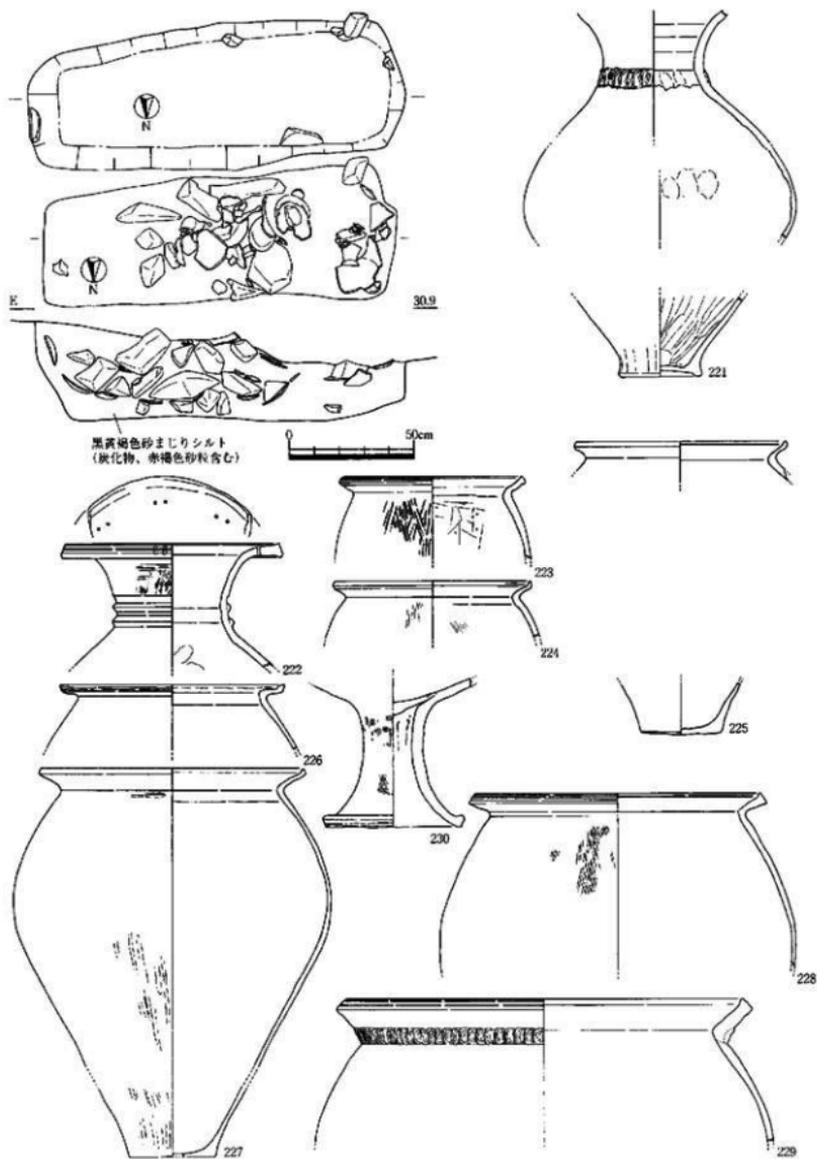
221・223は剥離状のひび割れや破断面が見られる。231.2は全面磨面のようにしており、一部分焼けて赤変している。

I区S X02 (第125図)

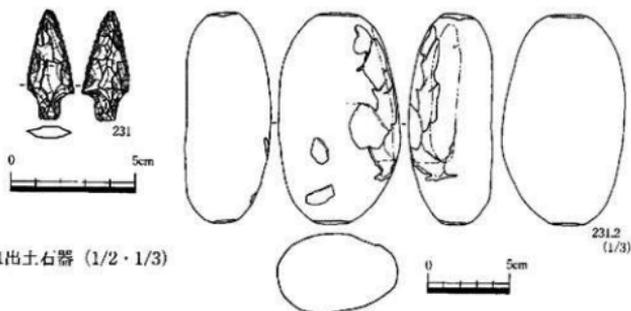
I区S D01南側の調査区壁際にある遺構である。調査時には、旧井戸跡と推定しており、記録作成の対象としてはいないので、詳細は不明である。弥生時代中期の土器が多量に出土している。251は朝鮮系無文土器と考えられる。

I区S X03 (第126図)

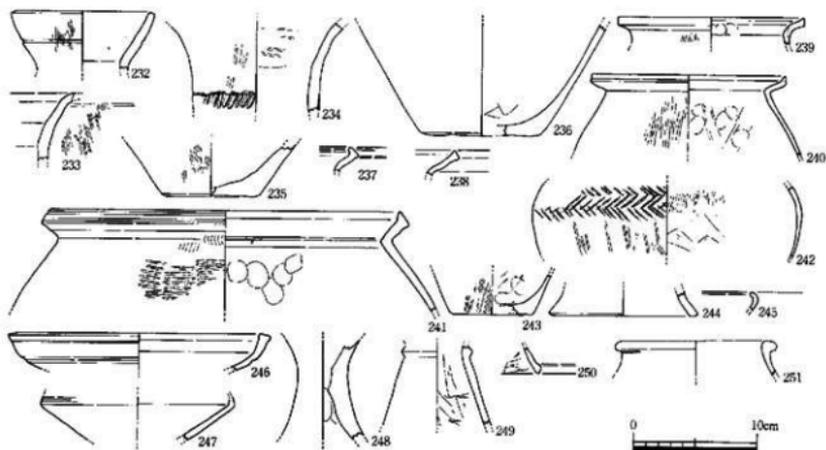
平面形不定形な土坑である。深さは数cm程度の浅い遺構である。弥生土器252～255及びサヌカイト剥



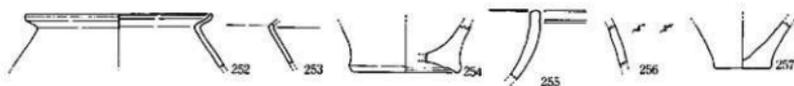
第123図 I区ST01平・断面図(1/20)・出土土器(1/4)



第124図 I区S T01出土石器 (1/2・1/3)



第125図 I区S X02出土土器 (1/4)



第126図 I区S X03・05出土土器 (1/4)

片5点が出土している。

I区S X05 (第126図)

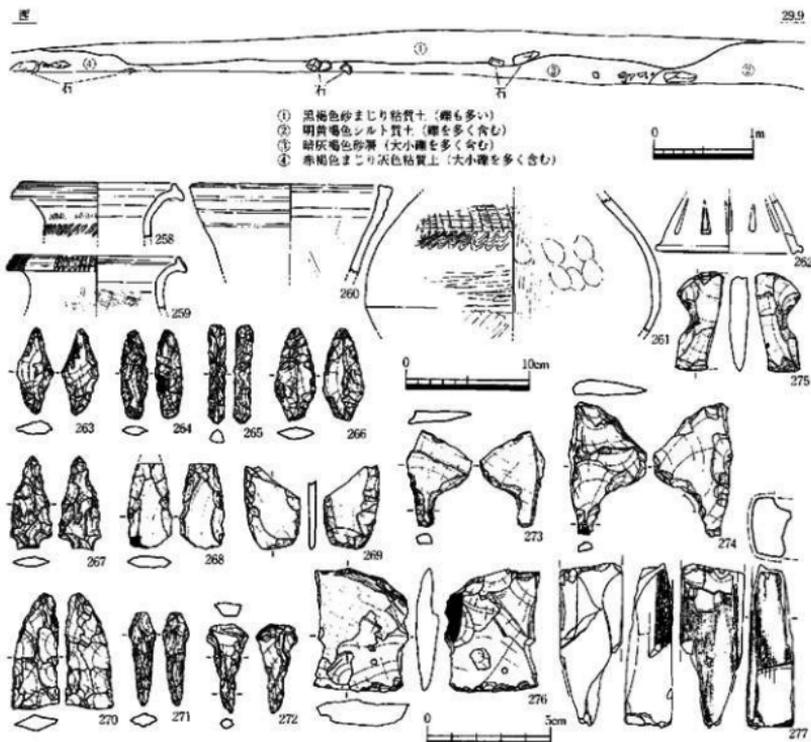
S H01北側の土坑及びピットのまともりを含む範囲を指していると考えられる。弥生土器256・257が出土している。

溝跡

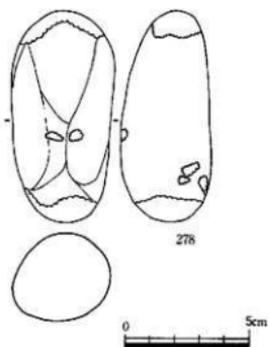
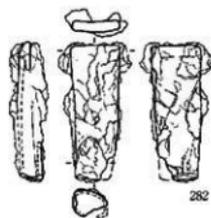
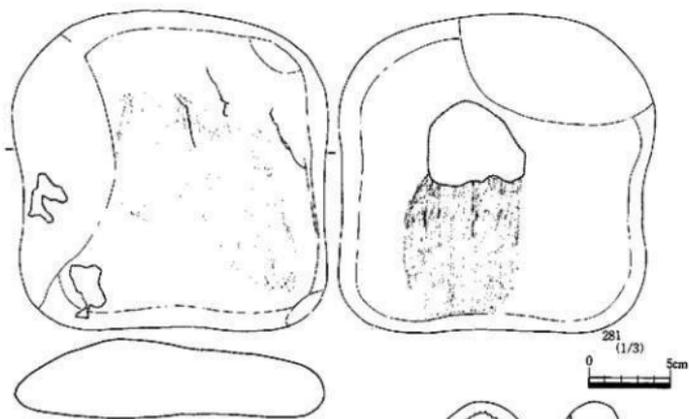
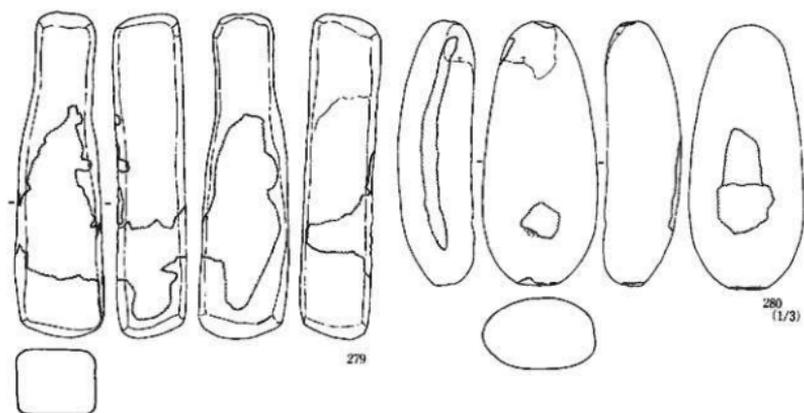
I区SD01 (第127図)

南端、調査区壁際で急に幅が狭くなっている。断面図は溝の方向に対して直交せず、かなり斜めの横断面で作成している。弥生時代後期後葉頃の土器がコンテナ1箱、サヌカイト製石器及び剥片が数100点出土している。

268は下端に裸面がある。272は上端部は楔形石器の敷断面と考えられる。273は左図左側の調整剥離は右図右側の折れ面に対してなされている。素材剥片の大きさから考えて石廂丁の転用品の可能性がある。274は左図左側は両極技法による裁断面で、右側挟り部には潰れが見られることから、石廂丁の転用品であろう。右図右側には折れ面からの調整剥離が認められる。275は石廂丁の破片であるが、両極技法により裁断されている。大きな剥離面の大半は挟り部形成のための剥離面よりも新しく、この大きな剥離面は石廂丁を楔形石器に転用した際にできたものか、あるいは石廂丁の製作工程を示すものであろうか。279の左端部の敲打面には一部荒い敲打が見られる。280の上部には黒色物の付着がある。281右図は敲打後の磨面がある。282は下端が袋状にみえるが、詳細は不明である。



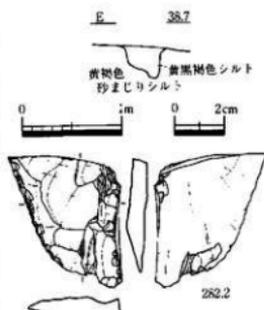
第127図 I区SD01断面図 (1/50)・出土土器 (1/4)・石器 (1) (1/2)



第128图 I区S D01出土石器(2)(1/2·1/3)·铁器(1/2)

I区SD01 (第129図)

幅は小さいが、深さはある程度深い溝跡である。平面形は不整形である。弥生時代中期の土器が1袋程度、サヌカイト製スクレイバー1点282.2が出土している。右図左側の折れ面は主要剥離面より前に剥離された面である。また主要剥離面末端の剥離面は、背向の階段状剥離による潜在割れが主要剥離に伴い現れたものである。



第129図 III区SD01断面図
(1/50)・出土石器(1/2)

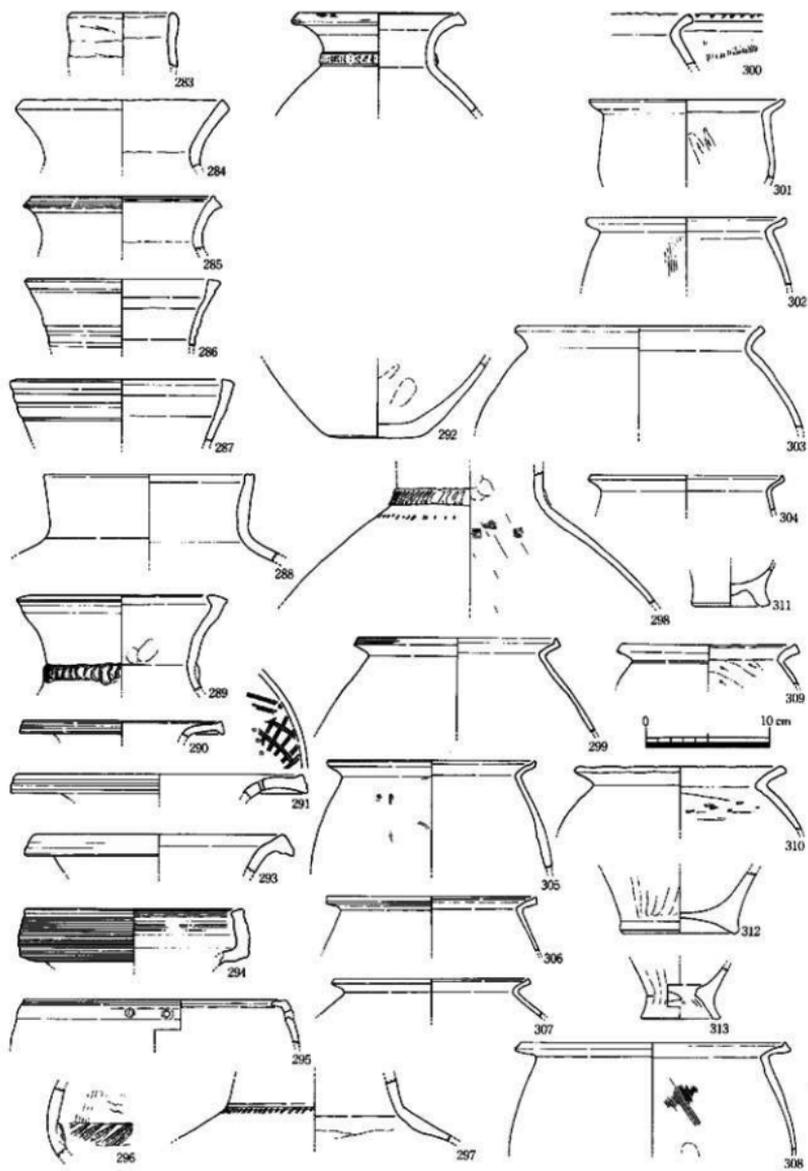
包含層出土の遺物

ここでは弥生時代の遺物包含層出土の遺物を調査区ごとに報告する。なお、包含層から出土した下川津B類土器は、破片19点を確認している。

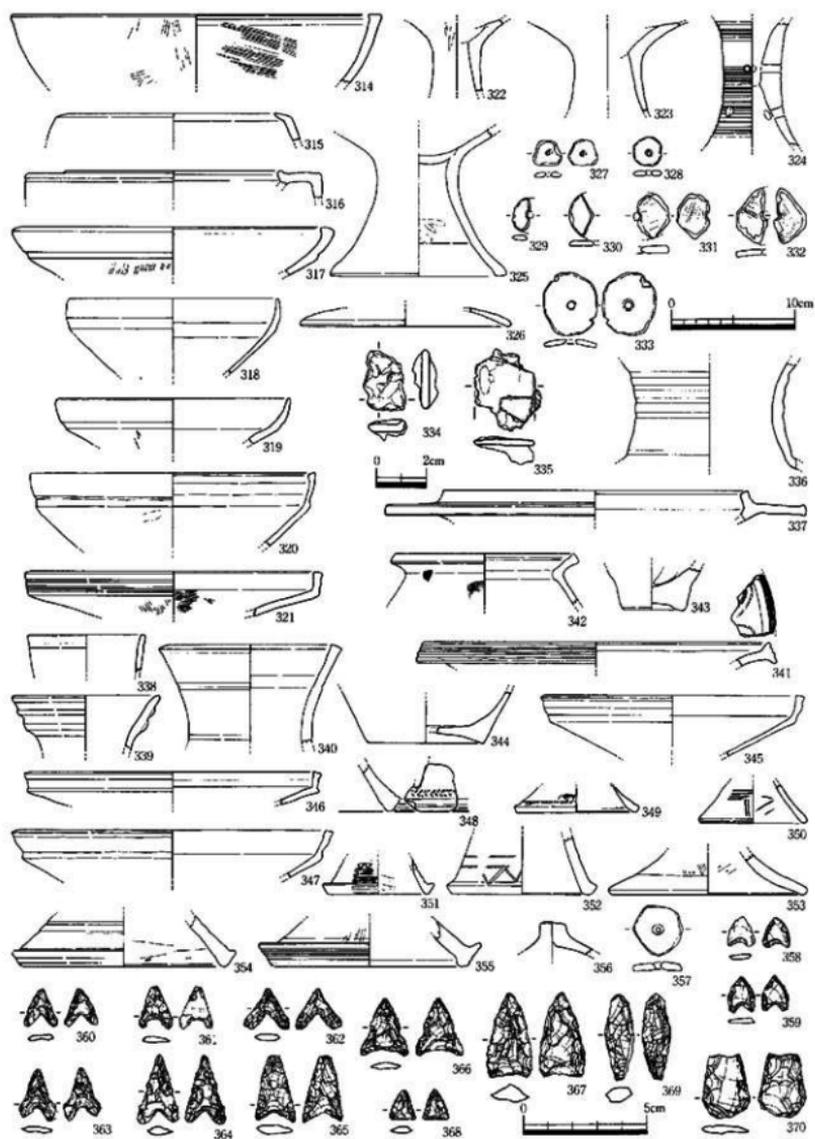
I区(第130～136・140図)

I区では、2層の包含層が見られる。283～333は黒褐色小礫混じりシルト層から出土した土器である。292の高さは不確定である。334・335は同層から出土した鉄器である。336・337は明黄褐色灰色粘質土層から出土した土器である。338～357は遺構検出時や表土機械掘削時に出土した層位不明の土器である。

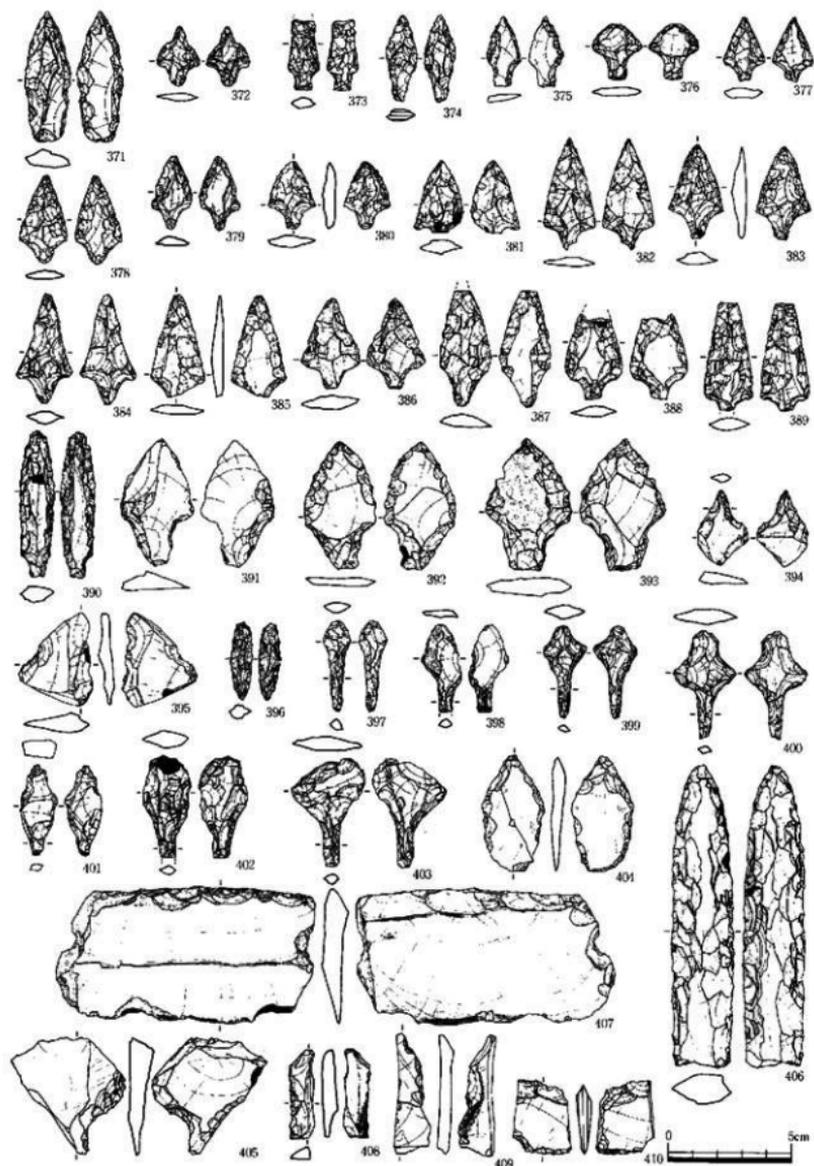
358～468は石器である。出土層位は観察表を参照されたい。また、石器については一部1m四方の区画ごとに遺物を取り上げている部分がある。区画を設定した位置は、第6章第2節2のとおりである。358は風化が進んでいる。364も風化が進んでいる。370は二次加工が点状打点の加撃で行われている。378は基部が白く変色している。391右図上端に小剥離面は潜在割れが現出した面と考えられる。398は先端部に摩滅が見られるが、摩滅後に折れている。401は先端に表面がざらざらとする磨面があるが、肉眼では線状痕は観察されない。402の主要剥離面打点は点状打点である。405は右図左上に主要剥離以前の折れ面が見られる。408は楔形石器削片状である。411左図下端剥離面は摩滅面より新しい剥離面である。413右図右側の細長い剥離面は潜在割れが現出したものであるが、この潜在割れの延長面が左図左下の小剥離面である。414は折れ面より新しい敲打痕が見られる。416左図下端中央には潰れあるいは摩滅にみえる部分がある。418には上部に表面がざらつく磨面が見られる。二次加工はいずれも折れ面を打点としてなされたものである。431は風化が進んでいる。434の側辺の敲打痕には一部摩滅に近い部分も存在する。435の刃部先端には主軸と直交する研磨されたわずかな平坦面があり、未製品の可能性もある。各研磨された面の研磨の程度が異なることから、転用品の可能性もある。437も同様な可能性もある。438は刃部に主軸と直交する平坦面があり、未製品の可能性がある。439.2は面により研磨の程度に差があり、割れ面にはつぶれが認められる。441は側辺の研磨の程度は小さい。442は研磨後の敲打による凹みの形成が認められ、緊縛部分の形成のためと考えられる。444は刃器への転用が考えられる。447は側辺を敲打しており、石型丁への転用が考えられる。448は表面に石理がみえる石材である。穴は上から下へとすぼまることから片側穿孔と考えられる。449には中央に擦痕あるいは線状痕が見える。両側穿孔である。448と449は石材の産地分析を行った。450は孔内面の調整が不整であり、回転による穿孔とは考えられない。454は側辺全面に敲打痕があり、敲石の可能性もある。461は全体的に摩滅しているが、人為的なものかどうかは不明である。462は中央に2段にわたり、点線状の使用痕がみられる。469・470は鉄器である。



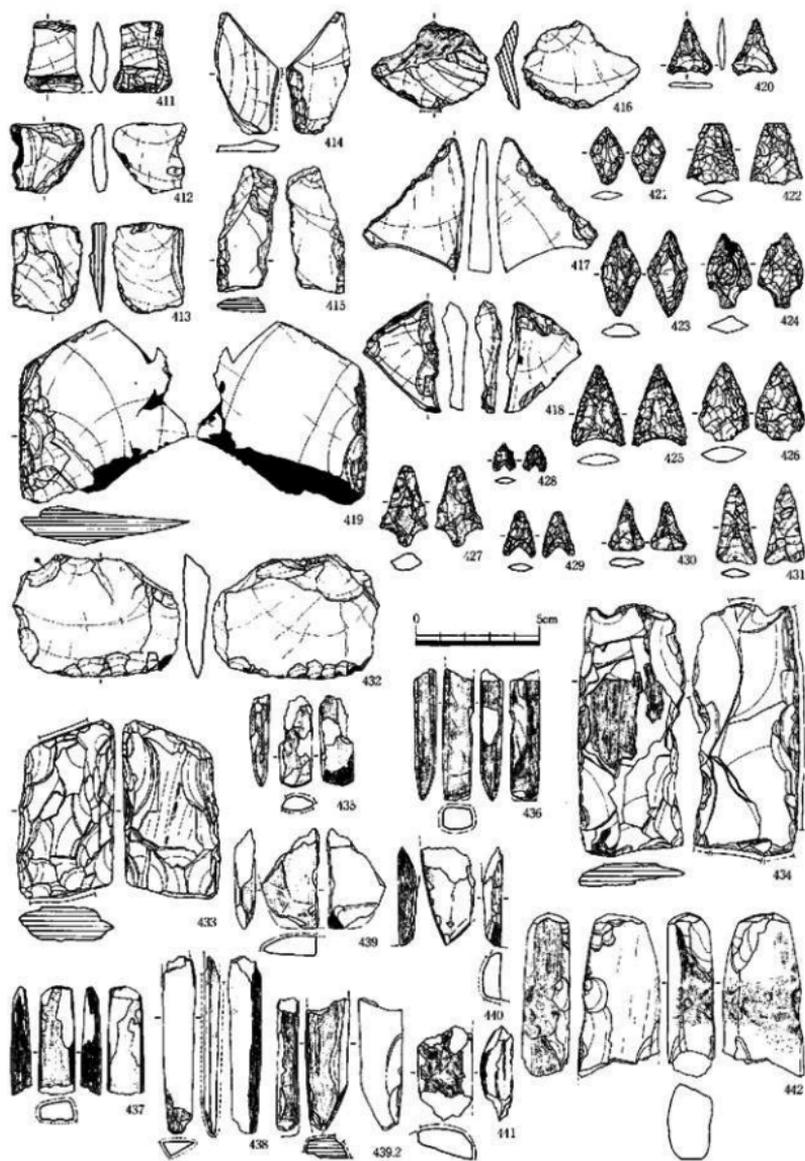
第130图 I区包含出土七器(1)(1/4)



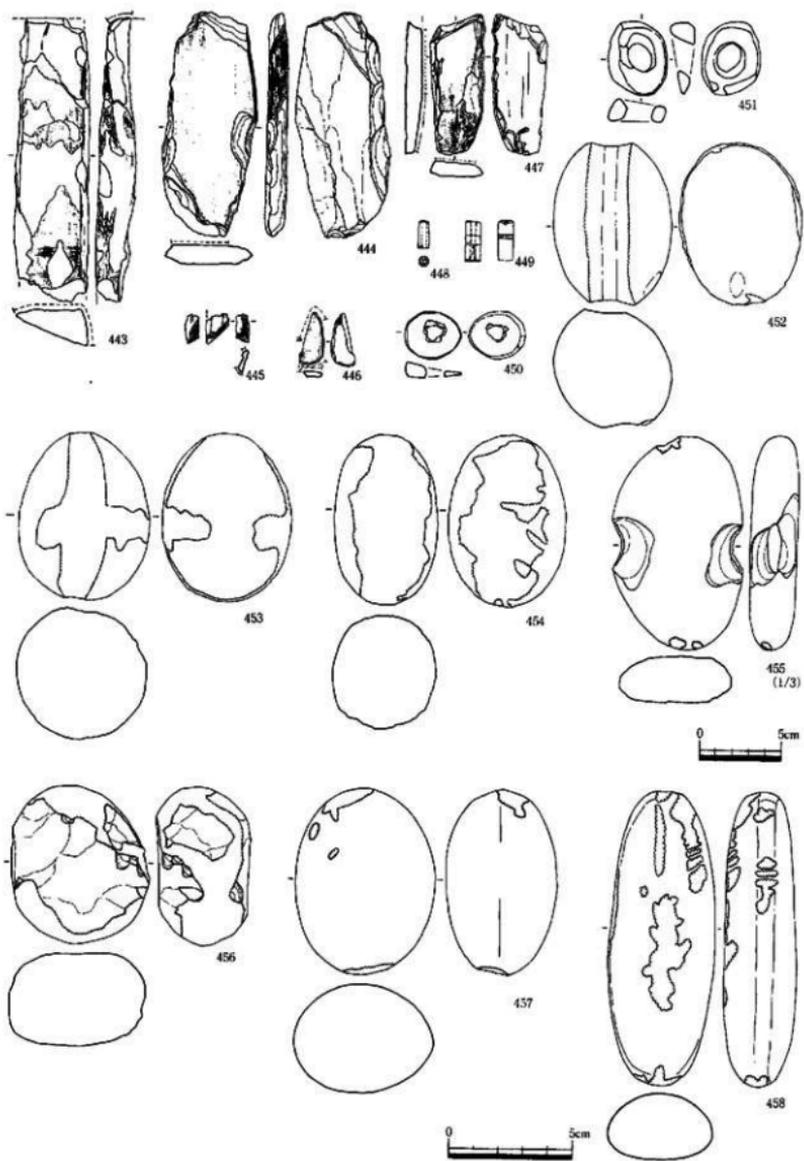
第131图 I区包含层出土器物(2)(1/4)·石器(1)(1/2)·铁器(1)(1/2)



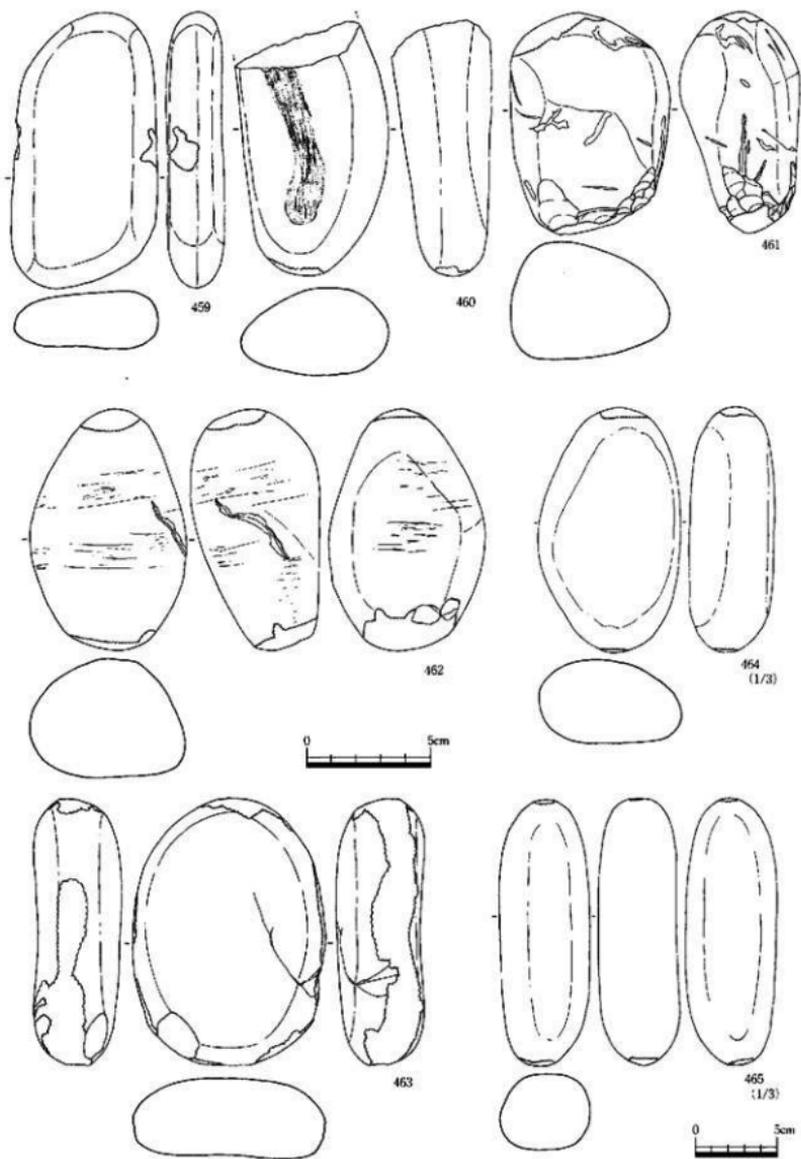
第132图 I区包含层出土石器(2)(1/2)



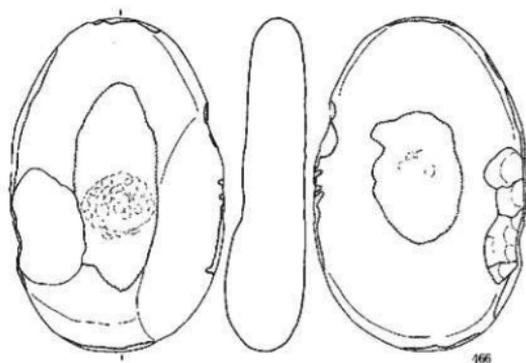
第133图 T区包含层出土石器(3)(1/2)



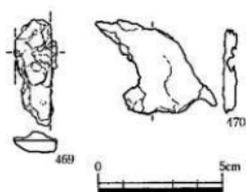
第134图 I区包含层出土石器(4)(1/2·1/3)



第135图 I区包含层出土石器(5)(1/2·1/3)



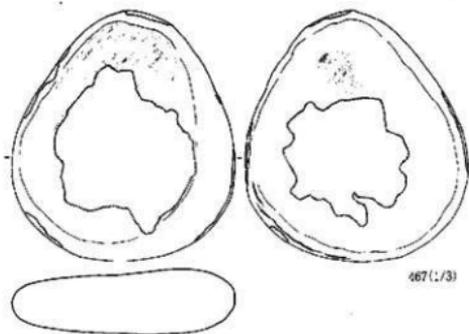
166



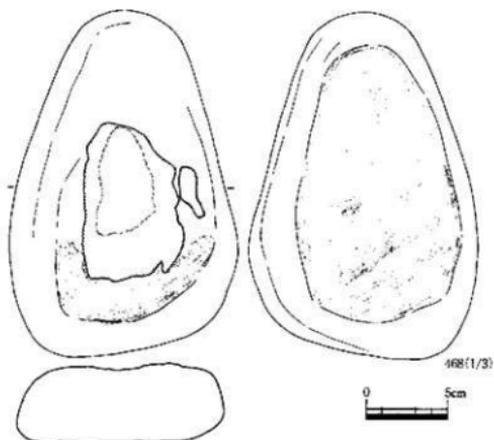
169

170

0 5cm



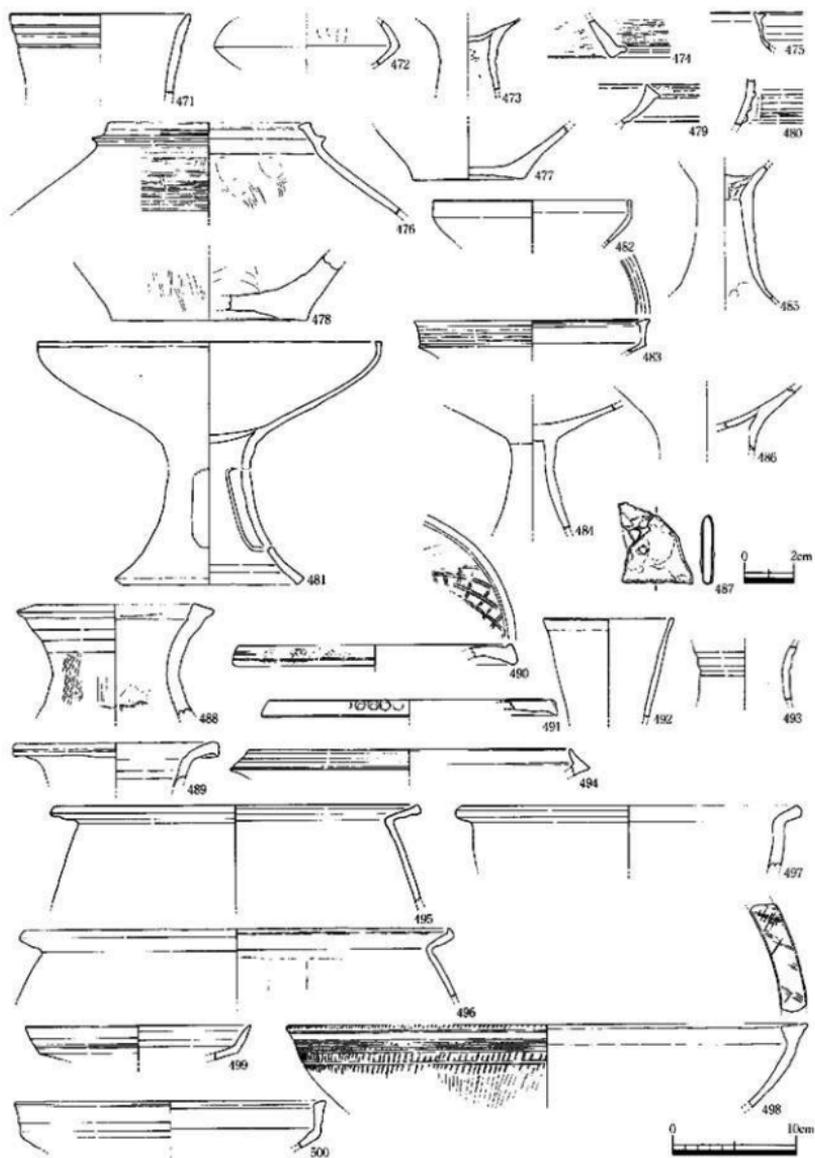
167(1/3)



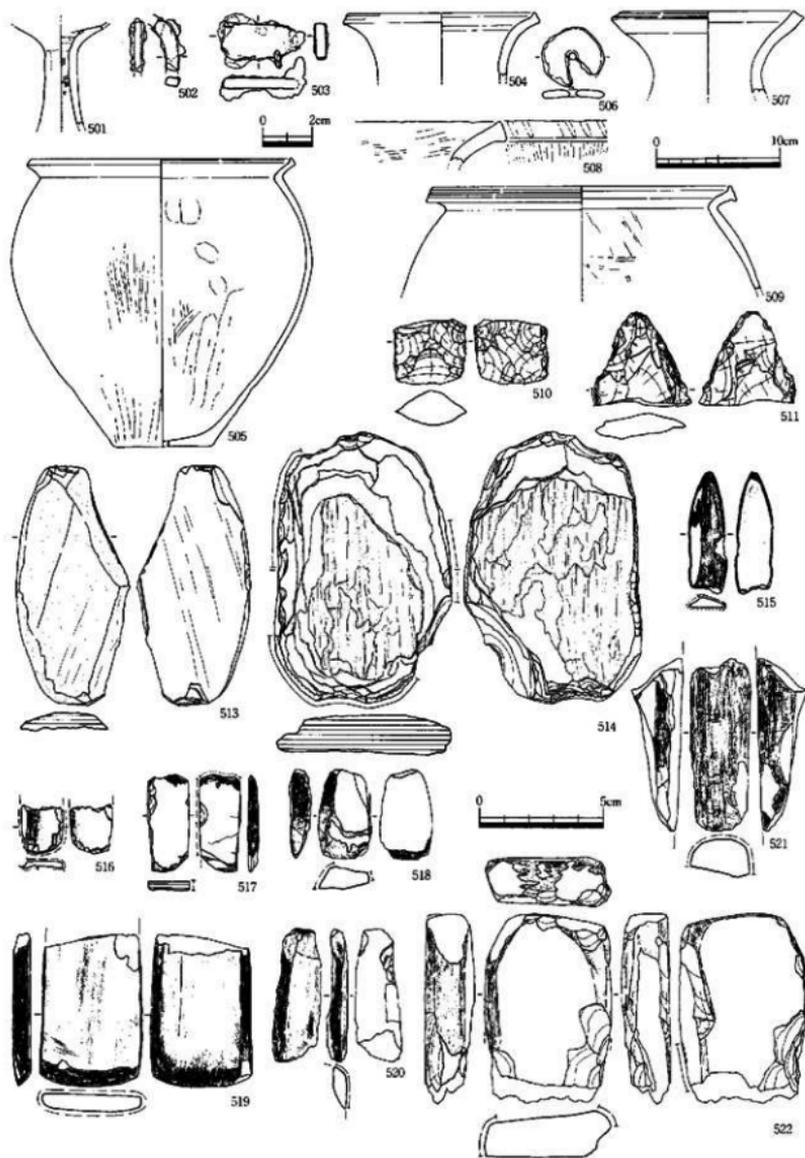
168(1/3)

0 5cm

第136图 I区包含层出土石器(6)(1/2·1/3)·铁器(2)(1/2)



第137图 II区包含出土上上器(1)(1/4)·铁器(1)(1/2)



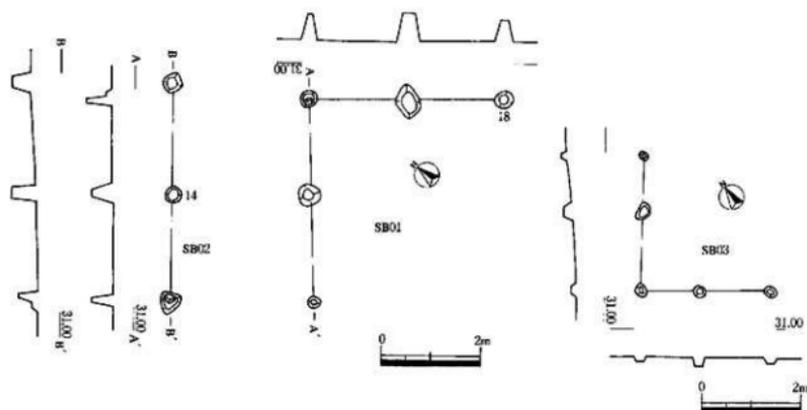
第138图 II区包含层出土土器(2)(1/4)·石器(1)(1/2)·铁器(2)(1/2)



第139图 II区包含層出土石器(2)(1/2·1/3)·鉄器(3)(1/2)

Ⅱ区 (第137～139図)

Ⅱ区では遺物包含層は4層に分かれ、上層から順に、灰色混じり黄褐色粘質土、黄褐色混じり灰色粘質土、黒褐色小礫混じりシルト、暗灰色粘質土層となっている。471～474は灰色混じり黄褐色粘質土から出土した土器である。475～486は黄褐色混じり灰色粘質土から出土した土器である。なおこの層からは、「寛永通寶」が出土している。混入品であろう。487は鉄器である。488～501は黒褐色小礫混じりシルトから出土した土器である。502・503は鉄器である。503には鉄線状の突起がある。504～506は暗灰色粘質土から出土した土器である。507～509は機械掘削時に出土し、層位不明の上器である。510～527はⅡ区包含層出土の石器である。出土層位は観察表を参照されたい。513は円礫を板状に剥離し、その剥離面先端をそのまま刃部として使用している。上下両端には潰しが見られることから石産丁とした。517は上部が尖り気味のため、刃部の可能性がある。519は各面の研磨の程度に違いがあり、転用品の可能性がある。520は柱状片刃石斧破片で、一部に破損後の敲打痕が見られる。522は研磨が見られるが、柱状片刃あるいは扁平片刃いずれにしても通常のものよりは大きい。研磨後折損面付近を敲打している。523の孔内面は不整で、回転穿孔によるものではない。526は全体に摩滅している。527.2は、太型蛤刃石斧である。両面には一部研磨の及んでいない凹みがある。また側面には研磨後、敲打痕が見られる。Ⅱ区の前備調査トレンチの掘削時に出土していることから、Ⅱ区SK02近辺での出土が考えられ、前述したように堅穴住居跡から出土とみることも可能である。528は鉄器である。



第140図 Ⅱ区SB01～03²・断面図 (1/100)

3 中世

掘立柱建物跡

柱穴から出土する遺物は少ないが、Ⅲ区のピットで遺物を出土するものは中世の遺物を出土するものが多いことから、Ⅲ区の遺構は当時期のものとする。

Ⅲ区 S B 01・02 (第140図)

S B 01西側の柱穴列とS B 02の柱穴列は間隔及び方位がほぼ等しく同じ建物あるいは同じ時期の建物の可能性が考えられる。柱穴14からは中世の土師器と考えられる小片が1点出土している。柱穴18からは弥生土器かと考えられる小片が出土している。主軸方位はS B 01がN32° Eで、S B 02はN54° Eである。

Ⅲ区 S B 03 (第140図)

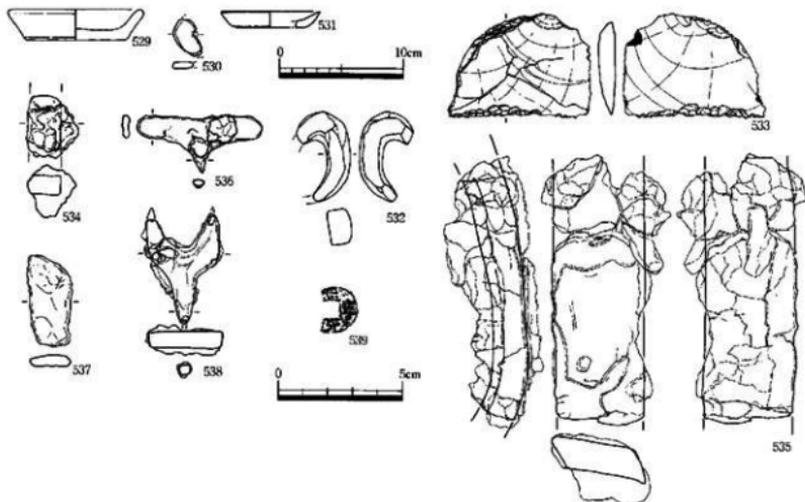
主軸方位は、N37° Eである。柱穴から遺物は出土していない。

Ⅲ区ピット出土遺物 (第141図)

529は土師器の可能性もあるが、胎土及び厚い器壁から考えて弥生土器の可能性もある。530は弥生土器転用の紡錘車である。531は土師器皿である。532は石製品である。

4 包含層出土の遺物 (第141図)

Ⅲ区包含層からは弥生時代から近世までの土器片及び石器533が出土しており、これに加え鉄器(534~538)が出土している。また、539は、初鋳年1068年の宋銭「熙寧元寶」で、『中世の出土銭』*149-1に類似する。裏面に文様等はない。



第141図 Ⅲ区ピット・包含層出土土器(1/4)・石器(1/2)・鉄器(1/2)・銅銭(1/2)

*1 永井久美男編『中世の出土銭 -出土銭の調査と分類-』兵庫県埋蔵文化調査会 1994

第5章 自然科学分析の成果

第1節 金毘羅山遺跡出土縄文土器に付着した赤色顔料について^{*1}

本田 光子 (別府大学)

金毘羅山遺跡出土土器に付着残存している赤色物について、その材質と状態を知るために顕微鏡による観察および蛍光X線分析を行った。

出土土器に赤色物が付着残存している場合、その赤色の由来としては三つのことが考えられる。第1は装飾を目的にした赤色塗彩、第2は赤色物の貯蔵容器、第3はいわゆる内面朱付着土器である。現在までの知見に寄れば、三種の出土土器に付着残存する赤色物は鉱物質の顔料であり、酸化第2鉄 Fe_2O_3 を主成分とするベンガラと、赤色硫化水銀 HgS を主成分とする朱の2種が用いられている。第1の装飾と、第2の貯蔵についてはベンガラと朱の両者が認められ、第3の場合は朱である。

これら以外に古代の赤色顔料としては、四三酸化鉛を主成分とする鉛丹があるが、出土例はまだ確認されていない。ここではこれら二種類の赤色顔料を考えて調査をおこなった。

顕微鏡観察

土器の外面に赤色塗彩の痕跡と思われる赤色物が付着している。実体顕微鏡で観察した所、ベンガラと思われる赤色物が土器表面および土器胎土のヒビ割れの中に入り込んでいる。一部針先に付く程度の量を探り検した所、ベンガラ粒子を確認した。濃赤色部分の上に黄褐色の粉が覆っている部分があるが残存状態が不明瞭のため判断できない。

出土ベンガラには、鉄細菌を由来としたパイプ状の粒子が含まれることがあるが、本例には含まれていなかった。

蛍光X線分析

堀場製作所(株)製MESA-500を用い、15kV-440 μ A;50秒、50kV-20 μ A;50秒、大気、の条件で行った。赤色物が比較的残りの良いなるべく平らな部分を測定した。

主成分元素としては、鉄が、他には珪素、アルミニウムが検出された。朱の主成分元素である水銀や鉛丹の主成分元素である鉛は検出されなかった。

まとめ

顕微鏡観察によりベンガラの特徴を認め、蛍光X線分析により鉄が検出され、水銀や鉛は検出されなかったことから、本例に認められる赤色物はベンガラである。本例は土器の外面上に漆のような樹脂によりベンガラが塗彩されていたものであろう。埋蔵環境により固着材が劣化し、顔料の粉だけが残存しているわけで、本来は2層以上に塗られていたのかもしれないが、本例では残念ながらはっきりとは確かめられなかった。該器の土器で、装飾に用いられる赤色顔料には朱とベンガラの両者があり、

*1 報告題名及び一覧表の表題は、本書の体裁にあわせて原報告から変更している。

それらを塗り重ねる例もあるが、今回の例はすべてベンガラのみであった。

調査の機会をいただきました（財）香川県埋蔵文化財調査センターおよび同山下平重氏に感謝いたします。

	試料	顕微鏡観察		蛍光X線分析		赤色顔料の種類
		朱	ベンガラ	水銀	鉄	
1	報告番号 186	×	○	×	○	ベンガラ
2	報告番号 147	×	○	×	○	ベンガラ
3	報告番号 179	×	○	×	○	ベンガラ

第11表 赤色顔料分析試料の分析結果

第2節 庵の谷遺跡出土のサヌカイト及び碧玉製管玉の産地分析

1 庵の谷遺跡出土の管玉の産地分析

業科 哲男

(京都大学原子炉実験所)

はじめに

遺跡から出土する勾玉、玉、垂玉、管玉などの岩石名の推定は、一般的には肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のよう思われているのが実態である。玉類の原材料としては滑石、軟玉（角閃石）、硬玉、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉、緑色凝灰岩（グリーンタフ）などが推測される。それぞれの岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成を求めるなどで、非破壊で命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、例えば緑色凝灰岩製管玉と岩石名が決められ、軟かく加工が容易だと想像できても、実際の硬度、打撃脆性などを測定した上で考察しなければ、古代の管玉製作技術に関する資料として無意味である。地学の専門家でも、肉眼観察では、岩石名を間違えることは避けられないと指摘している。岩石名を決定することよりも、どこの産地の原石が使用されているか、産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となり、また産地分析の過程で岩石名決定に関係する情報も得られる。産地分析の結果から原材料産地が特定出来なくても得られた分析値を他の遺跡出土の玉類の分析値と相互比較することにより同じ組成の材料から作られた玉類の使用圏の情報も得られ、将来、原材料産地の調査が進めばこれら玉類の原材料産地は明らかになる。遺跡から出土する大珠、勾玉、管玉の産地分析というのは、玉類の製品が何処の正造遺跡で加工されたということを調査するのではなく、何ヶ所かあるヒスイ（硬玉、軟玉）とか碧玉の原産地のうち、どこの原産地の原石を使用しているかを明らかにするのが、玉類の原産地推定である。玉類の原石の産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説、発見後は、専ら国内説で、岩石学的方法¹⁾および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った蛍光X線分析で行う元素比法^{2, 3)}が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析で系統的に行った研究は蛍光X線分析法と電子スピン共鳴法を併用し産地分析より正確に行った例⁴⁾が報告されている。石鏃など石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。(1) 石器の原材料産地推定で明らかになる、遺跡から石材原産地までの移動、活動範囲は、石器は生活必需品であるため、生活上必要な生活圏と考えられる。(2) 玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではない。勾玉、管玉は権力の象徴、お祭、御守り、占いの道具、アクセサリとして、精神的な面に重要な作用を与えると考えられる。従って、玉類の産地分析で、明らかになる玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を現わしているかもしれない、お祭、御守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏が考えられる。石器の原材料産地分析で得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。

今回分析を行った遺物は、香川県大川郡引田町黒羽下内甲258外に位置する庵の谷遺跡の弥生時代の管玉2個で、産地分析の結果が得られたので報告する。

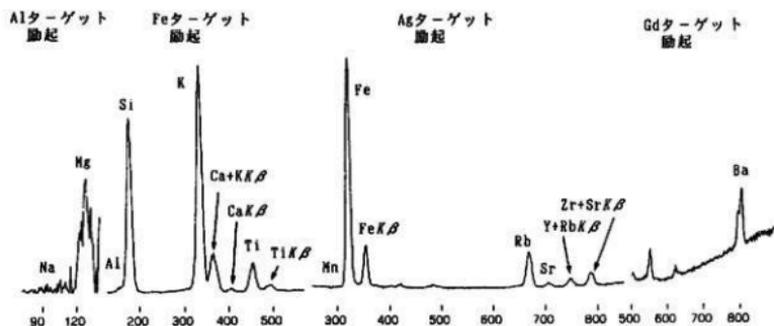
非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかないという指標を見つけなければならない。その区別するための指紋は鉱物組成の組み合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指紋でもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指紋と原産地の指紋を比較して、一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が使用されていると判定する。

ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のもが多くて、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ発展しない。石器の原材産地分析で成功している¹⁾非破壊で分析を行なう蛍光X線法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。玉類は蛍光X線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比をとり、この元素比の値を原産地を区別する指紋とした。碧玉製玉類はESR法を併用するが試料を全く破壊することなく、碧玉に含有されている常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した¹⁾。

碧玉原石の蛍光X線分析

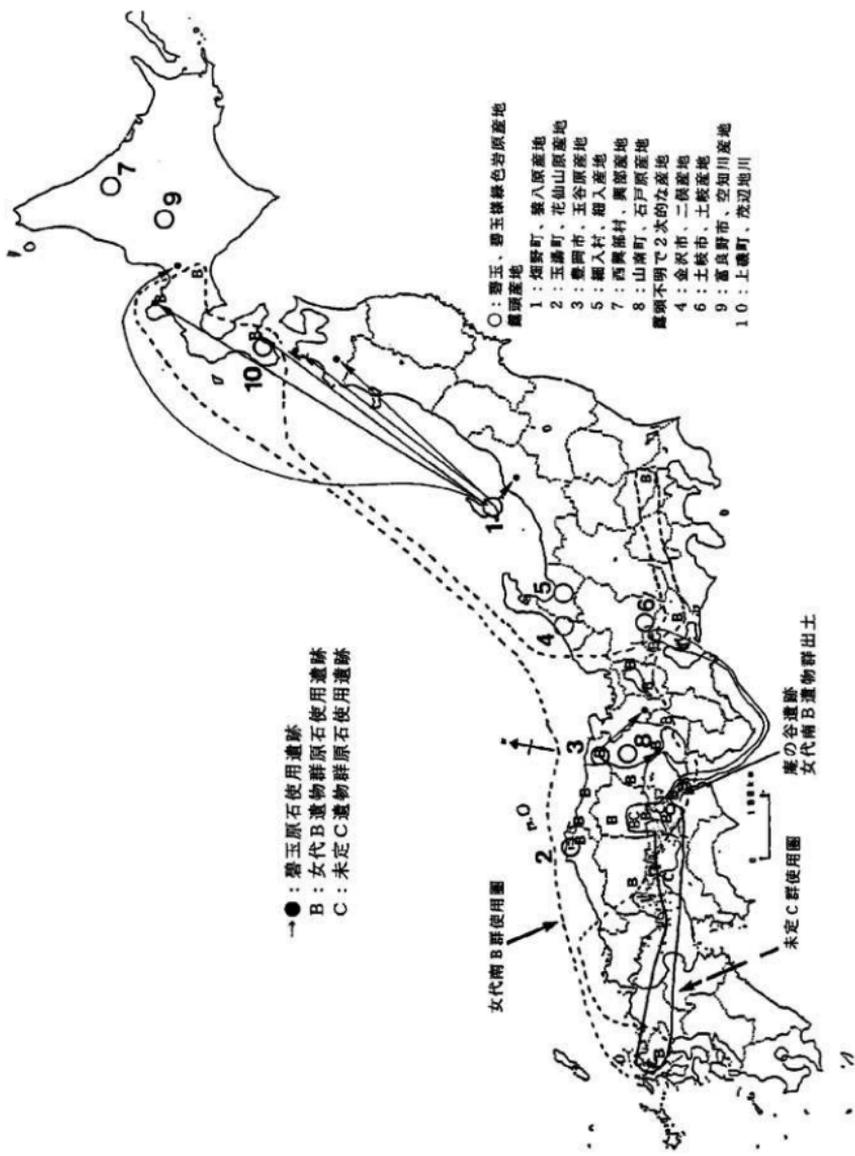
碧玉の蛍光X線スペクトルの例として島根県、花仙山産原石を第142図に示す。猿八産、玉谷産の原石から検出される蛍光X線ピークも異同はあるものの第142図で示されるピークは観測される。上岐、典部の産地の碧玉は鉄の含有量が他の産地のものに比べて大きいのが特徴である。産地分析に用いる元素比組成は、Al/Si、K/Si、Ca/K、Ti/K、K/Fe、Rb/Fe、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zrである。Mn/Fe、Ti/Fe、Nb/Zrの元素比は非常に小さく、小さい試料の場合測定誤差が大きくなるので定量的な判定の指標とはせず、判定のときに、Ba、La、Ceのピーク高さとともに、定性的に原材産地を判定する指標として用いる。



第142図 花仙山産碧玉原石の蛍光X線スペクトル

碧玉の原産地と原石の分析結果

分析した碧玉の原石の原産地を第143図に示す。佐渡嶽八原産地は、①新潟県佐渡郡畑野町嶽八地区で、産出する原石は地元で青玉と呼ばれている緑色系の石で、良質なものは割れ面がガラス光沢を示し、質の良いものは光沢の少ないグリーンタフ的なものである。産出量は豊富であったらしく採石跡が何ヶ所も見られ、分析した原石は嶽八の各地点から表採したものおよび地元で提供された原石などで、提供されたものの中には露頭から得られたものがありグリーンタフ層の間に約7cm幅の良質の碧玉層が挟まれた原石であった。分析した原石の比重と個数は、比重が2.6~2.5の間のものは31個、2.5~2.4の間は5個の合計36個で、この中には、茶色の碧玉も2個含まれている。原石の比重が2.6~2.3の範囲で違っても、碧玉の色が茶色、緑色、また、茶色系と緑色系の縞があるなど、多少色の違いがあっても組成上には反映されていない。出雲の花仙山は近世まで採掘が行われた原産地で、所在地は②鳥取県八東郡玉湯町玉湯温泉地域である。産出する原石は濃緑色から緑色の緻密で、剥離面が光沢をもつ良質の碧玉から淡緑色から淡白色などいろいろで、硬度が低そうなグリーンタフの様な原石も見られる。良質な原石の比重は2.5以上あり、質が悪くなるにしたがって比重は連続的に2.2まで低くなる。分析した原石は、比重が2.619~2.600の間のものは10個、2.599~2.500は18個、2.499~2.400は7個、2.399~2.300は11個、2.299~2.200は11個、2.199~2.104は3個の合計60個である。比重から考えると碧玉からグリーンタフまでの領域が分析されている。花仙山産原石は色の違い、比重の違いによる組成の差はみられなかった。玉谷原産地は、③兵庫県豊岡市辻、八代谷、日高町玉谷地域で、産出する碧玉の色、石質などは肉眼では花仙山産の原石と全く区別がつかない。また、原石の中には緑色系に茶色系が混じるものもみられ、これは佐渡嶽八産原石の同質のものに非常によく似ている。比重も2.6以上あり、質は花仙山産、佐渡嶽八産原石より優れた感じのものもみられる。この様な良質の碧玉の採取は、産出量も少ないことから長時間をかけて注意深く行う必要がある。分析した原石は、比重が2.644~2.600は23個、2.599~2.589は4個の合計27個で、玉谷産原石は色の違いによる分析組成の差はみられなかった。また、玉谷原石と一致する組成の原石は日高町八代谷、石井、アンラクなどで採取できる。二俣原産地は、④石川県金沢市二俣町地域で、原石は二俣川の河原で採取できる。二俣川の源流は関干山であることから、露頭は医王山に存在する可能性がある。河原で見られる碧玉原石は、大部分がグリーンタフ中に層状、レンズ状に非常に緻密な部分として見られる。分析した4個の原石の中で、3個は同一塊から3分割したもので、1個は別の塊からのもので、前者の3個の比重は2.42で後者は2.34である。元素組成は他の産地の組成と異なり区別できる。この4個が二俣原産地から産出する碧玉原石の特徴を代表しているかどうか、さらに分析数を増やす必要がある。細入村の産地は、⑤富山県黒部郡細入村割山産座岩地区のグリーンタフの岩脈に閉塊として緻密な濃緑の碧玉質の部分が見られる。肉眼では、他の産地の碧玉と区別できず、また、出上する碧玉製の玉類とも非常に似た石質である。しかし、比重が非常に軽く、分析した8個は2.25~2.12で、この比重の値で他の原産地と区別できる場合が多い。土岐原産地は、⑥愛知県土岐市地域で、赤色、黄色、緑色などが混じり合った原石が産出し、このうち緻密な光沢のよい濃緑で比重が2.62~2.60の原石を碧玉として11個分析を行った。ここの原石は鉄の含有量が非常に大きく、カリウム含有量が小さいという特徴を持ち、この元素比の値で他の原産地と区別できる。興部産地、⑦北海道紋別郡西興部村の碧玉原石には鉄の含有量が非常に高く、他の原産地と区別する指標になっている。また、比重が2.6以下のものはなく遺物の産地を特定する指標として重要である。石戸の産地、⑧兵庫県氷上郡山南町地区の安山岩に脈岩として採取されるが産出量は非常に少ない。元素組成から他の産地の碧玉



第143図 碧玉および碧玉様岩の原産地と弥生（統繩文）時代の碧玉製管玉の原材使用分布圏

と区別できる。⑨北海道富良野市の空知川流域から採取される碧玉は濃い緑色で比重が2.6以上が4個、2.62.5が5個、2.52.4が5個である。碧玉の露頭は不明で河原の礫から採取するため、短時間で良質のもの碧玉を多数収集することは困難である。元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。⑩北海道上磯郡上磯町の茂辺地川の川原で採取される碧玉で不均一な色の物が多く、管玉に使用できる色の均一な部分を大きく取り出せる原石は少ない。これら原石を原産地ごとに統計処理を行い、元素比の平均値と標準偏差値をもとめて母集団を作り第12表に示す。各母集団に原産地名を付けて、その産地の原石群、例えば花仙山群と呼ぶ。花仙山群は比重によって2個の群に分けて表に示したが比重は異なっても組成に大きな違いはみられない。したがって、統計処理は一緒にして行い、花仙山群として取り扱った。原石群とは異なるが、豊岡市女代南遺跡で主体的に使用されている原石産地不明の碧玉製の玉の原材料で、玉作り行程途中の遺物が多数出土している。当初、原石産地を探索すると言う目的で、これら玉、玉材遺物で作った女代南B（女代（B））群であるが、同質の材料で作られた可能性がある玉類は最近の分析結果で日本全土に分布していることが明らかになってきた。また、宇木汲田遺跡の管玉に産地未発見の原石を使用した同質の材料で作られた管玉で作った未定C（未定（C））群をそれぞれ原石群と同じように使用する。古墳時代の管玉の碧玉原材料として、岐阜県可見市の長塚古墳出土の管玉で作った長塚(1)、(2)の遺物群が追加された。その他、鳥取県の福部村多飽池、鳥取市防己尾岬などの自然露頭からの原石を4個分析した。比重は2.6以上あり元素比組成は、奥部、主谷、上岐石に似るが、他の原産地の原石とは組成で区別される。また、緑系の原石ではない。

最近、兵庫県香住町の海岸から採取された親指大1個の碧玉様の玉材は貝殻状剥離がみられる緻密な石質で少し青っぽい緑の石材で玉の原材料になると思われる。この玉材の蛍光X線分析の結果では、奥部産碧玉に似ているが、ESR信号および比重(2.35)が異なっているため、奥部産碧玉と区別ができる。

庵の谷遺跡出土の管玉と国産碧玉原材料との比較

遺跡から出土した玉類は表面の泥を超音波洗浄器で水洗するだけの完全な非破壊分析で行っている。遺物の原産地の同定をするために、(1) 蛍光X線法で求めた原石群と碧玉製遺物の分析結果を数値統計の手法を用いて比較をする定量的な判定法で行なう。(2) また、ESR分析法により各産地の原石の信号と遺物のそれを比較して、似た信号の原石の産地の原材料であると推測する方法も応用した。

蛍光X線法による産地分析

管玉の蛍光X線分析のスペクトルを第146・147図に示し、比重および玉類の蛍光X線分析から原材料の元素組成比を求めて結果を第13表に示す。管玉の石材を碧玉と分類するには遺物が、緻密で、蛍光X線分析でRb, Sr, Y, Zrの各元素が容易に観測でき、比重が約2.45以上を目安にしている。分析番号64596番の管玉は緻密な部分と若干緻密性に欠ける部分が見られ、比重も2.410と碧玉より少し軽いようであるが、成分組成は碧玉的で完全に碧玉にならなかった岩石の可能性が推測される。分析番号64597番の管玉は、緻密で、比重も2.500で一応碧玉の範囲（考古学で言う碧玉製管玉を基準にして決めた範囲）に入り、この石材を通称の碧玉と分類したが、これら分類は鉱物学に通用する緻密なものではないが、肉眼観察で判断した結果よりは科学的と推測される。また、比重が2.45に達しない緑色凝灰岩に似たような石質の原石は各碧玉産地で採取することができ、成分組成も産地碧玉原石に似ることは本研究で判明

している。これら管玉の元素組成比の結果を碧玉原石群（第12表）の結果と比較してみる。分析個数が少なく統計処理ができる群が作れなかった産地については、原石の元素組成比を管玉の組成と比較したが一致するものは見られなかった。原石の数が多く分析された原産地については、数理統計のマハラノビスの距離を求めて行うホテリング T^2 検定⁵⁾により同定を行った結果、2個の管玉の原石産地を女代南（B）遺物群に特定することができ、興部、猿八、花仙山、土岐、未定C、長塚遺物群の各群には非常に低い確率になり、その原石でないことが証明された。これら群への帰属確率の結果を第14表に示した。また、より正確に産地を特定するためにESR分析を併用して産地分析を行った。

ESR法による産地分析

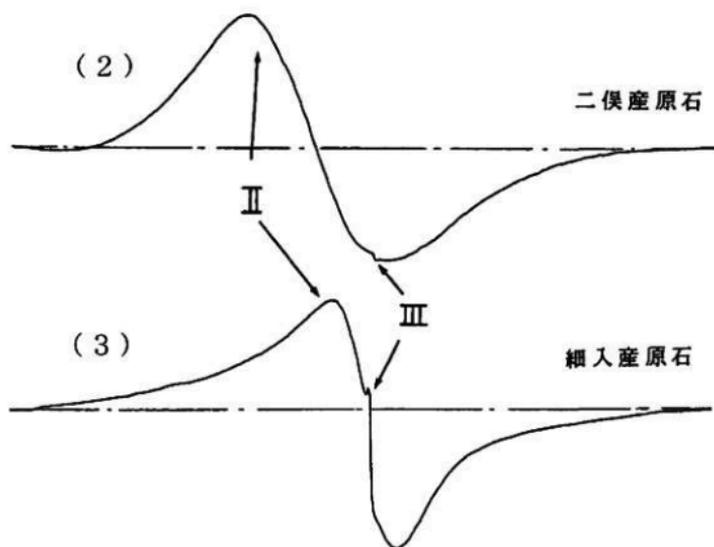
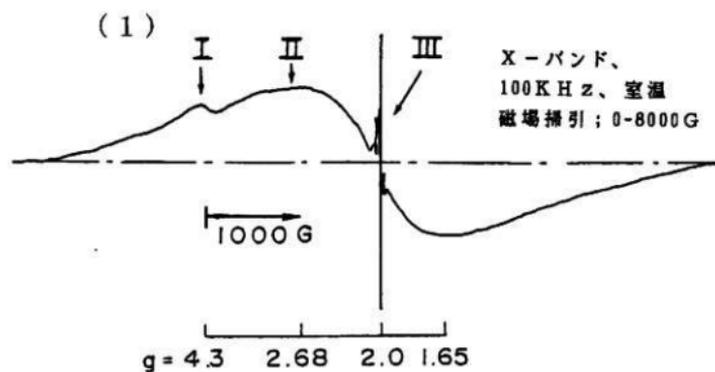
ESR分析は碧玉原石に含有されているイオンとか、碧玉が自然界からの放射線を受けてできた色中心などの常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。ESRの測定は、完全な非破壊分析で、直径が11mm以下の管玉なら分析は可能で、小さい物は胡麻粒大で分析ができる場合がある。第144図-1のESRのスペクトルは、幅広く磁場掃引したときに得られた信号スペクトルで、 g 値が4.3の小さな信号（I）は鉄イオンによる信号で、 g 値が2付近の幅の広い信号（II）と何本かの幅の狭いピーク群からなる信号（III）で構成されている。第144図-（1）では、信号（II）より信号（III）の信号の高さが高く、第144図-（2）、-（3）の二俣、細入原石ではこの高さが逆になっているため、原石産地の判定の指標に利用できる。今回分析した玉類の中で信号（II）が信号（III）より小さい場合は、二俣、細入産でないといえる。各原産地の原石の信号（III）の信号の形は産地ごとに異同があり産地分析の指標となる。第145図-（1）に花仙山、猿八、玉谷、土岐を第145図-（2）に興部、石丁、八代谷-4、女代（B）遺物群、八代谷および第145図-（3）に富良野市空知川の空知（A）、（B）、北海道今金町花石および茂辺地川の各原石の代表的な信号（III）のスペクトルを示す。第145図-（4）には宇木汲田遺跡の管玉で作った未定C形と未定D形およびグリーントフ製管玉によく見られる不明E形を示した。ESR分析では分析した玉作片および玉材片のESR信号の形が、それぞれ似た信号を示す原石の産地の可能性が大きいことを示唆している。今回分析した管玉2個のESR信号（III）の結果を第148図に示す。分析番号64596番の信号（III）は全体には女代南（B）群のではあるが、Dの位置にある小さいピークが検出限界以下であることから、誤判定を避けるために、判定結果を不明とした。一方、分析番号64597番は女代南（B）遺物群の信号の形に一致した。正確な原石産地を推測するために蛍光X線分析の結果と組み合わせ総合判定として、両方法でも同じ原産地に特定された場合のみ、その群の原石と同じ原石が使用されているとして総合判定原産地の欄に結果（第14表）を記した。

結 論

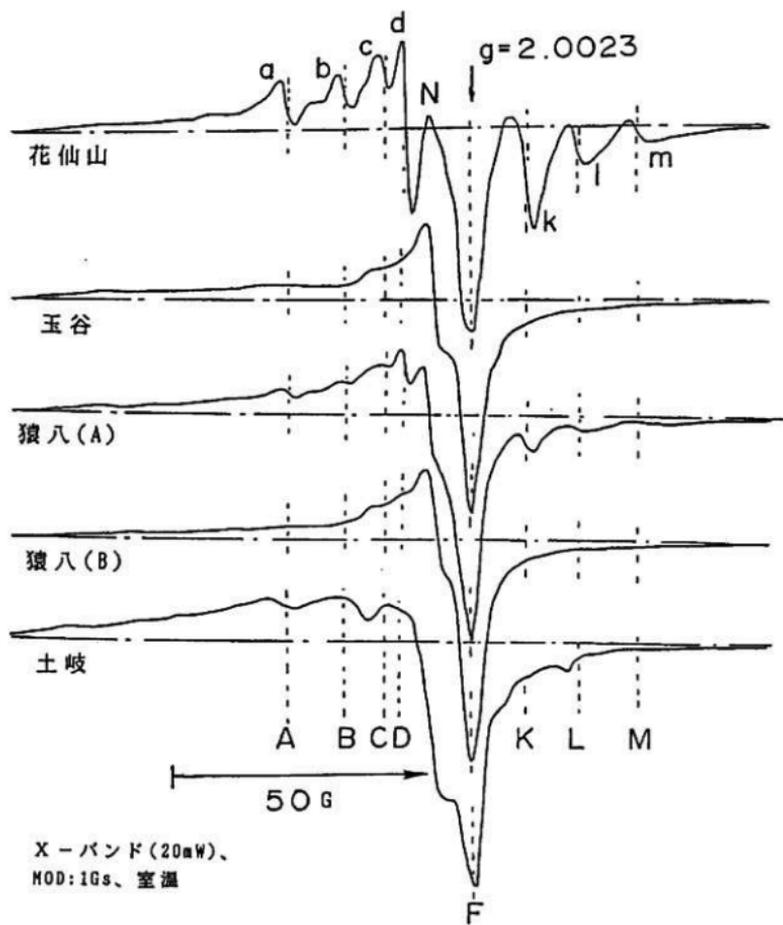
今回分析を行った庵の谷遺跡の管玉2個の中の分析番号64596番の管玉は緻密な部分と若干緻密性に欠ける部分が見られ、比重も2.410と碧玉より少し軽いようであるが、成分組成は碧玉的で完全に碧玉になれなかった岩石の可能性が推測される。この管玉の蛍光X線分析結果では、女代南（B）遺物群に一致し、この管玉の原石は女代南（B）遺物群の原石で、十分に碧玉になれなかったとか、不純物鉱物が多すぎるなどが推測される。ESR分析の信号（III）の形は、女代南（B）遺物群に近いが一致しなかったために、この管玉の原石産地を不明とした。しかし、この管玉の原石産地が、興部、猿八、花仙

山、土岐、未定C、長塚遺物群でないことが明らかになった。また、分析番号64597番の管玉は、蛍光X線分析とESR分析の両分析結果とも女代南(B)遺物群に特定することができ、奥部、猿八、花仙山、土岐、未定C、長塚遺物群の各群には非常に低い確率になり、その原石でないことが証明された。現在、女代南(B)遺物群の原石産地は不明で、女代南B群の使用圏を見ると、弥生時代を中心に使用された原石で、豊岡市の女代南遺跡の中期の玉作り過程の石片、滋賀県の筑摩館、立花遺跡出土の管玉、神戸市の玉津田中遺跡の中期の石片、管玉には玉谷産と共に使用されていた。関東地方では埼玉県蓮田市の宿下遺跡、東海地方では愛知県、朝日遺跡、新城市大宮の大ノ木遺跡の弥生時代の管玉に、畿内地域では東大阪市の巨摩、亀井、久宝寺北、久宝寺南遺跡で、また中国地方では、作用町の長尾・沖田遺跡の中期末の管玉、総社市の南溝手遺跡出土の弥生前期末～中期初頭の玉材、岡山市の南溝手遺跡および百間川原尾島遺跡出土の管玉、岡山県川上村下郷原和田遺跡の管玉、鳥取県羽合町の長瀬高浜遺跡の中期中葉の管玉、米子市の御建山遺跡尾高19号墳第2主体部出土の管玉、東広島市の西本6号遺跡の管玉に使用されている。四国地方では徳島県板野町の蓮華谷古墳群Ⅱ、2号墳、3世紀末の管玉、香川県善通寺市の彼ノ宗遺跡の末期の管玉に使用され、九州地方では、多久市牟田辺遺跡の中期の管玉、また宇木汲田遺跡の管玉に使用されていた。女代南B群の原石は糸魚川産ヒスイに匹敵する広い分布圏を示している。一方、南溝手遺跡の中期中葉の管玉片には、唐津市の宇木汲田遺跡の管玉で作った原石群の未定C群の原石が使用され、この未定C群は坂出市の龍川・五条遺跡の管玉、今治市の持田町3丁目遺跡の前期の管玉、大和町の尼寺一本松遺跡の管玉、多久市牟田辺遺跡の中期の管玉、吉野ヶ理遺跡の南西サブトレ出土の管玉に使用されていたが、最近の調査で愛知県、朝日遺跡に伝播していることが明らかになり、今後の調査でさらに使用圏が拡大する可能性が推測される。また、猿八産原石が弥生時代に使用されている遺跡は、北海道余市町の大川遺跡および茂別遺跡の縄文時代では女代南B群原石の管玉と共に使用され、江別市の大麻22遺跡出土の縄文(後北C1式)の管玉に、七飯町の大中山13遺跡(縄文)出土の管玉に使用され、佐渡島以北で主に使用されていることが明らかになっている。これら佐渡産碧玉、女代南B群の剥片出土遺跡は、豊岡市、米原町、福井県など日本海側で、これら玉類が日本海玉材原産地地方で作られ、これら玉類の使用圏からみて、日本海を交易ルートとし遠距離に伝播したと推測され、伝播には遺跡をリレー式に伝わる場合、また、産地から遠距離の遺跡に直接到達する場合などが考えられる。一方、未定C群は、玉作りの行程を示す石片、剥片として発見された遺跡が確認されていないため、推測は空論になるが、未定C群の管玉が韓国で作られ、西北九州地方および瀬戸内海ルートを通して愛媛県、香川県地方、岡山県、愛知県朝日遺跡へ流入したと推測しても産地分析の結果と矛盾しない(第143図)。これら、女代南(B)群、未定(C)群の原材料を使用した管玉を出土する遺跡の中に、不明E形のESR信号を示すグリーンタフ製管玉も出土する遺跡があり、分析数を増やし管玉原材料の組成の異同を明らかにすれば、古代の交易に関する情報が得られる可能性がある。玉類の産地分析の困難さは原石の入手で、産地同定を定量的に行う場合、統計処理の母集団(原石群)を作り、原石群の組成の変動を評価するため多数の原石が必要で、今後、佐渡島猿八産原石が佐渡島以南に本当に伝播していないかを調査し、女代南B群、未定C群、不明の管玉などの原石産地を明らかにし、これら不明の原石群を作ること、また、玉類に使用されている産地の原石が多い方が、その産地地方との文化交流が強いと推測できることから、日本各地の遺跡から出土する貴重な管玉を数多く分析することが重要で、今回行った産地分析は完全な非破壊である。碧玉産地に関する小さな情報であっても御提供頂ければ研究はさらに前進すると思われる。

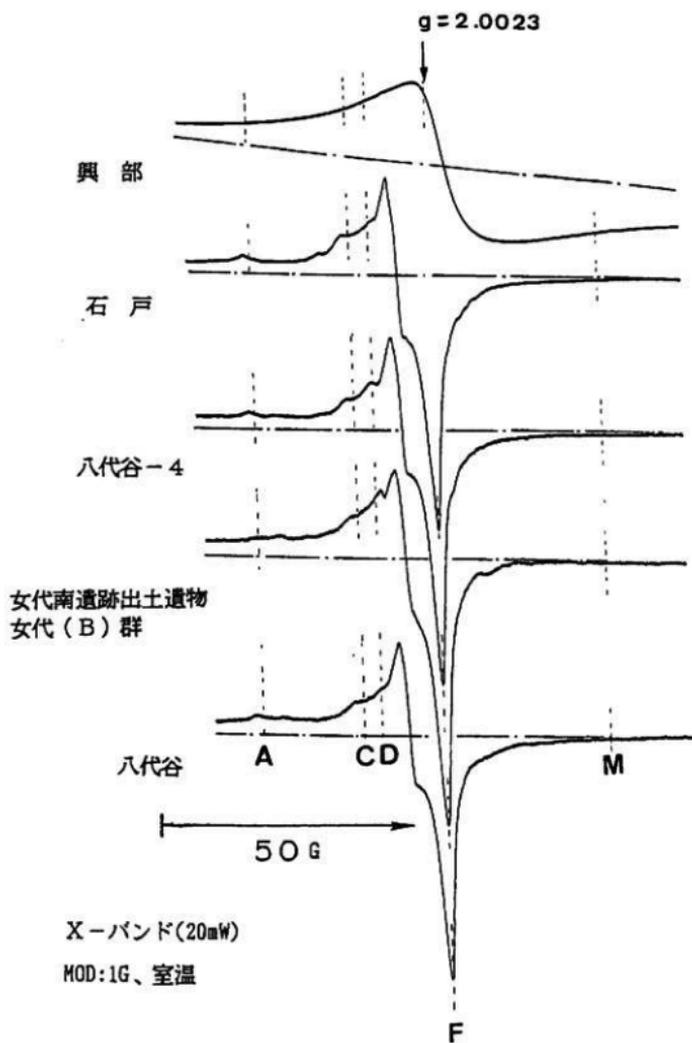
(花仙山、玉谷、猿八、土岐)



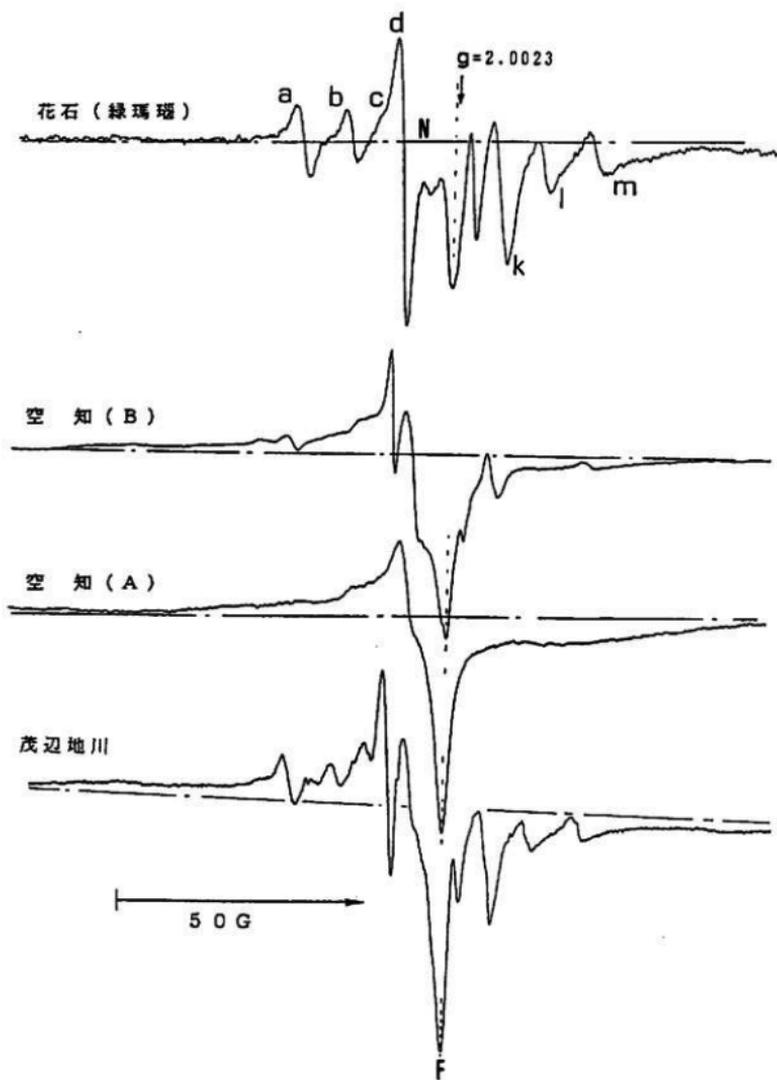
第144図 碧玉原石のESRスペクトル



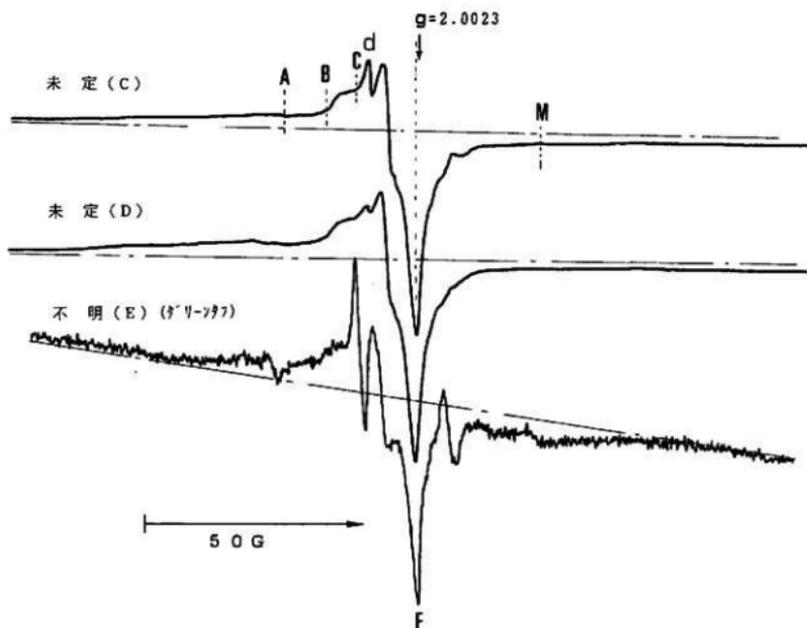
第145図-1 碧玉原石の信号(Ⅲ)のESRスペクトル



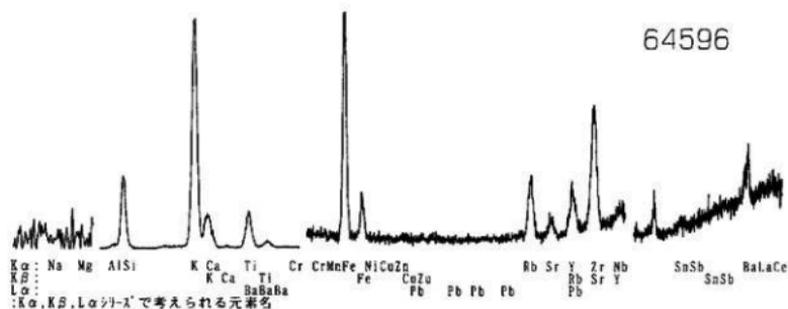
第145図-2 碧玉原石の信号(Ⅲ)のESRスペクトル



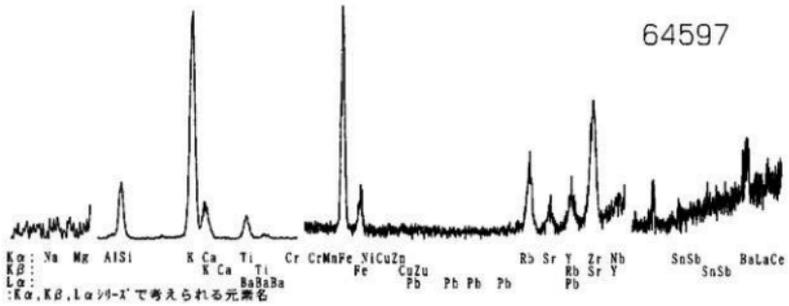
第145図-3 碧玉原石の信号(Ⅲ)のESRスペクトル



第145図-4 碧玉原石の信号(Ⅲ)のESRスペクトル

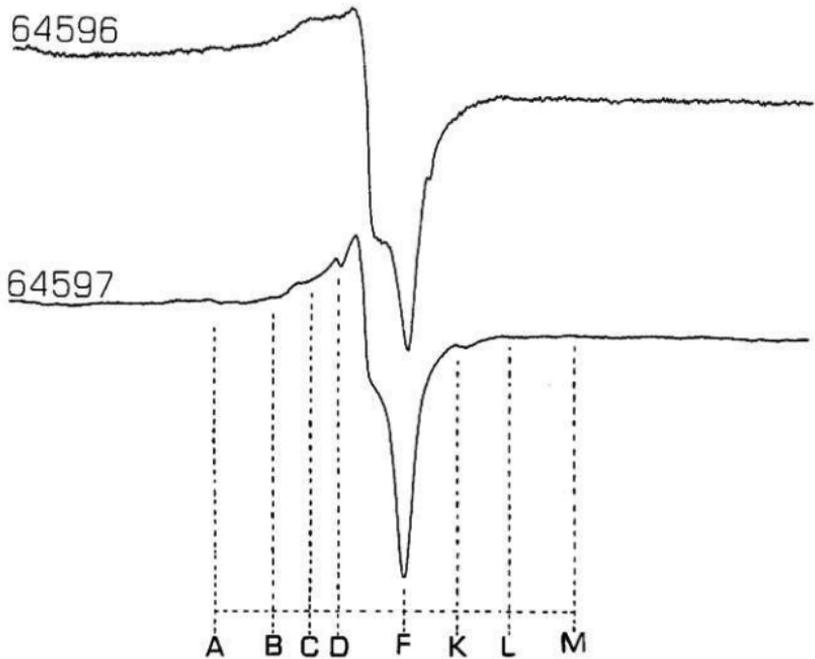


第146図 庵の谷遺跡出土碧玉(64596)の蛍光X線スペクトル



第147図 庵の谷遺跡出土管玉 (64597) の蛍光X線スペクトル

(64596:比重2.410, 64597:比重2.500)



第148図 庵の谷遺跡出土管玉の信号(Ⅲ)のESRスペクトル

原 石 群 名	分析 個数	A l / S i	K / S i	C a / K	T i / K	K / F e
		$\bar{X} \pm \sigma$				
興 部	31	0.011±0.003	0.380±0.320	0.123±0.137	0.061±0.049	0.022±0.006
空知 A 1	10	0.049±0.017	1.041±0.299	2.308±0.556	0.481±0.096	0.052±0.012
空知 A 2	3	0.019±0.009	0.675±0.377	0.623±0.203	0.172±0.031	0.040±0.007
空知 B	2	0.066±0.001	3.927±0.267	0.088±0.004	0.089±0.003	0.283±0.034
旗 八	36	0.046±0.007	3.691±0.548	0.049±0.038	0.058±0.011	0.370±0.205
土 岐	51	0.006±0.004	0.361±0.131	0.072±0.063	0.098±0.063	0.023±0.005
上 谷	27	0.025±0.009	0.625±0.297	0.110±0.052	0.176±0.104	0.045±0.014
花仙山 1	27	0.019±0.004	0.909±0.437	0.171±0.108	0.222±0.098	0.059±0.019
花仙山 2	33	0.023±0.003	1.178±0.324	0.157±0.180	0.229±0.139	0.055±0.015
細 入	8	0.019±0.003	0.534±0.281	0.991±0.386	0.372±0.125	0.031±0.008
二 俣	4	0.043±0.001	2.644±0.183	0.337±0.079	0.158±0.009	0.312±0.069
石 戸	4	0.019±0.004	0.601±0.196	0.075±0.022	0.086±0.038	0.154±0.072
茂辺地川	4	0.031±0.002	1.847±0.246	0.077±0.024	0.222±0.052	0.092±0.021
女代南 B	68	0.045±0.016	3.115±0.445	0.042±0.024	0.107±0.036	0.283±0.099
未定 C	58	0.030±0.028	4.116±0.618	0.013±0.013	0.207±0.034	0.589±0.130
長塚(1)	47	0.036±0.004	3.525±0.347	0.033±0.005	0.439±0.050	0.204±0.037
長塚(2)	45	0.028±0.007	2.659±0.122	0.010±0.004	0.064±0.003	0.719±0.065

原 石 群 名	分析 個数	R b / F e	F o / Z r	R b / Z r	S r / Z r	Y / Z r
		$\bar{X} \pm \sigma$				
興 部	31	0.070±0.021	174.08±124.9	16.990±13.44	0.668±0.435	1.801±1.434
空知 A 1	10	0.108±0.042	4.658±2.044	0.438±0.089	15.676±1.311	0.054±0.041
空知 A 2	3	0.037±0.010	27.651±10.97	1.132±0.759	5.930±3.179	0.132±0.051
空知 B	2	0.455±0.010	2.281±0.278	1.035±0.104	0.235±0.084	0.429±0.222
旗 八	36	0.384±0.153	1.860±1.070	0.590±0.185	0.139±0.127	0.165±0.138
土 岐	51	0.096±0.025	43.067±23.28	4.056±2.545	0.271±0.308	0.159±0.180
上 谷	27	0.151±0.020	6.190±1.059	0.940±0.205	0.192±0.170	0.158±0.075
花仙山 1	27	0.225±0.028	10.633±3.616	2.345±0.693	0.476±0.192	0.098±0.052
花仙山 2	33	0.219±0.028	12.677±2.988	2.723±0.519	0.472±0.164	0.132±0.071
細 入	8	0.073±0.020	12.884±3.752	0.882±0.201	1.879±0.650	0.026±0.032
二 俣	4	0.338±0.039	1.495±0.734	0.481±0.176	0.697±0.051	0.088±0.015
石 戸	4	0.170±0.079	7.242±1.597	1.142±0.315	0.649±0.158	0.247±0.092
茂辺地川	4	0.190±0.052	5.566±1.549	0.980±0.044	0.300±0.032	0.171±0.051
女代南 B	68	0.267±0.063	2.374±0.676	0.595±0.065	0.214±0.097	0.171±0.047
未定 C	58	0.650±0.113	0.583±0.110	0.369±0.035	0.090±0.030	0.070±0.026
長塚(1)	47	0.361±0.040	2.756±0.473	0.980±0.110	0.472±0.083	0.379±0.143
長塚(2)	45	0.832±0.054	0.412±0.038	0.341±0.023	0.036±0.010	0.386±0.242

原 石 群 名	分析 個数	M n / F e	T i / F e	N b / Z r	比 率 $\bar{X} \pm \sigma$
		$\bar{X} \pm \sigma$	$\bar{X} \pm \sigma$	$\bar{X} \pm \sigma$	
興 部	31	0.004±0.003	0.001±0.001	0.455±0.855	2.826±0.032
空知 A 1	10	0.078±0.152	0.019±0.005	0.003±0.007	2.495±0.039
空知 A 2	3	0.009±0.003	0.006±0.002	0.118±0.167	2.632±0.012
空知 B	2	0.015±0.002	0.022±0.004	0.123±0.010	2.607±0.001
旗 八	36	0.003±0.001	0.018±0.010	0.032±0.014	2.543±0.049
土 岐	51	0.001±0.001	0.001±0.001	0.072±0.160	2.607±0.009
上 谷	27	0.006±0.003	0.016±0.003	0.054±0.021	2.619±0.014
花仙山 1	27	0.001±0.001	0.009±0.002	0.042±0.034	2.570±0.044
花仙山 2	33	0.001±0.001	0.009±0.004	0.035±0.025	2.308±0.079
細 入	8	0.003±0.002	0.008±0.002	0.021±0.314	2.169±0.039
二 俣	4	0.007±0.002	0.043±0.010	0.043±0.023	2.440±0.091
石 戸	4	0.007±0.001	0.009±0.002	0.227±0.089	2.598±0.008
茂辺地川	4	0.003±0.008	0.016±0.001	0.132±0.069	2.536±0.033
女代南 B	68	0.011±0.004	0.026±0.009	0.034±0.016	2.554±0.019
未定 C	58	0.002±0.001	0.101±0.019	0.019±0.016	2.646±0.023
長塚(1)	47	0.005±0.001	0.094±0.013	0.022±0.016	2.533±0.016
長塚(2)	45	0.004±0.001	0.047±0.004	0.024±0.013	2.569±0.003

\bar{X} : 平均値, σ : 標準偏差値

女代南 B: 女代南産群(豊岡市)で使用されている原石産地不明の玉原石で作った群

未定 C: 宇木渡田産群(唐津市)で使用されている原石産地不明の管玉で作った群

長塚(1), (2): 長塚占塚(実見市)で使用されている原石産地不明の管玉で作った群

第12表 各群下の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

注記 番号	分析 番号	元 素 比							
		Al/Si	K/Si	Ca/K	Ti/K	K/Fe	Rb/Fe	Fe/Zr	Rb/Zr
2202 2057	64596	0.031	3.733	0.030	0.098	0.358	0.315	1.744	0.549
	64597	0.032	2.822	0.043	0.153	0.257	0.308	1.516	0.466
JG-1 ¹⁾		0.020	4.343	0.500	0.231	0.110	0.262	3.989	1.044

注記 番号	分析 番号	元 素 比				重 量 gr	比 重
		Sr/Zr	Y/Zr	Mn/Fe	Ti/Fe		
2202 2057	64596	0.189	0.192	0.009	0.035	0.070	0.86496
	64597	0.164	0.271	0.008	0.040	0.005	0.31684
JG-1 ¹⁾		1.405	0.286	0.023	0.024	0.087	

a) : 標準試料, Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974).

1974 compilation of data on the GJS geochemical reference

samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt.

Geochemical Journal, Vol. 8 / 75-192.

第13表 庵の谷遺跡出土菅玉の分析結果

注記 番号	分析 番号	元 素 比	F.S.R 信号形	総合判定 原石産地
2202, 菅玉 2057, 菅玉	64596	奥部群 玉谷群 花山山群 土岐群 猿八群 女代(B)群 未定(C)群	不明 女代前(B)	不明 女代前(B)群
	64597	奥部群 玉谷群 花山山群 土岐群 猿八群 女代(B)群 未定(C)群	不明 女代前(B)	不明 女代前(B)群

管E2202 : 報告番号48, 管E2057 : 報告番号48

第14表 庵の谷遺跡出土菅玉の分析結果

参考文献

- 1) 茅原一也 (1964), 長者が原遺跡産のヒスイ (翡翠) について (概報)。長者ヶ原, 新潟県糸魚川市教育委員会: 63-73
- 2) 薬科哲男・東村武信 (1987), ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要 6:1-18
- 3) 薬科哲男・東村武信 (1990), 奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。横原 考古学研究所紀要「考古学論攷」, 14:95-109
- 4) 薬科哲男・東村武信 (1983), 石器原料の産地分析。考古学与自然科学, 16:59-89
- 5) Tetsuo Warashina (1992), Allocation of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF. *Journal of Archaeological Science* 19:357-373
- 6) 東村武信 (1976), 産地推定における統計的手法。考古学与自然科学, 9:77-90

2 庵の谷遺跡出土のサヌカイト製遺物の石材産地分析

薬科 哲男

(京都大学原子炉実験所)

はじめに

石器石材の産地を自然科学的手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている^{1,2,3)}。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、岩石と露頭原石の組成が一致すれば、その露頭から流れた岩石であると言うことは、自然法則に従って流れたルートを証明できる。産地分析では「石器とある産地の原石が一致したからと言って、その産地のものと言い切れないが、一致しなかった場合その産地のものでないと言い切れる」が大原則である。人が移動させた石器の組成とA産地原石の組成が一致したからと言って、産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、移動ルートが自然の法則に従って証明できず、その石器がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原料と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないとの証拠がないために、A産地だと言い切れない。A産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはA産地と交流がなかったと言い切れる。考古学は、様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な結果である。地質など自然科学の場合は、自然科学的方法(物理・化学的方法)に従って、産地を特定するが、分析装置を使用すれば科学的分析と誤解している科学者がみられるが、装置は物差しにすぎず、得られた結果を自然の法則に従って処理し産地を特定しなければならない。考古学者は考古学を基準にして、例えば産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する。または原産地地方との交流が石器以外の他の遺物で証明されているなどの条件を考えて、石器の石質と一致する最も近い産地の原石を肉眼観察を基準にして推測する。この結果が信用される場合は、石質の一致よりも、産地との交流を推測しても考古学条件に無理がないためである。これは、遺跡から500km以上離れた産地の石材が石器と一致しても、遠距離の産地を言わず、近く的一致した産地しか言わないことから分かる。従って、実際に遠距離から伝播した原料でも、近くの産地のものとして処理している。日本中の産地の石材を観察すると、とても肉眼観察で産地を特定することはできないと思う。また地質学者に聞いても、とても肉眼観察で産地など特定できないと言う人が多い。石器原料の岩石名、産出産地を述べる場合客観的なデータに基づいて決定した結果を記さなければ、報告書全体が正確さを欠くように思われる。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれと対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を特定する。蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定の操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはこと

さら有利な分析法である。今回分析した遺物は香川県大川郡引田町黒羽下内甲258外に位置する庵の谷遺跡出土の弥生時代のサヌカイト製造物8個について産地分析の結果が得られたので報告する。

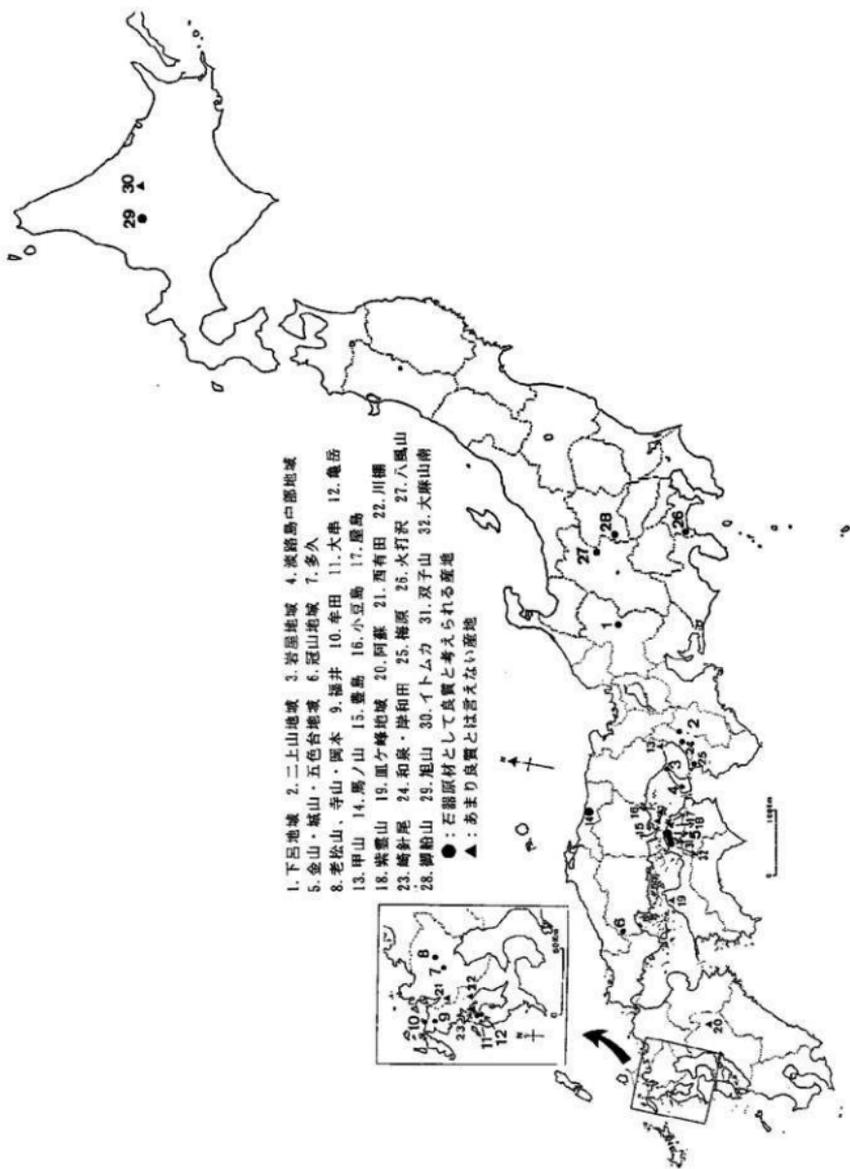
サヌカイト原石の分析

サヌカイト両原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl, Si, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Y, Zr, Nbの12元素をそれぞれ分析した。

塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。サヌカイトでは、K/Ca, Ti/Ca, Mn/Sr, Fe/Sr, Rb/Sr, Y/Sr, Zr/Sr, Nb/Srをそれぞれ用いる。サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題に上る産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて32ヶ所の調査を終えている。第149図にサヌカイトの原産地の地点を示す。このうち、金山・五色台地域では、その中の多く地点からは良質のサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数々の群に分かれる。近年、丸亀市の双子山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は細石器時代に使用された原材で普通寺市の大麻山南からも産出している。これらの原石を良質の原石を産出する産地および原産地不明の遺物を元素組成で分類すると72個の原石群に分類でき、その結果を第15表に示した。香川県内の石器原材の産地では金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、岡分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の6個の群、城山群および双子山群に、またガラス質安山岩は金山奥池・五色台地区産は五色台群の単群に、大麻山南産は大麻山南第一、二群の2群にそれぞれ分類され区別が可能なることを明らかにした。金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すサヌカイト原石が淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取される。これら岩屋のもの进行分类すると、全体の約2/3が第16表に示す割合で金山・五色台地域の諸群に一致し、これらが金山・五色台地域から流れ着いたことがわかる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区からは、岩屋第一群に一致する原石がそれぞれ92%および88%と群を作らない数個の原石とがみられ、金山・五色台地域の諸群に一致するものはみられなかった。第17表に示す和泉・岸和田原産地からも全体の約1%であるが金山東群に一致する原石が採取される。第18表に示す和歌山市梅原原産地からは、金山原産地の原石に一致する原石はみられない。仮に、遺物が岩屋、和泉・岸和田原産地などの原石で作られている場合には、産地分析の手続きは複雑になる。その遺跡から10個以上の遺物を分析し、第16・17表のそれぞれの群に帰属される頻度分布を求め、確率論による期待値と比較して確認しなければならない。二上山群を作った原石は奈良県北葛城郡都麻町に位置する二上山を中心にした広い地域から採取された。この二上山群と組成の類似する原石は和泉・岸和田の原産地から6%の割合で採取されることから、一遺跡10個以上の遺物を分析し、第17表のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたかどうか判断しなければならない。

結果と考察

遺跡から出上した石器、石片は、風化のためサヌカイト製は表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気



第149図 サヌカイト及びサヌカイト様岩石の原産地

原 産 地	分 析 試 料 名	元 素 比										
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/St	Al/Ca	Si/Ca	Sr/Ca
北海道	イトムカ	0.359±0.020	0.430±0.014	0.381±0.006	5.881±0.223	0.165±0.011	0.120±0.013	0.883±0.030	0.185±0.013	0.313±0.001	0.137±0.007	0.181±0.005
	山	0.357±0.011	0.288±0.010	0.398±0.005	5.064±0.40	0.174±0.011	0.086±0.009	0.903±0.029	0.015±0.012	0.315±0.001	0.111±0.032	0.123±0.005
	川	0.194±0.070	0.360±0.028	0.128±0.014	5.208±1.153	0.060±0.034	0.085±0.014	0.458±0.082	0.069±0.010	0.313±0.021	0.121±0.013	0.133±0.035
群馬県	黒船山	0.274±0.028	0.324±0.010	0.096±0.008	4.995±0.505	0.104±0.009	0.103±0.008	5.811±6.033	0.012±0.009	0.018±0.002	0.168±0.014	0.188±0.014
	八風山	0.092±0.005	0.285±0.009	0.164±0.009	12.408±0.332	0.223±0.006	0.111±0.008	4.853±0.023	0.065±0.007	0.012±0.001	0.012±0.001	0.012±0.001
神奈川県	大打谷	1.578±0.055	0.217±0.011	0.038±0.003	4.766±0.025	0.277±0.020	0.031±0.013	3.913±0.024	0.005±0.009	0.082±0.003	0.569±0.025	0.144±0.005
	下谷	0.288±0.010	0.215±0.006	0.071±0.006	4.629±0.270	0.202±0.012	0.065±0.005	3.620±0.022	0.024±0.010	0.019±0.001	0.141±0.008	0.141±0.008
奈良県	二上山	0.325±0.023	0.325±0.025	0.056±0.004	4.069±0.148	0.298±0.021	0.065±0.010	0.706±0.035	0.038±0.010	0.023±0.001	0.184±0.009	0.184±0.009
	和泉	0.618±0.021	0.057±0.012	0.057±0.005	3.610±0.189	0.308±0.019	0.055±0.012	3.845±0.026	0.027±0.017	0.018±0.001	0.186±0.007	0.186±0.007
兵庫県	岩屋	0.534±0.020	0.263±0.005	0.053±0.005	3.438±0.103	0.340±0.015	0.042±0.012	1.069±0.030	0.026±0.014	0.017±0.001	0.175±0.008	0.175±0.008
	第一	0.300±0.017	0.154±0.006	0.058±0.007	3.359±0.261	0.130±0.012	0.061±0.003	3.574±0.021	0.012±0.007	0.018±0.001	0.159±0.008	0.159±0.008
香川県	甲	0.457±0.011	0.251±0.007	0.053±0.005	3.574±0.122	0.311±0.019	0.043±0.016	0.970±0.033	0.038±0.015	0.015±0.001	0.149±0.005	0.149±0.005
	五郎公寺	0.469±0.012	0.249±0.008	0.053±0.005	3.54±0.129	0.308±0.019	0.043±0.015	0.972±0.037	0.034±0.009	0.016±0.001	0.150±0.004	0.150±0.004
徳島県	色違光寺	0.534±0.015	0.262±0.005	0.053±0.005	3.376±0.108	0.340±0.014	0.040±0.016	1.071±0.051	0.032±0.011	0.017±0.001	0.173±0.007	0.173±0.007
	台門峠	0.397±0.006	0.239±0.004	0.049±0.005	1.619±0.127	0.272±0.012	0.049±0.011	1.145±0.029	0.031±0.013	0.015±0.001	0.130±0.004	0.130±0.004
岡山県	金山	0.406±0.012	0.222±0.004	0.079±0.005	4.617±0.126	0.316±0.017	0.067±0.011	1.166±0.035	0.020±0.015	0.017±0.001	0.155±0.005	0.155±0.005
	西	0.402±0.011	0.216±0.036	0.079±0.005	4.741±0.138	0.289±0.014	0.068±0.016	1.065±0.026	0.021±0.014	0.015±0.001	0.133±0.006	0.133±0.006
広島県	城	0.550±0.007	0.238±0.008	0.074±0.006	4.896±0.169	0.281±0.012	0.061±0.014	1.093±0.031	0.023±0.016	0.011±0.002	0.105±0.004	0.105±0.004
	双下山	0.860±0.048	0.120±0.006	0.023±0.005	2.294±0.114	0.484±0.026	0.006±0.011	0.705±0.044	0.043±0.011	0.039±0.003	0.459±0.028	0.459±0.028
*大分県	*五色台	0.705±0.365	0.146±0.038	0.040±0.008	2.837±0.189	0.473±0.050	0.023±0.015	0.628±0.021	0.020±0.002	0.020±0.002	0.251±0.024	0.251±0.024
	*第一	1.005±0.032	0.119±0.005	0.032±0.007	2.396±0.059	0.690±0.027	0.014±0.026	0.768±0.027	0.031±0.023	0.027±0.002	0.319±0.012	0.319±0.012
愛媛県	中井谷	0.458±0.041	0.274±0.007	0.073±0.009	5.160±0.157	0.390±0.022	0.198±0.017	4.773±0.051	0.037±0.021	0.020±0.008	0.259±0.009	0.259±0.009
	馬ノ山	0.183±0.007	0.178±0.006	0.011±0.001	9.916±0.033	0.036±0.002	0.031±0.002	0.031±0.002	0.177±0.009	0.004±0.002	0.015±0.001	0.111±0.005
広島県	冠高原	0.051±0.021	0.485±0.014	0.046±0.004	3.322±0.101	0.171±0.009	0.029±0.005	0.462±0.017	0.185±0.010	0.025±0.002	0.241±0.003	0.241±0.003
	平岡	0.277±0.010	0.345±0.008	0.019±0.002	0.938±0.015	0.098±0.006	0.038±0.012	0.026±0.006	0.019±0.001	0.171±0.005	0.171±0.005	0.171±0.005
山梨県	冠山	0.323±0.019	0.363±0.031	0.019±0.001	1.607±0.060	0.050±0.009	0.003±0.005	0.399±0.043	0.025±0.009	0.021±0.001	0.171±0.005	0.171±0.005
	山	1.115±0.061	0.472±0.022	0.037±0.005	2.228±0.080	0.245±0.011	0.023±0.009	0.524±0.014	0.246±0.013	0.038±0.003	0.391±0.021	0.391±0.021

第15表-1 各ササカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差

原産地	分析標致	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
福岡県 八幡市	第一	1.823±0.061	0.641±0.024	0.053±0.007	2.125±0.063	0.453±0.019	0.107±0.017	1.477±0.049	0.04±0.022	0.950±0.003	0.596±0.012
	第二	1.592±0.066	0.609±0.020	0.061±0.006	3.475±0.123	0.538±0.039	0.111±0.020	1.671±0.134	0.049±0.012	0.942±0.003	0.419±0.014
	第三	3.144±0.069	0.723±0.036	0.073±0.009	2.519±0.099	0.482±0.048	0.188±0.026	0.872±0.020	0.074±0.025	0.874±0.025	0.817±0.040
	第四	1.922±0.108	0.681±0.050	0.064±0.005	3.023±0.103	0.607±0.033	0.122±0.017	1.857±0.098	0.050±0.015	0.956±0.004	0.496±0.018
佐賀県	第一	0.831±0.047	0.403±0.033	0.065±0.007	4.718±0.225	0.510±0.037	0.062±0.019	0.850±0.033	0.222±0.018	0.94±0.003	0.201±0.011
	第二	0.834±0.055	0.395±0.036	0.055±0.010	3.542±0.317	0.566±0.047	0.081±0.028	0.846±0.046	0.28±0.005	0.87±0.005	0.202±0.014
	第三	1.997±0.232	0.850±0.028	0.065±0.014	4.498±0.903	0.701±0.084	0.063±0.025	0.829±0.052	0.239±0.019	0.921±0.003	0.265±0.046
	第四	1.287±0.051	0.340±0.033	0.058±0.010	3.443±0.225	0.784±0.030	0.061±0.022	0.824±0.033	0.265±0.032	0.938±0.009	0.458±0.050
鹿児島県	第一	0.703±0.034	0.311±0.031	0.067±0.009	5.323±0.244	0.540±0.036	0.075±0.021	0.691±0.034	0.208±0.023	0.918±0.002	0.174±0.007
	第二	0.629±0.043	0.310±0.030	0.070±0.008	5.030±0.323	0.489±0.029	0.066±0.017	0.644±0.032	0.192±0.018	0.913±0.001	0.157±0.010
	第三	0.453±0.019	0.331±0.005	0.058±0.010	7.489±0.249	0.307±0.024	0.081±0.015	0.568±0.023	0.106±0.010	0.923±0.002	0.237±0.016
	第四	0.717±0.036	0.410±0.032	0.081±0.006	5.312±0.241	0.383±0.024	0.065±0.013	0.810±0.039	0.095±0.023	0.928±0.027	0.291±0.014
熊本県	第一	0.970±0.032	0.330±0.009	0.066±0.007	3.683±0.122	0.431±0.021	0.077±0.016	0.554±0.023	0.110±0.021	0.934±0.003	0.377±0.012
	第二	0.822±0.027	0.369±0.010	0.068±0.007	3.888±0.236	0.392±0.021	0.076±0.018	0.540±0.049	0.089±0.020	0.927±0.009	0.330±0.013
	第三	0.675±0.016	0.300±0.010	0.073±0.007	4.666±0.218	0.346±0.021	0.078±0.012	0.582±0.065	0.087±0.013	0.924±0.007	0.280±0.011
	第四	0.538±0.011	0.401±0.007	0.076±0.010	5.271±0.189	0.296±0.019	0.075±0.015	0.587±0.024	0.075±0.009	0.928±0.002	0.227±0.009
長崎県	第一	0.744±0.014	0.409±0.010	0.069±0.010	5.176±0.202	0.399±0.020	0.092±0.015	0.807±0.027	0.096±0.023	0.929±0.003	0.302±0.010
	第二	1.111±0.118	0.140±0.009	0.055±0.020	6.056±0.236	0.236±0.043	0.041±0.027	0.486±0.038	0.082±0.022	0.958±0.006	0.587±0.059
	第三	1.072±0.042	0.144±0.008	0.041±0.006	1.756±0.152	0.233±0.014	0.015±0.013	0.497±0.018	0.065±0.015	0.949±0.003	0.587±0.018
	第四	0.781±0.092	0.345±0.026	0.069±0.008	4.561±0.236	0.875±0.132	0.220±0.028	0.727±0.053	0.290±0.039	0.918±0.021	0.188±0.021
熊本県	第一	0.594±0.048	0.328±0.013	0.068±0.010	7.759±0.411	1.114±0.104	0.348±0.031	0.989±0.071	0.496±0.041	0.912±0.031	0.144±0.010
	第二	0.498±0.030	0.302±0.011	0.067±0.005	4.225±0.181	0.220±0.018	0.078±0.010	0.814±0.048	0.038±0.012	0.912±0.002	0.133±0.008
	第三	0.406±0.046	0.265±0.027	0.071±0.004	4.854±0.374	0.203±0.029	0.081±0.012	0.714±0.048	0.034±0.017	0.911±0.001	0.109±0.011
	第四	0.630±0.022	0.329±0.005	0.060±0.011	7.531±0.315	1.211±0.040	0.265±0.035	1.028±0.047	0.334±0.033	0.918±0.001	0.154±0.004
熊本県	第一	0.518±0.014	0.317±0.008	0.080±0.011	7.157±0.312	0.941±0.037	0.301±0.027	0.874±0.043	0.431±0.033	0.911±0.002	0.126±0.004
	第二	0.382±0.026	0.252±0.023	0.053±0.006	4.106±0.227	0.460±0.018	0.057±0.009	0.434±0.039	0.056±0.011	0.918±0.001	0.107±0.007
	第三	0.599±0.115	0.373±0.045	0.073±0.014	5.167±0.749	0.673±0.058	0.077±0.015	0.650±0.084	0.086±0.027	0.915±0.002	0.153±0.031
	第四	0.642±0.071	0.310±0.010	0.070±0.008	5.529±0.351	0.498±0.051	0.081±0.015	0.686±0.039	0.200±0.028	0.922±0.006	0.248±0.023
熊本県	第一	2.006±0.256	0.646±0.052	0.064±0.011	2.085±0.320	0.481±0.068	0.106±0.028	1.647±0.197	0.063±0.012	0.957±0.010	0.597±0.099
	第二	0.935±0.198	0.514±0.070	0.061±0.038	3.087±0.441	0.259±0.066	0.068±0.013	1.043±0.182	0.038±0.013	0.938±0.005	0.293±0.041
	第三	0.678±0.057	0.458±0.020	0.062±0.035	3.457±0.206	0.148±0.018	0.072±0.009	0.728±0.054	0.025±0.010	0.918±0.002	0.188±0.015
	第四	1.327±0.021	0.266±0.006	0.058±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.762±0.033	0.078±0.014	0.936±0.003	0.448±0.011

九州大学地質学研究所
 * : オックスゲージ法による分析結果
 JF-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8 1975-1976.

第15表-2 各ササカイトの原産地における原岩群の元素比の平均値と標準偏差

遺跡名	分析 個数	元素比											
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca		
北海道 阿寒川遺物群	35	0.352±0.029	0.291±0.021	0.094±0.012	5.376±0.721	0.170±0.015	0.103±0.016	0.874±0.101	0.018±0.011	0.017±0.021	0.185±0.090	0.075±0.021	0.288±0.075
石川県 湧見遺物群	39	0.476±0.016	0.596±0.012	0.097±0.053	5.228±0.168	0.189±0.010	0.110±0.015	1.282±0.033	0.031±0.008	0.025±0.017	0.147±0.010	0.187±0.010	0.557±0.021
愛知県 朝日No. 7群	35	0.334±0.004	0.362±0.005	0.067±0.009	3.896±0.150	0.082±0.005	0.044±0.007	0.783±0.044	0.027±0.009	0.017±0.002	0.147±0.010	0.187±0.010	0.557±0.021
愛知県 朝日No. 5群	35	1.016±0.022	0.582±0.012	0.043±0.005	4.187±0.141	0.477±0.019	0.069±0.020	1.722±0.058	0.058±0.026	0.032±0.009	0.147±0.010	0.187±0.010	0.557±0.021
入野原 向山No. 6群	30	0.236±0.003	0.189±0.003	0.075±0.005	1.966±0.089	0.194±0.010	0.063±0.011	0.588±0.015	0.010±0.001	0.015±0.001	0.137±0.002	0.147±0.010	0.557±0.021
入野原 向山No. 40群	30	0.310±0.003	0.203±0.003	0.052±0.004	3.734±0.074	0.228±0.016	0.089±0.010	0.610±0.021	0.017±0.001	0.017±0.001	0.147±0.010	0.187±0.010	0.557±0.021
中社No. 62群	30	0.339±0.003	0.229±0.003	0.066±0.004	4.361±0.080	0.212±0.014	0.066±0.011	0.618±0.015	0.010±0.011	0.017±0.001	0.142±0.002	0.142±0.002	0.557±0.021
中社No. 82群	30	0.340±0.003	0.226±0.003	0.065±0.005	4.305±0.085	0.208±0.010	0.069±0.009	0.628±0.015	0.010±0.010	0.016±0.001	0.136±0.002	0.136±0.002	0.557±0.021
中社No. 86群	30	2.638±0.037	0.949±0.026	0.028±0.008	4.530±0.105	0.624±0.019	0.139±0.027	1.425±0.080	0.059±0.019	0.097±0.033	1.903±0.055	1.903±0.055	0.557±0.021
中社No. 89群	30	0.600±0.005	0.287±0.004	0.046±0.004	3.077±0.060	0.363±0.014	0.048±0.012	1.088±0.022	0.022±0.016	0.028±0.002	0.256±0.004	0.256±0.004	0.557±0.021
中社No. 104群	30	0.133±0.002	0.117±0.002	0.095±0.006	6.366±0.098	0.112±0.007	0.041±0.010	0.323±0.020	0.009±0.009	0.011±0.001	0.162±0.002	0.162±0.002	0.557±0.021
鬼鹿No. 16群	33	0.361±0.004	0.251±0.004	0.053±0.007	3.105±0.070	0.238±0.016	0.063±0.014	0.684±0.025	0.027±0.008	0.018±0.001	0.170±0.004	0.170±0.004	0.557±0.021
鬼鹿No. 17群	33	0.372±0.004	0.250±0.004	0.049±0.007	2.987±0.060	0.241±0.010	0.056±0.009	0.675±0.024	0.023±0.008	0.018±0.001	0.176±0.005	0.176±0.005	0.557±0.021
島根県 平田遺物群	70	0.211±0.006	0.296±0.007	0.062±0.014	7.108±0.245	0.098±0.011	0.071±0.012	0.890±0.038	0.021±0.008	0.013±0.001	0.138±0.005	0.138±0.005	0.557±0.021
香川県 六ツ目遺物群	30	0.307±0.004	0.258±0.005	0.067±0.005	4.736±0.096	0.235±0.010	0.058±0.014	0.800±0.023	0.030±0.013	0.016±0.005	0.133±0.004	0.133±0.004	0.557±0.021
徳島の谷遺物群	60	0.684±0.012	0.248±0.006	0.066±0.012	4.139±0.128	0.429±0.019	0.077±0.022	1.178±0.040	0.058±0.013	0.025±0.002	0.262±0.007	0.262±0.007	0.557±0.021
高知県 松ノ木遺物群	37	0.610±0.017	0.228±0.004	0.079±0.005	4.528±0.120	0.328±0.016	0.058±0.017	1.161±0.028	0.019±0.014	0.024±0.002	0.153±0.006	0.153±0.006	0.557±0.021

注：向山遺跡、中ノ社遺跡、六ツ目遺跡、松ノ木遺跡、朝日遺跡、鬼鹿川遺跡の遺物群の分析個数は1個の遺物の分析場所を覚えて分析した回数であらわす。
平田遺跡、徳島の谷遺跡の遺物群の分析個数はそれぞれ2、3個の遺物の分析場所を覚えて分析した回数であらわす。

第15表-3 原石産地不明の組成の似た遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	20個	30%	淡路島, 岸和田, 和歌山に出現
第二群	22	33	白峰群に一致
第三群	6	9	法印谷群に一致
ク	5	8	国分寺群に一致
ク	4	6	蓮光寺群に一致
ク	3	5	金山東群に一致
ク	2	3	和泉群に一致
ク	4	6	不明(どこの原石群にも属さない)

第16表 岩屋原産地からのサヌカイト原石66個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	12個	17%	淡路島, 岸和田, 和歌山に出現
和泉群	9	13	ク, ク, ク
岩屋第二群	6	8	白峰群に一致
	4	6	二上山群に一致
	1	1	法印谷群に一致
	1	1	金山東群に一致
	39	54	不明(どこの原石群にも属さない)

第17表 和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石72個の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
和泉群	10個	48%	淡路島, 岸和田, 和歌山に出現
岩屋第一群	1	5	ク, ク, ク
岩屋第二群	10	48	不明(どこの原石群にも属さない)

第18表 和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石21個の分類結果

によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なった。一方黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。今回分析した遺物の結果を第19表に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためK/Caの一変量だけを考えると、分析番号64588番の遺物はK/Caの値が0.697で、庵の谷遺物群の〔平均値〕=〔標準偏差値〕は、 0.684 ± 0.012 であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 1.0σ 離れている。ところで庵の谷遺物群の産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 1.0\sigma$ のずれより大きいものが31ヶある。すなわち、この遺物が、庵の谷遺物群の原石から作られていたと仮定しても、 1.0σ 以上離れる確率は31%であると言える。だから、庵の谷遺物群の平均値から 1.0σ しか離れていないときには、この遺物が庵の谷遺物群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を金山東群に比較すると、金山東群の平均値からの隔りりは、約 17σ である。これを確率の言葉で表現すると、金山東群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 17σ 以上離れている確率は、千兆の百倍分の一であると言える。このように、千兆の百倍個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、金山東群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は庵の谷遺物群に31%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから庵の谷遺物群の原石が使用されいと同定され、さらに金山東群に対しては千兆分の一%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから金山産原石でないと同定される」。遺物がヶ所の産地(庵の谷遺物群の産地)と一致したからと言って、例えば庵の谷遺物群と金山東群の原

分析 番号	元 素 比										
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
64558	0.697	0.253	0.076	4.033	0.425	0.084	1.172	0.060	0.023	0.265	
64589	0.670	0.243	0.073	3.775	0.429	0.077	1.059	0.052	0.025	0.270	
64590	0.674	0.252	0.062	3.995	0.424	0.054	1.231	0.056	0.025	0.257	
64591	0.648	0.243	0.058	4.104	0.420	0.094	1.156	0.062	0.027	0.253	
64592	0.446	0.224	0.085	4.614	0.288	0.074	1.201	0.044	0.018	0.180	
64593	0.403	0.225	0.077	4.678	0.299	0.043	1.175	0.045	0.017	0.156	
64594	0.500	0.261	0.055	3.325	0.337	0.075	1.200	0.046	0.019	0.210	
64595	0.534	0.267	0.044	3.217	0.366	0.031	1.175	0.065	0.022	0.220	
JG-1	1.314	0.297	0.060	2.711	0.723	0.196	0.721	0.033	0.034	0.438	

JG-1 : 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192 (1974)

第19表 庵の谷遺跡出土サヌカイト製剥片の元素比分析結果

石は成分が異なっている、分析している試料は原石でなく遺物でさらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（庵の谷遺物群）に一致したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を第15表の72個すべての原石群について行ない、低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて庵の谷産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はK/Caといった唯一の変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量が少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングの T^2 検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する³⁾。産地の同定結果は1個の遺物に対して、ササカイト製では72個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上「記入」を省略しているのみで、実際に計算しているため、省略産地の可能性が非常に低いことを確認したという重要な意味を含んでいる。すなわち、庵の谷遺物群の原石と判定された遺物について、香川県金山原石とか佐賀県多久産、北海道旭山の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を第20表に記入した。原石群を作った原石試料は直径3 cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには、原石群の元素組成のバラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。原石産地（確率）の欄にマハラノビスの距離 D^2 の値で記した遺物については、判定の信頼限界としている0.1%の確率に達しなかった遺物でこの D^2 の値が原石群の中で最も小さな D^2 値である。この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、その原石産地と考えては間違いないと判断されたものである。庵の谷遺跡出土の8個のササカイト製遺物の各産地別使用個数は庵の谷遺物群が4個で、白峰産原石は2個、金山産、法印谷産原石はそれぞれ1個が使用されていることが明らかになった。原石産地不明の分析番号64588～64595番の遺物は表1に調査した以外の原石産地の可能性が推測される。これら産地不明の遺物の分析場所を変えながら60回測定し、庵の谷遺物群を作り、和歌山・梅原原産地の原石、和泉・岸和田原産地の原石および淡路島産地の原石から組成の一致する原石を探した結果、分析した梅原のササカイト原石130個の中には見られなかった。和泉・岸和田産地の原石221個の中に1個あり、0.5%の確率で採取できる原石と判明した。淡路島北部産地では、淡路町岩屋原産地の原石113個の中に1個（0.8%）、東浦町中持地区の39個の原石の中には見られなかった。中南部の西淡町西路山地区海岸の116個の原石の中に3個（3%）確認され、西淡町大崩地区の32個では2個（6%）、最も採取できる確率の高かった産地は、緑町庄田産地で11個中に2個（18%）であった。淡路島中南部のササカイト産地で比較的確率高く庵の谷遺物群の原石が採取できるが、これら産地で最も多く産出する原石は岩屋第1群の組成の原石で、庵の谷遺跡の遺物の中に1個も同定されなかったことから、庵の谷遺物群の原石が淡路島の産地から伝播した可能性は

分析 番号	試料 番号-番号-番号	注記	実測 資料名	時期	原石産地(確率)	判 定	報告番号
64588	1-2519-s79		サヌカイト剥片	弥生時代中期後葉 (IV様式)	庵の谷(89%)	庵の谷	1105
64589	2 0724-s77		サヌカイト剥片	弥生時代中期後葉 (IV様式)	庵の谷(11%)	庵の谷	1106
64590	3-2429-s83		サヌカイト剥片	弥生時代中期後葉 (IV様式)	庵の谷(61%)	庵の谷	1107
64591	4-2544-s81		サヌカイト剥片	弥生時代中期後葉 (IV様式)	庵の谷(19%)	庵の谷	1108
64592	5-2441-s78		サヌカイト剥片	弥生時代中期後葉 (IV様式)	金山東(37%)	金山	1109
64593	6-2449-s84		サヌカイト剥片	弥生時代中期後葉 (IV様式)	法印谷(7%)	法印谷	1110
64594	7-2428-s80		サヌカイト剥片	弥生時代中期後葉 (IV様式)	白峰(0.3%)	白峰	1111
64595	8-2422-s82		サヌカイト剥片	弥生時代中期後葉 (IV様式)	白峰(1%)	白峰	1112

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っています。判定基準の異なる研究方法（土器様式の基準も研究方法で異なるように）にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係（相互チェックなし）ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察する必要があります。

第20表 庵の谷遺跡出土のサヌカイト製剥片石器の原産地推定結果

非常に低いと推測される。しかし、分析した遺物は無作為に抽出されたものではなく、変なサヌカイトを選択しているために、岩屋第1群が除外されている可能性あり、淡路島産地採取原石でないと言い切れない。自然面をもつ遺物表面は河川または海岸で受けたと思われるローリング摩耗痕があり、中庄産地は産出確率が高いが、原石に摩耗痕はなく使用された可能性は非常に低い。摩耗痕が見られる原石は、海岸産地の岩屋、大崩、西路山であるが産出確率が低い。庵の谷遺物群の原石産地が本遺跡からそれほど遠くない地点の河川、海岸に存在する可能性が推測される。弥生時代前期の畿内地域の遺跡には金山産原石が高確率で使用されるが、中期では二上山産原石ばかりで金山産原石が見られなくなるが、これは中期に金山産原石の伝播ルートに変化が起きたと推測される。分析個数が少なすぎて正確な考察でないかもしれないが、中期の本遺跡でも金山産原石以外のサヌカイトの使用頻度が高くなっている可能性が推測され、他の中期遺跡でも庵の谷遺物群の使用頻度が高くなっている可能性が推測されることから、早急に庵の谷遺物群の原石産地を発見し、この原石は特定の遺跡のみ使用されたのか、また広く使用されたのか、使用圏を求めることにより、本遺跡と関係の深い遺跡で庵の谷遺物群が使用された可能性も推測され、使用遺跡間の交易とか交流関係を明らかにできる可能性が推測される。

参考文献

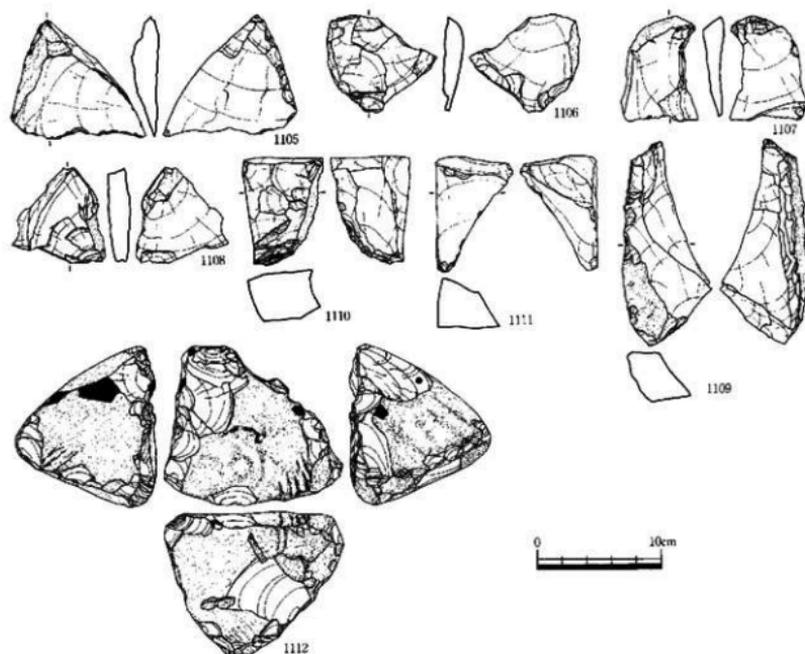
- 1) 薬科哲男・東村武信 (1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (II)。考古学と

- 2) 薬科哲男・東村武信・鎌木義昌 (1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (Ⅲ)。 (Ⅳ)。考古学と自然科学, 10,11:53-81:33-47
- 3) 薬科哲男・東村武信 (1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信 (1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信 (1980), 考古学と物理化学。学生社

コメント

今回の分析では、肉眼で金山産と判断したものについては産地同定を行っていない。このうち、現在のところ産地不明と判定された資料1～4は、肉眼で便宜的にサヌカイトIとして抽出した資料から抽出したものであり、ある程度肉眼観察が有効であったことが自然科学分析で裏付けられた。ただ分析点数が少ないことが、分析者から指摘されているので、今後とも同様な資料の分析が必要であろう。またこの石材の産地の解明は今後の課題である。剥片の出上量等は第6章第2節を参照されたい。

なお今回、サヌカイト産地分析を行った剥片の実測図は、第150図1105～1112である。



第150図 産地分析サヌカイト実測図 (1/2)

第6章 まとめ

第1節 金毘羅山遺跡

1 遺構の変遷

(1) 縄文時代

縄文時代の遺構は検出されていない。遺物が後世の遺構の埋土から出土しているのみである。

縄文時代前期の遺物として、玦状耳飾及び羽鳥下層式の土器が2点出土している。

縄文時代中期と考えられる土器片も1点出土している。

縄文時代晩期の突帯文土器は、破片数200点を超え、香川県東讃地方としては、まとまった出土量といえる。

(2) 弥生時代中期(第151図)

確実なこの時期の遺構は中期後葉の遺物を出した溝跡S D01である。住居跡としては、Ⅱ区S X29及びその周囲の柱穴と考えられるが、時期及び住居跡としての認定も確実ではない。また、弥生時代後期の川跡S R01より古いS R04もこの時期と考えられる。

(3) 弥生時代後期(第151図)

この時期の遺構は、竪穴住居跡、土坑及び川跡がある。住居跡は川跡埋土より古い。川が機能していた時点で既に廃絶していたかどうかは不明である。川跡からの土器の大量の出土を考えれば、近くに住居跡の存在は確実であり、川跡と竪穴住居跡は同時存在の可能性はある。

(4) 古墳時代前期(第152図)

この時期には、土器を大量に出土した竪穴住居跡状の遺構Ⅰ区S X02がある。この遺構は古墳時代前期末葉の時期で、弥生時代後期の川跡が埋没した後に掘り込まれている。その他の土坑からも土器がまとまって出土している事例がある。

(5) 古墳時代後期～終末期(第152図)

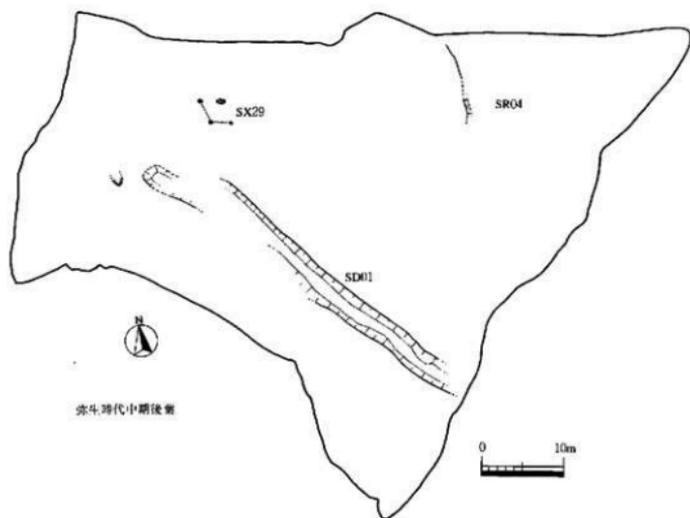
川跡S R03がある。また竪穴住居跡及び掘立柱建物跡が見られる。掘立柱建物跡はS R03と同じ方向であることから、この時期と考えた。

(6) 中世(第153図)

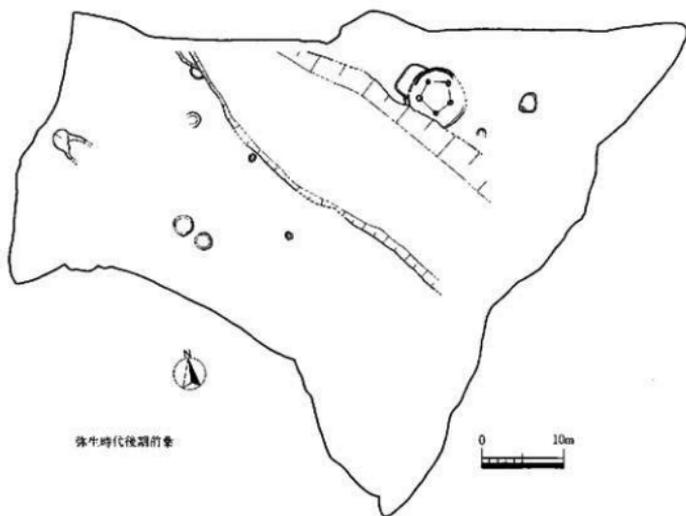
掘立柱建物跡及び不定型な土坑が多い。掘立柱建物跡は一ヶ所に重複している。S X11からは多量の上師器が出土している。

(7) 近世以降(第153図)

川跡S R02埋没後に、井戸や水溜用と考えられる土坑が検出されている。

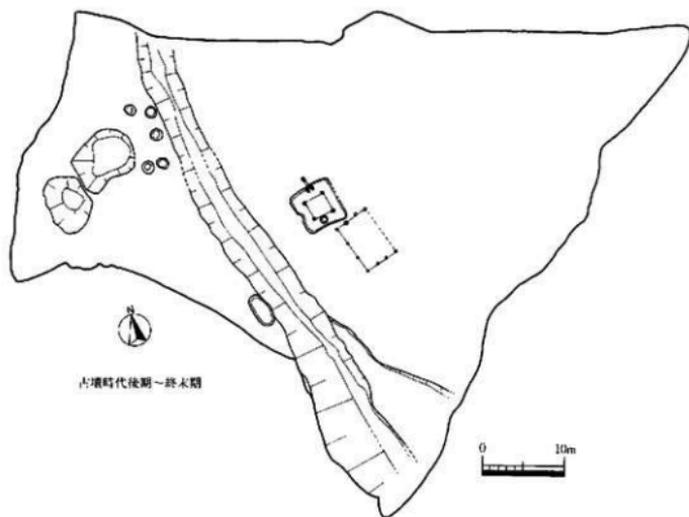
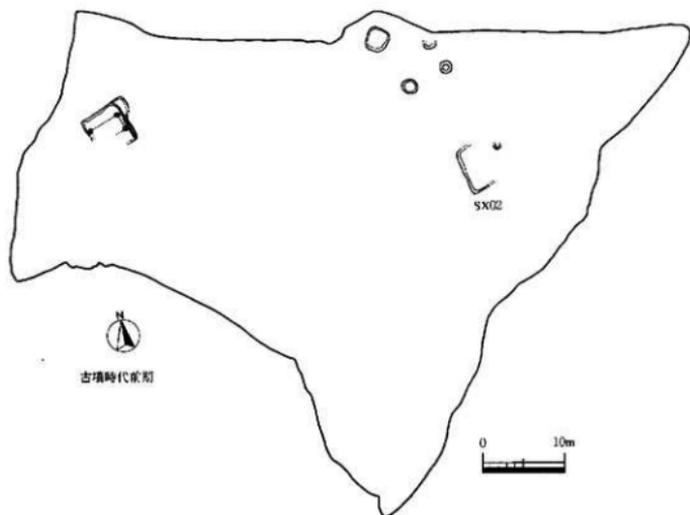


新石器時代中期後葉

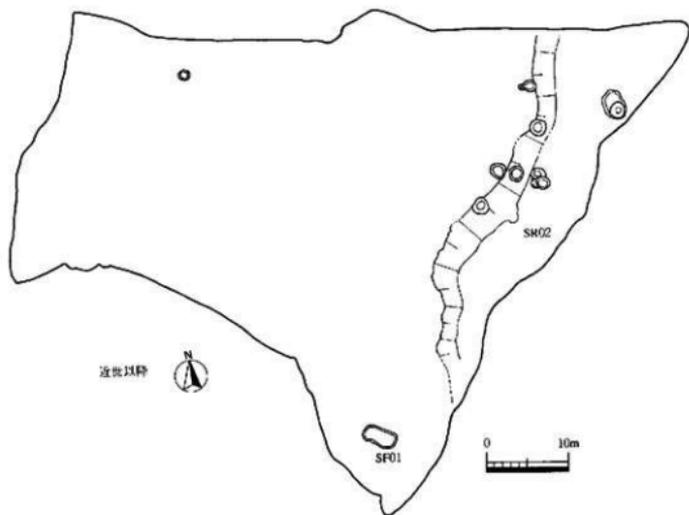
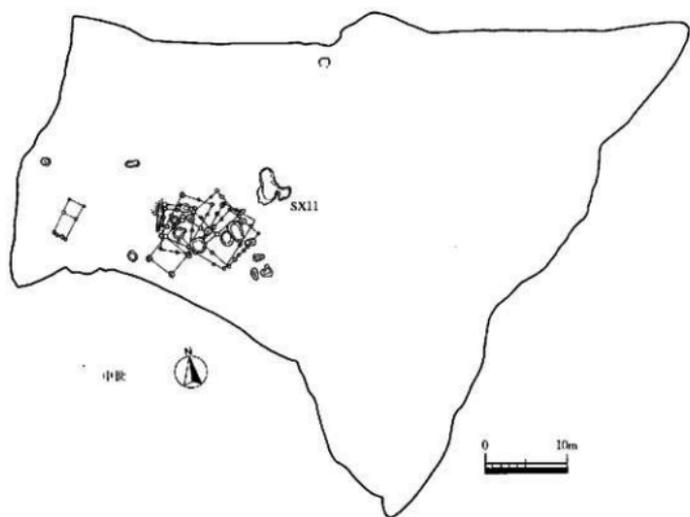


新石器時代後期前葉

第151圖 金毘羅山遺跡遺構變遷圖(1) (1/600)



第152図 金毘羅山遺跡遺構変遷図(2) (1/600)



第153圖 金毘羅山遺跡遺構變遷圖(3)(1/600)

2 石器について

(1) 製品

石器製品の内訳は第22表のとおりである。サヌカイトの分類は肉眼で行ったが、ほとんどが金山産と考えられるものであり、第4章で報告する引田町庵の谷遺跡で比較的多く出土したタイプのサヌカイトI（仮称）（やや黒色で、剥離面にざらざらとする光沢をもち、礫面は円礫状を呈する）は、1161.1の1点のみである。

(2) 製品以外の石器類

第21表は、石材別の製品以外の剥片等の石器類の一覧表である。サヌカイトIは1点で、その他のサヌカイトは2点のみとなっている。結晶片岩の破片も少ない。

(3) 球状耳飾について

球状耳飾の出土は当県では初めてである。その形態は、球状耳飾が多く出土し始める時期としては最古の時期である縄文時代早期末から前期初頭頃のものである。ただ、当遺跡から前期前葉の羽島下層式の土器が出土している。瀬戸内地域の球状耳飾の時期的な変遷は明らかではないため、当遺跡出土の球状耳飾がこの時期まで下るものかどうかは今後の事例の増加を待つしかない。時期を問わなければ、四国内の事例としては徳島県で1例、高知県で10例が知られている。石材は、糸魚川市立フォッサマグナミュージアムでの電子顕微鏡を使用した分析によれば、蛇紋岩とされている。

石材	数量	重量 (g)
サヌカイト (金山)	344	931.71
サヌカイトI	1	7.43
サヌカイトO	2	0.92
結晶片岩	4	16.84

第21表 金毘羅山遺跡の製品以外の石器類一覧表

器種	石材	数量	重量 (g)	石材ごとの重量 (g)	
スクレイパー	サヌカイト	5	153.83	1258.26	
石核	サヌカイト	5	679.26		
石鏃	サヌカイト	8	16.03		
石鏃	サヌカイト	32	36.12		
打製石斧	サヌカイト	1	5.84		
二次加工剥片	サヌカイト	2	18.84		
楔形石器	サヌカイト	32	348.34		
打製石鐮丁	安山岩	1	62.38		62.38
磨石	安山岩脈岩	4	2061.5		2539.17
敲き石	安山岩脈岩	1	477.67		
石棒	結晶片岩	1	22.57	473.04	
打製石鐮丁	結晶片岩	1	26.99		
柱状片刃石斧	結晶片岩	2	333.86		
磨製石斧	結晶片岩	1	89.62		
敲き石	砂岩	1	80.04	80.04	
砥石	不明	1	32.07	863.72	
磨製石斧	不明	2	104.86		
磨石	不明	1	538.04		
敲き石	不明	1	188.75		
砥石	流紋岩	1	53.11		
磨製石鐮丁	流紋岩	1	6.96	60.07	

第22表 金毘羅山遺跡石器製品一覧表

第2節 庵の谷遺跡

1 遺構の変遷

(1) 弥生時代中期末葉～後期初頭

I・II区の遺構はほとんどこの時期のものと考えられる。I区では確実な竪穴住居跡は1棟のみ検出できたものの、柱穴配列及び次の項目で報告する石器類の出土状態からの復元により数棟の竪穴住居跡が復元されよう。

(2) 中世

III区で掘立柱建物跡及び柱穴が多数検出されており、III区の遺構のほとんどは当時期と考えられる。

2 石器について

(1) 石器類の取り上げ方法と出土位置

I区包含層掘削時にサヌカイト石器類が多量に出土したので、1m四方の区画をもうけて遺物を取り上げている。区画の設定位置及びそれぞれの区画からのサヌカイト製石器及び剥片の出土数を第154・156図で示した。サヌカイト製品の出土分布には集中する部分が見られ、これは包含層というよりは遺構埋土から出土した可能性が高いのではないかと考えられる。そこで、出土点数100点以上、50点以上及びそれ以下の区画に異なる網掛けをした図を、第121図竪穴住居跡分布想定図と重ね合わせたものが第155図である。これを見ると石器類が集中して出土した区画のままとまりと、柱穴がたくさん存在することなどから竪穴住居跡と想定した部分のある程度の一致が見られる。このことから、当遺跡では明確な竪穴住居跡S H01以外に竪穴住居跡が数棟存在した可能性が強まったと言えよう。

なお、サヌカイト製品は肉眼で3種類に区別した。金山産と考えられるサヌカイト、サヌカイトI(仮称)(やや黒色で、剥離面にぎらぎらとする光沢をもち、礫面は円礫状を呈する)及びそれ以外のもの(サヌカイトO)である。それぞれの種類のサヌカイトの出土状況に差は見いだせない(第156図)。

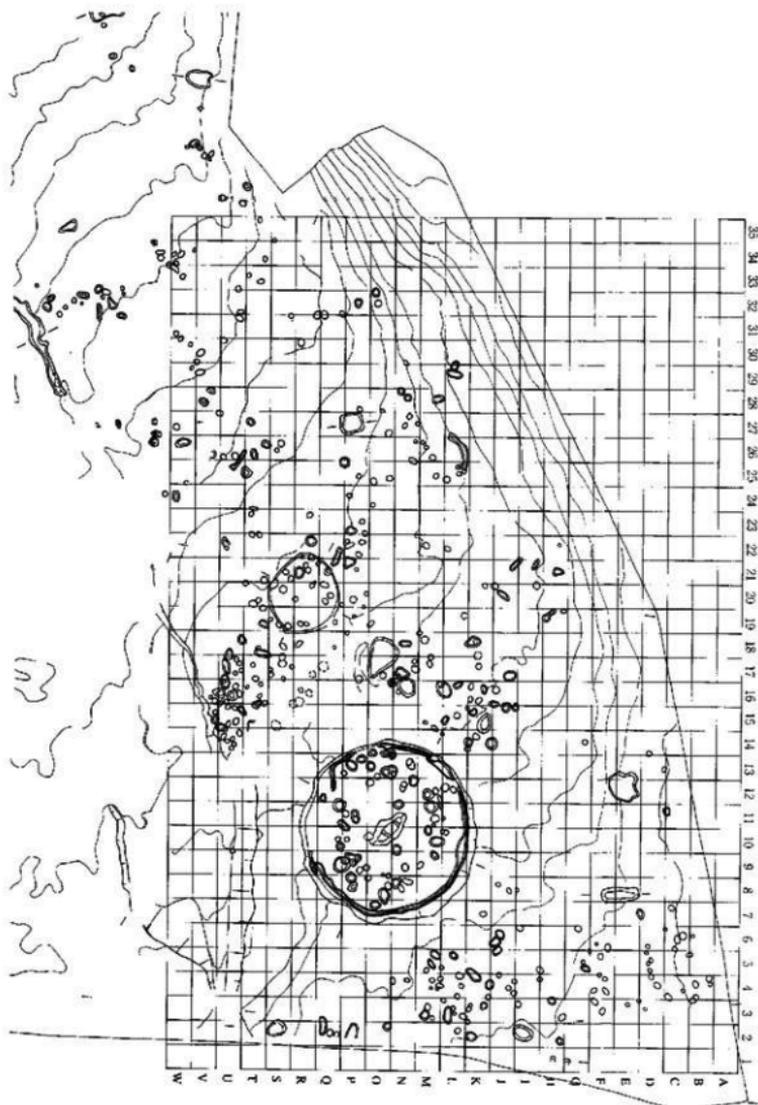
(2) 石器製品の集計

第23～27表は、当遺跡で出土した石器及び石製品の一覧表である。サヌカイト製品(第23・24表)のI区のデータはS H01とそれ以外で分けて集計している。III区は中世の遺構がほとんどであるため、遺物の出土は少ない。サヌカイト製品では、石鏃を除けば、楔形石器が多い。これは石器製品の一部に、その主要剥離面の打点が点状を呈するものがあることから、従来から指摘されているように、楔形石器が小型石器(石鏃・石錐等)の素材剥片を剥離するための石核としての役割があったものと考えられる。

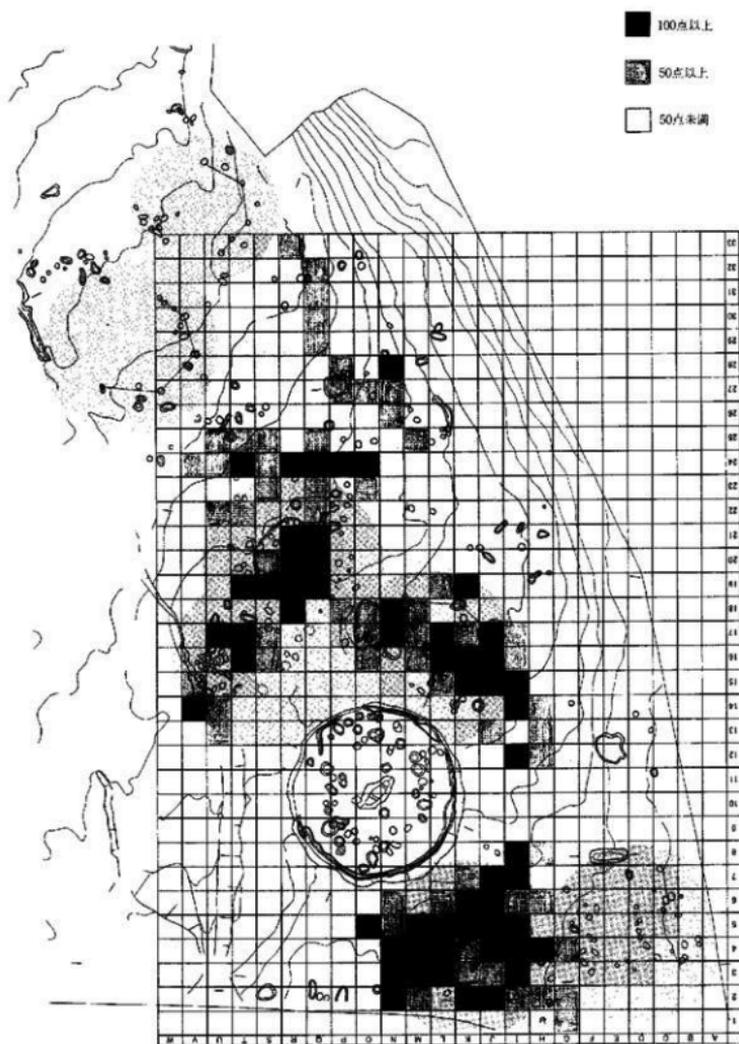
磨製石器(第25表)は、大型蛤刃石斧を除き、すべて結晶片岩製である。磨製石鏃は先端が研磨によって尖ったものを石鏃とした。

石製品(第26表)では、原石を輪切りにして穿孔したような玉が5点出土しており注目される。また管玉はI区のサヌカイトが集中的に出土している部分から出土しており、竪穴住居跡から出土した可能性がある。

礫石器のうち石鏃は1点を除き、敲打により溝を形成するものである。



第154図 石器類の取り上げ区画の名称と位置 (1/200)



第155図 サスカイト製石器類出土分布密度図 (1/200)

調査区	石材	石鏝				石鏝				石砲丁			
		点数	(%)	重量(g)	(%)	点数	(%)	重量(g)	(%)	点数	(%)	重量(g)	(%)
全体	全体	764		1133.88		92		202.15		4		89.38	
	金山	681	89.1%	1016.32	89.6%	88	95.7%	199.29	98.6%	4	100%	89.38	100%
	I	41	5.4%	73.78	6.5%	3	3.3%	2.03	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
	O	42	5.5%	43.78	3.9%	1	1.1%	0.83	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
I区 SH01	全体	162		243.64		36		79.87		0		0	
	金山	147	90.7%	220.75	90.6%	34	94.4%	78.28	98.0%	0		0	
	I	11	6.8%	19.7	8.1%	2	5.6%	1.59	2.0%	0		0	
	O	4	2.5%	3.19	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0		0	
I区	全体	524		728.72		47		100.13		4		89.38	
	金山	472	90.1%	668.19	91.7%	45	95.7%	98.86	98.7%	4	100%	89.38	100%
	I	19	3.6%	37.39	5.1%	1	2.1%	0.44	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
	O	33	6.3%	23.14	3.2%	1	2.1%	0.83	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
II区	全体	76		155.88		7		13.99		0		0	
	金山	60	78.9%	121.71	78.1%	7	100.0%	13.99	100.0%	0		0	
	I	11	14.5%	16.69	10.7%	0	0.0%	0	0.0%	0		0	
	O	5	6.6%	17.45	11.2%	0	0.0%	0	0.0%	0		0	
III区	全体	2		5.64		2		8.16		0		0	
	金山	2	100.0%	5.64	100.0%	2	100.0%	8.16	100.0%	0		0	
	I	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0	
	O	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0	

調査区	石材	スクレイパー				楔形石器				その他			
		点数	(%)	重量(g)	(%)	点数	(%)	重量(g)	(%)	点数	(%)	重量(g)	(%)
全体	全体	31		276.64		572		5436.16		160		1095.99	
	金山	29	93.5%	215.52	77.9%	544	95.1%	5168.07	95.1%	155	96.9%	1057.98	96.5%
	I	2	6.5%	61.12	22.1%	28	4.9%	268.09	4.9%	5	3.1%	38.01	3.5%
	O	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
I区 SH01	全体	7		41.67		185		887.8		48		252.21	
	金山	7	100.0%	41.67	100.0%	179	96.8%	835.25	94.1%	45	93.8%	245.44	97.3%
	I	0	0.0%	0	0.0%	6	3.2%	52.55	5.9%	3	6.3%	6.77	2.7%
	O	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
I区	全体	19		160.14		333		3997.21		99		706.79	
	金山	17	89.5%	99.02	61.8%	328	98.5%	3952.04	98.9%	97	98.0%	675.55	95.6%
	I	2	10.5%	61.12	38.2%	5	1.5%	45.17	1.1%	2	2.0%	31.24	4.4%
	O	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
II区	全体	3		49.57		54		551.15		13		136.99	
	金山	3	100.0%	49.57	100.0%	37	68.5%	380.78	69.1%	13	100.0%	136.99	100.0%
	I	0	0.0%	0	0.0%	17	31.5%	170.37	30.9%	0	0.0%	0	0.0%
	O	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
III区	全体	2		25.26		0		0		0		0	
	金山	2	100.0%	25.26	100.0%	0		0		0		0	
	I	0	0.0%	0	0.0%	0		0		0		0	
	O	0	0.0%	0	0.0%	0		0		0		0	

第23表 噎の谷遺跡サヌカイト製品一覧表(1)

(3) 石器剥片の集計

第28・29表は、サヌカイト及び結晶片岩剥片の集計表である。サヌカイトIの剥片は、点数は全体数の3%しか占めないものの、重量では全重量の10%程度を占めている。比較的大きな剥片が出土していることを示しているのものと考えられる。サヌカイトIは、(4)で後述するように転石である可能性がある。転石は、石が転がる時の衝撃で内面に潜在割れが生じている可能性が高いとされ、石器石材には向いていないとされる。そのため、この石材を利用するときには比較的大きな剥片の段階で、素材として不適切であるため、廃棄されることが多かったということを出土剥片のデータは示している可能性があるのではないだろうか。

結晶片岩は、土器の胎土にかなり含まれていることに暗示されるように、岩石の産地である吉野川流域に近いこともあり、製品及び剥片の出土数はかなり多い。

(4) 石器石材の動き

庵の谷遺跡では、肉眼識別という前提の上ではあるが、多量の金山産サヌカイトの他に、産地不明のサヌカイト(サヌカイトI)が製品で5%、剥片で3%程度割合(第29表)で使用されている。この産地不明の石材は、先述した大内町金毘羅山遺跡及び引田町内遺跡の調査でも、数は少ないが出土していることが判明している。今後、白鳥町城の調査報告書の作成に伴い新たな事実が提出されるであろうし、また地元産地があることも考慮した上で、産地の特定にも目を向ける必要がある。このサヌカイトIが金山産でないことが確実になるならば、弥生時代中期末から後期初辺において、金山の原産地から直線距離にして50km離れた庵の谷遺跡では、金山産サヌカイトのみの石材の動きでは説明できない状況があったといえる。

なお、このサヌカイトIの特徴の一つである稜面がつるつるとした円礫であることは、京都大学原子が実験所の齋科哲男氏の教示によれば、近畿南部の

調査区	石材	合計			
		点数	(%)	重量(g)	(%)
全体	全体	1623		8234.2	
	金山	1501	92.5%	7746.56	94.1%
	I	79	4.9%	443.03	5.4%
	O	43	2.6%	44.61	0.5%
	全体	438		1505.19	
I区 SI101	金山	412	94.1%	1421.39	94.4%
	I	22	5.0%	80.61	5.4%
	O	4	0.9%	3.19	0.2%
	全体	1026		5782.37	
I区	金山	963	93.9%	5583.04	96.6%
	I	29	2.8%	175.36	3.0%
	O	34	3.3%	23.97	0.4%
	全体	153		907.58	
II区	金山	120	78.4%	703.07	77.5%
	I	28	18.3%	187.06	20.6%
	O	5	3.3%	17.45	1.9%
	全体	6		39.06	
III区	金山	6	100.0%	39.06	100.0%
	I	0	0.0%	0	0.0%
	O	0	0.0%	0	0.0%
	全体	6		39.06	

第24表 庵の谷遺跡サヌカイト製品一覧表(2)

器種	数量	重量(g)	備考
大型蛤刃石斧	1	1347.45	不明石材
柱状片刃石斧	19	488.9	すべて結晶片岩
扁平片刃石斧	9	106.39	すべて結晶片岩
扁平or柱状	29	40.19	すべて結晶片岩
磨製石鏃?	2	5.07	すべて結晶片岩
磨製石砲丁	1	44.85	すべて結晶片岩

第25表 庵の谷遺跡磨製石器一覧表

器種	数量	重量(g)	石材
玉	5	28.6	すべて不明石材
打製石砲丁	7	433.17	結晶片岩
打製石鏃?	1	2.96	結晶片岩
不明	1	7.97	結晶片岩
管玉	2	1.21	碧玉

第26表 庵の谷遺跡他石材製品集計表(磨製石器を除く)

器種	点数	重量(g)	石材
石皿	4	7273.38	すべて砂岩
磨石	1	458.21	砂岩?
			砂岩14, 流紋岩?2, 安山
敲石	19	8406.84	岩脈岩?2, チャート1
石鏢	7	2307.12	すべて砂岩

第27表 庵の谷遺跡礫石器一覧表

風化した円礫面（表面がごつごつしている）をもつものとは異なり、川や海で採取できるあまり風化の進んでいない転石の原石である可能性が高いとされる。今後は、淡路島等を含めた付近の海岸や川での原石の探索が必要である。

調査区名	金山		サヌカイト I		サヌカイト O		サヌカイト全体		結晶片岩	
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
I区 S H01	8228	3374.76	198	239.17	32	23.05	8458	3636.98	24	41.65
I区	21769	7993.85	664	1069.21	248	602.78	22681	9665.84	83	154.6
II区	1563	1505.89	136	261.96	8	7.8	1707	1775.65	13	56.36
III区	38	38.9	1	1.46	1	0.21	40	40.57	0	0

第28表 庵の谷遺跡サヌカイト剥片等一覧表

石材	点数	(%)	重量(g)	(%)
全体	32886		15119.04	
金山	31603	96.1%	12913.99	85.4%
I	999	3.0%	1571.8	10.4%
O	289	0.9%	633.84	4.2%

第29表 庵の谷遺跡サヌカイト剥片集計表

出土遺物觀察表

番号	村名	調査区	遺構名	部位	石瓦	瓦葺	角四石	その他	瓦葺	内瓦葺	外瓦葺	備考
42	岡文上層	区①	SD01	粗砂多	粗砂多			2.5V7/2K黄	1/8	7/19	7/19	
43	岡文上層	区②	ST02/TSK30	粗砂多	粗砂少			2.5V6/1黒瓦	1/8	7/19	7/19	
44	岡文上層	区③	SP176	粗砂多	粗砂少			7.5V17/2K黒	1/8	7/19	7/19	
45	岡文上層	区④	SG28	粗砂多	粗砂多			2.5V8/3	1/8	7/19	7/19	
46	岡文上層	区⑤	SK15	粗砂多	粗砂多			2.5V7/2K黄	1/8	7/19	7/19	
47	岡文上層	区⑥	SG26①	粗砂多	粗砂多			5.77/2K1	1/8	7/19	7/19	下上→分2区
48	岡文上層	区⑦	SG26②	粗砂多	粗砂少			2.5V7/2K黄	1/8	7/19	7/19	
49	岡文上層	区⑧	SK14①	粗砂多	粗砂多			10V13/1黒	1/8	7/19	7/19	
50	岡文上層	区⑨	SK14②	粗砂多	粗砂多			10V17/2K黄	1/8	7/19	7/19	
51	岡文上層	区⑩	SG28	粗砂多	粗砂多			7.5V15/1七/黒	1/8	7/19	7/19	
52	岡文上層	区⑪	SK27	粗砂多	粗砂多			2.5V7/2K黄	1/8	7/19	7/19	
53	岡文上層	区⑫	SK23①	粗砂多	粗砂少			2.5V7/2K黄	1/8	7/19	7/19	
54	岡文上層	区⑬	上面積産	粗砂多	粗砂多			10V18/2K白	1/8	7/19	7/19	
55	岡文上層	区⑭	上面積産	粗砂多	粗砂多			2.5V4/1黒瓦	1/8	7/19	7/19	
56	岡文上層	区⑮	SK02①	粗砂多	粗砂少			2.5V8/2K黄	1/8	7/19	7/19	
57	岡文上層	区⑯	SD01	粗砂多	粗砂多			10V13/2K黄	1/8	7/19	7/19	
58	岡文上層	区⑰	SD01	粗砂多	粗砂多			2.5V7/2K黄	1/8	7/19	7/19	
59	岡文上層	区⑱	SI02p127層切	粗砂多	粗砂少			2.5V5/2K黄	1/8	7/19	7/19	下部→分2区
60	岡文上層	区⑲	上面積産	粗砂多	粗砂少			2.5V5/2K黄	1/8	7/19	7/19	
61	岡文上層	区⑳	SK01①	粗砂多	粗砂少			2.5V8/2K白	1/8	7/19	7/19	
62	岡文上層	区㉑	SK01②	粗砂多	粗砂少			10V18/2七/黄	1/8	7/19	7/19	
63	岡文上層	区㉒	SK01③	粗砂多	粗砂少			2.5V4/3V7一/黒	1/8	7/19	7/19	2/3区
64	岡文上層	区㉓	SK27	粗砂多	粗砂多			10V18/2七/黄	1/8	7/19	7/19	2/3区
65	岡文上層	区㉔	SK27	粗砂多	粗砂多			2.5V4/3V7一/黒	1/8	7/19	7/19	2/3区
66	岡文上層	区㉕	SK27	粗砂多	粗砂多			10V18/2七/黄	1/8	7/19	7/19	2/3区
67	岡文上層	区㉖	SK27	粗砂多	粗砂多			2.5V4/3V7一/黒	1/8	7/19	7/19	2/3区
68	岡文上層	区㉗	上面積産	粗砂多	粗砂多			2.5V7/2K黄	1/8	7/19	7/19	
69	岡文上層	区㉘	SK07	粗砂多	粗砂多			2.5V7/2K黄	1/8	7/19	7/19	
70	岡文上層	区㉙	SK01	粗砂多	粗砂少			2.5V6/2K黄	1/8	7/19	7/19	山積層の分2区
71	岡文上層	区㉚	SK01	粗砂多	粗砂少			2.5V8/2K黄	1/8	7/19	7/19	
72	岡文上層	区㉛	SK01	粗砂多	粗砂多			5V3/14一/黒	1/8	7/19	7/19	
73	岡文上層	区㉜	SK01	粗砂多	粗砂多			5V8/2K白	1/8	7/19	7/19	
74	岡文上層	区㉝	SK01	粗砂多	粗砂多			2.5V7/2K黄	1/8	7/19	7/19	
75	岡文上層	区㉞	SK01	粗砂多	粗砂多			10V13/1黒	1/8	7/19	7/19	
76	岡文上層	区㉟	SK01①	粗砂多	粗砂多			2.5V8/2K黄	1/8	7/19	7/19	
77	岡文上層	区㊱	上面積産	粗砂多	粗砂多			10V13/1黒	1/8	7/19	7/19	
78	岡文上層	区㊲	上面積産	粗砂多	粗砂多			2.5V8/2K黄	1/8	7/19	7/19	
79	岡文上層	区㊳	SK06	粗砂多	粗砂多			10V13/1黒	1/8	7/19	7/19	
80	岡文上層	区㊴	SK06	粗砂多	粗砂多			10V18/2K黄	1/8	7/19	7/19	
81	岡文上層	区㊵	SK05③	粗砂多	粗砂少			10V17/2一/黄	1/8	7/19	7/19	

第31表 全尾羅山遺跡土器調査表(2)

番号	岩種	測点区	遺構名	壁位	長さ・石英	薬片	角閃石	その他	心調	吸着量	内面調査	外面調査	備考
82	絹文土層	深鉢 II区②	横溝面清及心上面	粗砂多	粗砂多				10YR7.5/7.4黄緑	1/8	+	+	
83	絹文土層	深鉢 II区②	上り基部	粗砂多	粗砂多				10YR7.2/7.4黄緑	1/8	+	+	
84	絹文土層	深鉢 II区②	横溝面清及び上面	粗砂多	粗砂多				2.5Y8.2/8.0白	1/8	+	+	
85	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				2.5Y11.0/8.2	1/8	+	+	
86	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				2.5Y9.2/8.0黄	1/8	+	+	
87	絹文土層	深鉢 II区②	横溝面清及び心上面	粗砂多	粗砂多				2.5Y7.0/8.2黄	1/8	+	+	
88	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				2.5Y7.0/8.2黄	1/8	+	+	
89	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				2.5Y4.1/8.2黄	1/8	+	+	
90	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				2.5Y5.2/8.0黄	1/8	+	+	
91	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				7.5Y12.2/8.0黄	1/8	+	+	
92	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				10YR8.2/8.0白	1/8	+	+	
93	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				2.5Y8.2/8.2黄	1/8	+	+	
94	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				7.5YR7.4/2.7(黒)	1/8	+	+	
95	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				10YR6.4/7.4(赤中)	1/8	+	+	
96	絹文土層	深鉢 II区②	北面一面調査	粗砂多	粗砂多				2.5Y7.3/8.2黄	1/8	+	+	
97	絹文土層	深鉢 II区②	北面一面調査	粗砂多	粗砂多				7.5YR3.1/8.2(黒)	1/8	+	+	
98	絹文土層	深鉢 II区②	上面調査(深鉢口)	粗砂多	粗砂多				10YR6.2/7.4(赤中)	1/8	+	+	
99	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				4.5YR7.0/8.2(赤)	1/8	+	+	
100	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				5.5YR7.0/8.2(赤)	1/8	+	+	
101	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				10YR6.4/7.4(赤中)	1/8	+	+	
102	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				10YR5.2/8.2(黒)	1/8	+	+	
103	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				10YR5.2/8.2(黒)	1/8	+	+	
104	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				2.5Y8.2/8.0白	1/8	+	+	
105	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				2.5Y9.2/8.2黄	1/8	+	+	
106	絹文土層	深鉢 II区②	南面包含層(Ⅱ区)	粗砂多	粗砂多				2.5Y4.1/8.2黄	1/8	+	+	
107	絹文土層	深鉢 II区②	北面一面調査	粗砂多	粗砂多				5YR4.2/7.4(赤地)	1/8	+	+	
108	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				2.5Y7.3/8.2黄	1/8	+	+	
109	絹文土層	深鉢 II区②	横溝面清及び上面	粗砂多	粗砂多				10YR4.2/7.4(赤地)	1/8	+	+	
110	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				10YR7.2/7.4黄緑	1/8	+	+	
111	絹文土層	深鉢 II区②	上面調査	粗砂多	粗砂多				5YR5.0/8.2(赤)	1/8	+	+	
112	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				5YR5.0/8.2(赤)	1/8	+	+	
113	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				2.5Y11.0/8.2	1/8	+	+	
114	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				5YR5.0/8.2(赤)	1/8	+	+	
115	絹文土層	深鉢 II区②	上面調査(Ⅱ区西)	粗砂多	粗砂多				7.5YR2.1/8.2	1/8	+	+	
116	絹文土層	深鉢 II区②	深鉢口	粗砂多	粗砂多				7.5YR1.6/8.2	1/8	+	+	

第32表 金尾嵐山遺跡土器観察表(3)

番号	岩種	調査区	遺構名	層位	柱石・石炭	窓石	角閃石	その他	色調	残存 量	内面調整	外面調整	備考
229	粘土・土層 凝	I区① S140C		粗砂多	粗砂多				2.5Y7/3黄緑	3/8	口縁コナリ、面へツギキ、 脚板ナリ	外面調整 口縁コナリ、面へツギキ	備考
230	粘土・土層 凝	I区① S140C		粗砂多	粗砂多				2.5Y7/4黄緑	1/8	ナリ	外面調整 口縁コナリ、面へツギキ	
231	粘土・土層 凝	I区① S140C	108E以東	粗砂多	粗砂多				2.5Y5/4黄緑	2/8	ナリ	ナリ	
232	粘土・土層 凝	I区① S140C		粗砂多	粗砂少				5YR5/6黄	1/8	ナリ後ナリ	ナリ	床へ心不揃
233	粘土・土層 凝	I区① S140C		粗砂多	粗砂多				10YR3/4黄赤	1/8	不明	取ナリ	
234	粘土・土層 凝	I区① S140C	108E以西	粗砂多	粗砂多				5YR5/6黄	4/8	11線コナリ、面へツギキ	取ナリ	
235	粘土・土層 凝	I区① S140C		粗砂多	粗砂多				2.5Y7/4黄緑	6/8	ナリ	ナリ	
236	粘土・土層 凝	I区① S140C		粗砂多	粗砂多				2.5YR7/8黄赤	1/8	ナリ	ナリ	
237	粘土・土層 高粘	I区① S101F		粗砂多	粗砂少				2.5Y1R7/6黄赤	1/8	ナリ	ナリ	
238	粘土・土層 高粘	I区① S101C		粗砂多	粗砂多		結晶片多、赤色 砂多		5YR7/6黄	1/8	ナリ	ナリ	
239	粘土・土層 高粘	II区① S23		粗砂多	粗砂多				10YR7/6黄赤	1/8	口縁コナリ、面へツギキ	口縁コナリ、面へツギキ	
240	粘土・土層 凝	II区① SK23		粗砂多	粗砂多				5YR6/6黄	3/8	面へ板ナリ	面へ板ナリ	
241	粘土・土層 凝	II区① SK23		粗砂多	粗砂多		赤色板多		2.5Y7/3黄赤	1/8	面へツギキ	面へツギキ	
242	粘土・土層 凝	II区① SK23		粗砂多	粗砂多				5YR5/6黄	6/8	面へツギキ	面へツギキ	
243	粘土・土層 凝	II区① SK23		粗砂多	粗砂多				2.5YR4/4黄赤	6/8	面へツギキ	面へツギキ	
244	粘土・土層 凝	II区① SK30		粗砂多	粗砂多				10YR7/4-7黄赤	1/8	面へツギキ後板ナリ	面へツギキ	
245	粘土・土層 凝	I区① SK04		粗砂多	粗砂少				7.5YR6/7黄	4/8	取ナリ	取ナリ	
246	粘土・土層 凝	I区① SK04		粗砂多	粗砂多				10YR5/3-7黄赤	1/8	ナリ	不明	
247	粘土・土層 凝	I区① SK07		粗砂多	粗砂多				7.5YR6/8黄	6/8	赤板多	赤板多	
248	粘土・土層 凝	II区① SK27		粗砂多	粗砂多				5YR7/8黄	1/8	ナリ	ナリ	
249	粘土・土層 凝	II区① SK27		粗砂多	粗砂多				10YR6/6黄赤	1/8	ナリ	ナリ	
250	粘土・土層 凝	II区① SK27		粗砂多	粗砂多				5YR5/8黄赤	1/8	ナリ	ナリ	
251	粘土・土層 凝	II区① SK27		粗砂多	粗砂多		赤色板多		10YR6/6黄赤	2/8	12線コナリ、面へツギキ	口縁コナリ、面へツギキ	
252	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂少	粗砂多				2.5Y7/3黄赤	7/8	12線コナリ、面へツギキ	口縁コナリ、面へツギキ	
253	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂少				10YR7/4-7黄赤	2/8	ナリ	ナリ	
254	粘土・土層 凝	I区① SK02		粗砂多	粗砂多		赤色板多		10YR7/6黄赤	3/8	12線コナリ、面へツギキ	11線コナリ、面へツギキ	
255	粘土・土層 凝	I区① SK02		粗砂多	粗砂多		赤色板多		10YR7/7黄赤	6/8	ナリ	ナリ	
256	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂多				10YR7/3-7黄赤	1/8	11線コナリ	11線コナリ	
257	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂多				10YR7/4-7黄赤	6/8	ナリ	後コナリ	
258	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂少				10YR6/7黄赤	2/8	赤板多	赤板多	
259	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂多				7.5YR7/6黄	2/8	赤板多	赤板多	
260	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂多				5YR7/6黄	2/8	赤板多	赤板多	
261	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂多				10YR7/3-7黄赤	1/8	11線コナリ	11線コナリ	
262	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂多				10YR7/4-7黄赤	6/8	ナリ	ナリ	
263	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂多				10YR6/7黄赤	2/8	赤板多	赤板多	
264	粘土・土層 凝	II区① SK27		粗砂多	粗砂多				7.5YR7/6黄	2/8	ナリ	ナリ	
265	粘土・土層 高粘	II区① SK27		粗砂多	粗砂多				10YR6/6黄赤	2/8	12線コナリ	12線コナリ	
266	粘土・土層 凝	I区① SK02		粗砂少	粗砂多				2.5Y7/3黄赤	7/8	12線コナリ、面へツギキ	口縁コナリ、面へツギキ	
267	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂少				10YR7/4-7黄赤	2/8	ナリ	ナリ	
268	粘土・土層 凝	I区① SK02		粗砂多	粗砂多		赤色板多		10YR7/6黄赤	3/8	12線コナリ、面へツギキ	11線コナリ、面へツギキ	
269	粘土・土層 凝	I区① SK02		粗砂多	粗砂多		赤色板多		10YR7/7黄赤	6/8	ナリ	ナリ	
270	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂多		赤色板多		10YR7/3-7黄赤	1/8	11線コナリ	11線コナリ	
271	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂多				10YR7/4-7黄赤	6/8	ナリ	ナリ	
272	粘土・土層 凝	I区① SK02		粗砂少	粗砂多				10YR6/7黄赤	2/8	赤板多	赤板多	
273	粘土・土層 凝	II区① SK02	中層へ下	粗砂多	粗砂多				7.5YR7/6黄	2/8	ナリ	ナリ	
274	粘土・土層 凝	I区① SK02		粗砂多	粗砂多				7.5YR7/6黄	7/8	ナリ	ナリ	
275	粘土・土層 凝	II区① SK02		粗砂多	粗砂多				10YR7/3-7黄赤	3/8	取ナリ	口縁コナリ、面へツギキ	
276	粘土・土層 凝	I区① SK02		粗砂多	粗砂多				2.5YR5/8黄赤	5/8	粗板ナリ	口縁コナリ、面へツギキ	

第36表 金比羅山遺跡土器調査表(7)

番号	洞窟名	調査区	遺構名	階位	瓦石・灰石	瓦石	その他	色面	保存状況	平面図	外面図	備考
318	赤生土器 鉢	I 区(D)	S002	埋砂多	角四石	その他	色面	保存	平面図	外面図		
319	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			色面	2/8	へ2/3迄	へ2/3迄		
320	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	1/8	子	子		
321	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	1/8	子	子		
322	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
323	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
324	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
325	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
326	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
327	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
328	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
329	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
330	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
331	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
332	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
333	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
334	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
335	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
336	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
337	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
338	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		
339	赤生土器 鉢	I 区(C)	S002	埋砂多			赤色粉多	2/8	子	子		

第38表 金比羅山遺跡土器観察表(9)

番号	岩種	調査区	産地名	層位	長石・石英	斑岩	角閃石	その他	色調	風化	内面調査	外面調査	備考
300	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			7.5YR4/4地	3.8	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
311	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			2.5Y7/2黄	2.8	ハテ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
322	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR3.2黄	7.8	ハテ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
343	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			2.5Y7.2黄	2.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
344	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR7.7黄	6.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
345	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			2.5Y5.2黄	4.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
346	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR5.2黄	2.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
347	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR3.2黄	2.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
348	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			2.5Y6.4黄	2.8	ハテ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
349	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR7.4黄	5.8	ハテ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
350	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			2.5Y6.3黄	7.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
351	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			2.5Y6.2黄	5.8	上半部は赤、下半部 は	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
352	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			2.5Y6.2黄	6.8	上半部は赤、下半部 は	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
353	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR6.4黄	5.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
354	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR7.4黄	7.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
355	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			5YR5.4黄	5.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
356	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			2.5Y7.2黄	6.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
357	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR6.4黄	5.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
358	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR7.4黄	6.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
359	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR5.3黄	2.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
360	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR5.3黄	3.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
361	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			7.5YR5.4黄	1.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
362	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			5YR6.4黄	4.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
363	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			5YR7.4黄	6.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則
364	赤生上層 裏	I区D	S001上器部表	シルト層	粗砂多	粗砂少			10YR7.4黄	5.8	粗砂テ	口縁コナテ、黒い半ハ 同上、半ハテ、下半 ハテ	砂石が混入し、外 形は不規則

第39表 会羅山遺跡土器観察表 (10)

番号	別称	産出区	産種名	品位	石英・ 石英	角閃石	その他	色調	残存 量	片面調整	外面調整	備考
362	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少	角閃石		7.5YR6/6H	5/8	板子		外面調整 粗砂多
364	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			2.5Y7.4/黄	6/8	ハタ板子		ハタ板子以下板 子
365	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			2.5Y7.4/黄	6/8	ハタ板子		中間板
366	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			2.5Y7.4/黄	7/8	板子		中間板板子
368	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			10YR7.4/黄	5/8	ハタ板子		ハタ板子
370	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			7.5YR6.4/黄	7/8	板子		1板子
371	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			7.5YR7.6/黄	6/8	板子		1板子
372	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			7.5YR7.6/黄	7/8	板子		1板子
373	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			5.8	5/8	板子		1板子
374	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			10YR7.4/黄	7/8	板子		1板子
375	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			7.5YR6.4/黄	7/8	板子		1板子
376	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			5YR6.1/黄	2/8	ハタ板子		ハタ板子
377	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			10YR8.4/黄	7/8	板子		1板子
378	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			2.5Y7.4/黄	2/8	ハタ板子		ハタ板子
379	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			10YR7.4/黄	4/8	7/8		9/8ハタ板子
380	赤生土調整 鉢	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			10YR6.1/黄	4/8	7/8		9/8ハタ板子
381	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			7.5YR7.4/黄	4/8	板子		1板子
382	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			2.5Y7.2/黄	6/8	板子		1板子
383	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			7.5YR6.4/黄	4/8	板子		1板子
384	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			2.5Y6.3/黄	3/8	ハタ板子		ハタ板子
385	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			2.5Y4.2/黄	3/8	ハタ板子		ハタ板子
386	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			5YR6.6/黄	3/8	ハタ板子		ハタ板子
387	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			7.5YR7.8/黄	1/8	7/8		1板子
388	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			5YR6.8/黄	5/8	板子		1板子
389	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			7.5YR7.6/黄	1/8	1板子		1板子
390	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			10YR7.4/黄	3/8	板子		1板子
391	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			7.5YR7.6/黄	1/8	1板子		1板子
392	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			10YR7.4/黄	5/8	1板子		1板子
393	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			2.5Y7.2/黄	3/8	板子		1板子
394	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			7.5YR6.4/黄	1/8	7/8		1板子
395	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			5YR7.4/黄	7/8	1板子		1板子
396	赤生土調整 高杯	1区D	S801 土器溜り	シルト層	粗砂多 細砂少			10YR6.2/黄	3/8	ハタ板子		ハタ板子

第40表 金比羅山遺跡之器類表(11)

番号	路線	源水区分	道標名	階位	基石・石瓦	露石	その他	色選	保存 状況	内部調査	外部調査	備考
397	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		2.5YR6/2.7.1.5黄	6/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
398	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		5YR5.1/6.2.1.5黄	1/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
399	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		2.5Y7/4.6.2.1.5黄	3/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
400	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂少		10YR7.4/2.7.1.5黄	3/8	底面	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
401	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		2.5Y5/7.2.1.5黄	4/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
402	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		10YR6.4/2.7.1.5黄	1/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
403	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂少	粗砂多		5YR5.6/6.1.赤褐色	2/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
404	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂少	粗砂多		5YR5.6/6.1.赤褐色	3/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
405	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		5YR6.6/6.2.赤褐色	5/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
406	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		2.5Y5.5/6.1.黄	2/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
407	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		2.5YR6.4/2.7.1.5黄	1/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
408	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		2.5YR6.4/2.7.1.5黄	2/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
409	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂少	粗砂多		2.5YR7.4/2.7.1.5黄	1/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
410	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂少	粗砂多		7.5YR7.6/6.2.赤褐色	5/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
411	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		10YR7.6/6.1.赤褐色	7/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
412	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		10YR7.6/6.1.赤褐色	8/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
413	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		5YR5.7/6.1.赤褐色	1/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
414	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		2.5YR5.6/6.1.赤褐色	6/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
415	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		5YR6.6/6.2.赤褐色	7/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
416	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		2.5Y7/4.6.2.1.5黄	3/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
417	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		5YR5.6/6.1.赤褐色	2/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
418	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂少	粗砂多		7.5YR5.4/2.7.1.5黄	1/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
419	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		10YR7.4/2.7.1.5黄	2/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
420	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		10YR7.6/6.1.赤褐色	7/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
421	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		10YR7.4/2.7.1.5黄	1/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
422	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		2.5YR5.6/6.1.赤褐色	3/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
423	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		5YR6.6/6.2.赤褐色	6/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
424	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		10YR6.6/6.2.赤褐色	1/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査
425	赤土土器 裏	I 区① SR01		上層	粗砂多	粗砂多		10YR6.4/2.7.1.5黄	2/8	口縁のみ、胴へガラス	口縁のみ、胴へガラス	外正面調査

第41表 金尾羅山遺跡十器調査表 (12)

番号	設備	調査区	調査名	方位	長石・石英	角閃石	その他	名詞	検出率	内径調整	外面調整	備考
428	弥生土器 青	I区A	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	5.076.6砂	1/8	口縁コナテ, 胴ハテ	コナテ		
429	弥生土器 青	I区A	SR01	黒瀬砂層	粗砂少	粗砂少	2.517.7.4.5黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	コナテ		
430	弥生土器 青	I区A	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
431	弥生土器 青	I区A	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	2.517.7.4.5黄	4/8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
432	弥生土器 青	I区B	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	7.516.6.6	2.8	1.1線コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
433	弥生土器 青	I区C	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	7.516.6.6	2.8	胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
434	弥生土器 青	I区D	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	8/8	1.1線コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
435	弥生土器 青	I区E	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	5/8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
436	弥生土器 青	I区F	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	3/8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
437	弥生土器 青	I区G	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	7.516.6.6	1/8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
438	弥生土器 青	I区H	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	7.516.6.6	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
439	弥生土器 青	I区I	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
440	弥生土器 青	I区J	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
441	弥生土器 青	I区K	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
442	弥生土器 青	I区L	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
443	弥生土器 青	I区M	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
444	弥生土器 青	I区N	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
445	弥生土器 青	I区O	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
446	弥生土器 青	I区P	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
447	弥生土器 青	I区Q	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
448	弥生土器 青	I区R	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
449	弥生土器 青	I区S	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
450	弥生土器 青	I区T	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
451	弥生土器 青	I区U	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		
452	弥生土器 青	I区V	SR01	黒瀬砂層	粗砂多	粗砂多	10.012.2.2黄	2.8	口縁コナテ, 胴ハテ	口縁コナテ, 胴ハテ		

第42表 金尾雁山遺跡 I器観察表 (13)

番号	料種	量単位	産出区	産種名	品位	長石・石英	雲母	内閃石	その他	含調	貯存量	内容品名	外面調整	備考
453	赤土層 炭	1区① 1区②	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂少	粗砂多 粗砂少	粗砂多 粗砂少			5YR7/6弱	1.8	山線コナリ、黒コナリ 山線コナリ、黒コナリ	山線コナリ、黒コナリ 山線コナリ、黒コナリ	採り出し調査
454	赤土層 炭	1区③ 1区④	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	赤土炭多		10Y36.4/2.7黄緑 10Y35.4/2.7黄緑	2.8 2.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
455	赤土層 炭	1区⑤ 1区⑥	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR7/6弱 7.5YR6/6弱	1.8 1.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
456	赤土層 炭	1区⑦ 1区⑧	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			2.5YR7/6弱 2.5YR6/6弱	1.8 1.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
458	赤土層 炭	1区⑨ 1区⑩	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR8/4黄灰 2.5YR6/8弱	7.8 2.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
459	赤土層 炭	1区⑪ 1区⑫	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR7/2弱 7.5YR6/2弱	2.8 2.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
461	赤土層 炭	1区⑬ 1区⑭	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR6/4弱 7.5YR7/4弱	1.8 1.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
462	赤土層 炭	1区⑮ 1区⑯	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			2.5Y7/4黄弱 7.5YR7/2弱	6.8 5.8	黒コナリ 黒コナリ	採り出し調査	
463	赤土層 炭	1区⑰ 1区⑱	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			5YR7/6弱	6.8	黒コナリ	採り出し調査	
464	赤土層 炭	1区⑲ 1区⑳	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			10Y36.4/2.7黄弱 2.5Y7/4黄弱	6.8 6.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
465	赤土層 炭	1区㉑ 1区㉒	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			2.5Y7/4黄弱 2.5Y7/3黄弱	6.8 3.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
467	赤土層 炭	1区㉓ 1区㉔	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			2.5Y7/3黄弱 7.5YR7/4弱	2.8 2.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
468	赤土層 炭	1区㉕ 1区㉖	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR7/4弱 7.5YR7/4弱	2.8 2.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
469	赤土層 炭	1区㉗ 1区㉘	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR7/4弱 7.5YR7/6弱	2.8 2.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
470	赤土層 炭	1区㉙ 1区㉚	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR7/6弱	2.8	黒コナリ	採り出し調査	
471	赤土層 炭	1区㉛ 1区㉜	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			10YR6/6黄弱 2.5YR6/2.7黄	2.8 3.8	黒コナリ、黒コナリ 黒コナリ、黒コナリ	採り出し調査	
472	赤土層 炭	1区㉝ 1区㉞	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			2.5Y7/2黄弱	4.8	黒コナリ	採り出し調査	
473	赤土層 炭	1区㉟ 1区㊱	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			10YR7/4弱	2.8	黒コナリ	採り出し調査	
474	赤土層 炭	1区㊲ 1区㊳	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			10YR5.2黄弱	4.8	黒コナリ	採り出し調査	
475	赤土層 炭	1区㊴ 1区㊵	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR7/6弱	3.8	黒コナリ	採り出し調査	
476	赤土層 炭	1区㊶ 1区㊷	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR8/4黄弱	8.8	黒コナリ	採り出し調査	
477	赤土層 炭	1区㊸ 1区㊹	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR6/6弱	4.8	黒コナリ	採り出し調査	
478	赤土層 炭	1区㊺ 1区㊻	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR6/6弱	4.8	黒コナリ	採り出し調査	
479	赤土層 炭	1区㊼ 1区㊽	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			7.5YR6/6黄弱	3.8	黒コナリ	採り出し調査	
480	赤土層 炭	1区㊾ 1区㊿	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			10YR7/4弱	4.8	黒コナリ	採り出し調査	
481	赤土層 炭	1区㊿ 1区㊿	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			2.5Y6/4黄弱	3.8	黒コナリ	採り出し調査	
482	赤土層 炭	1区㊿ 1区㊿	SRO1 SRO2	T0805-Ⅱ T0806-Ⅱ	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多	粗砂多 粗砂多			2.5Y7/4黄弱	1.8	黒コナリ	採り出し調査	

第13表 金尾羅山道跡上器観察表 (14)

番号	器械	器具区	遺構名	層位	基石・石瓦	その他	名題	埋存	四面圍障	外面圍障	備考
483	弥生土器 壺	I区③ S801	T680の5Ⅱ	粗砂多	粗砂少	赤色粒含	7.5YR7/4エ7/4俵	6/8	口縁のウチ側にハズリ	順へのウチハズリ、順	
484	弥生土器 壺	I区③ S801	T680の5Ⅱ	粗砂少	粗砂少		5YR6/6H赤黄	2/8	口縁のウチ側にハズリ	後コナリ	
485	弥生土器 壺	I区③ S801	T680の5Ⅱ	粗砂多	粗砂少		2.5Y7/4赤黄	2/8	口縁のウチ側にハズリ	後コナリ	
486	弥生土器 壺	I区③ S801	T680の5Ⅱ	粗砂多	粗砂少		7.5YR7/6黄	3/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
487	弥生土器 壺	I区③ S801	T680の5Ⅱ	粗砂多	粗砂少		5YR7/2灰青	3/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
488	弥生土器 壺	II区① S801	T680の5Ⅱ	粗砂多	粗砂少	赤色粒含	7.5YR7/4エ7/4俵	2/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
489	弥生土器 壺	I区③ S801		粗砂多	粗砂少		7.5YR6/6黄	1/8	後コナリ、磨削跡含	口縁のウチ側にハズリ	489と同
490	弥生土器 壺	I区③ S801		粗砂多	粗砂多		4.5YR7/4黄	1/8	後コナリ	口縁のウチ側にハズリ	489と同
491	弥生土器 壺	I区③ S801	T680の5Ⅱ	粗砂多	粗砂多		7.5YR6/4エ7/4俵	1/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
492	弥生土器 壺	II区② S801	T680の5Ⅱ	粗砂少	粗砂少		2.5YR6/4赤黄	1/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
493	弥生土器 壺	II区② S801	T680の5Ⅱ	粗砂多	粗砂少		10YR6/4エ7/4黄	2/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
494	弥生土器 壺	II区② S801	T680の5Ⅱ	粗砂多	粗砂少		7.5YR6/6黄	2/8	口縁のウチ側にハズリ	後コナリ	
495	弥生土器 壺	I区① S800	焼酎瓶割	粗砂多	粗砂少		10YR6/4エ7/4黄	3/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
496	弥生土器 壺	II区③ S801	T680の5Ⅱ	粗砂少	粗砂少		10YR7/4エ7/4黄	6/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
497	弥生土器 壺	I区① S800	焼酎瓶割	粗砂少	粗砂少		7.5YR6/4エ7/4俵	1/8	後コナリ	口縁のウチ側にハズリ	
498	弥生土器 壺	I区③ S801		粗砂多	粗砂少		2.5Y7/4黄	1/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
499	弥生土器 壺	I区③ S801	T680の5Ⅱ	粗砂多	粗砂少		5YR6/6黄	1/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
500	弥生土器 壺	II区② S801	灰中丸べら土まで	粗砂多	粗砂少		10YR7/4エ7/4黄	3/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
501	弥生土器 壺	I区① S800	焼酎瓶割	粗砂少	粗砂少		2.5Y5/2灰黄	1/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
502	弥生土器 壺	II区② S801	T680の5Ⅱ	粗砂多	粗砂少		10YR7/4エ7/4黄	2/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
503	弥生土器 壺	I区① S800	焼酎瓶割	粗砂多	粗砂多		2.5Y5/4黄	2/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
504	弥生土器 壺	I区① S800	焼酎瓶割	粗砂多	粗砂少		10YR6/4エ7/4黄	7/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
505	弥生土器 壺	I区① S801		粗砂多	粗砂多		5YR7/5黄	5/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
506	弥生土器 壺	I区② S801		粗砂多	粗砂多		7.5YR6/6黄	1/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	
507	弥生土器 壺	I区① S800	焼酎瓶割	粗砂多	粗砂少	赤色粒少	2.5Y6/3エ7/4黄	3/8	口縁のウチ側にハズリ	口縁のウチ側にハズリ	

第44表 金毘羅山遺跡土器観察表 (15)

番号	距離	コース	遺跡名	高台	長石・石瓦	瓦葺	角四石	その他	魚鱗	灰存	内面調査	外周調査	備考
546	赤生上層 鉢	I区①	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			2.517/2灰炭	3.8	ハタ後子テ	ハタ後子	ハタ後子
547	赤生上層 鉢	I区②	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			5.986/4灰炭	1.8	ハタ後子テ	ハタ後子	灰土やハタ後子
548	赤生上層 鉢	I区③	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			2.517/2灰炭	2.8	ハタ後子	ハタ後子	
549	赤生上層 鉢	I区④	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			2.316/2ハタ後子	2.8	ハタ後子	ハタ後子	
550	赤生上層 鉢	I区⑤	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			5.986/4灰炭	2.8	ハタ後子	ハタ後子	
551	赤生上層 鉢	I区⑥	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	3.8	ハタ後子	ハタ後子	
552	赤生上層 鉢	I区⑦	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			2.517/2灰炭	2.8	ハタ後子	ハタ後子	
553	赤生上層 鉢	I区⑧	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			2.516/4ハタ後子	6.8	ハタ後子	ハタ後子	
554	赤生上層 鉢	I区⑨	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			5.986/4灰炭	8.8	ハタ後子	不明	
555	赤生上層 鉢	I区⑩	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			7.516/6鉢	1.8	不明	不明	
556	赤生上層 鉢	II区①	S801機械部副	上位	粗砂多	粗砂少			2.517/2灰炭	1.8	不明	不明	
557	赤生上層 鉢	II区②	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			2.517/2灰炭	1.8	不明	不明	
558	赤生上層 鉢	II区③	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			2.516/4ハタ後子	3.8	不明	不明	
559	赤生上層 鉢	II区④	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			2.517/2灰炭	2.8	不明	不明	
560	赤生上層 鉢	II区⑤	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
561	赤生上層 鉢	II区⑥	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			2.517/2灰炭	2.8	不明	不明	
562	赤生上層 鉢	II区⑦	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
563	赤生上層 鉢	II区⑧	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
564	赤生上層 鉢	II区⑨	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
565	赤生上層 鉢	II区⑩	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
566	赤生上層 鉢	II区⑪	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
567	赤生上層 鉢	II区⑫	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
568	赤生上層 鉢	II区⑬	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
569	赤生上層 鉢	II区⑭	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
570	赤生上層 鉢	II区⑮	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
571	赤生上層 鉢	II区⑯	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
572	赤生上層 鉢	II区⑰	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
573	赤生上層 鉢	II区⑱	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
574	赤生上層 鉢	II区⑲	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
575	赤生上層 鉢	II区⑳	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
576	赤生上層 鉢	II区㉑	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
577	赤生上層 鉢	II区㉒	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
578	赤生上層 鉢	II区㉓	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
579	赤生上層 鉢	II区㉔	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
580	赤生上層 鉢	II区㉕	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
581	赤生上層 鉢	II区㉖	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
582	赤生上層 鉢	II区㉗	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
583	赤生上層 鉢	II区㉘	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
584	赤生上層 鉢	II区㉙	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
585	赤生上層 鉢	II区㉚	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
586	赤生上層 鉢	II区㉛	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
587	赤生上層 鉢	II区㉜	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
588	赤生上層 鉢	II区㉝	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
589	赤生上層 鉢	II区㉞	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
590	赤生上層 鉢	II区㉟	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
591	赤生上層 鉢	II区㊱	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
592	赤生上層 鉢	II区㊲	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
593	赤生上層 鉢	II区㊳	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
594	赤生上層 鉢	II区㊴	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
595	赤生上層 鉢	II区㊵	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
596	赤生上層 鉢	II区㊶	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
597	赤生上層 鉢	II区㊷	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
598	赤生上層 鉢	II区㊸	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
599	赤生上層 鉢	II区㊹	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	
600	赤生上層 鉢	II区㊺	S801機械部副		粗砂多	粗砂少			1.918/4灰炭	1.8	不明	不明	

第46表 金尾崩山遺跡土器観察表 (17)

番号	区画	遺跡名	遺跡番号	位置	長石・古瓦	瓦葺	瓦四五	その他	土遺	発見量	西面遺構	外面遺構	備考
563	赤生土器 外	Ⅰ区②-Ⅱ区②	S801 Ⅰ0887-Ⅱ区②	区中央・ベルトまで	埋砂少	埋砂少			5YR6/4黄	1/8	へり抜き	11條コブテ 口縁一枚・上半部 小杯下半部・後へり抜き	
564	赤生土器 鉢	Ⅰ区③	S801		埋砂多				5YR7/4黄	4/8	即ちハ	997/後コブテ後へり抜き	
565	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801		埋砂多	埋砂多			10YR7/4-7/6黄	4/8	子・後へり抜き・既へり抜き	口縁一枚・上半部	
566	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多	埋砂多			10YR7/4-7/6黄	2/8	へり抜き	コブテ後へり抜き	
567	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多	埋砂多			7.5YR6/4-7/6黄	1/8	コブテ	コブテ	
568	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多	埋砂多			2.5YR7/4黄	2/8	兼取ハ	既へり抜き	
569	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂少	埋砂少				2.5YR5/4黄	7/8	へり抜き	口縁コブテ・体コブテ	
570	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				5YR5/6黄	1/8	コブテ	既へり抜き	
571	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				5Y7/3黄	1/8	コブテ	コブテ	
572	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				2.5Y7/2黄	7/8	口縁コブテ・体上半部	口縁コブテ	
573	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				10YR8/4黄	1/8	へり抜き	へり抜き	
574	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				10YR7/4-7/6黄	3/8	口縁コブテ	コブテ	
575	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂少	埋砂少				2.5Y7/2黄	1/8	コブテ	既へり抜き	
576	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				7.5YR6/6黄	1/8	コブテ	口縁コブテ・体コブテ	
577	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				10YR7/4-7/6黄	7/8	既ハ	既ハ	
578	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				2.5Y7/4黄	5/8	既ハ	体部埋れ・既ハ	
579	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				7.5YR6/4-7/6黄	6/8	コブテ	コブテ	
580	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				7.5YR6/6黄	4/8	コブテ	コブテ	
581	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				10YR8/4黄	6/8	既ハ	998/後コブテ	
582	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				2.5YR5/4黄	2/8	既ハ	不明	
583	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				10YR7/4-7/6黄	5/8	コブテ後ハ	999	
584	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				7.5YR5/4-7/6黄	3/8	コブテ	999/後コブテ	
585	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				10YR4/1黄	4/8	コブテ	コブテ	
586	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				7.5YR6/6黄	1/8	既ハ	既ハ	
587	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				2.5Y7/2黄	6/8	コブテ後ハ	不明	
588	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				2.5Y6/2-7/4黄	2/8	指ハ	999	
589	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				10YR7/4-7/6黄	2/8	指ハ	999/コブテ後ハ	
590	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				2.5Y7/2黄	3/8	コブテ	既ハ	
591	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				2.5Y7/2黄	3/8	コブテ	既ハ	
592	赤生土器 鉢	Ⅰ区④	S801	埋砂多	埋砂多				10YR7/4-7/6黄	2/8	コブテ	999/	4.1.3.線(既ハ)S. 高 5.1.5.線ハ

第17表 全尾羅山遺跡上器総表 (18)

番号	階層	調査区	調査名	層位	採石・石炭	角閃石	その他	地質	保存	内面調査	外面調査	備考
593	赤土上層 高坪	I区①	S101 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
594	赤土上層 高坪	I区②	S102 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
595	赤土上層 高坪	I区③	S103 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
596	赤土上層 高坪	I区④	S104 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
597	赤土上層 高坪	I区⑤	S105 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
598	赤土上層 高坪	I区⑥	S106 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
599	赤土上層 高坪	I区⑦	S107 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
600	赤土上層 高坪	I区⑧	S108 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
601	赤土上層 高坪	I区⑨	S109 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
602	赤土上層 高坪	I区⑩	S110 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
603	赤土上層 高坪	II区①	S111 機械掘削	上位	粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
604	赤土上層 高坪	II区②	S112 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
605	赤土上層 高坪	II区③	S113 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
606	赤土上層 高坪	II区④	S114 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
607	赤土上層 高坪	II区⑤	S115 機械掘削	上位	粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
608	赤土上層 高坪	II区⑥	S116 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
609	赤土上層 高坪	II区⑦	S117 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
610	赤土上層 高坪	II区⑧	S118 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
611	赤土上層 高坪	II区⑨	S119 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
612	赤土上層 高坪	II区⑩	S120 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
613	赤土上層 高坪	II区⑪	S121 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
614	赤土上層 高坪	II区⑫	S122 機械掘削	北側砂層	粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
615	赤土上層 高坪	II区⑬	S123 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
616	赤土上層 高坪	II区⑭	S124 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
617	赤土上層 高坪	II区⑮	S125 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	
618	赤土上層 高坪	II区⑯	S126 機械掘削		粗砂多			赤土上層	1/8	赤土上層	赤土上層	

第48表 金尾郡山鹿跡1号観察表 (19)

番号	貯留	調査区	遺構名	層位	長石・石英	磁器	角閃石	その他	色調	保存	内面調査	外面調査	備考
697	土器器	1区C	SK21		粗砂多	粗砂少	赤色砂多		2.5Y7.2/6黄	8/8	灰ナ	不明	
698	土器器	1区C	SK21		粗砂少				5YR7/6橙	1/8	ナ	ナ	
699	土器器	1区C	SK21		粗砂少				10YR7/6黄	3/8	ナ	ナ	
700	土器器	1区C	SK21		粗砂少				10YR7/4.7黄	7/8	上平灰ナ, 下土ナ	ナ	
702	土器器	1区C	SK20a, ㊸		粗砂多	粗砂多			7.5YR6/6橙	2/8	ナ	ナ	
703	土器器	1区C	SK02		粗砂多	粗砂少	赤色砂多		10YR6/7.5黄	3/8	口縁3ナ, 胴->ナ	口縁->ナ後コナ, 胴->ナ	
704	土器器	1区C	SK02	土器器2号	粗砂多				5YR4/2.5黄	1/8	灰ナ	口縁3ナ	
705	土器器	1区C	SK02		粗砂少		磁器片, 陶片多		2.5YR6/6橙	6/8	赤灰ナ, 胴->ナ	口縁3ナ	
706	土器器	1区C	SK02a		粗砂多		赤色砂多		7.5YR6/6橙	1/8	ナ	ナ	
707	土器器	1区C	SK02a		粗砂多	粗砂少			5YR6/6橙	1/8	ナ	ナ	
708	土器器	1区C	SK02		粗砂多	粗砂少			5YR4/2.7黄	2/8	ナ	ナ	
709	土器器	1区C	SK02		粗砂少	粗砂少			10Y3.5/4.7黄	6/8	灰ナ	口縁3ナ	
710	土器器	1区C	SK02a	土器器1号	粗砂多				10Y3.5/4.7黄	1/8	ナ	ナ	
711	土器器	1区C	SK02c		粗砂多	粗砂少			7.5YR6/6橙	4/8	口縁灰ナ, 胴->ナ	口縁3ナ	
712	土器器	1区C	SK02a		粗砂多	粗砂少			10YR7/4.7黄	4/8	口縁3ナ, 胴->ナ	口縁3ナ	
713	土器器	1区C	SK02a, ㊸		粗砂多	粗砂少			10YR4/2.2黄	1/8	灰ナ	ナ	
714	土器器	1区C	SK02a		粗砂多	粗砂少			10YR7/6橙	1/8	口縁3ナ, 胴->ナ	口縁3ナ	
715	土器器	1区C	SK02a		粗砂多	粗砂少			10YR6/2.7黄	1/8	灰ナ	ナ	
716	土器器	1区C	SK02a		粗砂多	粗砂少			2.5Y6/2.4黄	3/8	灰ナ	ナ	
717	土器器	1区C	SK02a	土器器	粗砂多				10YR6/3.7黄	2/8	灰ナ	ナ	
718	土器器	1区C	SK03a	土器器	粗砂多				10YR6/3.7黄	2/8	灰ナ	ナ	
719	土器器	1区C	SK02		粗砂多				10YR6/3.7黄	6/8	口縁3ナ, 胴->ナ	口縁3ナ	
720	土器器	1区C	SK02a		粗砂多				7.5YR7/4.2黄	1/8	ナ	ナ	
721	土器器	1区C	SK02a		粗砂少	粗砂少			7.5YR7/6橙	1/8	口縁3ナ	口縁3ナ	
722	土器器	1区C	SK02a, ㊸		粗砂少	粗砂少			5YR5/6.0黄	1/8	ナ	ナ	
723	土器器	1区C	SK02a, ㊸		粗砂多	粗砂少	赤色砂多		10YR5/3.7黄	1/8	口縁3ナ	ナ	
724	土器器	1区C	SK02a, ㊸		粗砂多	粗砂少			2.5Y5/4.1黄	1/8	胴->ナ	ナ	
725	土器器	1区C	SK02a		粗砂多	粗砂多			2.5Y6/2.7黄	1/8	ナ	ナ	
726	土器器	1区C	SK02		粗砂多	粗砂少			5YR6/6橙	1/8	ナ	ナ	
727	土器器	1区C	SK02a		粗砂多	粗砂少	赤色砂多		10YR7/4.7黄	1/8	口縁3ナ, 胴->ナ	口縁3ナ	
728	土器器	1区C	SK02a		粗砂多	粗砂少	赤色砂多		5YR6/6橙	2/8	ナ	ナ	
729	土器器	1区C	SK02a, ㊸		粗砂多	粗砂少			5YR6/6橙	2/8	ナ	ナ	
730	土器器	1区C	SK02a, ㊸		粗砂多	粗砂少			7.5YR7/4.7黄	2/8	ナ	ナ	
731	土器器	1区C	SK02a		粗砂多	粗砂少			2.5YR6/6橙	1/8	灰ナ	ナ	
732	土器器	1区C	SK02		粗砂多	粗砂少			5YR6/6橙	1/8	灰ナ	ナ	
733	土器器	1区C	SK02		粗砂多	粗砂少			5YR6/6橙	1/8	灰ナ	ナ	
734	土器器	1区C	SK02a		粗砂多	粗砂少			5YR6/6橙	1/8	灰ナ	ナ	
735	土器器	1区C	SK02a		粗砂多	粗砂少			5YR6/6橙	1/8	灰ナ	ナ	
736	土器器	1区C	SK02		粗砂多	粗砂少	赤色砂多		7.5YR6/4.7黄	8/8	口縁3ナ, 胴->ナ	口縁3ナ	
737	土器器	1区C	SK02a	土器器1号	粗砂多	粗砂少			7.5YR6/6橙	1/8	ナ	ナ	

第51表 金尾羅山遺跡土器調査表(22)

番号	器種	酒名	造醸名	層位	採石・ 石英	素色	白磁石	その他	色置	保存 数	内面調査	外面調査	備考
776	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂含 細砂少	赤色斑多			2.5Y7.5灰黄 7.5Y7.6黄	7.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、上半コナリ	
777	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂少				2.5Y7.6(白砂) 5Y7.5(赤砂)	1.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、後コナリ	
778	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂少				5Y7.5(赤砂) 5Y7.5(赤砂)	2.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ	
779	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂多				10Y7.6(4=7)黄緑	8.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
780	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂少				2.5Y7.5(白砂)	3.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
781	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂少				7.5Y7.6(6)緑	6.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
782	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂多				2.5Y7.5(白砂)	2.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
783	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂多				2.5Y7.5(白砂)	2.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
784	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂多				2.5Y7.5(白砂)	2.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
785	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂多				10Y7.5(4=7)黄緑	8.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
786	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂多				5Y7.5(6)赤黄	7.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
787	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂多				10Y7.4(=7)黄赤	1.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
788	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂少				2.5Y7.4(黄)	1.8	口縁コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
789	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂少				2.5Y7.3(黄)	2.8	口縁コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
790	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂少				2.5Y7.4(黄)	2.8	口縁コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
791	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂含				2.5Y7.3(黄)	3.8	口縁コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
792	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂含				2.5Y7.2(灰白)	4.8	口縁コナリ、脚コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
793	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂少				2.5Y7.4(灰白)	3.8	口縁コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
794	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂多				10Y7.4(=7)黄赤	3.8	口縁コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
795	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂多				7.5Y7.6(6)緑	5.8	口縁コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
796	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂含				7.5Y7.6(4=7)黄	2.8	口縁コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
797	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂含				10Y7.5(2)黄緑	2.8	口縁コナリ	口縁コナリ、脚コナリ	
798	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂少				2.5Y7.3(黄)	1.8	口縁コナリ	口縁コナリ	
799	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂多				10Y7.5(3=7)黄緑	1.8	口縁コナリ	口縁コナリ	
800	1部器 壺	1 FC(1)	SN02(壺)	北東隅	粗砂多				5Y7.6(6)黄	1.8	口縁コナリ	口縁コナリ	

第53表 金毘羅山遺跡土器調査表 (24)

番号	器種	演奏者	演奏長	演奏名	属性	長小	音域	角田生	その他	楽譜	時行	演出要	外形図解	備考
801	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
802	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
803	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
804	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
805	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
806	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
807	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
808	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
809	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
810	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
811	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
812	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
813	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
814	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
815	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
816	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
817	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
818	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
819	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
820	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
821	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
822	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
823	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
824	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
825	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
826	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
827	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
828	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
829	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
830	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
831	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
832	十郎器 鉢	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人

第54表 金毘羅山・武蔵土器調査表 (25)

番号	器種	酒器区	遺構名	層位	土器・石器	意込	角四五	その他	色土	検出 数	内面調査	外面調査	備考
833	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂含				5YR6/6H	2/8	痕跡	口縁にナメ成りあり	
834	土師器 高杯	1区D	SX02		相砂多				5YR6/6H	2/8	痕跡	痕跡	
835	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂含				赤色粘多	1/8	ナメ	ナメ	
836	土師器 高杯	1区D	SX02C(4)		相砂多				赤色粘多	4/8	ナメ	ナメ	
837	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂多				7.5YR7/6H	2/8	痕跡	ナメ	
838	土師器 高杯	1区D	SX02C 北東隅		相砂多				10YR6.4/7黄褐色	6/8	ナメ	ナメ	
839	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂多				2.5YR6/6H	4/8	ナメ	ナメ	
840	土師器 高杯	1区D	SX02C 北東隅		相砂含				10YR7.5/7黄褐色	3/8	ナメ	ナメ	
841	土師器 高杯	1区D	SX02C 北東隅		相砂含				10YR7.5/7黄褐色	3/8	ナメ	ナメ	
842	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂少				2.5Y7/7赤褐色	5/8	ナメ	ナメ	
843	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂少				2.5YR6/6H	1/8	痕跡	ナメ	
844	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂多				2.5YR6.4/7黄褐色	2/8	ナメ	ナメ	
845	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂多				10YR6.4/7黄褐色	1/8	痕跡	ナメ	
846	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂含				2.5Y6.3/7黄褐色	7/8	ナメ	ナメ	
847	土師器 高杯	1区D	SX02-黄島?		相砂多				5YR6/6H	4/8	ナメ	ナメ	
848	土師器 高杯	1区D	SX02C(3)		相砂少				10YR7.4/7黄褐色	3/8	ナメ	ナメ	
849	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂少				10YR7.4/7黄褐色	2/8	ナメ	ナメ	
850	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂含				5YR5.0/赤褐色	2/8	ナメ	ナメ	
851	土師器 高杯	1区D	SX02C-C付近	北側上層	相砂少				10YR7.5/7黄褐色	1/8	ナメ	ナメ	
852	土師器 高杯	1区D	SX02		相砂多				10YR7.5/7黄褐色	3/8	不明	ナメ	
853	土師器 高杯	1区D	SX02		相砂含				7.5YR7/6H	2/8	ナメ	ナメ	
854	土師器 高杯	1区D	SX02C		相砂多				5YR6/6H	7/8	ナメ	ナメ	
855	土師器 高杯	1区D	SX02C(遺構南縁)		相砂多				2.5Y7/7赤褐色	5/8	痕跡	ナメ	
856	土師器 高杯	1区D	SX02		相砂少				10YR7.5/7黄褐色	1/8	痕跡	ナメ	
857	土師器 高杯	1区D	SX02C(遺構南縁)		相砂含				10YR6.6/赤褐色	5/8	痕跡	ナメ	
858	土師器 高杯	1区D	SX02		相砂多				5YR7/6H	5/8	ナメ	ナメ	
859	土師器 高杯	1区D	SX02C 北東隅		相砂少				5YR7/6H	1/8	ナメ	ナメ	
860	土師器 高杯	1区D	SX02C 北東隅		相砂多				7.5YR6.6/赤褐色	1/8	ナメ	ナメ	
861	土師器 高杯	1区D	SX02C 北東隅		相砂少				2.5Y7/4黄褐色	1/8	ナメ	ナメ	
862	土師器 高杯	1区D	SX02		相砂含				7.5YR6.6/赤褐色	1/8	ナメ	ナメ	
863	土師器 高杯	1区D	SX02C(遺構南縁)		相砂多				10YR7.4/7黄褐色	1/8	ナメ	ナメ	
864	土師器 高杯	1区D	SX02C(遺構南縁)		相砂多				10YR7.4/7黄褐色	1/8	ナメ	ナメ	
865	土師器 高杯	1区D	SX02C(遺構南縁)		相砂含				10YR7.4/7黄褐色	1/8	ナメ	ナメ	
866	土師器 高杯	1区D	SX02C(遺構南縁)		相砂多				2.3Y6.3/7黄褐色	2/8	口縁にナメあり	口縁にナメあり	
867	土師器 高杯	1区D	SX02C(遺構南縁)		相砂含				2.5Y6.3/7黄褐色	4/8	口縁にナメあり	口縁にナメあり	
868	土師器 高杯	1区D	SX02C(遺構南縁)		相砂多				7.5YR6.6/赤褐色	3/8	口縁にナメあり	口縁にナメあり	

第55表 会尼羅山遺跡土器調査表 (26)

番号	器種	調内区	遺構名	層位	土質・石質	雲母	角四五	その他	色調	保存 集存	内面調査	外面調査	備考
870	弥生土器 甕	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂多	相砂少	水色砂多	1D9K/4.ノ/青灰	3/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ	
871	弥生土器 甕	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	2.5E6/2.ノ/黄	6/8	同上半指に込え、右下 白砂コテテ、黒コテテ	同上半指に込え、右下 白砂コテテ、黒コテテ		
872	弥生土器 甕	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	4/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ	家2の底片付置出	
873	弥生土器 高杯	I区② S202	S202(遺構)埋没	相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	1D9K/7.ノ/黄	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ	1層のみ保存	
874	弥生土器 鉢	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	1D9K/4.2ノ/黄	2/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
875	弥生土器 鉢	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	1D9K/4.2ノ/黄	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
876	弥生土器 鉢	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	2.5YR7/4.2ノ/黄	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
877	弥生土器 高杯	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
878	弥生土器 高杯	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	2.5YR7/4.2ノ/黄	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
879	弥生土器 甕	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	2.5YR7/4.2ノ/黄	2/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
880	弥生土器 甕	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	2.5YR7/4.2ノ/黄	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
881	弥生土器 甕	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
882	弥生土器 甕	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
883	弥生土器 甕	I区② S202		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
884	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
885	弥生土器 甕	I区② S102	S102(遺構)埋没	相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
886	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	6/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
887	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	7/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
888	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	4/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ	1孔裏存	
889	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	5/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
890	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	2/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
891	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
892	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	7/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
893	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
894	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
895	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
896	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
897	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
898	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	1/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
899	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	4/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		
900	弥生土器 甕	II区② S102		相砂多	相砂多	相砂少	相砂少	5YR5.5/6.5赤灰	4/8	白砂コテテ、黒コテテ	白砂コテテ、黒コテテ		

表36 金瓦罪山遺跡土器調査表 (27)

第57表 金羅山遺跡土器調査表(28)

番号	器種	調査区	遺構名	層位	長石・石灰	灰石・角閃石	その他	色調	保存量	内面調査	外面調査	備考
907	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15-64ト北	上層	粗砂多	粗砂少		7.5YR6/4-7/1黄	4/8	山縁コナリ土灰ナリ	口縁コナリ、肩下平 底ナリ、底平、口下へ	
908	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15-64ト南	上層	粗砂多	粗砂少		2.5YR6/2灰白	7/8	粗砂ナリ	口縁コナリ、肩下平	
909	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15	上層	粗砂多	粗砂少		2.5Y7/2灰白	3/8	粗砂ナリ	口縁コナリ、肩下平	
910	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15-64ト北	上層	粗砂多	粗砂少		10YR7/3-7/4黄緑	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	口縁は名の深文
911	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15	上層	粗砂多	粗砂少		2.5Y7/2灰白	3/8	平ナリ後ナリ	口縁コナリ、肩下平	2文割指文
912	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15-64ト北	上層	粗砂多	粗砂少		2.5YR6/2灰白	7/8	ナリ	口縁コナリ、肩下平	口縁は名の深文
913	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15-64ト南	上層	粗砂多	粗砂多		2.5YR6/2灰白	3/8	ナリ	口縁コナリ、肩下平	口縁は名の深文
914	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15-64ト北	上層	粗砂多	粗砂多		2.5Y7/2灰白	2/8	口縁コナリ、肩下平	口縁コナリ、肩下平	
915	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15-64ト北	上層	粗砂多	粗砂多		10YR7/3-7/4黄	2/8	ナリ	口縁コナリ、肩下平	
916	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15	上層	粗砂多	粗砂多		2.5Y7/2灰白	1/8	口縁コナリ、肩下平	口縁コナリ、肩下平	
917	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15	上層	粗砂多	粗砂多		2.5Y7/2灰白	1/8	口縁コナリ、肩下平	口縁コナリ、肩下平	
918	赤土土器 甕	Ⅱ区②	SX15-64ト南	上層	粗砂多	粗砂多		2.5Y7/2灰白	1/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
919	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX15	上層	粗砂多	粗砂多		2.5Y7/2灰白	3/8	口縁コナリ、肩下平	口縁コナリ、肩下平	山内身入横溝
920	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX15	上層	粗砂多	粗砂多		2.5Y7/2灰白	3/8	口縁コナリ、肩下平	口縁コナリ、肩下平	
921	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
922	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
923	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
924	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
925	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
926	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
927	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
928	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
929	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
930	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
931	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
932	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		10YR6/4-7/4黄	1/8	不明	口縁コナリ、肩下平	
933	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25-27, SX105-09 上面磨痕	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
934	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25-27, SX105-09 上面磨痕	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
935	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
936	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
937	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
938	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX25D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
939	赤土土器 高杯	Ⅱ区②	SX26D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
940	赤土土器 高台付	Ⅱ区②	SX26D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
941	赤土土器 高台付	Ⅱ区②	SX26D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
942	赤土土器 高台付	Ⅱ区②	SX26D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
943	赤土土器 高台付	Ⅱ区②	SX26D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
944	赤土土器 高台付	Ⅱ区②	SX26D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
945	赤土土器 高台付	Ⅱ区②	SX26D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
946	赤土土器 高台付	Ⅱ区②	SX26D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
947	赤土土器 高台付	Ⅱ区②	SX26D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	
948	赤土土器 高台付	Ⅱ区②	SX26D	上層	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7/8	粗砂コナリ	粗砂コナリ	

番号	品種	産別区	産地名	種位	牝系	角四五	その他	色調	牝仔 身	内面調候	外側調候	備考
949	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂少	粗砂少		954/100青灰	1.8	同牝子	同牝子	
950	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		9937/100青灰	6.8	同牝子	同牝子	
951	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		N3/0暗灰	6.8	同牝子	同牝子	
952	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		518/100白	2.8	同牝子	同牝子	
953	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		7.5/106.4白	2.8	同牝子	同牝子	
954	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		10/108.4白	2.8	同牝子	同牝子	
955	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		2.5/71.8黒	2.8	同牝子	同牝子	
956	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		N7.0K4.1	2.8	同牝子	同牝子	
957	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		2.5/0.5/1.1材-7灰	2.8	同牝子	同牝子	
958	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		2.5/6.2灰	2.8	同牝子	同牝子	
959	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		N6.0灰	2.8	同牝子	同牝子	
960	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		9936/100灰	7.8	同牝子	同牝子	
961	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		10K17/100青灰	2.8	同牝子	同牝子	
962	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		2.5/17.7灰	2.8	同牝子	同牝子	
963	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		10/108.4白	2.8	同牝子	同牝子	
964	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		518.2灰白	1.8	同牝子	同牝子	
965	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		7.5/105.4白	3.8	同牝子	同牝子	
966	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		7.5/107.6粉	3.8	同牝子	同牝子	
967	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		10/17.4/7.7黄	4.8	同牝子	同牝子	
968	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		2.5/8.2灰	2.8	同牝子	同牝子	
969	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		2.5/5.2黄	2.8	同牝子	同牝子	
970	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		10/147.1/7.7黄	3.8	同牝子	同牝子	
971	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		2.5/7.4黄	2.8	同牝子	同牝子	
972	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		10/108.4白	1.8	同牝子	同牝子	
973	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		10/147.1/7.7黄	1.8	同牝子	同牝子	
974	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		10/108.4白	1.8	同牝子	同牝子	
975	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		10/105.3/7.7黄	3.8	同牝子	同牝子	
976	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		2.5/16.4/7.7黄	1.8	同牝子	同牝子	
977	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		10/147.1/7.7黄	1.8	同牝子	同牝子	
978	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		5/18.4/2.7黄	1.8	同牝子	同牝子	
979	須磨 年	II区② SR03	西平	明灰系 須磨風 巻以上	粗砂多	粗砂多		5/18.4/2.7黄	1.8	同牝子	同牝子	

第58表 金見羅山産踏土高観表(29)

番号	品名	調査区	遺跡名	層位	表示 ノイ英	遺構	角四五	その他	色図	保存 書	内庫調整	外面調整	備考
987	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP075			相砂少			10YR5/2灰青	2/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
988	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP070			砂砂含土			2.5Y7/4黄	2/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
989	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP070			相砂少			7.5YR7/4土黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
990	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP075			相砂少			2.5Y6/2灰黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
991	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP075			相砂多			2.5Y6/2灰黄	4/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
992	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP176			相砂含			7.5YR7/4土黄	2/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
993	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP075			相砂多			10YR8/2灰土	5/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
994	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP075			相砂含			10YR8/4灰黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
995	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP075			相砂含			2.5Y7/4黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
996	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP075			相砂多			7.5YR6/4土黄	2/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
997	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP070			相砂少			7.5YR6/6黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
998	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP075			砂砂含土			10Y4/1灰	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
999	土器器Ⅲ	Ⅱ区②	SP052			相砂多			N5/0灰	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1000	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP242			相砂少			10YR8/4灰黄	2/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1001	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP247			相砂少			7.5YR8/4灰黄	4/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1003	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP062			相砂多			7.5YR8/4灰黄	2/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1004	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP062			相砂少			7.5YR6/6黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1005	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP058			相砂少			10YR8/4灰黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1007	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP068			相砂多			10R6/3土黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1008	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP068			相砂多			7.5YR8/4灰黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1009	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP067			砂砂含土			7.5YR6/1黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1011	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP328			相砂多			7.5YR7/6黄	2/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1012	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP053			相砂含			5Y3/7黄	2/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1013	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP053			相砂含			2.5Y7/3灰黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1014	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP149			相砂多			2.5Y7/3灰黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1015	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP071			相砂多			10YR8/4灰黄	1/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1016	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP166			相砂少			7.5YR8/4土黄	5/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	
1017	土器器Ⅲ	Ⅱ区③	SP017			相砂少			10YR7/6灰黄	5/8	凹転子	体凹転子底凹転 ノイ	

第59表 金比羅山遺跡土器調査表(30)

番号	群植	調査区	調査名	階位	基石・石炭	高さ	傾石	その他	色調	保存	内面調査	外面調査	備考
1018	土器器重	Ⅱ区②	SP122				傾砂少	傾砂少	10YR6/1ニブ/黄褐色	2/8	傾砂少	傾砂少	傾砂少
1019	土器器重	Ⅱ区①	SP004				傾砂多	傾砂多	2.5Y7/2灰黄	1/8	傾砂多	傾砂多	傾砂多
1020	土器器重	Ⅱ区②	SP201				傾砂多	傾砂多	10YR8/4黄赤黄	2/8	傾砂多	傾砂多	傾砂多
1021	土器器重	Ⅱ区①	SP235				傾砂少	傾砂少	7.5YR7/6橙	1/8	傾砂少	傾砂少	傾砂少
1022	土器器重	Ⅱ区②	SP023				傾砂少	傾砂少	10YR2/1黒	3/8	傾砂中	傾砂中	傾砂中
1023	土器器重	Ⅱ区②	SP160				傾砂少	傾砂少	2.5YR3/2赤黄	1/8	傾砂少	傾砂少	傾砂少
1024	土器器重	Ⅱ区②	SP039				傾砂少	傾砂少	5Y4.2灰赤	6/8	傾砂少	傾砂少	傾砂少
1025	土器器重	Ⅱ区②	SP078				傾砂少	傾砂少	7.5YR8/4黄赤橙	1/8	傾砂少	傾砂少	傾砂少
1026	土器器重	Ⅱ区②	SP107				傾砂少	傾砂少	7.5YR7/6橙	3/8	傾砂少	傾砂少	傾砂少
1027	土器器重	Ⅱ区②	SP022				傾砂少	傾砂少	2.5YR8/4灰黄	1/8	傾砂少	傾砂少	傾砂少
1028	土器器重	Ⅱ区②	SP022				傾砂少	傾砂少	2.5Y6/2灰黄	2/8	傾砂少	傾砂少	傾砂少
1029	土器器重	Ⅱ区②	SP135				傾砂多	傾砂多	2.5YR6/6橙	1/8	傾砂多	傾砂多	傾砂多
1030	土器器重	Ⅱ区②	SP024				傾砂多	傾砂多	2.5YR7/6橙	7/8	傾砂多	傾砂多	傾砂多
1031	土器器重	Ⅱ区②	SP022				傾砂多	傾砂多	2.5YR8/4灰白	1/8	傾砂多	傾砂多	傾砂多
1032	土器器重	Ⅱ区②	SP083				傾砂少	傾砂少	2.5YR1/灰白	1/8	傾砂少	傾砂少	傾砂少
1033	土器器重	Ⅱ区②	SP044				傾砂少	傾砂少	7.5Y3/4(1) 2/黒	1/8	傾砂中	傾砂中	傾砂中
1034	土器器重	Ⅱ区②	SP130				傾砂中	傾砂中	6YR4/1黄赤灰	1/8	傾砂中	傾砂中	傾砂中
1035	土器器重	Ⅱ区②	SP235				傾砂中	傾砂中	6YR4/1黄赤灰	1/8	傾砂中	傾砂中	傾砂中
1036	土器器重	Ⅱ区②	SP112				傾砂少	傾砂少	7.5Y7/1明黄赤	—	—	—	—
1037	土器器重	Ⅱ区②	SP112				傾砂少	傾砂少	2.5Y7/4灰黄	—	—	—	—
1038	土器器重	Ⅱ区②	SP031				傾砂少	傾砂少	2.5Y6/2黄赤	—	—	—	—
1039	土器器重	Ⅱ区②	SP012				傾砂少	傾砂少	7.5Y6/1灰	—	—	—	—
1040	土器器重	Ⅱ区②	SP010				傾砂少	傾砂少	2.5Y7/2灰黄	—	—	—	—
1041	土器器重	Ⅱ区②	SK03				傾砂多	傾砂多	10YR6/6黄赤	3/8	傾砂多	傾砂多	傾砂多
1043	土器器重	Ⅱ区②	SK05				傾砂少	傾砂少	2.5YR2/灰白	1/8	傾砂少	傾砂少	傾砂少
1044	土器器重	Ⅱ区①	SK05				傾砂多	傾砂多	2.5YR6/8橙	6/8	傾砂多	傾砂多	傾砂多
1045	土器器重	Ⅱ区①	SK05				傾砂多	傾砂多	10YR7.4ニブ/黄赤	5/8	傾砂多	傾砂多	傾砂多
1046	土器器重	Ⅱ区②	SK06				傾砂多	傾砂多	10YR7.4ニブ/黄赤	2/8	傾砂多	傾砂多	傾砂多

新60表 金尾羅山遺跡土器観察表 (31)

番号	種類	調査区	通称名	測位	長石・石灰	真砂	角閃石	その他	色澤	粒径	内包物	外部形状	備考
1017	土層砂	Ⅱ区②	SK05				粗砂含		10YR3.1/1黄	2.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1048	土層砂	Ⅱ区②	SK05				粗砂含		2.5Y6.2/1黄	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1049	土層砂	Ⅱ区②	SK05				粗砂含		5YR6.2/黄	2.8	下半ナ	体回転ナ	武向転
1050	土層砂	Ⅱ区②	SK05				粗砂多		2.5Y8.3/黄	-	ナ	体回転ナ	武向転
1051	備前伏	Ⅱ区②	SK05				粗砂多		2.5Y9.2	-	ナ	体回転ナ	武向転
1052	備前伏	Ⅱ区②	SK05				粗砂少		2.5Y6.2/黄	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1053	備前伏	Ⅱ区②	SK05				粗砂含		10R3.2/赤褐	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1054	備前伏	Ⅱ区②	SK05				粗砂含		10Y15.2/赤黄	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1055	備前伏	Ⅱ区②	SK07②				粗砂含		7.5YR7.8/黄	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1056	伏	Ⅱ区②	SK07①				粗砂多		N6.0/灰	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1057	土層砂	Ⅱ区②	SK08				粗砂多		2.5Y3.1/黒褐	7.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1058	土層砂	Ⅱ区②	SK08				粗砂含		3S5.1/黄灰	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1059	土層砂	Ⅱ区②	SK09				粗砂少		2S5.1/黄	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1060	土層砂	Ⅱ区②	SK09				粗砂含		10YR7.4/2.7黄	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1061	土層砂	Ⅱ区②	SK11				粗砂含		10YR6.6/黄	2.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1062	土層砂	Ⅱ区②	SK11				粗砂多		10YR6.5/黄	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1063	土層砂	Ⅱ区②	SK12				粗砂含		2.5Y15.8/赤褐	2.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1064	土層砂	Ⅱ区②	SK12				粗砂含		7.5YR6.6/黄	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1065	土層砂	Ⅱ区②	SK12				粗砂含		10Y6.1/黄	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1066	土層砂	Ⅱ区②	SK13				粗砂多		2.5Y8.3/黄	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1067	土層砂	Ⅱ区②	SK16				粗砂含		2.5YR1.1/灰白	1.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1068	土層砂	Ⅱ区②	SK16				粗砂多		5YR6.6/黄	2.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1069	土層砂	Ⅱ区②	SK1②				粗砂含		10YR7.4/2.7黄	7.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1070	土層砂	Ⅱ区②	SK1①				粗砂含		10YR7.4/2.7黄	3.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1071	土層砂	Ⅱ区②	SK1①				粗砂含		2.5Y16.2/灰	2.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1072	土層砂	Ⅱ区②	SK1①				粗砂含		10YR6.2/黄	2.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1073	土層砂	Ⅱ区②	SK1①				粗砂含		10YR6.2/黄	2.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1074	土層砂	Ⅱ区②	SK1①				粗砂多		10YR6.4/2.7黄	2.8	円形ナ	体回転ナ	武向転
1075	土層砂	Ⅱ区②	SK1①				粗砂多		10YR7.3/2.7黄	6.8	円形ナ	体回転ナ	武向転

表61 全尾山道路土器観察表 (32)

番号	路線	運本区	車種名	駅名	長方・全長	番号	角閃石	その他	色選	残存量	内面調整	外面調整	備考
1074	土師器 皿	Ⅱ区②	SX11①				粗砂多		2.5V6/2-7イ黄	1/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1075	土師器 皿	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		10YR7/4-7イ黄橙	8/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1076	土師器 皿	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		5YR6/6橙	1/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1077	土師器 皿	Ⅱ区②	SX11①				粗砂多		2.5YR7/4-7イ橙	2/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1080	土師器 皿	Ⅱ区②	SX 1				粗砂多		2.5Y6/2黄赤黄	2/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1081	土師器 杯	Ⅱ区②	SX 1				粗砂多		10YR7/2-7イ黄橙	6/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1082	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11②				粗砂多		10YR6/2黄赤橙	3/8	凹削ナリ、体凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1083	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		10YR7/4-7イ黄橙	8/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1084	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		2.5N6/2-7イ黄	8/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1085	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		5YR7/6橙	4/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1086	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		5YR7/6橙	2/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	底面：濃柱状孔
1087	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		5Y3.2/4.4-7	7/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1088	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		5Y4.1/6	7/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1089	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		10YR7/3-7イ黄橙	7/8	凹削ナリ、体凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1090	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11②				粗砂多		7.5YR5.2/黄橙	2/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1091	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		10YR7/4-7イ黄橙	6/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1092	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		2.5Y8/2灰白	8/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1093	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		2.5Y7/3黄黄	6/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1094	土師器 年	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		2.5YR6/8橙	5/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1095	土師器 年	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		10YR6/4-7イ黄橙	1/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1096	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11①				粗砂多		10YR7/4-7イ黄橙	3/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1097	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		2.5Y7/2黄黄	6/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1098	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		2.5Y7/1黄黄	6/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	
1099	土師器 杯	Ⅱ区②	SX11				粗砂多		2.5Y7/1黄黄	6/8	凹削ナリ	～7ナリ 体凹削ナリ、底凹削	

第62表 金尾羅山遺跡土器観察表 (33)

番号	器械	測角区	調整名	單位	定尺 石英	雲石	白磁石	その他	色調	保存 費	外面調整	体内調整	備考
1100	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂多	10Y14.1粗砂	1.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1101	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂少	10Y18.4粗砂	1.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1102	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂多	10Y18.4粗砂	6.8	葉中央子*, 体回転子*	体回転子 武同転 子*	
1103	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂多	2.5Y18.2粗砂	7.8	葉中央子*, 体回転子*	体回転子 武同転 子*	
1104	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂多	7.5Y17.4粗砂	6.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1105	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂多	2.5Y17.4粗砂	7.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1106	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂多	10Y17.4粗砂	4.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1107	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂多	5Y17.6粗砂	2.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1108	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂多	10Y17.4粗砂	3.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1109	土測器 杯	II区②	SX11②					粗砂多	10Y15.2粗砂	2.8	可転子*, 体回転子*	体回転子 武同転 子*	
1110	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂少	10Y16.2粗砂	3.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1111	土測器 杯	II区②	SX11①					砂混合	7.5Y14.6粗砂	2.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1112	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂多	7.5Y17.4粗砂	2.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1113	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂多	10Y17.4粗砂	4.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1114	土測器 杯	II区②	SX11①					粗砂多	10Y16.4粗砂	6.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1115	土測器 杯	II区②	SX11①					粗砂多	5Y15.1粗砂	6.8	可転子*, 体回転子*	体回転子 武同転 子*	
1116	土測器 杯	II区②	SX11					粗砂少	5Y17.2粗砂	1.8	可転子*	体回転子 武同転 子*	
1117	土測器 土鍔	II区②	SX11					粗砂多	10Y17.4粗砂	1.8	粗砂混合後コナ子*	上下半粗砂混合 コナ子*	
1118	土測器 土鍔	II区②	SX11					粗砂多	10Y17.4粗砂	1.8	上車コナ子*, 粗砂混合後コナ子*	上下半粗砂混合 コナ子*	
1119	土測器 土鍔	II区②	SX11					粗砂多	10Y16.2粗砂	-	上車コナ子*	粗砂	
1120	土測器 土鍔	II区②	SX11②					粗砂多	7.5Y17.2粗砂	-	上車コナ子*	粗砂	
1121	土測器 土鍔	II区②	SX14					粗砂多	7.5Y18.6粗砂	8.8	可転子*	可転子	
1122	土測器 土鍔	II区②	SX14					粗砂多	7.5Y18.8粗砂	1.8	可転子*	可転子	
1123	土測器 土鍔	I区①	SX14					粗砂多	2.5Y16.8粗砂	5.8	可転子*	上車コナ子*, 下車コナ子*	
1124	土測器 土鍔	I区①	SX15					粗砂多	5Y17.8粗砂	3.8	上車コナ子*	上車コナ子*, 下車コナ子*	

第63表 余尾羅山遺跡土器観察表 (31)

番号	経理	調査区	遺構名	部位	表層・石炭	方位	角閃石	その他	色調	発生量	西山遺構	外山遺構	備考
1125	十盛 窓	I区①	SK15	粗砂多	粗砂多		結晶片や粗砂を含む	7.5N6/3エア(粉)	1.8	1.8	口縁コナリ(床下)	口縁コナリ	
1126	遺構 瓦	II区①	SK2	粗砂多	粗砂多		粗砂多	7.5N12/3粗砂	2.8	2.8	粗砂	黒川下(5.5N27.2)	
1127	1層 板	II区②	SK2				粗砂多	1.9S18/1粗砂	4.8	4.8	粗砂	焼付外壁部	
1128	青磁 板	II区①	SK2				砂利(ほとんど含まず)	1.9S18/1粗砂	6.8	6.8	粗砂	高土層部	
1129	土器 瓦	II区①	SK2				砂利(ほとんど含まず)	1.9S18/1粗砂	5.8	5.8	粗砂	裏山以外層部	
1130	土器 遺構	I区①	SE0(01)SK01				粗砂少	2.5S3/3粗砂	6.8	6.8	口縁コナリ(床下)	11層コナリ(床下)	
1131	瓦葺 土器 片葺	I区①	SE01				粗砂少	5.1/11土	3.8	3.8	コナリ後?	11層コナリ(床下)	
1132	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	7.5S7/1粗砂	2.8	2.8	上下層部	粗砂多(床下)	
1133	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	5.5S2/2粗砂	7.8	7.8	粗砂	粗砂(外壁部)	
1134	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	5.5S2/2粗砂	1.8	1.8	粗砂	粗砂(外壁部)	
1135	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	1.9R1/1粗砂	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1136	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1137	土器 瓦	I区①	SE0(01)SK03				粗砂多	H	6.8	6.8	粗砂	粗砂	
1138	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	5.7/25土	7.8	7.8	粗砂	粗砂	
1139	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	H	7.8	7.8	粗砂	粗砂	
1140	土器 瓦	I区①	SE0(01)SK03				粗砂多	2.5S6/1粗砂	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1141	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	2.8	2.8	粗砂	粗砂	
1142	土器 瓦	I区①	SE0(01)SK01				粗砂多	2.5S7/1粗砂	4.8	4.8	粗砂	粗砂	
1143	土器 瓦	I区①	SE0(01)SK03				粗砂多	7.5S7/1粗砂	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1144	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	3.8	3.8	粗砂	粗砂	
1145	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1146	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1147	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1148	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	6.8	6.8	粗砂	粗砂	
1149	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1150	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1151	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1152	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1153	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1154	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1155	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1156	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1157	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1158	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1159	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1160	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1161	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1162	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1163	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1164	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1165	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1166	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	
1167	土器 瓦	I区①	SE01				粗砂多	粗砂多	1.8	1.8	粗砂	粗砂	

表64 金比羅山遺跡土器調査表 (35)

番号	地種	調査区	遺跡名	層位	長石・石英	炭化	角閃石	その他	色澤	依存量	内山調査地	外出調査地	備考
1168	赤生土器 林	Ⅰ区①	横濱船場山		粗砂含	粗砂含			10YR7.5/4黄褐色	6/8	→7/4船場山	舟形後口線掛	
1169	赤生土器 林	Ⅱ区②	SR03 以東上面層		粗砂多				2.5Y7.6/4黄	6.8	→7/4	船場山	
1170	赤生土器 林	Ⅱ区①	船場山		粗砂多				2.5Y7.7/4黄	3.8	船場山	船場山	
1171	赤生土器 林	Ⅰ区①	船場山		粗砂多				2.5Y8.2/灰白	7/8	→7/4	→7/4	
1172	赤生土器 林	Ⅱ区①	船場山		粗砂少				5Y5.2/4灰白	2.8	→3.2黄	→7/4	
1173	白磁器 壺	Ⅰ区①	土器層より		粗砂多				2.5Y5.8/黄赤褐色	4/8	→7/4	→7/4	
1174	白磁器 壺	Ⅱ区②	SR03 以東上面層		粗砂含				5Y7.6/黄	7/8	→7/4	→7/4	
1175	赤土器 壺	Ⅰ区①	船場山		粗砂多				2.5Y6.1/7黄	3/8	船場山	→7/4	
1176	土器 皿	Ⅱ区②	土器層		粗砂多				5Y7.6/黄	7/8	→7/4	→7/4	
1177	土器 杯	Ⅱ区①	中央ベル土器層		粗砂少				7.5Y7.6/黄	3/8	→7/4	→7/4	
1178	土器 小皿	Ⅱ区②	土器層		粗砂含				2.5Y8.2/黄	3/8	→7/4	→7/4	
1181	赤磁器 壺	Ⅱ区①	土器層		粗砂含				N6/0灰	5/8	→7/4	→7/4	
1182	赤磁器 壺?	Ⅱ区①	土器層		粗砂含				2.5Y8.1/灰白	5/8	→7/4	→7/4	
1183	赤磁器 壺	Ⅱ区①	船場山		粗砂少				10Y5.1/緑灰	1/8	→7/4	→7/4	
1184	赤磁器 壺	Ⅱ区②	船場山		粗砂少				5Y8.1/黄赤区	1/8	→7/4	→7/4	
1185	赤磁器 壺	Ⅱ区②	船場山		粗砂少				5Y8.2/灰白	1/8	→7/4	→7/4	
1186	赤磁器 壺	Ⅱ区②	船場山		粗砂含				5Y7.1/灰白	1/8	→7/4	→7/4	
1187	赤磁器 壺	Ⅱ区②	船場山		粗砂多				7.5Y8.1/黒褐色	1/8	→7/4	→7/4	
1188	赤磁器 壺	Ⅱ区②	船場山		粗砂多				10Y7.4/7黄褐色	-	-	-	
1189	赤磁器 壺	Ⅱ区②	船場山		粗砂多				2.5Y7.4/黄褐色	-	-	-	

第65表 奈良山遺跡土器調査表 (36)

番号	器種	調査区	遺構名	層位	重量(g)	石種
19	球状耳飾	I 区①	SR01(SX02南北Tr)	C層	24.27	蛇紋岩
218	石鏃	I 区①	SD01		0.51	ササカ石
219	石鏃	I 区①	SD01		1.56	ササカ石
220	打製石槍丁	I 区②	SI01		62.28	安山岩
221	楔形石器	I 区①	SD01 時除去		8.02	ササカ石
222	楔形石器	I 区①	SD01	下層	41.29	ササカ石
223	叩石	I 区②	SD01		477.67	安山岩脈岩
224	楔形石器	II 区①	SX28		2.49	ササカ石
239	石鏃	I 区③	SH04③		0.29	ササカ石
240	石鏃	I 区③	SH04 X01		0.94	ササカ石
241	石鏃木製品	I 区③	SI104 X01		1.11	ササカ石
242	楔形石器	I 区③	SH04④Tr08'以东		5.19	ササカ石
243	楔形石器	I 区③	SH04④①		11.36	ササカ石
244	楔形石器	I 区③	Tr09		7.75	ササカ石
245	楔形石器	I 区③	SI104②		15.79	ササカ石
246	打製石斧	I 区③	SI104②		5.84	ササカ石
247	二次加工ある剥片	I 区③	SH04②		1.64	ササカ石
248	柱状片打石斧	I 区③	SH04④Tr08'以东		3.7	結晶片岩
254	石鏃	II 区②	SK32②		0.65	ササカ石
255	石鏃	II 区②	SK32④		1.91	ササカ石
256	楔形石器	II 区②	SK32②	下層	5.39	ササカ石
642	石鏃木製品	I 区①	SR01 表採		0.52	ササカ石
643	石鏃木製品	II 区②	SR01		0.91	ササカ石
643.2	石鏃	I 区①	SR01(Tr06内)		2.59	ササカ石
644	スレイバー	I 区①	SR01攪乱含む		15.81	ササカ石
645	スレイバー	I 区②	SR01北層	砂層	62.03	ササカ石
646	楔形石器	I 区①	SR01攪乱含む		4.83	ササカ石
647	楔形石器	I 区①	SR01		5.07	ササカ石
648	楔形石器	I 区②	SR01		6.66	ササカ石
649	楔形石器	I 区③	SR01	上層	9.35	ササカ石
650	楔形石器	I 区①	SI02		9.1	ササカ石
650.2	楔形石器	I 区①	SR01攪乱含む		11.06	ササカ石
651	楔形石器	I 区③	SR01北層	砂層	42.49	ササカ石
665	石鏃	I 区①	Tr06		5.02	ササカ石
666	石鏃	I 区①	Tr06		2.31	ササカ石
667	スレイバー	I 区①	Tr08 No4		46.89	ササカ石
675	石鏃	II 区①	SH06		0.27	ササカ石
676	石鏃	II 区①	SI106(SI105東部分)		0.48	ササカ石
677	石鏃	II 区①	SI106(SI105東部分)		0.39	ササカ石
678	石鏃木製品	II 区①	SH06(SI105東部分)		0.93	ササカ石
679	楔形石器	II 区①	SI106		6.81	ササカ石
680	楔形石器	II 区①	SI106(SI105東部分)		15.03	ササカ石
681	楔形石器	II 区①	SH06		10.17	ササカ石
682	磨石	II 区①	SI106		305.11	安山岩脈岩
709	楔形石器	I 区③	SX01		1.55	ササカ石
881	石鏃	I 区①	SX02①遺構精査		0.53	ササカ石
882	石鏃	I 区①	SX02南半	下層	2.39	ササカ石
900	石鏃	II 区②	SH102②主と周辺		3.43	ササカ石
901	石鏃木製品	II 区②	SI102②		0.71	ササカ石
902	石鏃木製品	II 区②	SI102②		0.91	ササカ石
903	楔形石器	II 区②	SH102②		11.07	ササカ石
905	楔形石器	II 区①	SK30		0.91	ササカ石
920	石鏃	II 区①	SX15? 航測前清掃中		1.05	ササカ石
921	打製石槍丁	II 区②	SX15		26.99	結晶片岩
922	スレイバー	II 区②	SX15	下層	7.7	ササカ石
923	楔形石器	II 区②	SX15		4.41	ササカ石

第66表 金毘羅山遺跡石器観察表(1)

番号	器種	調査区	遺構名	層位	重量(g)	石材
924	楔形石器	Ⅱ区②	SX15		5.25	サカハ
925	楔形石器	Ⅱ区②	SX15-ベルト北		10.26	サカハ
926	敲石	Ⅱ区②	SX15-ベルト南		188.75	
927	磨石	Ⅱ区②	SX15-ベルト南		360.62	安山岩脈岩
942	楔形石器	Ⅱ区①	SX25④		44.66	サカハ
943	石鏃未製品	Ⅱ区①	SX26④		1.21	サカハ
944	楔形石器	Ⅱ区①	SX26④		7.83	サカハ
980	石鏃	Ⅱ区①	SR03機械掘削		1.52	サカハ
981	石鏃未製品	I区②	SR03		0.84	サカハ
982	石鏃未製品	I区②	SR03		2.03	サカハ
983	石鏃	I区②	SR03		2.14	サカハ
984	磨石	I区②	SR03		682.6	安山岩脈岩
985	石鏃未製品	I区②	SR03		89.62	結晶片岩
986	不明	I区②	SR03		18.94	砂岩
1010	石鏃	Ⅱ区②	SD04		0.4	サカハ
1042	磨石	Ⅱ区①	SK03		538.04	
1151	二次加工ある剥片	I区①	SR02	北西端黒灰色シルト	17.2	サカハ
1152	磨製石斧	I区①	SR02機械掘削		61.36	
1153	砥石	I区①	SR02 トレンチ		53.11	流紋岩
1154	石鏃未製品	I区③	SK05		0.64	サカハ
1155	石核	I区①	SK23		15.71	サカハ
1166	石鏃	I区①	SK24		0.25	サカハ
1158	石鏃	Ⅱ区②	SK31		2.53	サカハ
1159	石鏃未製品	I区③	SP014		1.75	サカハ
1160	楔形石器	I区③	SP017		1.51	サカハ
1161	石核	Ⅱ区②	SP042		63.98	サカハ
1161.2	磨製石窓丁	Ⅱ区②	SP198		6.96	流紋岩
1164	石鏃未製品	Ⅱ区②	SR05		1.76	サカハ
1188	石鏃	Ⅱ区①	清掃中		0.47	サカハ
1189	石鏃	Ⅱ区②	上面精査	SD02上層～SR03内	0.48	サカハ
1190	石鏃	I区③	北側上面精査		0.76	サカハ
1191	石鏃	Ⅱ区②	上面精査	SD02上層～SR03内	3.76	サカハ
1192	石鏃未製品	Ⅱ区②	上面精査	SD02上層～SR03内	0.45	サカハ
1193	石鏃未製品	I区①	上面精査		1.15	サカハ
1194	石鏃	Ⅱ区①	清掃中		0.6	サカハ
1195	スクレイパー	Ⅱ区①	上面精査		21.4	サカハ
1196	楔形石器	Ⅱ区①	清掃中		1.56	サカハ
1197	楔形石器	I区①	南西	包含層(Ⅱ上層)	6.84	サカハ
1198	楔形石器	I区③	側溝Tr		12.4	サカハ
1199	楔形石器	I区①	Tr05 北半部		6.74	サカハ
1200	楔形石器	I区③	北側上面精査		15.48	サカハ
1201	石核	Ⅱ区①	機械掘削及び上面精査		53.03	サカハ
1202	石核剥片	I区①	Tr05 南半部		135.94	サカハ
1203	石核	I区①	内部上面精査		410.6	サカハ
1204	石鏃	I区③	北側上面精査		22.57	結晶片岩
1205	磨製石斧	Ⅱ区②	上面精査(SD02、SD01間再掘削)		43.5	
1206	柱状片刃石斧	I区	機械掘削		330.16	結晶片岩
1207	敲石	I区①	西壁壁切り		80.04	砂岩
1209	砥石	I区①	Tr06裏面		32.07	
1208	磨石	I区③	機械掘削中		713.17	安山岩脈岩

第67表 金毘羅山遺跡石器観察表(2)

番号	器種	地区名 戸龍洲 区12H F	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	埋存品	内面調整	外面調整	備考	図版
1	弥文土器 脚	1区	徳成田川		粗砂多			結晶片岩相 砂合	7.5BR5/4にぶい赤褐色	1/8	へび入り	下端コナリ		93
2	彌文土器 深鉢	1区	深掘川		粗砂多				10YR4/4褐色	1/8	フツ	フツ		93
3	彌文土器 深鉢	1区	深掘川		粗砂多				2.5Y5/3灰青褐色	-	フツ	フツ		93
4	彌文土器 深鉢	1区	北部	上面積査	粗砂多				10YR8/4褐色褐色	1/8	フツ	フツ		93
5	彌文土器 深鉢	1区	W6	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂少				2.5Y5/4青褐色	-	フツ	口縁細文		93
6	彌文土器 深鉢	1区	W20	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂多		粗砂合		5YR6/6灰色	1/8	フツ	口縁細文		92
7	彌文土器 深鉢	1区		上面積査	粗砂多				2.5Y7/3浅黄色	1/8	フツ	フツ		92
8	彌文土器 深鉢	II区		黒褐色小礫ま じりシムト層	粗砂多		粗砂合		10YR4/4褐色	1/8	フツ	フツ		92
9	彌文土器 深鉢	I区		上面積査	粗砂多				2.5Y1/2灰青褐色	1/8	フツ	フツ		93
10	彌文土器 深鉢	I区		上面積査	粗砂多				3.5Y7/3浅黄色	1/8	フツ	フツ		93
11	彌文土器 深鉢	I区	05	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂多		粗砂合		10YR6/4にぶい黄褐色	1/8	フツ	フツ		93
12	彌文土器 深鉢	II区		黒褐色小礫ま じりシムト層	粗砂多				2.5YR7/6褐色	1/8	フツ	フツ		93
13	彌文土器 深鉢	I区		上面積査	粗砂多				10YR6/6明黄褐色	1/8	フツ	フツ		93
14	彌文土器 深鉢	II区		黒褐色小礫ま じりシムト層	粗砂多				7.5YR4/6赤褐色	1/8	フツ	フツ		93
15	彌文土器 深鉢	I区	113	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂多				10YR1/4褐色	1/8	フツ	フツ		93
16	彌文土器 深鉢	I区	ヒナ西部	上面積査	粗砂多				2.5Y5/3灰青褐色	1/8	フツ	フツ		93
17	彌文土器 深鉢	I区	SI01AC区北		粗砂多				2.5YR5/8明赤褐色	1/8	フツ	フツ		93
18	彌文土器 深鉢	I区	SU01 A区		粗砂合				5Y6/2灰青褐色	1/8	フツ	フツ		93
19	彌文土器 深鉢	I区	03	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂多			結晶片岩相 砂合	7.5BR7/1にぶい赤褐色	1/8	フツ	フツ		93
20	彌文土器 深鉢	I区	12	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂多				2.5YR/4赤黄色	1/8	フツ	フツ		93
21	彌文土器 深鉢	I区	SP15		粗砂多				10YR6/5明黄褐色	1/8	フツ	フツ		93

第68表 庭の管造跡土器観察表(1)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	長石・石英	空母	角閃石	その他 結晶片岩類 砂多	色調	灰存量	人間調整	外面調整	備考	図版
22	縄文土器 深鉢	I区	SH01-P8		粗砂少				5YR6/6褐色	1/8	777			93
23	縄文土器 深鉢	I区		上面褐色 黒褐色小礫ま じりシムルト	粗砂含				5YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	-	777			93
24	縄文土器 深鉢	I区	04		粗砂少					-	不明			93
25	縄文土器 深鉢	I区	SH02-B0区間 Aハト	黒褐色小礫ま じりシムルト	粗砂多				10YR7/4にぶい黄褐色	1/8	777			93
26	縄文土器 深鉢	I区	08		粗砂多				5YR5/6暗赤褐色	1/8	777			93
27	弥生土器 壺	I区	SH01		粗砂少				5YR7/6褐色	5/8	777			83
28	弥生土器 壺	I区	SH01AC及B1ハ Aハト		粗砂多	粗砂含	結晶片岩類 砂含		2.5Y5/4黄褐色	1/8	777			
29	弥生土器 壺	I区	SH01-B0区間		粗砂含				10YR8/3或黄褐色	2/8	777			
30	弥生土器 壺	I区	SH01D区		粗砂含				10YR5/4にぶい黄褐色	1/8	777			
31	弥生土器 壺	I区	SH01AC及B1ハ Aハト		粗砂少				7.5YR7/4にぶい黄褐色	1/8	777			
32	弥生土器 壺	I区	SH01-A区		粗砂多				7.5YR7/4にぶい黄褐色	1/8	777			83
33	弥生土器 壺	I区	SH01中央南北 B1ハ		粗砂多				5YR7/6褐色	1/8	777			
34	弥生土器 壺	I区	SH01		粗砂含	粗砂少			5YR5/6明赤褐色	1/8	777			
35	弥生土器 壺	I区	SH01-D区		粗砂含		結晶片岩類 砂含		5YR6/8褐色	2/8	777			
36	弥生土器 壺	I区	SH01D区		粗砂多				10YR7/4にぶい黄褐色	1/8	777			
37	弥生土器 壺	I区	SH01-C区		粗砂多				2.5Y7/4黄褐色	2/8	777			
38	弥生土器 壺 手	I区	SH01-D区		1砂少				7.5YR7/4にぶい黄褐色	-	777			
39	弥生土器 壺	I区	SH01-B区		粗砂含		結晶片岩類 砂含		7.5YR5/3にぶい黄褐色	1/8	777			
40	弥生土器 壺	I区	SH01-B区		粗砂少				5YR5/6明赤褐色	1/8	777			
41	弥生土器 壺	I区	SH01-C区		粗砂少				7.5YR8/4黄褐色	1/8	777			
42	弥生土器 壺	I区	SH01-A区		粗砂含		結晶片岩類 砂含		5YR6/6褐色	3/8	777			
43	弥生土器 壺	I区	SH01-P28		粗砂多	粗砂少			10YR5/2灰黄色	1/8	777			

第69表 庵の分墓跡土器観察表(2)

番号	器科	地区名	遺構名	層位	長石・石英	黒土	角閃石	その他	色環	残存量	内面調整	外面調整	備考	刃版
44	弥生土器 甕	I区	SH01-A3区附 ³⁾	粗砂多	粗砂多	粗砂多	粗砂多	粘厚片岩粗砂多	2.5Y7/2灰黄色	1/8	30寸	30寸		
45	弥生土器 甕	I区	SH01-C区					粘厚片岩粗砂多	5YR7/6褐色	1/8	30寸	30寸		
46	弥生土器 甕	I区	SH01-D区					粘厚片岩粗砂多	5YR5/3にぶい赤褐色	1/8	27寸	27寸		
47	弥生土器 甕	I区	SH01-C区					粘厚片岩粗砂多	2.5Y5/3黄褐色	1/8	27寸	27寸		
48	弥生土器 甕	I区	SH01-D区					粘厚片岩粗砂多	5YR6/4にぶい褐色	1/8	30寸	30寸		
49	弥生土器 甕	I区	SH01-C区						10YR4/6褐色	1/8	27寸	27寸		
50	弥生土器 甕	I区	SH01-A区 ベナ					赤色粗砂	5YR7/6褐色	1/8	30寸	30寸	口縁30寸、胴中後上縁30寸	83
51	弥生土器 甕	I区	SH01-D区					粗砂多	10YR7/4にぶい黄褐色	1/8	30寸	30寸		
52	弥生土器 甕	I区	SH01A区 SH01B3D区附 ⁴⁾					粗砂多	10R6/8赤褐色	1/8	27寸	27寸		
53	弥生土器 甕	I区	SH01B3D区附 ⁴⁾					粗砂多	5YR6/4にぶい褐色	1/8	30寸	30寸		
54	弥生土器 甕	I区	SH01-B区					粗砂少	粘厚片岩粗砂多	1/8	11縁30寸、胴中後上縁30寸	11縁30寸		
55	弥生土器 甕	I区	SH01-D区					粗砂少	5YR6/6褐色	1/8	胴中後上縁30寸	11縁30寸		
56	弥生土器 甕	I区	SH01-D区					粗砂多	赤色粗砂	1/8	27寸	27寸		
57	弥生土器 甕	I区	SH01-A区					粗砂少	5YR7/8褐色	1/8	27寸	27寸		
58	弥生土器 甕	I区	SH01-C区					粗砂少	10YR3/2灰黄褐色	1/8	下半27寸	27寸	脚突文	
59	弥生土器 鉢	I区	SH01-B区					粗砂多	7.5YR6/3にぶい褐色	2/8	27寸	27寸		
60	弥生土器 高杯	I区	SH01-P35					粗砂多	7.5YR4/3褐色	3/8	27寸	27寸		
61	弥生土器 鉢	I区	SH01-C区					粗砂多	5YR6/6褐色	1/8	27寸	27寸		
62	弥生土器 鉢	I区	SH01A区					粗砂多	10YR7/6赤黄褐色	1/8	27寸	27寸		
63	弥生土器 鉢	I区	SH01-D区					粗砂多	10YR7/4にぶい黄褐色	1/8	27寸	27寸		
64	弥生土器 鉢	I区	SH01-B区					粗砂多	10YR7/3にぶい黄褐色	1/8	27寸	27寸		
								粗砂多	2.5Y7/4浅黄色	1/8	27寸	27寸		

第70表 鹿の谷遺跡土器観察表(3)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	石・石炭	雲母	角閃石	その他	色調	現存量	片面調整	外面調整	備考	図版
65	弥生土器 鉢	I区	SH01-A区間 ハ 外	粗砂含				乳滑片岩粗 砂少	7.5BR6/6棕色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
66	弥生土器 鉢	I区	SH01-A区間 ハ 外	粗砂含					2.5BR/3淡黄色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
67	弥生土器 鉢	I区	SH01-C区	粗砂含	粗砂少				10YR5/3にふい黄褐色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
68	弥生土器 高杯	I区	SH01-D区	粗砂含					2.5BR/3赤褐色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
69	弥生土器 高杯	I区	SH01-D区	粗砂含					7.5YR7/6褐色	2/8	ヤヤ	ヤヤ		
70	弥生土器 高杯	I区	SH01-B区	粗砂少				高晶片岩粗 砂少	10YR8/6赤褐色	3/8	ヤヤ	ヤヤ		
71	弥生土器 高杯	I区	SH01-C区	粗砂含					2.5BR6/8棕色	1/8	ヤヤ	ヤヤ	口縁部、蓋付後	
72	弥生土器 高杯	I区	SH01-B区	粗砂含				赤色粗多、 高晶片岩粗 砂含	7.5BR6/6棕色	2/8	ヤヤ	ヤヤ	口縁部、 底のひびき	88
73	弥生土器 高杯	I区	SH01-C区	粗砂含					5YR7/8棕色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
74	弥生土器 高杯	I区	SH01-D区	粗砂多					7.5BR7/4にふい褐色	2/8	ヤヤ	ヤヤ		
75	弥生土器 高杯	I区	SH01-D区	粗砂多					2.5BR7/8棕色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
76	弥生土器 高杯	I区	SH01-C区	粗砂少					5YR7/6赤褐色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
77	弥生土器 高杯	I区	SH01-B区	粗砂含				赤色粗多	10YR7/6暗赤褐色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
78	弥生土器 高杯	I区	SH01-C区	粗砂少					7.5BR6/6棕色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
79	弥生土器 高杯	I区	SH01-C区					高晶片岩粗 砂、赤色粗 多	7.5BR6/6棕色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
80	弥生土器 高杯	I区	SH01-C区間 ハ 外	粗砂多					10YR7/4にふい黄褐色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
81	弥生土器 高杯	I区	SH01-C区ハ外	粗砂少					7.5BR7/6棕色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
82	弥生土器 高杯	I区	SH01-P28	粗砂含					7.5BR6/6棕色	1/8	ヤヤ	ヤヤ		
83	弥生土器 高杯	I区	SH01-D区ハ 外	粗砂少						1/8	ヤヤ	ヤヤ		
84	弥生土器 底澄	I区	SH01-C区	粗砂多					2.5BR/3淡黄色	2/8	ヤヤ	ヤヤ		
85	弥生土器 底澄	I区	SH01-C区	粗砂含				結晶片岩粗 砂含	2.5YR7/3黄褐色	3/8	ヤヤ	ヤヤ		
86	土製紡錘	I区	SH01-D区間ハ 外	粗砂少					7.5BR6/6棕色	7/8	ヤヤ	ヤヤ		

第71表 庵の台遺跡土器観察表(4)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	長石・石英	霏石	角閃石	その他	色調	保存量	内面調査	外面調査	備考	図版
87	土製紡錘車	I区	SI01A区		粗砂含				2.5YR6/4にふい黄色	7/8	7/7	7/7	上塗り 利用	93
88	土製紡錘車	I区	SK01-C区		粗砂含				2.5YR6/4にふい黄色	8/8	7/7	7/7	利用	93
202	弥生土器 甕	I区	SI02-D区		粗砂多			赤色粒含	7.5YR7/8褐色	1/8	7/7	3277*		
203	弥生土器 甕	I区	SH02-P4		粗砂多				7.5YR5/4にふい小褐色	3/8	7/7	3277* 土上板行*		
204	弥生土器 甕杯	I区	SH02-AC区問 へ付		粗砂含			結晶片岩粗 砂少	2.5YR6/8褐色	1/8	3277*	3277*		
206	弥生土器 甕	I区	SK01		粗砂多				2.5YR5/6明赤褐色	1/8	7/7	不明	貝殻割 突文、 地付文	83
207	弥生土器 甕	I区	SK01		粗砂多				10YR4/2灰黄褐色	1/8	7/7	7/7		83
208	弥生土器 甕杯	I区	SK01		粗砂多			赤色粒多	7.5YR6/4にふい褐色	3/8	7/7	7/7		83
209	弥生土器 甕杯	I区	SK05		粗砂多				10YR5/2灰黄褐色	2/8	7/7	3277*		
210	弥生土器 鉢	II区	SK02		粗砂含			結晶片岩粗 砂多	7.5YR7/4にふい褐色	3/8	7/7	7/7		84
211	分動形土器 甕?	I区	SP09		粗砂含				10YR6/6明黄褐色	1/8	-	表7/7		84
212	弥生土器 器台	I区	SP27		粗砂多			赤色粒含	2.5YR5/8明赤褐色	1/8	7/7	7/7	上下不 明	84
213	弥生土器 甕	I区	SP47		粗砂多			赤色粒含	10YR7/5黄褐色	1/8	7/7	7/7		
214	弥生土器 甕	I区	SP77		粗砂含				2.5YR6/8褐色	2/8	11線3277*	11線3277* 顔~胴へ付		
215	弥生土器 甕	I区	SP77		粗砂多				10YR3/2黒褐色	8/8	77	7/7	把手付 8cm、 把手位 器不確	84
216	弥生土器 甕	II区	SP04		粗砂多				7.5YR6/6褐色	8/8	7/7	7/7	下至へ7.5cm 実	
221	弥生土器 甕	I区	ST01		粗砂多				10YR5/6赤土	5/8	6277*	7/7	顔へ7.5cm 実	84
222	弥生土器 甕	I区	ST01		粗砂多				7.5YR6/6褐色	5/8	7/7	7/7	顔へ7.5cm 実	84
223	弥生土器 甕	I区	ST01		粗砂多			結晶片岩粗 砂少	10YR5/2灰黄褐色	2/8	11線3277* 顔へ7.5cm*	7/7	11線3277* 顔へ7.5cm*	
224	弥生土器 甕	I区	ST01		粗砂多			赤色粒含	10YR5/6褐色	2/8	7/7	7/7	7/7	

第72表 鹿の谷遺跡土器調査表(5)

番号	器種	地区名	調査名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存量	内面調整	外面調整	備考	図版
225	弥生土器 甕	1区	ST01		粗砂含			黒黒片岩粗砂少	2.5YR6/4にぶい橙褐色	1/8	ヤ77	ヤ77		
226	弥生土器 甕	1区	ST01		粗砂多	粗砂多			10YR5/4にぶい灰褐色	7/8	ヤ77	ヤ77		
227	弥生土器 甕	1区	ST01		粗砂多	粗砂少			2.5YR/2灰白色	3/8	ヤ77	ヤ77	肩1部破片、下半部欠	85
228	弥生土器 甕	1区	ST01		粗砂多	粗砂多		赤色粒多	7.5YR7/4にぶい橙褐色	3/8	ヤ77	ヤ77		85
229	弥生土器 甕	1区	ST01		粗砂多	粗砂多			2.5YR/4橙褐色	2/8	ヤ77	ヤ77		85
230	弥生土器 高杯	1区	ST01		粗砂含			粗砂多	10YR5/2灰岩褐色	6/8	ヤ77	ヤ77		85
232	弥生土器 盃	1区	SX02(南壁部)	旧井戸跡	粗砂少			赤色粒多	5YR6/3橙褐色	1/8	ヤ77	ヤ77		
233	弥生土器 盃	1区	SX02	旧井戸跡	粗砂多				2.5Y5/3黄褐色	1/8	ヤ77	ヤ77	肩後口縁破片	
234	弥生土器 盃	1区	SX02	旧井戸跡	粗砂多				10YR8/2灰白色	1/8	ヤ77	ヤ77	肩3部欠	
235	弥生土器 底部	1区	SX02	旧井戸跡	粗砂含			赤色粒多	5YR5/6明赤褐色	1/8	ヤ77	ヤ77	割落	
236	弥生土器 底部	1区	SX02(南壁部)	旧井戸跡	粗砂多			黒黒片岩粗砂少	7.5YR7/4にぶい橙褐色	3/8	ヤ77	ヤ77	底面欠	
237	弥生土器 甕	1区	SX02	旧井戸跡	粗砂含				2.5YR6/8橙褐色	1/8	ヤ77	ヤ77		
238	弥生土器 甕	1区	SX02(南壁部)	旧井戸跡	粗砂含			粗砂含	10YR8/3灰岩褐色	1/8	ヤ77	ヤ77		
239	弥生土器 甕	1区	SX02(南壁部)	旧井戸跡	粗砂含			赤色粒含	5YR6/3灰褐色	1/8	ヤ77	ヤ77		
240	弥生土器 甕	1区	SX02(北行南壁部)	旧井戸跡	粗砂含				2.5YR6/8橙褐色	1/8	ヤ77	ヤ77		
241	弥生土器 甕	1区	SX02	旧井戸跡	粗砂含			黒黒片岩粗砂含	7.5YR7/6橙褐色	3/8	ヤ77	ヤ77	口縁破片、肩破片	
242	弥生土器 甕	1区	SX02(南壁部)	旧井戸跡	粗砂含			粗砂多	2.5Y3/2黑褐色	2/8	ヤ77	ヤ77	口縁破片、上半部欠	肩裂割欠文
243	弥生土器 底部	1区	SX02(南壁部)	旧井戸跡	粗砂含				2.5Y6/2灰褐色	3/8	ヤ77	ヤ77		
244	弥生土器 鉢	1区	SX02(南壁部)	旧井戸跡	粗砂多				7.5YR8/2灰白色	2/8	ヤ77	ヤ77		
245	弥生土器 高杯	1区	SX02(南壁部)	旧井戸跡	粗砂少			赤色粗砂含	2.5YR6/8橙褐色	1/8	ヤ77	ヤ77		
246	弥生土器 高杯	1区	SX02	旧井戸跡	粗砂少			黒黒片岩粗砂少	10YR5/6赤褐色	1/8	ヤ77	ヤ77		
247	弥生土器 高杯	1区	SX02	旧井戸跡	粗砂多				10YR5/3灰岩褐色	1/8	ヤ77	ヤ77		
248	弥生土器 高杯	1区	SX02(南壁部)	旧井戸跡	粗砂含			黒黒片岩粗砂少	10YR7/3にぶい黄褐色	3/8	ヤ77	ヤ77		

第73表 鹿の谷遺跡土器観察表(6)

番号	器械	柱区名	遺構名	層位	玉石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存量	内面調整	外面調整	備考	図版
249	弥生土器 高杯	1区	SX02(北ノ南壁)	山井戸跡	粗砂多			結晶片岩粗砂少	5YR7/6紫色	1/8	477	477		
250	弥生土器 高杯	1区	SX02(南壁部)	山井戸跡	粗砂少			粗砂少	7.5YR7/6棕色	1/8	477	477		
251	弥生土器 高杯	1区	SX02	山井戸跡	粗砂少			粗砂少	10YR5/1黒灰色	1/8	477	477		
252	弥生土器 高杯	1区	SX03	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	7.5YR6/6棕色	1/8	477	477		
253	弥生土器 高杯	1区	SX03	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	5YR4/3にぶい赤褐色	1/8	477	477		
254	弥生土器 高杯	1区	SX03	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	2.5YR2/2暗部赤褐色	1/8	477	477		
255	弥生土器 高杯	1区	SX03	山井戸跡	粗砂少			粗砂少	10YR4/2灰黄褐色	1/8	477	477		
256	弥生土器 高杯	1区	SX05	山井戸跡	粗砂少			粗砂少	2.5YR3/3赤褐色	1/8	477	477		
257	弥生土器 高杯	1区	SX05	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	5YR7/6赤褐色	2/8	477	477		
258	弥生土器 高杯	1区	S001-B区	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	10YR6/6暗黄褐色	1/8	477	477		
259	弥生土器 高杯	1区	S001-B区	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	5YR5/8明部赤褐色	2/8	477	477		
260	弥生土器 高杯	1区	S001-B区	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	2.5YR3/3赤褐色	1/8	477	477		
261	弥生土器 高杯	1区	S001-B区	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	5YR6/6棕色	1/8	477	477		
262	弥生土器 高杯	1区	S001-B区	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	10YR7/4にぶい黄褐色	1/8	477	477		
263	弥生土器 高杯	1区	H12	山井戸跡	粗砂少			粗砂少	10YR6/4にぶい黄褐色	1/8	477	477		
264	弥生土器 高杯	1区	H12	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	7.5YR6/6棕色	2/8	477	477		
265	弥生土器 高杯	1区	H18	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	2.5Y7/3浅灰色	1/8	477	477		
266	弥生土器 高杯	1区	T22	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	10Y38/4黄褐色	1/8	477	477		
267	弥生土器 高杯	1区	O27	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	2.5YR3/3赤褐色	1/8	477	477		
268	弥生土器 高杯	1区	N4	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	2.5YR6/8棕色	1/8	477	477		
269	弥生土器 高杯	1区	H12	山井戸跡	粗砂多			粗砂多	10YR4/6棕色	5/8	477	477		

第74表 鹿の行遺跡土器観察表(7)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	石・石灰	墓母	角四石	その他	色調	残存量	内面調整	外面調整	備考	区画
290	弥生土器 壺	I 区	P31	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多	粗砂少			5YR7/6赤褐色	1/8	3077*	3077*		86
291	弥生土器 壺	I 区	Q31	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多				5YR6/4にぶい褐色	1/8	777	777		
292	弥生土器 壺	I 区	E8	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多				5YR6/6褐色	8/8	777	777		87
293	弥生土器 壺	I 区	Q23	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多			赤色粘土	5YR6/4にぶい褐色	1/8	777	3077*		
294	弥生土器 壺	I 区	R31	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多				10YR8/4淡黄褐色	1/8	3077*	3077*		87
295	弥生土器 壺	I 区	Q31	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂少				10R6/6赤褐色	1/8	777	777	乳2残存	87
296	弥生土器 壺	I 区	Q32	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多			結晶片岩粗砂多	7.5YR5/6H褐色	1/8	777	777		87
297	弥生土器 壺	I 区	T22	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多	粗砂多			10YR6/3にぶい黄褐色	2/8	777	777		87
298	弥生土器 壺	I 区		黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多			結晶片岩粗砂少、赤色粘土	5YR7/6褐色	1/8	777	777		
299	弥生土器 壺	I 区	Q32	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多			結晶片岩粗砂少	7.5YR4/2H褐色	1/8	777	777		87
300	弥生土器 壺	I 区	R33	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多			結晶片岩粗砂少	10YR5/4にぶい黄褐色	1/8	777	777		
301	弥生土器 壺	I 区	Q32	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多	粗砂多			2.5Y3.3暗グレー褐色	1/8	777	777		
302	弥生土器 壺	I 区	III1	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多				11R6/3グレー褐色	1/8	11R6/3077*	11R6/3077*		
303	弥生土器 壺	I 区	G11	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多				7.5YR7/4にぶい褐色	2/8	777	777		87
304	弥生土器 壺	I 区	H18	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多				5YR7/4にぶい褐色	1/8	777	777		
305	弥生土器 壺	I 区	Q33	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多				10YR7/4にぶい黄褐色	2/8	777	777		87
306	弥生土器 壺	I 区	III1	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多			結晶片岩粗砂多	5YR7/6褐色	2/8	777	777		
307	弥生土器 壺	I 区	II18	黒褐色小礫まじりシルト	粗砂多			結晶片岩粗砂多	7.5YR6/4にぶい褐色	1/8	777	777		

第75表 鹿の谷遺跡土器観察表(8)

番号	器種	地区名	遺構名	原状	灰石・石灰	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	表面調整	外面調整	備考	図版
308	弥生土器 甕	I 区 F5	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂含			結晶片芯粗砂含	10R6/6赤褐色	3/8	削り	717		
309	弥生土器 甕	I 区 H11	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂含	粗砂少		結晶片芯粗砂含	10R5/6赤褐色	1/8	削り	327*		
310	弥生土器 甕	I 区 B21	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多	粗砂少		結晶片芯粗砂多	10YR6/4にぶい黄褐色	2/8	削り	1111		88
311	弥生土器 甕	I 区 O29	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂含				10YR7/4にぶい黄褐色	6/8	削り	717		
312	弥生土器 甕	I 区 E13	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多			2.5YR5/8弱赤褐色	7*	3/8	削り	717	底底破	88
313	弥生土器 甕	I 区 K15	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多			10YR5/3にぶい黄褐色	7*	6/8	削り	717	穿孔	88
314	弥生土器 鉢	I 区 L17	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多	粗砂含		7.5YR4/6褐色	7*	1/8	削り	633		88
315	弥生土器 鉢	I 区 P22	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多			2.5Y7/3浅黄色	7*	1/8	削り	717		
316	弥生土器 高杯	I 区 P30	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多			細砂多	2.5Y7/3浅黄色	1/8	削り	327*		88
317	弥生土器 高杯	I 区 U15	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多			結晶片芯粗砂多	2.5YR4/5赤褐色	2/8	削り	327*		88
318	弥生土器 高杯	I 区 T21	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多			結晶片芯粗砂少	5YR6/6褐色	1/8	削り	ト平	633	88
319	弥生土器 高杯	I 区 L20	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多			結晶片芯粗砂少	10YR6/4にぶい黄褐色	2/8	削り	717		88
320	弥生土器 高杯	I 区 H11	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂少			結晶片芯粗砂少	10YR7/3にぶい黄褐色	1/8	削り	717		
321	弥生土器 高杯	I 区 H15	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多	粗砂含		赤色粗含	2.5YR6/6褐色	1/8	削り	口縁削り、底削り	717	88
322	弥生土器 高杯	I 区 G19	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂含				5YR6/6褐色	1/8	削り	底削り	717	
323	弥生土器 高杯	I 区 H14	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂含			結晶片芯粗砂多	5YR6/6褐色	8/8	削り	上半	633	
324	弥生土器 高杯	I 区 W7	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多			結晶片芯粗砂少	10R5/4にぶい黄褐色	7/8	削り		717	上4孔
325	弥生土器 高杯	I 区 F13	黒褐色小竇まじりシムルト	黒褐色小竇まじりシムルト	粗砂多	粗砂多			10YR5/3にぶい黄褐色	6/8	削り	717		88

第76表 庵の谷遺跡土器観察表(9)

番号	器種	地区名	発掘名	器位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存量	内面調整	外面調整	備考	区版
328	弥生土器 高杯	I区	G19	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂少			粗品片若粗 砂含	5YR6/6褐色	1/8	ナナ	ナナ		88
327	土製紡錘車	I区	F17	黒褐色小礫ま じりシムト				粗品片若粗 砂	2.5YR6/4にぶい褐色	7/8	ナナ	ナナ	土器片 利用	93
328	土製紡錘車	I区	F10	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂多				10YR7/1にぶい黄褐色	8/8	ナナ	ナナ	土器片 利用	93
329	土製紡錘車	I区	07	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂少				10YR5/2灰褐色	1/8	ナナ	ナナ	土器片 利用	93
330	土製紡錘車	I区	P31	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂少				7.5YR3/4暗赤褐色	3/8	ナナ	ナナ	土器片 利用	93
331	土製紡錘車	I区	J19	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂多				5YR4/3にぶい赤褐色	3/8	ナナ	ナナ	土器片 利用	93
332	土製紡錘車	I区	F17	黒褐色小礫ま じりシムト	粗砂含			粗品片若粗 砂少	5YR3/3暗褐色	1/8	ナナ	ナナ	土器片 利用	93
333	土製紡錘車	I区	F13	黒褐色小礫ま じりシムト				粗品片若粗 砂少	5YR7/8褐色	8/8	ナナ	ナナ	土器片 利用	93
336	弥生土器 壺	I区		明褐色灰褐色 粘質土層	粗砂含			粗品片若粗 砂含、赤色 粗多	10YR8/3或黄褐色	1/8	ナナ	ナナ		P9
337	弥生土器 高杯	I区		上面精査	粗砂多				2.5YR/4暗褐色	2/8	ナナ	ナナ		89
338	弥生土器 壺	I区		上面精査	粗砂含		粗砂多		7.5YR4/1褐色	1/8	ナナ	ナナ		89
339	弥生土器 壺	I区		上面精査	粗砂多				10YR4/1褐色	3/8	ナナ	ナナ		89
340	弥生土器 壺	I区		機械部削	粗砂含			粗品片若粗 砂含	10YR7/6暗黄褐色	2/8	ナナ	ナナ		89
341	弥生土器 壺	I区	南壁	精査	粗砂多				2.5Y7/3黄褐色	1/8	ナナ	ナナ		
342	弥生土器 壺	I区		機械部削	粗砂含			粗品片若粗 砂少	10YR4/1暗褐色	2/8	ナナ	ナナ	口縁ナナ, 胴ナナ	
343	弥生土器 壺	I区		上面精査	粗砂多				5Y6/1灰色	8/8	ナナ	ナナ		
344	弥生土器 壺	I区		機械部削	粗砂多			粗品片若粗 砂含	10YR5/3にぶい黄褐色	1/8	ナナ	ナナ		89
345	弥生土器 高杯	I区	南西壁帯ち込 み	機械部削	粗砂少				7.5YR6/4にぶい褐色	2/8	ナナ	ナナ		
346	弥生土器 高杯	I区		上面精査	粗砂含				5YR7/8褐色	1/8	ナナ	ナナ		89

第77表 庵の行遺跡土器観察表(10)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	長石・石英	雲母	集積石	その他	色調	残存量	内面調整	外面調整	備考	図版
347	弥生土器 高杯	I区	北部	織鉢形削				赤色粒多	10YR7/6明黄褐色	1/8	マ7	マ7		89
348	弥生土器 高杯	I区		織鉢形削	粗砂多				7.5YR7/6橙褐色	1/8	マ7	マ7		89
349	弥生土器 高杯	I区		上面精査	粗砂多			結晶片岩粗砂多, 赤色粒多	10YR8/4浅黄褐色	1/8	マ7	マ7		89
350	弥生土器 高杯	I区		織鉢形削	粗砂少				5YR7/6橙褐色	1/8	マ7	マ7		
351	弥生土器 高杯	I区		上面精査(下の段)	粗砂含				10YR4/2灰黄褐色	1/8	マ7	マ7		89
352	弥生土器 高杯	I区	南西高落ち込み	上面精査	粗砂多			赤色粒含	7.5YR5/6灰褐色	1/8	マ7	マ7		89
353	弥生土器 高杯	I区		上面精査	粗砂少				10YR5/1暗灰褐色	1/8	上半マ7A' 1/2	マ7		90
354	弥生土器 高杯	I区		織鉢形削	粗砂含			赤色粒含	7.5YR7/6橙褐色	1/8	マ7	マ7		
355	弥生土器 器台	I区		上面精査	粗砂多				2.5Y7/2灰黄褐色	1/8	マ7	マ7		
356	弥生土器 壺	I区	H12	出上土器				粗砂含, 赤色粒多	5YR6/8橙褐色	6/8	マ7	マ7		90
357	土製紡錘	I区	一段下	上面精査	粗砂多			結晶片岩粗砂多	7.5YR6/4にふい橙褐色	7/8	マ7	マ7		93
471	弥生土器 壺	II区		灰色まじり黄褐色粘質土層	粗砂多			結晶片岩粗砂多	7.5YR5/4淡橙褐色	2/8	マ7	マ7		
472	弥生土器 壺	II区		灰色まじり黄褐色粘質土層	粗砂少			結晶片岩粗砂多	5YR6/6橙褐色	1/8	上半指おさ	マ7		
473	弥生土器 高杯	II区		灰色まじり黄褐色粘質土層	粗砂含			赤色粒含	10YR6/5赤橙褐色	7/8	脚マ7A' 1	マ7		90
474	弥生土器 器台	II区		灰色まじり黄褐色粘質土層	粗砂含			赤色粒含	2.5YR8/3橙黄褐色	1/8	マ7	マ7		
475	弥生土器 壺	II区		灰色粘質土層	粗砂少			結晶片岩粗砂少	10YR8/3淡黄褐色	1/8	マ7	マ7		90
476	弥生土器 壺	II区		灰色粘質土層	粗砂多				10YR7/4にふい黄褐色	5/8	脚マ7	マ7		
477	弥生土器 壺	II区		灰色粘質土層	粗砂多			結晶片岩粗砂多	2.5YR6/3にふい黄褐色	6/8	マ7	マ7		90

第78表 鹿の谷遺跡土器観察表 (11)

番号	器種	地区名	遺跡名	層位	長石・石英	葉片	角閃石	その他	色調	残存量	内面調査	外面調査	備考	図版
478	弥生土器 武部	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂多				2. 516/2灰黄色	2/8	777	6777		90
479	弥生土器 鉢	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂多				7. 516/1灰色	1/8	777	777		
480	弥生土器 鉢	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂多				2. 516/3にぶい 灰色	1/8	777	3577		90
481	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂多				2. 5186/6褐色	3/8	777	777		90
482	弥生土器 鉢	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂多				2. 5185/6明赤褐色	1/8	777	777		
483	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂少				7. 5187/6褐色	1/8	777	777		
484	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂少			製品片 粗	2. 518/2灰白色	5/3	777	777		91
485	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	細砂少			製品片 粗	5187/1にぶい 褐色	7/8	777	777		
486	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂多				5186/6褐色	2/8	777	777		91
488	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂少			赤色粒多 粗品片 粗	10186/3にぶい 黄褐色	2/8	777	1183377 粗砂多		91
489	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂少			粗品片 粗	5185/6明赤褐色	1/8	777	777		91
490	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂多			赤色粒少 粗品片 粗	5187/8褐色	3/8	777	777		91
491	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂少			粗品片 粗	10188/4浅黄褐色	1/8	777	777		91
492	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂少				7. 5186/6褐色	2/8	777	777		91
493	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂多				5185/6明赤褐色	1/8	777	777		
494	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂多			粗品片 粗	5186/6褐色	1/8	777	777		
495	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂多			粗品片 粗	10185/6黄褐色	2/8	777	777		
496	弥生土器 高杯	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	粗砂多				7. 5188/6浅黄褐色	1/8	777	777		

第79表 施の弥生土器観察表 (12)

番号	器種	地区名	裏構名	部位	土石・石炭	雲母	角閃石	その他	色調	残存量	内面調整	外面調整	備考	図版
497	弥生土器 鉢	II区		黒褐色小澱主 じりシルト層	粗砂多				6.0YR7/4にぶい黄褐色	1/8	なし	なし		91
498	弥生土器 高杯	II区		黒褐色小澱主 じりシルト層	粗砂多			結晶片岩粗砂多	2.5YR6/3にぶい黄褐色	1/8	なし	なし		91
499	弥生土器 鉢	II区		黒褐色小澱主 じりシルト層	粗砂多			結晶片岩粗砂少	7.5YR7/8褐色	1/8	なし	なし		
500	弥生土器 鉢	II区		黒褐色小澱主 じりシルト層	粗砂多			結晶片岩粗砂多	2.5YR6/8褐色	1/8	なし	なし		
501	弥生土器 高杯	II区		黒褐色小澱主 じりシルト層	粗砂多			赤色粘土結晶片岩粗砂多	10YR7/4にぶい黄褐色	6/8	なし	なし		91
504	弥生土器 壺	II区		暗灰色粘質土	粗砂少				7.5YR8/1赤褐色	2/8	なし	なし		
505	弥生土器 壺	II区		暗灰色粘質土	粗砂多			赤色粘土	5YR6/4にぶい褐色	3/8	なし	なし		92
506	彌紡織土	II区		暗灰色粘質土	粗砂多				10YR5/2灰黄褐色	7/8	なし	なし	上器片利用	93
507	弥生土器 壺	II区	機軸形剛		粗砂多				2.5YR7/1暗赤褐色	1/8	なし	なし		92
508	弥生土器 壺	II区	機軸形剛		粗砂少			粗砂少	5YR7/8褐色	1/8	なし	なし		92
509	弥生土器 壺	II区	機軸形剛		粗砂多			結晶片岩粗砂多	2.5YR6/3褐色	1/8	なし	なし		92
520	弥生土器 鉢	III区	SP04		粗砂多			赤色粘土	5YR6/8褐色	3/8	なし	なし	表面のみ	
536	彌紡織土	III区	SP06		粗砂多				5YR5/4にぶい赤褐色	3/8	なし	なし	上器片利用	93
537	土師器 小皿	III区	SP21		粗砂多			粗砂多	10YR7/4にぶい黄褐色	1/8	なし	なし		

第80表 庵の弥紡織土器観察表(13)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	重量(g)	石材	備考	図版
89	石鏃	I区	SH01-DC区間A' 射	へり精査中	0.37	*矽石	金山	94
90	石鏃	I区	SH01-014		0.73	*矽石	金山	94
91	石鏃	I区	SH01-Q11		0.79	*矽石	金山	94
92	石鏃	I区	SH01-P28		0.82	*矽石	金山	94
93	石鏃	I区	SH01-P9		2.91	*矽石	金山	94
94	石鏃	I区	SH01-C14		0.71	*矽石	金山	94
95	石鏃	I区	SH01-N11		0.79	*矽石	金山	94
96	石鏃	I区	SH01BC区間B' 射		1.1	*矽石	金山	94
97	石鏃	I区	SH01-D14		1.75	*矽石	金山	94
98	石鏃	I区	SH01-N14		1.9	*矽石	金山	94
99	石鏃	I区	SH01-B区		1.1	*矽石	金山	94
100	石鏃	I区	SH01-N12		1.15	*矽石	金山	94
101	石鏃	I区	SH01-N7		1.5	*矽石	金山	94
102	石鏃	I区	SH01	中央E' 射	1.8	*矽石	金山	94
103	石鏃	I区	SH01-A8		2.4	*矽石	金山	94
104	石鏃	I区	SH01-D14		1.76	*矽石	金山	94
105	石鏃	I区	SH01東北B' 射	中央炭化物	0.62	*矽石	金山	94
106	石鏃	I区	SH01-A区		0.71	*矽石	金山	94
107	石鏃	I区	SH01-P11		0.74	*矽石	金山	94
108	石鏃	I区	SH01-L13		0.83	*矽石	金山	94
109	石鏃	I区	SH01-N11		0.86	*矽石	金山	94
110	石鏃	I区	SH01-N12		0.97	*矽石	金山	94
111	石鏃	I区	SH01-N12		1.06	*矽石	金山	94
112	石鏃	I区	SH01-013		1.11	*矽石	金山	94
113	石鏃	I区	SH01-N13		1.4	*矽石	金山	94
114	石鏃	I区	SH01-L11		1.43	*矽石	金山	94
115	石鏃	I区	SH01-N12		1.47	*矽石	金山	94
116	石鏃	I区	SH01-P41		1.48	*矽石	金山	94
117	石鏃	I区	SH01-013		1.53	*矽石	金山	94
118	石鏃	I区	SH01-07		1.54	*矽石	金山	94
119	石鏃	I区	SH01-P12		1.59	*矽石	金山	94
120	石鏃	I区	SH01-P9		1.66	*矽石	金山	94
121	石鏃	I区	SH01-N12		1.71	*矽石	金山	94
122	石鏃	I区	SH01-D区		1.75	*矽石	金山	94
123	石鏃	I区	SH01-M10		1.77	*矽石	金山	94
124	石鏃	I区	SH01-N13		1.96	*矽石	金山	95
125	石鏃	I区	SH01-07		1.99	*矽石	金山	95
126	石鏃	I区	SH01-L9		2.09	*矽石	金山	95
127	石鏃	I区	SH01-L10		2.25	*矽石	金山	95
128	石鏃	I区	SH01-B14		2.36	*矽石	金山	95
129	石鏃	I区	SH01-P9		2.44	*矽石	金山	95
130	石鏃	I区	SH01-P10		2.67	*矽石	金山	95
131	石鏃	I区	SH01-D区		2.72	*矽石	金山	95
132	石鏃	I区	SH01-N8		2.98	*矽石	金山	95
133	石鏃	I区	SH01-09		2.98	*矽石	金山	95
134	石鏃	I区	SH01-P14		3.96	*矽石	金山	95
135	石鏃	I区	SH01-D区		4.18	*矽石	金山	95
136	石鏃	I区	SH01-N13		4.3	*矽石	金山	95
137	石鏃	I区	SH01-R10		5.89	*矽石	金山	95
138	石鏃	I区	SH01-N13		0.35	*矽石	金山	93
139	石鏃	I区	SH01-D14		1.56	*矽石	金山	95
140	石鏃	I区	SH01-N13		0.63	*矽石	金山	95
141	石鏃	I区	SH01-D区		1.73	*矽石	金山	95
142	二次加工ある剥片	I区	SH01CD区間B' 射		105	*矽石	金山	95
143	石鏃	I区	SH01-012		1.5	*矽石	金山	95

第81表 鹿の谷遺跡実測石器観察表(1)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	重量(g)	石材	備考	図版
144	石鏃	I区	SH01-D1区		1.63	*砂付	金山	95
145	石鏃	I区	SH01 CD区間へ*ト		1.72	*砂付	金山	95
146	石鏃	I区	SH01-D1区		1.76	*砂付	金山	95
147	スライパ-	I区	SH01BC区間トシテ		2.43	*砂付	金山	95
148	二次加工ある剥片	I区	SH01AB区間トシテ		2.49	*砂付	金山	96
149	石鏃	I区	SH01-D1区		2.67	*砂付	金山	96
150	石鏃	I区	SH01D区		3.23	*砂付	金山	96
151	石鏃	I区	SH02 AB区間へ*ト		3.3	*砂付	金山	96
152	石鏃	I区	SH01AC区トシテ		4.67	*砂付	金山	96
153	石鏃	I区	SH01-P11		7.47	*砂付	金山	96
154	石鏃	I区	SH01-D1区		0.74	*砂付	金山	96
155	石鏃	I区	SH01 D1区		0.89	*砂付	金山	96
156	石鏃	I区	SH01-B1区		0.92	*砂付	金山	96
157	石鏃	I区	SH01-B1区		1.09	*砂付	金山	96
158	石鏃	I区	SH01-Q8		1.13	*砂付	金山	96
159	石鏃	I区	SH01-N13		1.34	*砂付	金山	96
160	石鏃	I区	SH01BC区間トシテ		1.55	*砂付	金山	96
161	石鏃	I区	SH01 L8		1.92	*砂付	金山	96
162	石鏃	I区	L4	黒褐色小磯まじりシト	2.02	*砂付	金山	96
163	石鏃	I区	SH01-N8		2.25	*砂付	金山	96
164	石鏃	I区	SH01 D1区		2.32	*砂付	金山	96
165	石鏃	I区	SH01BC区間トシテ		2.45	*砂付	金山	97
166	石鏃	I区	SH01-B1区		2.56	*砂付	金山	97
167	石鏃	I区	SH01 Q9		2.87	*砂付	金山	97
168	石鏃	I区	SH01BC区間トシテ		3.24	*砂付	金山	97
169	石鏃	I区	SH01-B1区		3.24	*砂付	金山	97
170	石鏃	I区	SH01-N8		3.57	*砂付	金山	97
171	石鏃	I区	SH01-N8		3.78	*砂付	金山	97
172	石鏃	I区	SH01AC区トシテ		4.59	*砂付	金山	97
173	石鏃	I区	SH01 Q11		4.94	*砂付	金山	97
174	石鏃	I区	SH01-N8		6.98	*砂付	金山	97
175	石鏃	I区	SH01-L12		7.65	*砂付	金山	97
176	スライパ-	I区	SH01-L9		3.59	*砂付	金山	98
177	スライパ-	I区	SH01D1区		5.16	*砂付	金山	98
178	スライパ-	I区	SH01-P9		5.26	*砂付	金山	98
179	スライパ-	I区	SH01 L11		5.67	*砂付	金山	98
180	スライパ-	I区	SH01CD区間トシテ		6.73	*砂付	金山	98
181	スライパ-	I区	SH01-Q11		8.35	*砂付	金山	98
182	スライパ-	I区	SH01CD区トシテ		3.95	*砂付	金山	98
183	球形石鏃	I区	SH01-N9		15.09	*砂付	金山	98
184	石鏃	I区	SH01-M13		0.5	*砂付	I	99
185	石鏃	I区	SH01 P40		0.85	*砂付	I	99
186	石鏃	I区	SH01-B1区		3.06	*砂付	I	99
187	石鏃	I区	SH01-P9		3.15	*砂付	I	99
188	石鏃	I区	SH01-Q11		4.08	*砂付	I	99
189	石鏃	I区	SH01-B1区		1.09	*砂付	I	99
190	石鏃	I区	SH01-B1区		0.28	*砂付	0	99
191	石鏃	I区	SH01-P11		1.43	*砂付	0	99
192	石鏃	I区	SH01-Q8		0.85	*砂付	0	99
193	打製石蕊丁	I区	SH01-A1区		24.7	結晶片岩		124
194	石鏃?	I区	SH01 C1区		2.96	結晶片岩		124
195	石鏃?	I区	SH01-B1区		7.97	結晶片岩		124
196	石	I区	SH01 L9		7.38	不明		125
197	磨石	I区	SH01-C1区		458.21	不明		128
198	蔵き石	I区	SH01	中央ゾット	603.54	砂岩		127

第82表 庵の谷遺跡実測石器観察表(2)

番号	部種	地区名	遺構名	層位	重量(g)	石材	備考	図版
205	スライハ	I区	SH02-AB区間ハカ		4.73	砂岩	金山	121
217	敲き石	I区	SP07		516.67	砂岩		127
218	石鏝	I区	SP15		2.76	砂岩	金山	102
219	敲き石	I区	SP35		510.04	不明		127
220	石皿	I区	SP37		1488.57	砂岩		128
231	石鏝	I区	ST01		3.9	砂岩	金山	102
231.2	敲き石	I区	ST01		693.56	火山岩脈岩?		
263	石鏝	I区	SD01-A区		2.23	砂岩	I	99
264	石鏝	I区	SD01ハツフ2		1.73	砂岩	金山	101
265	石鏝	I区	SD01ハツフ1	精査中	1.76	砂岩	金山	105
266	石鏝	I区	SD01-B区		2.63	砂岩	金山	102
267	石鏝	I区	SD01-A区		2.19	砂岩	金山	102
268	石鏝	I区	SD01 A区		4.89	砂岩	金山	103
269	石鏝	I区	C7		45.26	砂岩	金山	102
270	石鏝	I区	SD01-A区		5.38	砂岩	金山	103
271	石鏝	I区	SD01ハツフ2		1.55	砂岩	金山	105
272	石鏝	I区	SD01ハツフ2		2.78	砂岩	金山	105
273	石鏝	I区	SD01ハツフ2		3.79	砂岩	金山	105
274	石鏝	I区	SD01 A区		9.83	砂岩	金山	105
275	石砲丁	I区	SD01-A区		6.28	砂岩	金山	121
276	打製石砲丁	I区	SD01-B区		21.41	砂岩	金山	104
277	柱状片刃石斧	I区	SD01-B		41.07	緑泥片岩		123
278	敲き石	I区	SD01-A		184.84	砂岩		126
279	敲き石	I区	SD01-B		233.48	砂岩		126
280	敲き石	I区	SD01-B区		731.35	砂岩		128
281	石皿	I区	SD01-B区		2566.69	砂岩		128
282.2	スライハ	II区	SD01-A区		18.86	砂岩	金山	103
358	石鏝	I区	D10		0.22	砂岩	金山	101
359	石鏝	I区	05		0.25	砂岩	金山	101
360	石鏝	I区			0.31	砂岩	金山	101
361	石鏝	I区		上面精査	0.4	砂岩	金山	101
362	石鏝	I区	H2		0.43	砂岩	金山	101
363	石鏝	I区		上面精査	0.53	砂岩	金山	101
364	石鏝	I区	F12		0.97	砂岩	金山	101
365	石鏝	I区	R31	黒褐色小礫まごりつ	1.24	砂岩	金山	101
366	石鏝	I区	N28		0.87	砂岩	金山	101
367	石鏝	I区	031		3.46	砂岩	金山	101
368	石鏝	I区		上面精査	0.28	砂岩	金山	101
369	石鏝	I区			2.77	砂岩	金山	101
370	石鏝	I区	南部	上面精査	2.65	砂岩	金山	101
371	石鏝	I区	H19		6.36	砂岩	金山	101
372	石鏝	I区	U26		0.91	砂岩	金山	101
373	石鏝	I区	J15		1.51	砂岩	金山	101
374	石鏝	I区	025		1.87	砂岩	金山	101
375	石鏝	I区	P21		1.09	砂岩	金山	101
376	石鏝	I区	H19		1.36	砂岩	金山	101
377	石鏝	I区	I19		1.46	砂岩	金山	101
378	石鏝	I区	H18		1.67	砂岩	金山	101
379	石鏝	I区		上面精査	1.8	砂岩	金山	101
380	石鏝	I区	J15		2.05	砂岩	金山	102
381	石鏝	I区	R20		2.7	砂岩	金山	102
382	石鏝	I区	R32		2.82	砂岩	金山	102
383	石鏝	I区	16		3.15	砂岩	金山	102
384	石鏝	I区	K16		3.23	砂岩	金山	102
385	石鏝	I区			3.4	砂岩	金山	102

第83表 庵の谷遺跡実測石器観察表(3)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	重量(g)	石材	備考	図版
386	石鏃	I区	V15		3.53	*砂付	金山	102
387	石鏃	I区	P28		3.86	*砂付	金山	102
388	石鏃	I区			3.87	*砂付	金山	102
389	石鏃	I区	J19		4.21	*砂付	金山	102
390	石鏃	I区	P33		5.58	*砂付	金山	102
391	石鏃	I区	N24	黒褐色小礫まじり砂	7.8	*砂付	金山	102
392	石鏃	I区	Q33		8.07	*砂付	金山	102
393	石鏃	I区	R32		11.56	*砂付	金山	102
394	石鏃	I区	Q6		2.39	*砂付	金山	102
395	スレハ	I区	中央東西壁	壁精査	7.25	*砂付	金山	103
396	石鏃	I区	P23		1.34	*砂付	金山	103
397	石鏃	I区	D8		1.41	*砂付	金山	103
398	石鏃	I区	K18		1.79	*砂付	金山	103
399	石鏃	I区		上面精査	1.99	*砂付	金山	103
400	石鏃	I区	V1		3.8	*砂付	金山	103
401	石鏃	I区	N19	黒褐色小礫まじり砂	3.91	*砂付	金山	103
402	石鏃	I区	S29		5.03	*砂付	金山	103
403	石鏃	I区	北部	機械掘削	5.06	*砂付	金山	103
404	石鏃	I区	W3		5.25	*砂付	金山	103
405	石鏃	I区	I15	黒褐色小礫まじり砂	17.33	*砂付	金山	103
406	石槍	I区	C6		71.74	*砂付	金山	121
407	打製石刃丁	I区	C6		71.74	*砂付	金山	121
408	スレハ	I区	L19	黒褐色小礫まじり砂	2.17	*砂付	金山	121
409	打製石刃丁	I区	N17	黒褐色小礫まじり砂	3.52	*砂付	金山	121
410	スレハ	I区	F13	黒褐色小礫まじり砂	4.72	*砂付	金山	121
411	楔形石器	I区	L17	黒褐色小礫まじり砂	5.63	*砂付	金山	121
412	スレハ	I区	西側溝		5.69	*砂付	金山	121
413	スレハ	I区	北隅	明黄褐色灰色泥結着土(黒褐色層上層)	6.82	*砂付	金山	121
414	敲打痕ある剥片	I区	J17	黒褐色小礫まじり砂	6.93	*砂付	金山	121
415	スレハ	I区	I6	黒褐色小礫まじり砂	10.01	*砂付	金山	121
416	スレハ	I区	J19	黒褐色小礫まじり砂	10.42	*砂付	金山	121
417	スレハ	I区	P27	黒褐色小礫まじり砂	12.06	*砂付	金山	121
418	刮削痕ある剥片	I区	P26	黒褐色小礫まじり砂	9.31	*砂付	金山	121
419	スレハ	I区			64.89	*砂付	金山	105
420	石鏃	I区	Q19		0.88	*砂付	I	99
421	石鏃	I区	J7		1.05	*砂付	I	99
422	石鏃	I区	P7		2.13	*砂付	I	99
423	石鏃	I区	I19		2.42	*砂付	I	99
424	石鏃	I区	M25		2.62	*砂付	I	99
425	石鏃	I区		上面精査	2.71	*砂付	I	99
426	石鏃	I区	D3		3.18	*砂付	I	99
427	石鏃	I区	I20	黒褐色小礫まじり砂	3.23	*砂付	I	103
428	石鏃	I区	P6		0.18	*砂付	O	103
429	石鏃	I区	G20		0.5	*砂付	O	103
430	石鏃	I区	M18	上面精査	0.76	*砂付	O	103

第84表 鹿の谷遺跡実測石器観察表(4)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	重量(g)	石材	備考	図版
431	石鏃	I区			1.6	砂岩	O	103
432	打製石	I区		上面精査	39.71	砂岩	I	104
433	打製石	I区	L27		66.45	結晶片岩	柱状片石斧の転用か?	124
434	打製石	I区	北部	上面精査	75.73	結晶片岩	柱状片石斧の転用	124
435	扁平片石斧	I区	016		4.84	結晶片岩		122
436	磨製石斧	I区	III5		11.53	結晶片岩		122
437	扁平片石斧	I区	123		10.26	結晶片岩		122
438	扁平片石斧	I区	E17		7.87	結晶片岩	柱状片石斧の転用	122
439	扁平片石斧	I区	L24		11.05	結晶片岩		122
439.2	扁平片石斧	I区	V21		15.33	結晶片岩		123
440	柱状片石斧	I区		上面精査	8.18	結晶片岩		123
441	柱状片石斧	I区	F11	黒褐色小礫まじりシスト	14.26	結晶片岩		123
442	柱状片石斧	I区	西壁無溝		4.28	結晶片岩		123
443	柱状片石斧	I区	L15		76.05	結晶片岩		123
443	柱状片石斧	I区	123		49.27	結晶片岩		123
445	磨製石斧	I区	K16	黒褐色小礫まじりシスト	0.41	結晶片岩		123
446	不明	I区	018		0.73	結晶片岩	磨製石斧の転用か?	124
446	不明	I区	018		0.73	結晶片岩	磨製石斧の転用か?	124
447	不明	I区	III1	黒褐色小礫まじりシスト	14.9	結晶片岩	扁平片石斧の転用	122
448	碧玉製管玉	I区	G4		0.33	碧玉	産地分析用	125
449	碧玉製管玉	I区	R31		0.88	碧玉	産地分析用	125
450	碧玉	I区	G20		2.28	不明		125
451	碧玉	I区	R32		3.86	不明		125
452	石錘	I区	K19	黒褐色小礫まじりシスト	204.69	砂岩		125
453	石錘	I区		黄褐色灰色泥粘質土層(黒褐色層上層)	247.3	砂岩		125
454	石錘	I区		黒褐色小礫まじりシスト	199.05	砂岩		125
455	石錘	I区	II2	黒褐色小礫まじりシスト	422.82	砂岩		126
456	敲き石	I区	Q32	黒褐色小礫まじりシスト	204.15	チャート		126
457	敲き石	I区	F18	黒褐色小礫まじりシスト	237.18	中粒砂岩		126
458	敲き石	I区	J6	黒褐色小礫まじりシスト	196.48	中粒砂岩		126
459	石錘	I区	Q30	黒褐色小礫まじりシスト	259.63	砂岩		126
460	敲き石	I区	L18	黒褐色小礫まじりシスト	312.6	不明		126
461	敲き石	I区	Q29	黒褐色小礫まじりシスト	375.86	流紋岩		127
462	敲き石	I区	II20	黒褐色小礫まじりシスト	413.96	不明		127
463	敲き石	I区		上面精査	458.64	砂岩		127
464	敲き石	I区	P32	黒褐色小礫まじりシスト	941.13	砂岩		128
465	敲き石	I区	D7	黒褐色小礫まじりシスト	663.7	砂岩		127
466	敲き石	I区	E8	黒褐色小礫まじりシスト	498.04	砂岩		127
467	石皿	I区	HI1	黒褐色小礫まじりシスト	1104.4	砂岩		128

第85表 庵の谷遺跡実測石器観察表(5)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	重量(g)	石材	備考	図版
468	石皿	I区	G3	黒褐色小礫まじりシタ	2113.72	砂岩		128
510	石槍	II区	予備調査2044フ	第7層	12.29	*砂岩	○	105
511	スレバー	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	11.85	*砂岩	金山	103
513	石応丁	II区	側溝		44.85	結晶片岩		124
514	石応丁	II区	西壁側溝		202.12	結晶片岩		122
515	磨製石鏃	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	4.43	結晶片岩	磨製石斧の転用	124
516	不明	II区		黒褐色小礫まじりシタ	1.72	結晶片岩	磨製石斧の転用	123
517	扁平片刃石斧	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	5.43	結晶片岩	柱状片刃石斧の 転用	123
518	扁平片刃石斧	II区		黒褐色小礫まじりシタ	9.66	結晶片岩		122
519	扁平片刃石斧	II区		黒褐色小礫まじりシタ層	44.08	結晶片岩		122
520	柱状片刃石斧	II区		黒褐色小礫まじりシタ層	10.36	結晶片岩		123
521	柱状片刃石斧	II区		黒褐色小礫まじりシタ層	47.69	結晶片岩		123
522	磨製石斧	II区		黒褐色小礫まじりシタ	138.69	結晶片岩		124
523	垂玉	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	4.66	不明		125
524	石鏃	II区		黒褐色小礫まじりシタ層	159.29	砂岩		125
525	石鏃	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	229.37	砂岩		125
526	竝き石	II区		灰色まじり黄褐色粘質土層	371.99	不明		127
527	竝き石	II区		黄褐色まじり 灰色粘質土層	844.6	砂岩		126
527.2	大型扁平石斧	II区	試掘トレンチ	精査中	1347.45	安山岩脈岩		
532	垂玉	III区	SP13		8.42	不明		125
533	スレバー	III区		赤褐色粘質土 黒褐色小礫まじりシタ	14.39	*砂岩	金山	104
1105	剥片	I区		黒褐色小礫まじりシタ	22.46	*砂岩	産地分析用	
1106	剥片	I区	H19	黒褐色小礫まじりシタ	14.19	*砂岩	産地分析用	
1107	剥片	I区	G4	黒褐色小礫まじりシタ	11.03	*砂岩	産地分析用	
1108	剥片	II区		黒褐色小礫まじりシタ	15.09	*砂岩	産地分析用	
1109	剥片	I区	G12		47.54	*砂岩	産地分析用	
1110	剥片	I区	I19		36.98	*砂岩	産地分析用	
1111	石核	I区	G2	黒褐色小礫まじりシタ	22.01	*砂岩	産地分析用	
1112	原石	I区	D12	黒褐色小礫まじりシタ	241.74	*砂岩	産地分析用	

第86表 庵の谷遺跡実測石器観察表(6)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	石材	備考	図版
540	石鏃	I区	SH01-A区	上面精査	1.6	1.2	0.63	砂岩	0	99
541	石鏃	I区	M25		3.8	1.8	3.25	砂岩	I	99
542	石鏃	I区	K21		3.2	2.1	3.7	砂岩	I	99
543	石鏃	I区	H14		4.1	2	4.85	砂岩	I	99
544	石鏃	I区	SD01-A区		1.2	0.7	0.13	砂岩	0	100
545	石鏃	I区	L16		2	1	0.36	砂岩	0	100
546	石鏃	I区	F3		1.8	0.8	0.43	砂岩	0	100
547	石鏃	I区	H3	黒褐色小鏃まじり砂	2	1.2	0.48	砂岩	0	100
548	石鏃	I区	H4	黒褐色小鏃まじり砂	1.7	1.5	0.5	砂岩	0	100
549	石鏃	I区	SD01-レフ2		2.2	1.2	0.61	砂岩	0	100
550	石鏃	I区	G1		1.8	1.2	0.62	砂岩	0	100
551	石鏃	I区	L24		1.6	1.6	0.63	砂岩	0	100
552	石鏃	I区		上面精査	1.6	1.4	0.49	砂岩	0	100
553	石鏃	I区	J4	黒褐色小鏃まじり砂	2.1	1.5	0.91	砂岩	0	100
554	石鏃	I区		上面精査	2.5	1.2	1.19	砂岩	0	100
555	石鏃	I区	W20		1.9	1.9	1.53	砂岩	0	100
556	石鏃	I区		上面精査	3.5	1.8	2.99	砂岩	金山	100
557	石鏃	II区		黄褐色まじり灰色粘質土	2.8	1.9	1.38	砂岩	金山	100
558	石鏃	II区		黒褐色小鏃まじり砂層	3.4	1.9	1.61	砂岩	金山	100
559	石鏃	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3.3	2	2.12	砂岩	金山	100
560	石鏃	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3.5	2	2.22	砂岩	金山	100
561	石鏃	II区	側溝		2.9	1.8	2.52	砂岩	金山	100
562	石鏃	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	4.6	1.5	2.54	砂岩	金山	100
563	石鏃	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3.2	1.8	2.69	砂岩	金山	100
564	石鏃	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3.2	2.1	2.68	砂岩	金山	100
565	石鏃	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3.4	1.9	3.77	砂岩	金山	100
566	石鏃	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	4.2	1.6	3.69	砂岩	金山	100
567	石鏃	II区		黒褐色小鏃まじり砂層	2.8	1.2	0.91	砂岩	I	101
568	石鏃	II区		黒褐色小鏃まじり砂	2.9	1.6	1.73	砂岩	I	101
569	石鏃	II区		黒褐色小鏃まじり砂層	2.8	1.7	1.79	砂岩	I	101
570	石鏃	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3.9	2.4	4.22	砂岩	I	101
571	石鏃	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.6	1.7	1.76	砂岩	I	101
572	石鏃	II区		最終仕上げ	1.8	2	2.29	砂岩	0	101
573	石鏃	II区		黒褐色小鏃まじり砂	3.3	2	2.84	砂岩	0	101
574	石鏃	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	4.2	2.2	4.16	砂岩	0	101
575	石鏃	II区		黒褐色小鏃まじり砂	4	1.7	6.4	砂岩	0	101
576	石鏃	I区	W4	黒褐色小鏃まじり砂	1.6	1.3	0.51	砂岩	0	101
577	石鏃	I区	T17	黒褐色小鏃まじり砂	1.7	1.1	0.4	砂岩	金山	101
578	石鏃	I区		黄褐色小鏃まじり砂層(金山)上面精査	1.5	1.4	0.41	砂岩	金山	101
579	石鏃	I区	12	黒褐色小鏃まじり砂	1.6	1.3	0.45	砂岩	0	101
580	石鏃	I区	12	黒褐色小鏃まじり砂	2.1	1.3	0.61	砂岩	金山	101
581	石鏃	I区	N5	黒褐色小鏃まじり砂	1.8	1.4	0.82	砂岩	0	101
582	石鏃	I区	05	黒褐色小鏃まじり砂	1.6	1.4	0.77	砂岩	0	101
583	石鏃	I区	N5	黒褐色小鏃まじり砂	2.2	1.7	1.26	砂岩	金山	101
584	石鏃	I区	L3	黒褐色小鏃まじり砂	1	0.9	0.34	砂岩	0	101
585	石鏃	I区	027	黒褐色小鏃まじり砂	1.6	1.6	0.61	砂岩	0	101
586	石鏃	I区	遺構面	上面精査	1.6	1.3	0.91	砂岩	0	101
587	石鏃	I区		上面精査	2.2	1.2	1.44	砂岩	0	101
589	石鏃	I区	15	黒褐色小鏃まじり砂	3.2	1.4	1.88	砂岩	金山	101
590	石鏃	I区	T29	黒褐色小鏃まじり砂	3	1.2	1.15	砂岩	金山	101
591	石鏃	I区	R29	黒褐色小鏃まじり砂	4	2.2	4.14	砂岩	金山	102
592	石鏃	I区	K20	黒褐色小鏃まじり砂	4.1	2.4	8.27	砂岩	金山	102
593	石鏃	I区	試掘トレンチ別	上面精査	3	1.1	1.71	砂岩	金山	102

第87表 庵の谷遺跡未実測石器観察表(1)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	石材	備考	図版
594	石鏡	I区	M19	黒褐色小磯まじり砂	2.6	1.8	1.92	※付付	金山	102
595	石鏡	I区		色含層下層上面精査	3.2	1.7	2.24	※付付	金山	102
596	石鏡	I区	一般下	黒褐色小磯層上面精査	4	1.3	4.36	※付付	金山	102
597	石鏡	I区	M11	黒褐色小磯まじり砂	2.8	3.6	4.4	※付付	金山	102
598	石鏡	I区	L5	黒褐色小磯まじり砂	3.7	2.3	4.5	※付付	金山	102
599	石鏡	I区	Q24	黒褐色小磯まじり砂	3.4	2.5	4.67	※付付	金山	102
600	石鏡	I区	S30	黒褐色小磯まじり砂	4.2	2.4	5.33	※付付	金山	103
601	石鏡	I区	試掘トレンチ7部	上面精査	4.2	2.1	6.12	※付付	金山	103
602	石鏡	I区	N18	黒褐色小磯まじり砂	3.2	3.1	6.96	※付付	金山	103
603	楔形石器	I区	G22	黒褐色小磯まじり砂	5.3	2.3	8.5	※付付	金山	103
604	石鏡	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	4.9	1.8	4.07	※付付	金山	103
605	石鏡	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	4.7	2.1	6.18	※付付	金山	103
606	石鏡	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	4.4	1.8	6.35	※付付	金山	103
607	石鏡	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.6	1.9	1.33	※付付	金山	103
608	石鏡	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3.3	1.2	2.33	※付付	金山	103
609	石鏡	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	5.1	1.2	5.79	※付付	金山	103
610	石鏡	I区	SD01-B区		1.3	1.4	0.44	※付付	I	104
611	石鏡	III区		上面精査	3.2	0.6	1.26	※付付	金山	104
612	石鏡	III区		上面精査	5.3	1.8	6.9	※付付	金山	104
613	石鏡	I区	L17	黒褐色小磯まじり砂	2.8	0.7	0.93	※付付	金山	105
614	石鏡	I区	M18	黒褐色小磯まじり砂	3.2	1.9	1.88	※付付	金山	105
615	石鏡	I区	T25	黒褐色小磯まじり砂	3.1	2.2	2.42	※付付	金山	105
616	石鏡	I区	試掘トレンチ9部		4.1	1.7	3.23	※付付	金山	105
617	石鏡	I区	0~Q	黒褐色小磯まじり砂	4.1	1.8	3.4	※付付	金山	105
618	石鏡	I区	SH01-A区		1.1	1	0.17	※付付	金山	106
619	石鏡	I区	SH01	床面精査	2.3	0.8	0.54	※付付	金山	106
620	石鏡	I区	SH01-B区		2.1	1.4	0.86	※付付	金山	106
621	石鏡	I区	SH01D区		1.9	1.1	0.61	※付付	金山	106
622	石鏡	I区	SH01AB区掘トレンチ		2.5	2.4	2.24	※付付	金山	106
623	石鏡	I区	SH01-A区		1.8	1.9	1.2	※付付	金山	106
624	石鏡	I区	SH01C区		1.8	1.5	0.62	※付付	金山	106
625	石鏡	I区	SH01B区		2.3	1.5	1.53	※付付	金山	106
626	石鏡	I区	SH01-C区		2	1.6	1.63	※付付	金山	106
627	石鏡	I区	SH01-BD区掘トレンチ		2.2	1.2	0.75	※付付	金山	106
628	石鏡	I区	SH01-B区		2.5	1.2	1.65	※付付	金山	106
629	石鏡	I区	SH01CD区掘トレンチ		2.3	1.7	1.75	※付付	金山	106
630	石鏡	I区	SH01-B区		2.7	1	1.53	※付付	金山	106
631	石鏡	I区	SH01-D区		2.7	1.8	1.84	※付付	金山	106
632	石鏡	I区	SH01-D区		3.2	2	3.89	※付付	金山	106
633	石鏡	I区	SH01-D区		1.5	1.3	0.67	※付付	金山	106
634	石鏡	I区	SH01-B区		2.2	1.1	0.8	※付付	金山	106
635	石鏡	I区	SH01CD区掘トレンチ		2.2	1	0.92	※付付	金山	106
636	石鏡	I区	SH01-D区		1.8	1.9	0.93	※付付	金山	106
637	石鏡	I区	SH01-BD区掘トレンチ		2.8	1.2	1.26	※付付	金山	106
638	石鏡	I区	SH01B区	中央炭化物	1.8	1.7	1.43	※付付	金山	106
639	石鏡	I区	SH01-B区		1.5	2.1	1.5	※付付	金山	106
640	石鏡	I区	SH01AB区掘トレンチ		3.1	1.3	1.62	※付付	金山	106
641	石鏡	I区	SH01-BD区掘トレンチ		3.6	1.3	1.69	※付付	金山	106
642	石鏡	I区	SH01-C区		3.5	1.5	2.29	※付付	金山	106
643	石鏡	I区	SH01-D区		3.4	1.2	2.69	※付付	金山	106
644	石鏡	I区	SH01-BD区掘トレンチ		1.5	0.9	0.32	※付付	金山	106
645	石鏡	I区	SH01B区		2	0.9	0.43	※付付	金山	106
646	石鏡	I区	SH01B区		1.7	1.4	0.46	※付付	金山	106

第88表 庵の谷遺跡未実測石器観察表(2)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	石材	備考	図版
647	石鏡	I 区	SH01-D区		1.6	1.2	0.47	砂岩	金山	106
648	石鏡	I 区	SH01-C区間へ付		2	1.2	0.6	砂岩	金山	106
649	石鏡	I 区	SH01C区		1.7	1.2	0.62	砂岩	金山	106
650	石鏡	I 区	SH01-AC区間へ付		2	1.4	0.63	砂岩	金山	106
651	石鏡	I 区	SH01D区		1.4	1.6	0.63	砂岩	金山	106
652	石鏡	I 区	SH01-B区		1.6	1.4	0.69	砂岩	金山	106
653	石鏡	I 区	SH01-AC区間へ付		2	1	0.5	砂岩	金山	106
654	石鏡	I 区	SH01-B区		1.6	1.4	0.55	砂岩	金山	106
655	石鏡	I 区	SH01D区		2.2	1.1	0.55	砂岩	金山	106
656	石鏡	I 区	SH01-B区		2	1	0.56	砂岩	金山	106
657	石鏡	I 区	SH01-D区		1.5	1.2	0.57	砂岩	金山	107
658	石鏡	I 区	SH01D区		2	1.2	0.74	砂岩	金山	107
659	石鏡	I 区	SH01-D区		1.7	1.2	0.76	砂岩	金山	107
660	石鏡	I 区	SH01 D区		2	1.3	0.77	砂岩	金山	107
661	石鏡	I 区	SH01BC区間トナリ		1.9	1.5	0.8	砂岩	金山	107
662	石鏡	I 区	SH01 D区		2.6	1.5	1.12	砂岩	金山	107
663	石鏡	I 区	SH01 D区		1.7	1.7	1.15	砂岩	金山	107
664	石鏡	I 区	SH01 D区		1.5	1.9	1.2	砂岩	金山	107
665	石鏡	I 区	SH01 AC区間へ付		2.6	1.4	1.27	砂岩	金山	107
666	石鏡	I 区	SH01B区		2.7	1.6	1.27	砂岩	金山	107
667	石鏡	I 区	SH01BC区間トナリ		2.5	1.3	1.19	砂岩	金山	107
668	石鏡	I 区	SH01-AC区間へ付		2.5	2	1.57	砂岩	金山	107
669	石鏡	I 区	SH01-A区		3	1.5	1.86	砂岩	金山	107
670	石鏡	I 区	SH01C区		3.3	1.7	1.93	砂岩	金山	107
671	石鏡	I 区	SH01CD区間トナリ		2.2	1.6	2.01	砂岩	金山	107
672	石鏡	I 区	SH01 B区		2.3	2.2	3.05	砂岩	金山	107
673	石鏡	I 区	SH01 A区		2.4	2.3	3.43	砂岩	金山	107
674	石鏡	I 区	SH01D区		2.7	2.3	4.56	砂岩	金山	107
675	石鏡	I 区	SH01CB区間トナリ		1.5	0.6	0.28	砂岩	金山	107
676	石鏡	I 区	SH01 B区		1.3	0.6	0.39	砂岩	金山	107
677	石鏡	I 区	SH01 D区		2.2	0.9	0.47	砂岩	金山	107
678	石鏡	I 区	SH01 AC区間へ付		2	0.7	0.64	砂岩	金山	107
679	石鏡	I 区	SH01 D区		1.9	1.3	0.69	砂岩	金山	107
680	石鏡	I 区	SH01BD区間へ付	へ付精査中	2.2	0.7	0.68	砂岩	金山	107
681	石鏡	I 区	SH01-B区		2.6	1.1	0.93	砂岩	金山	107
682	石鏡	I 区	SH01 D区		2.7	0.8	1.01	砂岩	金山	107
683	石鏡	I 区	SH01D区		2.1	1	1.1	砂岩	金山	107
684	石鏡	I 区	SH01-A区		2.1	1.7	1.11	砂岩	金山	107
685	石鏡	I 区	SH01 C区		3.1	0.7	1.13	砂岩	金山	107
686	石鏡	I 区	SH01 CD区間へ付		4.1	1.3	3.54	砂岩	金山	107
687	石鏡	I 区	SH01 D区		3	1.2	2.1	砂岩	I	108
688	石鏡	I 区	SH01 D区		2	1.3	1.08	砂岩	I	108
689	石鏡	I 区	SH01BC区間トナリ		2.7	1.5	2.18	砂岩	I	108
690	石鏡	I 区	SH01 B区		1.6	1.1	0.54	砂岩	I	108
691	石鏡	I 区	SH01 C区		1.9	0.8	0.61	砂岩	I	108
692	石鏡	I 区	SH01-B区		2.7	1.5	2.14	砂岩	I	108
693	石鏡	I 区	SH01-C区		3.2	1.4	2.53	砂岩	I	108
694	石鏡	I 区	SH01-D区		1.7	0.8	0.5	砂岩	I	108
695	石鏡	I 区	J4	黒褐色小礫まじり沙 黄褐色礫まじり沙(勝(池 山)上面精査)	1.5	1	0.43	砂岩	金山	108
696	石鏡	I 区			1.1	1.7	0.48	砂岩	金山	108
697	石鏡	I 区	J2	黒褐色小礫まじり沙	1.4	1.5	0.68	砂岩	金山	108
698	石鏡	I 区	H2	黒褐色小礫まじり沙	1.6	1.5	0.79	砂岩	金山	108
699	石鏡	I 区	下の段	上面精査	2	1.4	1.18	砂岩	金山	108

第89表 庵の谷遺跡木実測石器観察表(3)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	石材	備考	図版
700	石鏡	I区	東段	上面結査	2	1.5	1.25	*234	金山	108
701	石鏡	I区	K5	黒褐色小鏡まじり珪	2.6	1.8	2.4	*234	金山	108
702	石鏡	I区	N6	黒褐色小鏡まじり珪	2.6	1.3	1.85	*234	金山	108
703	石鏡	I区	I20		3	1.4	1.89	*234	金山	108
704	石鏡	I区	06	黒褐色小鏡まじり珪	1.1	!	0.24	*234	金山	108
705	石鏡	I区	P17	黒褐色小鏡まじり珪	1.8	1.3	0.77	*234	金山	108
706	石鏡	I区	遺構面	上面結査	2.1	1.4	0.94	*234	金山	108
707	石鏡	I区	R32		3.1	1.8	3.28	*234	金山	109
708	石鏡	I区	遺構面	上面結査	1.4	0.8	0.22	*234	金山	109
709	石鏡	I区	N2	黒褐色小鏡まじり珪	1	1.1	0.28	*234	金山	109
710	石鏡	I区	N3		1.7	!	0.37	*234	金山	109
711	石鏡	I区	M24		1.8	0.9	0.39	*234	金山	109
712	石鏡	I区	N4	黒褐色小鏡まじり珪	1.6	!	0.43	*234	金山	109
713	石鏡	I区	M5		1.8	1.3	0.55	*234	金山	109
714	石鏡	I区	K15	黒褐色小鏡まじり珪	2.2	1.3	0.58	*234	金山	109
715	石鏡	I区	I4	黒褐色小鏡まじり珪	1.8	1.3	0.65	*234	金山	109
716	石鏡	I区	M3	黒褐色小鏡まじり珪	1.6	1.2	0.68	*234	金山	109
717	石鏡	I区	I19	黒褐色小鏡まじり珪	1.7	2.4	1.16	*234	金山	109
718	石鏡	I区	K5	黒褐色小鏡まじり珪	1.8	2.6	1.83	*234	金山	109
719	石鏡	I区	I4	黒褐色小鏡まじり珪	2.4	1.8	2.18	*234	金山	109
720	石鏡	I区	I4	黒褐色小鏡まじり珪	1.2	0.4	0.08	*234	金山	109
721	石鏡	I区		黄褐色礫まじり珪層(地山)上面結査	0.9	0.4	0.11	*234	金山	109
722	石鏡	I区	M2	黒褐色小鏡まじり珪	1	0.6	0.12	*234	金山	109
723	石鏡	I区	I4		1.5	0.9	0.14	*234	金山	109
724	石鏡	I区	S20	黒褐色小鏡まじり珪	1.1	1.1	0.19	*234	金山	109
725	石鏡	I区	I16	黒褐色小鏡まじり珪	1.6	0.8	0.2	*234	金山	109
726	石鏡	I区	U18		1.2	0.9	0.22	*234	金山	109
727	石鏡	I区		上面結査	1.2	0.9	0.22	*234	金山	109
728	石鏡	I区	I4		1.2	1.2	0.28	*234	金山	109
729	石鏡	I区	Q1'8	黒褐色小鏡まじり珪	1.3	!	0.29	*234	金山	109
730	石鏡	I区	03	黒褐色小鏡まじり珪	1.8	0.8	0.29	*234	金山	109
731	石鏡	I区	I5		1.2	1.1	0.29	*234	金山	109
732	石鏡	I区	N3		1.8	!	0.31	*234	0	109
733	石鏡	I区	Q22	黒褐色小鏡まじり珪	1.5	0.8	0.31	*234	金山	109
734	石鏡	I区	M1	黒褐色小鏡まじり珪	1.9	0.8	0.38	*234	金山	109
735	石鏡	I区	遺構面	上面結査	1.7	1.1	0.4	*234	金山	109
736	石鏡	I区	03	黒褐色小鏡まじり珪	1.7	1.1	0.42	*234	金山	109
737	石鏡	I区	I3		1.7	1.3	0.42	*234	金山	109
738	石鏡	I区	遺構面	上面結査	2	0.6	0.43	*234	金山	109
739	石鏡	I区	H6		1.8	0.8	0.44	*234	金山	109
740	石鏡	I区	K5		2	1.1	0.45	*234	金山	109
741	石鏡	I区	V15	黒褐色小鏡まじり珪	1.9	0.8	0.42	*234	金山	109
742	石鏡	I区	遺構面	上面結査	2.5	0.9	0.46	*234	金山	109
743	石鏡	I区	N2	黒褐色小鏡まじり珪	2.2	1.2	0.52	*234	金山	109
744	石鏡	I区	I4		1.7	1.1	0.53	*234	金山	109
745	石鏡	I区	T22		1.7	1.3	0.54	*234	金山	109
746	石鏡	I区	I8	黒褐色小鏡まじり珪	1.7	1.4	0.59	*234	金山	109
747	石鏡	I区	遺構面	上面結査	2	1.1	0.62	*234	金山	109
748	石鏡	I区	P7		1.6	1.6	0.71	*234	金山	109
749	石鏡	I区	I8	黒褐色小鏡まじり珪	1.5	1.5	0.72	*234	金山	109
750	石鏡	I区	I8		2.3	1.3	0.79	*234	金山	109
751	石鏡	I区	K16		2	1.4	0.83	*234	金山	109
752	石鏡	I区	K5		2.1	1.3	0.84	*234	金山	109

第90表 鹿の谷遺跡実測石器観察表(4)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	石材	備考	図版
753	石鏡	I区	J5	黒褐色小磯まじり砂	1.8	0.9	0.38	*22小	金山	110
754	石鏡	I区	SD01トレンチ2		1.6	1.2	0.48	*22小	金山	110
755	石鏡	I区	I5		2	1.1	0.49	*22小	金山	110
756	石鏡	I区	SK01-クレンチ		2.1	1.3	0.61	*22小	金山	110
757	石鏡	I区	05	黒褐色小磯まじり砂	2.5	1.1	0.63	*22小	金山	110
758	石鏡	I区	I6		1.9	1.3	0.63	*22小	金山	110
759	石鏡	I区	J2		2	1.5	0.71	*22小	金山	110
760	石鏡	I区	R18	黒褐色小磯まじり砂	2.6	0.9	0.71	*22小	金山	110
761	石鏡	I区	試験トレンチ西側	上面精査	2.1	1.3	0.72	*22小	金山	110
762	石鏡	I区	G1		2	1.5	0.74	*22小	金山	110
763	石鏡	I区	M3	黒褐色小磯まじり砂	2.2	1.2	0.78	*22小	金山	110
764	石鏡	I区	G4	黒褐色小磯まじり砂	2.3	1.3	0.81	*22小	金山	110
765	石鏡	I区	試験トレンチ西側	蹴物由上面精査	2.1	1.6	1.48	*22小	金山	110
766	石鏡	I区	J4	黒褐色小磯まじり砂	1.4	1.1	0.44	*22小	金山	110
767	石鏡	I区	N15		1.7	1.2	0.57	*22小	金山	110
768	石鏡	I区	N24	黒褐色小磯まじり砂	1.2	1.1	0.59	*22小	金山	110
769	石鏡	I区	P5		2	1.1	0.77	*22小	金山	110
770	石鏡	I区	M6		2	1.3	0.82	*22小	金山	110
771	石鏡	I区	N27	黒褐色小磯まじり砂	1.7	1.3	0.84	*22小	金山	110
772	石鏡	I区		上面精査	1.9	1.4	0.9	*22小	金山	110
773	石鏡	I区	P26		2.2	1.6	0.98	*22小	金山	110
774	石鏡	I区		上面精査	2.3	1.2	0.98	*22小	金山	110
775	石鏡	I区	Q31		2.1	1.7	1	*22小	金山	110
776	石鏡	I区	S32		2.2	0	1.1	*22小	金山	110
777	石鏡	I区	P32		2.3	1.4	1.15	*22小	金山	110
778	石鏡	I区	SD01-A区		2.7	1.3	1.25	*22小	金山	110
779	石鏡	I区	R33		2.9	1.4	1.35	*22小	金山	110
780	石鏡	I区	R31	黒褐色小磯まじり砂	2.7	1.2	1.41	*22小	金山	110
781	石鏡	I区	R31	黒褐色小磯まじり砂	2.6	1.5	1.62	*22小	金山	110
782	石鏡	I区	I5		2.2	1.7	1.63	*22小	金山	110
783	石鏡	I区	M3		2.5	2	1.83	*22小	金山	110
784	石鏡	I区	SD01 B区		3.1	2.7	2.82	*22小	金山	110
785	石鏡	I区	SI*60		2.2	2.6	3.23	*22小	金山	110
786	石鏡	I区	028		3.6	1.8	4.03	*22小	金山	110
787	石鏡	I区	I23	黒褐色小磯まじり砂	3.2	2.2	4.56	*22小	金山	110
788	石鏡	I区	R28	黒褐色小磯まじり砂	1.1	1.2	0.48	*22小	金山	111
789	石鏡	I区	M18	黒褐色小磯まじり砂	1.4	1.3	0.53	*22小	金山	111
790	石鏡	I区		上面精査	1.3	1.3	0.58	*22小	金山	111
791	石鏡	I区		上面精査	1.7	1.1	0.78	*22小	金山	111
792	石鏡	I区	R3	黒褐色小磯まじり砂	1.8	1	0.82	*22小	金山	111
793	石鏡	I区	R33	黒褐色小磯まじり砂	2.1	1.4	1.18	*22小	金山	111
794	石鏡	I区	T24	黒褐色小磯まじり砂	2.2	1.1	1.28	*22小	金山	111
795	石鏡	I区	I22		3.3	1.6	2.29	*22小	金山	111
796	石鏡	I区	06	黒褐色小磯まじり砂	2.2	0.7	0.41	*22小	金山	111
797	石鏡	I区	030	黒褐色小磯まじり砂	1.6	1.2	0.63	*22小	金山	111
798	石鏡	I区	V14		2.2	1.3	1	*22小	金山	111
799	石鏡	I区	K5		2.5	1.3	1	*22小	金山	111
800	石鏡	I区	東一段	上面精査	2	1.2	1.01	*22小	金山	111
801	石鏡	I区	P27	黒褐色小磯まじり砂	2.5	1.5	1.82	*22小	金山	111
802	石鏡	I区	K19	黒褐色小磯まじり砂	2.6	1.6	2.47	*22小	金山	111
803	石鏡	I区	E14	黒褐色小磯まじり砂	1.9	1.3	0.94	*22小	金山	111
804	石鏡	I区	S19	黒褐色小磯まじり砂	2.6	1.3	1.01	*22小	金山	111
805	石鏡	I区	P7		2.7	1.1	1.09	*22小	金山	111

第91表 庵の谷遺跡木実測石器観察表(5)

番付	器種	地区名	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	石材	備考	版数
806	石鏡	I区		上面積査(一段下)	2.4	1	1.09	砂岩	金山	111
807	石鏡	I区	J16		2.6	1.2	1.2	砂岩	金山	111
808	石鏡	I区	包含層掘削	黒褐色小礫まじり砂	2.6	1.3	1.37	砂岩	金山	111
809	石鏡	I区		上面積査(一段下)	3.3	1.5	1.43	砂岩	金山	111
810	石鏡	I区	R33		3.1	1.1	1.62	砂岩	金山	111
811	石鏡	II区		黒褐色小礫まじり砂	2.8	1.4	2	砂岩	金山	111
812	石鏡	I区	K19		3.3	1.2	2.09	砂岩	金山	111
813	石鏡	I区	J6		3.5	1.3	2.74	砂岩	金山	111
814	石鏡	I区	H9		3.4	1.9	2.87	砂岩	金山	111
815	石鏡	I区	S17	黒褐色小礫まじり砂	1.5	1	0.53	砂岩	金山	111
816	石鏡	I区	L19	出地色小礫まじり砂	1.8	1	0.36	砂岩	金山	111
817	石鏡	I区	I11	黒褐色小礫まじり砂	1.9	0.9	0.58	砂岩	金山	111
818	石鏡	I区	U18	黒褐色小礫まじり砂	1.4	1.2	0.6	砂岩	金山	111
819	石鏡	I区	関西西部	落ち込み	1.6	1.2	0.69	砂岩	金山	111
820	石鏡	I区	Q29	黒褐色小礫まじり砂	1.5	1.1	0.76	砂岩	金山	111
821	石鏡	I区	SH02-AB区西側		2.3	1.3	0.85	砂岩	金山	111
822	石鏡	I区	M18	黒褐色小礫まじり砂	2.2	1.5	0.88	砂岩	金山	111
823	石鏡	I区	沢堀トンネル北側	上面積査	2.4	1.7	0.92	砂岩	金山	111
824	石鏡	I区	S23		2.5	1.4	0.94	砂岩	金山	111
825	石鏡	I区	K16	黒褐色小礫まじり砂	1.3	1.6	0.96	砂岩	金山	111
826	石鏡	I区	沢堀トンネル	上面積査	2.6	1.3	1.02	砂岩	金山	111
827	石鏡	I区	E18		2.3	1.3	1.03	砂岩	金山	111
828	石鏡	I区	I17	黒褐色小礫まじり砂	1.6	1.4	1.04	砂岩	金山	112
829	石鏡	I区	D6	黒褐色小礫まじり砂	1.3	1.8	1.04	砂岩	金山	112
830	石鏡	I区	S31	黒褐色小礫まじり砂	2.1	1.2	1.06	砂岩	金山	112
831	石鏡	I区		上面積査	2	1.4	1.07	砂岩	金山	112
832	石鏡	I区	R19		2.3	1.2	1.09	砂岩	金山	112
833	石鏡	I区	M18	黒褐色小礫まじり砂	2	1.7	1.14	砂岩	金山	112
834	石鏡	I区	O18		2.7	1.2	1.17	砂岩	金山	112
835	石鏡	I区	S31	黒褐色小礫まじり砂	2.3	1.7	1.18	砂岩	金山	112
836	石鏡	I区	Q24		2.8	1.1	1.19	砂岩	金山	112
837	石鏡	I区	Q4-8	黒褐色小礫まじり砂	2.1	1.5	1.19	砂岩	金山	112
838	石鏡	I区	K17	黒褐色小礫まじり砂	2.2	1.4	1.2	砂岩	金山	112
839	石鏡	I区	SD01トンネル		2.5	1.3	1.21	砂岩	金山	112
840	石鏡	I区	O17	黒褐色小礫まじり砂	2.4	1.4	1.23	砂岩	金山	112
841	石鏡	I区	沢堀トンネル南部	上面積査	3	1.1	1.24	砂岩	金山	112
842	石鏡	I区	M18	黒褐色小礫まじり砂	2.3	1	1.25	砂岩	金山	112
843	石鏡	I区	SD01-A区		2	1.7	1.3	砂岩	金山	112
844	石鏡	I区	SD01-A区		2.5	1.9	1.31	砂岩	金山	112
845	石鏡	I区	R21	黒褐色小礫まじり砂	2.3	1.3	1.33	砂岩	金山	112
846	石鏡	I区	R33	黒褐色小礫まじり砂	3	1.5	1.33	砂岩	金山	112
847	石鏡	I区	Q31	黒褐色小礫まじり砂	3.2	1.4	1.34	砂岩	金山	112
848	石鏡	I区	T16		2.3	1.9	1.39	砂岩	金山	112
849	石鏡	I区	SD01トンネル	積査中	2.5	1.5	1.39	砂岩	金山	112
850	石鏡	I区	F13		2.3	1.6	1.42	砂岩	金山	112
851	石鏡	I区	T18	黒褐色小礫まじり砂	2.3	1.6	1.43	砂岩	金山	112
852	石鏡	I区	M17		2.6	1.7	1.44	砂岩	金山	112
853	石鏡	I区	K19	黒褐色小礫まじり砂	2.1	1.7	1.46	砂岩	金山	112
854	石鏡	I区	H6		2.3	2	1.47	砂岩	金山	112
855	石鏡	I区	G18		2.3	1.5	1.48	砂岩	金山	112
856	石鏡	I区	J18		2.8	1.7	1.5	砂岩	金山	112
857	石鏡	I区	N25		2.6	1.5	1.51	砂岩	金山	112
858	石鏡	I区	N7		2.7	1.5	1.62	砂岩	金山	112

第92表 庵の谷遺跡未実測石器観察表(6)

番号	器種	地区名	遺構名	測位	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	石材	備考	図版
859	石鏡	I区	東端	上面精査	3.4	1.3	1.62	※30付	金山	112
860	石鏡	I区	N8		2.5	1.7	1.65	※30付	金山	112
861	石鏡	I区	R24		3.2	1.6	1.69	※30付	金山	112
862	石鏡	I区	南壁	造成上除去土	2.1	1.7	1.71	※30付	金山	112
863	石鏡	I区	J4	黒褐色小礫まじり砂	3	1	1.82	※30付	金山	112
864	石鏡	I区	G12		2.2	2.1	1.88	※30付	金山	112
865	石鏡	I区	武蔵町の西部	上面精査	3.1	1.5	1.91	※30付	金山	113
866	石鏡	II区		黒褐色小礫まじり砂	2.7	1.6	1.98	※30付	金山	113
867	石鏡	I区	S17	黒褐色小礫まじり砂	2.5	1.6	1.99	※30付	金山	113
868	石鏡	I区	L17		3.8	1.8	2.01	※30付	金山	113
869	石鏡	I区	L17		3.2	1.6	2.05	※30付	金山	113
870	石鏡	I区	H18		3.3	1.7	2.08	※30付	金山	113
871	石鏡	I区	T17	黒褐色小礫まじり砂	2.6	1.8	2.1	※30付	金山	113
872	石鏡	I区	K21		3.4	1.8	2.14	※30付	金山	113
873	石鏡	I区	H9		3.5	1.8	2.14	※30付	金山	113
874	石鏡	I区	M18		2.3	2.1	2.16	※30付	金山	113
875	石鏡	I区			2.8	1.3	2.2	※30付	金山	113
876	石鏡	I区	K2		3.4	1.7	2.2	※30付	金山	113
877	石鏡	I区	SD01北の2		2.5	1.7	2.21	※30付	金山	113
878	石鏡	I区	P27		3.5	1.6	2.24	※30付	金山	113
879	石鏡	I区	L17		2.7	1.9	2.24	※30付	金山	113
880	石鏡	I区	N24		2.7	1.8	2.25	※30付	金山	113
881	石鏡	I区	SD01-B区		3	1.4	2.25	※30付	金山	113
882	石鏡	I区	E13		2.9	1.8	2.25	※30付	金山	113
883	石鏡	I区	J22		3	2.1	2.27	※30付	金山	113
884	石鏡	I区	O5		2.9	1.8	2.32	※30付	金山	113
885	石鏡	I区	N28		3	1.9	2.37	※30付	金山	113
886	石鏡	I区	J15		3.6	1.9	2.38	※30付	金山	113
887	石鏡	I区	M27		3.3	1.9	2.42	※30付	金山	114
888	石鏡	I区	SD01-A区		2.9	1.7	2.44	※30付	金山	114
889	石鏡	I区	K19		3.7	2	2.52	※30付	金山	114
890	石鏡	I区	東端	上面精査	2.5	2.2	2.52	※30付	金山	114
891	石鏡	I区	O28		3.5	1.3	2.53	※30付	金山	114
892	石鏡	I区	東一段	上面精査	3	2.2	2.61	※30付	金山	114
893	石鏡	I区	U25		3.1	1.7	2.61	※30付	金山	114
894	石鏡	I区	Q31		3.7	2.2	2.65	※30付	金山	114
895	石鏡	I区	SH02-AB区間の5+		2.7	2.3	2.66	※30付	金山	114
896	石鏡	I区	J20		4	2.1	2.91	※30付	金山	114
897	石鏡	I区			3.7	1.9	2.96	※30付	金山	114
898	石鏡	I区	西側溝	精査中	3.6	2	2.97	※30付	金山	114
899	石鏡	I区	M18		2.9	2	3.06	※30付	金山	114
900	石鏡	I区	N28		3.8	1.7	3.18	※30付	金山	114
901	石鏡	I区	東一段	上面精査	3.3	1.7	3.38	※30付	金山	114
902	石鏡	I区	西側溝		4	2	3.6	※30付	金山	114
903	石鏡	I区		黒褐色小礫まじり砂	3.5	1.9	3.67	※30付	金山	114
904	石鏡	I区	R25	黒褐色小礫まじり砂	3.6	2.2	3.69	※30付	金山	114
905	石鏡	I区	S30		3.3	1.9	3.89	※30付	金山	114
906	石鏡	I区	SD01-A区		3.3	2.1	3.9	※30付	金山	115
907	石鏡	I区	M25		4.1	1.8	4.84	※30付	金山	115
908	石鏡	I区	Q33		4.3	1.8	6.24	※30付	金山	115
909	石鏡	I区	M3	黒褐色小礫まじり砂	1.3	1	0.37	※30付	金山	115
910	石鏡	I区	S24	黒褐色小礫まじり砂	1.3	0.9	0.37	※30付	金山	115
911	石鏡	I区	S24		1.8	0.9	0.38	※30付	金山	115

第93表 庵の谷遺跡未実測石器観察表(7)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	石材	備考	図版
912	石鏡	I区	試掘トレンチ西部	上面精査(石器)	1.9	0.9	0.4	砂岩	金山	115
913	石鏡	I区	東	上面精査	1.3	1.4	0.43	砂岩	金山	115
914	石鏡	I区	S19	黒褐色小鏡まじり鏡	1.2	1.3	0.41	砂岩	金山	115
915	石鏡	I区	SD01-B区		1.9	0.9	0.45	砂岩	金山	115
916	石鏡	I区	H13	黒褐色小鏡まじり鏡	1.5	0.9	0.45	砂岩	金山	115
917	石鏡	I区	F13		2.4	1	0.45	砂岩	金山	115
918	石鏡	I区	O31		1.5	1.2	0.46	砂岩	金山	115
919	石鏡	I区	U21		1.7	1.4	0.47	砂岩	金山	115
920	石鏡	I区	東段	上面精査	2.1	1	0.5	砂岩	金山	115
921	石鏡	I区	S17	黒褐色小鏡まじり鏡	1.7	1.1	0.52	砂岩	金山	115
922	石鏡	I区	N18	黒褐色小鏡まじり鏡	1.8	1.1	0.53	砂岩	金山	115
923	石鏡	I区	N17	黒褐色小鏡まじり鏡	1.3	1.2	0.57	砂岩	金山	115
924	石鏡	I区	H21	黒褐色小鏡まじり鏡	1.5	1.5	0.57	砂岩	金山	115
925	石鏡	I区	S29		1.9	1.2	0.59	砂岩	金山	115
926	石鏡	I区	K6	黒褐色小鏡まじり鏡	1.2	1.3	0.6	砂岩	金山	115
927	石鏡	I区	K16	黒褐色小鏡まじり鏡	1.7	1.1	0.62	砂岩	金山	115
928	石鏡	I区	S23	黒褐色小鏡まじり鏡	1.6	1.3	0.64	砂岩	金山	115
929	石鏡	I区	I4	黒褐色小鏡まじり鏡	2	1.3	0.65	砂岩	金山	115
930	石鏡	I区	包含層掘削	黒褐色小鏡まじり鏡	1.4	1	0.65	砂岩	金山	115
931	石鏡	I区	K19	黒褐色小鏡まじり鏡	2.5	1	0.67	砂岩	金山	115
932	石鏡	I区	T27	黒褐色小鏡まじり鏡	1.8	1.4	0.69	砂岩	金山	115
933	石鏡	I区	I15	黒褐色小鏡まじり鏡	1.9	1.1	0.7	砂岩	金山	115
934	石鏡	I区	K16	黒褐色小鏡まじり鏡	1.6	1.6	0.72	砂岩	金山	115
935	石鏡	I区	I14	黒褐色小鏡まじり鏡	2	1.2	0.74	砂岩	金山	115
936	石鏡	I区	遺構面	上面精査	1.2	1.6	0.75	砂岩	金山	115
937	石鏡	I区	U21	黒褐色小鏡まじり鏡	2.2	1.6	0.77	砂岩	金山	115
938	石鏡	I区	Q19	黒褐色小鏡まじり鏡	2.2	1.6	0.79	砂岩	金山	115
939	石鏡	I区	U13	黒褐色小鏡まじり鏡	2.2	1	0.81	砂岩	金山	115
940	石鏡	I区	南西部	上面精査	2	1.3	0.85	砂岩	金山	115
941	石鏡	I区	M3	黒褐色小鏡まじり鏡	2.2	1.3	0.86	砂岩	金山	115
942	石鏡	I区			2.5	1.3	0.87	砂岩	金山	115
943	石鏡	I区	G8	黒褐色小鏡まじり鏡	1.8	1.7	0.88	砂岩	金山	115
944	石鏡	I区	P30	黒褐色小鏡まじり鏡	1.8	1.7	0.88	砂岩	金山	115
945	石鏡	I区		包含層上面精査	1.8	1.4	0.88	砂岩	金山	115
946	石鏡	I区	U25	黒褐色小鏡まじり鏡	1.9	1.4	0.88	砂岩	金山	115
947	石鏡	I区	O23		1.8	1.6	0.89	砂岩	金山	115
948	石鏡	I区	W20		2.1	1.2	0.89	砂岩	金山	115
949	石鏡	I区	G17	黒褐色小鏡まじり鏡	2	1.2	0.9	砂岩	金山	115
950	石鏡	I区	I15	黒褐色小鏡まじり鏡	2.3	1.4	0.91	砂岩	金山	115
951	石鏡	I区	試掘トレンチ北部	上面精査	1.7	1.2	0.93	砂岩	金山	116
952	石鏡	I区	I17	黒褐色小鏡まじり鏡	1.4	1.5	0.95	砂岩	金山	116
953	石鏡	I区	S17	黒褐色小鏡まじり鏡	1.4	1.6	0.99	砂岩	金山	116
954	石鏡	I区	N17	黒褐色小鏡まじり鏡	2.7	1.5	0.75	砂岩	金山	116
955	石鏡	I区	U22	黒褐色小鏡まじり鏡	2.7	1.4	1.03	砂岩	金山	116
956	石鏡	I区	N27		2.1	1.3	1.05	砂岩	金山	116
957	石鏡	I区	Q22	黒褐色小鏡まじり鏡	2	1.5	1.09	砂岩	金山	116
958	石鏡	I区	Q20	黒褐色小鏡まじり鏡	2.8	1.5	1.12	砂岩	金山	116
959	石鏡	I区		上面精査	2.5	1.1	1.12	砂岩	金山	116
960	石鏡	I区	試掘トレンチ北部	上面精査	1.8	1.8	1.14	砂岩	金山	116
961	石鏡	I区	G14		2.5	1.6	1.15	砂岩	金山	116
962	石鏡	I区		包含層ト層上面精査	1.7	1.8	1.18	砂岩	金山	116
963	石鏡	I区	T17	黒褐色小鏡まじり鏡	1.5	2.1	1.2	砂岩	金山	116
964	石鏡	I区	U17		2.3	1.2	1.22	砂岩	金山	116

第94表 庵の谷遺跡未実測石器観察表(8)

番号	器種	地区名	遺構名	部位	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	素材	備考	図版
965	石鏃	I区		黒褐色小鏃まじり珪石 上面精査	2.3	1.3	1.22	珪石	金山	116
966	石鏃	I区	SD01-B1c		2.4	1.6	1.27	珪石	金山	116
967	石鏃	I区		上面精査	2.6	1.3	1.27	珪石	金山	116
968	石鏃	I区	M26	黒褐色小鏃まじり珪石	3	1.5	1.31	珪石	金山	116
969	石鏃	I区	V22		2.5	1.6	1.33	珪石	金山	116
970	石鏃	I区	SD01-B1c		2	1.6	1.36	珪石	金山	116
971	石鏃	I区	K1	黒褐色小鏃まじり珪石	2.3	1.4	1.4	珪石	金山	116
972	石鏃	I区	SD01-A1c		3.2	1.5	1.4	珪石	金山	116
973	石鏃	I区	SD01-A1c		2.7	1.6	1.41	珪石	金山	116
974	石鏃	I区	K18		3.2	1.4	1.5	珪石	金山	116
975	石鏃	I区		上面精査	2.7	1.5	1.52	珪石	金山	116
976	石鏃	I区	K16	黒褐色小鏃まじり珪石	2.7	1.2	1.53	珪石	金山	116
977	石鏃	I区	K6		3	1.3	1.53	珪石	金山	116
978	石鏃	I区	J22		2.8	1.5	1.56	珪石	金山	116
979	石鏃	I区	K16		3.5	1.5	1.56	珪石	金山	116
980	石鏃	I区	I15		2.7	1.2	1.6	珪石	金山	116
981	石鏃	I区	P30	黒褐色小鏃まじり珪石	1.8	1.8	1.62	珪石	金山	116
982	石鏃	I区	S21	黒褐色小鏃まじり珪石	2.1	1.8	1.61	珪石	金山	116
983	石鏃	I区	I11		2.3	1.6	1.74	珪石	金山	116
984	石鏃	I区	南西部	上面精査	2.3	1.5	1.71	珪石	金山	116
985	石鏃	I区	Q30		2.5	1.3	1.76	珪石	金山	116
986	石鏃	I区	東端	上面精査	2.8	1.7	1.86	珪石	金山	116
987	石鏃	I区	U13	黒褐色小鏃まじり珪石	2.7	2.1	1.88	珪石	金山	116
988	石鏃	I区	SD01-B1c		2.5	1.5	1.89	珪石	金山	117
989	石鏃	I区	G19	黒褐色小鏃まじり珪石	2.9	1.8	1.9	珪石	金山	117
990	石鏃	I区	R20	黒褐色小鏃まじり珪石	2.4	2.2	1.92	珪石	金山	117
991	石鏃	I区	S27	黒褐色小鏃まじり珪石	2.5	1.8	1.95	珪石	金山	117
992	石鏃	II区		黒褐色小鏃まじり珪石	2.5	1.8	1.99	珪石	金山	117
993	石鏃	I区	東一段	上面精査	4.1	1.7	2.08	珪石	金山	117
994	石鏃	I区	U13	黒褐色小鏃まじり珪石	2.2	1.8	2.08	珪石	金山	117
995	石鏃	I区	K25	黒褐色小鏃まじり珪石	2.3	2.1	2.14	珪石	金山	117
996	石鏃	I区	T22	黒褐色小鏃まじり珪石	3.1	1.4	2.16	珪石	金山	117
997	石鏃	I区	K18	黒褐色小鏃まじり珪石	2.4	1.8	2.35	珪石	金山	117
998	石鏃	I区	T21	黒褐色小鏃まじり珪石	2	2.3	2.47	珪石	金山	117
999	石鏃	I区	鉢形トンネル西部	上面精査(石器)	2.7	1.9	2.5	珪石	金山	117
1000	石鏃	I区	R29	黒褐色小鏃まじり珪石	2.5	1.8	2.51	珪石	金山	117
1001	石鏃	I区	F19	黒褐色小鏃まじり珪石	2.5	1.6	2.55	珪石	金山	117
1002	石鏃	I区		包舎層上面精査	2.7	2	2.58	珪石	金山	117
1003	石鏃	I区		上面精査	3	1.8	2.58	珪石	金山	117
1004	石鏃	I区		黒褐色小鏃まじり珪石	2.8	2	2.68	珪石	金山	117
1005	石鏃	I区	N28	黒褐色小鏃まじり珪石	2.7	2.1	2.89	珪石	金山	117
1006	石鏃	II区		黒褐色小鏃まじり珪石	3.7	1.9	3.4	珪石	金山	117
1007	石鏃	I区	Q25		3.8	2.1	7	珪石	金山	117
1008	石鏃	I区	V25	黒褐色小鏃まじり珪石	1.4	0.5	0.22	珪石	金山	118
1009	石鏃	I区	S16	黒褐色小鏃まじり珪石	1.3	0.6	0.23	珪石	金山	118
1010	石鏃	I区	遺構面	上面精査	1.9	0.5	0.41	珪石	金山	118
1011	石鏃	I区	N3	黒褐色小鏃まじり珪石	1.9	0.6	0.47	珪石	金山	118
1012	石鏃	I区	南壁造成上	除去	2	0.8	0.58	珪石	金山	118
1013	石鏃	I区	M28	黒褐色小鏃まじり珪石	2.7	0.7	0.7	珪石	金山	118
1014	石鏃	I区	SD01トンネル2	暗褐色小鏃まじり珪石	2.3	1.7	1.3	珪石	金山	118
1015	石鏃	I区	R18		2.3	2.3	1.37	珪石	金山	118
1016	石鏃	I区	O31		2.3	2.1	1.59	珪石	金山	118
1017	石鏃	I区	L5		2.4	1.5	1.16	珪石	金山	118

第95表 庵の谷遺跡未実測石器観察表(9)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	石質	備考	図版
1018	石鏝	I区	SD01-B区		3.1	1.8	1.91	珩石付	金二	118
1019	石鏝	I区	L20	黒褐色小磯まじり状	2.2	1.5	1.17	珩石付	金山	118
1020	石鏝	I区	I17		2.8	1.6	1.18	珩石付	金山	118
1021	石鏝	I区	I15	黒褐色小磯まじり状	1.9	1.4	1.21	珩石付	金山	118
1022	石鏝	I区		上面精査	3.3	0.9	1.3	珩石付	金山	118
1023	石鏝	I区	L2		2.3	2.1	1.45	珩石付	金山	118
1024	石鏝	I区	S24	黒褐色小磯まじり状	3.2	0.7	1.59	珩石付	金山	118
1025	石鏝	I区	V25	黒褐色小磯まじり状	1.8	2.4	1.9	珩石付	金山	118
1026	石鏝	I区	K21		2.4	1.9	1.95	珩石付	金山	118
1027	石鏝	I区	M5	黒褐色小磯まじり状	2.8	1.7	1.98	珩石付	金山	118
1028	石鏝	I区	SD01-A区		4.2	1.6	2.06	珩石付	金二	118
1029	石鏝	I区	K22		2.5	1.8	2.3	珩石付	金二	118
1030	石鏝	I区		包含層上面精査	2.7	2	2.38	珩石付	金山	118
1031	石鏝	I区	SD01 B区		4.1	2.1	2.67	珩石付	金山	118
1032	石鏝	I区	T29		4.8	2.5	6.28	珩石付	金山	118
1033	石鏝	I区	SD01 A区		1.9	1	0.55	珩石付	金山	119
1034	石鏝	I区	N5	黒褐色小磯まじり状	1.8	1.4	0.67	珩石付	金山	119
1035	石鏝	II区		黒褐色小磯まじり状	2.1	1.1	0.8	珩石付	I	119
1036	石鏝	I区	R21	黒褐色小磯まじり状	2.1	1.7	1.06	珩石付	I	119
1037	石鏝	I区		黄褐色礫まじり状層(地山)上面精査	2.2	1.6	1.31	珩石付	I	119
1038	石鏝	I区	I15	黒褐色小磯まじり状	2.4	1.7	1.51	珩石付	I	119
1039	石鏝	I区	L21	黒褐色小磯まじり状	2.7	1.7	1.78	珩石付	金山	119
1040	石鏝	I区		黄褐色礫まじり状層(地山)上面精査	1.5	0.5	0.15	珩石付	金山	119
1041	石鏝	I区	試験場以西西部	上面精査	1.2	1.2	0.28	珩石付	金山	119
1042	石鏝	I区	SP42		1.5	1.3	0.41	珩石付	金山	119
1043	石鏝	I区		黄褐色礫まじり状層(地山)上面精査	1.7	1	0.31	珩石付	O	119
1044	石鏝	I区	I4	黒褐色小磯まじり状	1.7	0.8	0.11	珩石付	O	119
1045	石鏝	I区	P2		1.5	1.4	0.5	珩石付	O	119
1046	石鏝	I区	F4	黒褐色小磯まじり状	1.3	1.5	0.52	珩石付	金山	119
1047	石鏝	I区	遺構面	上面精査	1.4	1.1	0.53	珩石付	O	119
1048	石鏝	I区		黄褐色礫まじり状層(地山)上面精査	1.4	1.7	0.54	珩石付	O	119
1049	石鏝	I区	V24		1.7	1.4	0.62	珩石付	O	119
1050	石鏝	I区	G3		2.3	1.2	0.74	珩石付	O	119
1051	石鏝	I区	N18	黒褐色小磯まじり状	2.2	1.2	0.76	珩石付	金山	119
1052	石鏝	I区	G1	黒褐色小磯まじり状	1.5	1.6	0.83	珩石付	金山	119
1053	石鏝	I区	I4	黒褐色小磯まじり状	2.5	1.2	0.87	珩石付	O	119
1054	石鏝	I区	V4	黒褐色小磯まじり状	2.4	1.2	0.92	珩石付	O	119
1055	石鏝	I区		黄褐色礫まじり状層(地山)上面精査	2.1	1.2	0.96	珩石付	O	119
1056	石鏝	I区	遺構面	上面精査	2.7	1.3	1.57	珩石付	O	119
1057	石鏝	II区		黒褐色小磯まじり状	1.2	1	0.25	珩石付	金山	119
1058	石鏝	II区		黒褐色小磯まじり状層	1.4	1.2	0.29	珩石付	金山	119
1059	石鏝	II区		上面精査	1.6	1.1	0.36	珩石付	金山	119
1060	石鏝	II区		黒褐色小磯まじり状層	1.9	1.3	0.72	珩石付	金山	119
1061	石鏝	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	1.7	1.2	0.84	珩石付	金山	119
1062	石鏝	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2	1.2	0.84	珩石付	金山	119
1063	石鏝	II区		上面精査	2.5	1.2	0.87	珩石付	金山	119
1064	石鏝	II区		黒褐色小磯まじり状層	2.5	1.5	0.92	珩石付	金山	119
1065	石鏝	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.4	1.1	0.87	珩石付	金山	119
1066	石鏝	II区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.2	1.4	0.99	珩石付	金山	119
1067	石鏝	II区		黒褐色小磯まじり状	1.4	1.5	1.03	珩石付	金山	119

第96表 庵の谷遺跡未実測石器観察表(10)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	石材	備考	図版
1068	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.2	1.5	1.07	※付イ	金山	119
1069	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.2	1.2	1.09	※付イ	金山	119
1070	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.6	1.7	1.11	※付イ	金山	119
1071	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト層	1.8	1.3	1.13	※付イ	金山	119
1072	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.2	1.6	1.2	※付イ	金山	119
1073	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2	1.6	1.23	※付イ	金山	119
1074	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト層	2.1	1.3	1.27	※付イ	金山	119
1075	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3.2	1.8	1.31	※付イ	金山	119
1076	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト	2.3	1.8	1.33	※付イ	金山	119
1077	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト層	3.1	1.2	1.39	※付イ	金山	119
1078	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.2	1.5	1.39	※付イ	金山	120
1079	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト層	3	1.4	1.41	※付イ	金山	120
1080	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3	1.2	1.52	※付イ	金山	120
1081	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.4	1.4	1.84	※付イ	金山	120
1082	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト	2.2	1.6	1.84	※付イ	金山	120
1083	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.8	1.9	1.87	※付イ	金山	120
1084	石鏡	Ⅱ区		上面精査	3.5	1.5	1.88	※付イ	金山	120
1085	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト層	2.5	2	1.91	※付イ	金山	120
1086	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.8	1.7	2.17	※付イ	金山	120
1087	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト層	3.1	1.7	2.31	※付イ	金山	120
1088	石鏡	Ⅱ区		黄褐色小礫まじりシルト	3.4	2.4	2.58	※付イ	金山	120
1089	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3.4	1.8	2.75	※付イ	金山	120
1090	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト	3.5	2.1	2.76	※付イ	金山	120
1091	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3	2	2.95	※付イ	金山	120
1092	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト層	3.4	1.4	3.3	※付イ	金山	120
1093	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3	1.9	4.16	※付イ	金山	120
1094	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	3.1	1.1	1.27	※付イ	金山	120
1095	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト層	3	1.4	1.95	※付イ	金山	120
1096	スライ -	Ⅱ区		炭終かりかけ	3.9	4.7	18.86	※付イ	金山	120
1097	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	1.6	1.1	0.41	※付イ	I	121
1098	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.4	1.4	0.85	※付イ	I	121
1099	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.4	1.5	1.5	※付イ	I	121
1100	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.5	1.5	1.92	※付イ	I	121
1101	石鏡	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	2.7	1.4	2.29	※付イ	I	121
1102	石鏡	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト層	2.2	2	1.72	※付イ	金山	121
1103	スライ -	I区	H8	黒褐色小礫まじりシルト	3.1	2.8	4.1	※付イ	金山	121
1104	スライ -	I区	K19	黒褐色小礫まじりシルト	2.8	3	4.58	※付イ	金山	121

第97表 庵の谷遺跡未実測石器観察表(11)

番号	器種	地区名	遺構名	層位	重量(g)	材質
199	不明	I区	SI10A区		5.09	鉄
502	不明	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト層	1.6	鉄
469	刀子	I区	試掘トンチ	上面精査	9.41	鉄
200	不明	I区	SI10-D区		3.07	鉄
528	鋤先	Ⅱ区	側溝		12.46	鉄
538	鉄鏃	Ⅲ区	北壁	側溝	11.08	鉄
282	不刃	I区	SD01 A区		22.98	鉄
334	鉄鏃	I区	N6	黒褐色小礫まじりシルト	4.43	鉄
503	不明	Ⅱ区		黒褐色小礫まじりシルト層	8.1	鉄
487	不明	Ⅱ区		黄褐色まじり灰色粘質土層	4.11	鉄
337	不明	Ⅲ区		上面精査	7.08	鉄
335	不刃	I区	17	黒褐色小礫まじりシルト	8.4	鉄
334	不明	Ⅲ区		黒褐色灰色砂まじりシルト	10.22	鉄
201	不明	I区	SI101	ロズビット	2.32	鉄
535	不明	Ⅲ区		黒褐色灰色砂まじりシルト	176.71	鉄
470	不明	I区	K20		10.29	鉄
336	不明	Ⅲ区		褐色色砂まじりシルト	5.37	鉄
539	銅銭	Ⅲ区		灰褐色砂まじりシルト	0.81	銅

第98表 庵の谷遺跡金属器観察表

版 圖



調査前 東から



I区 空中写真



I区 全景 南から



II区 空中写真



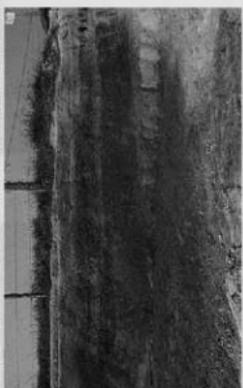
Ⅱ区 全景 南から



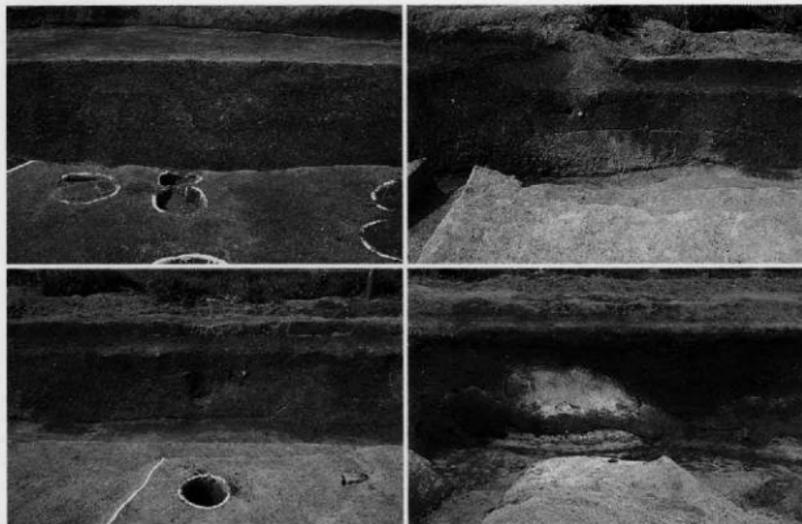
Ⅱ区 全景 東から



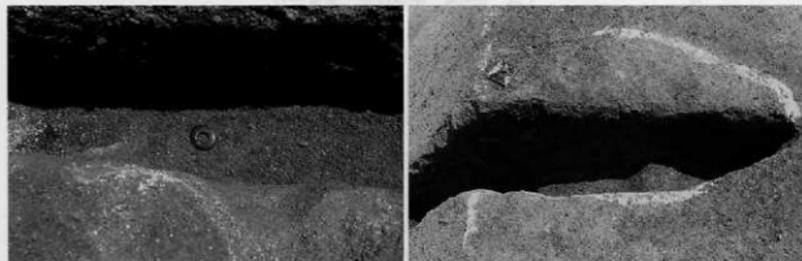
Ⅱ区 中央畦断面 南東から



Ⅰ区 北壁断面 南から



I区北壁断面 南から

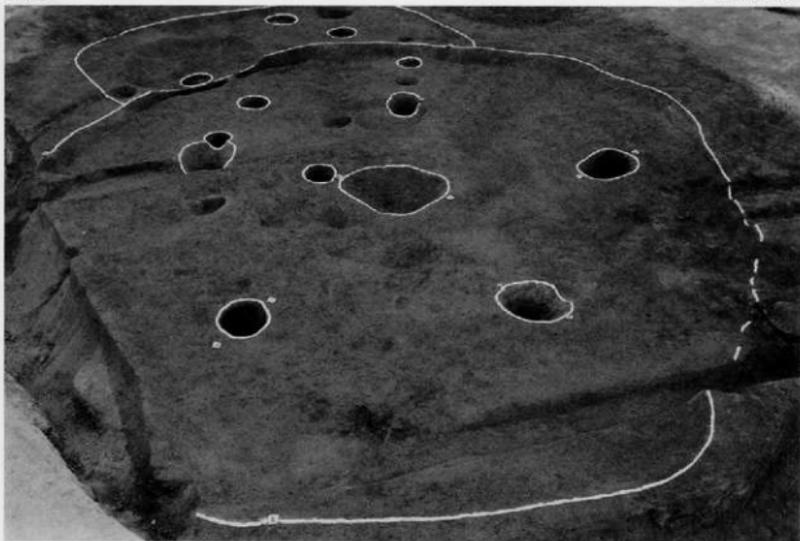


块状耳飾出土状況

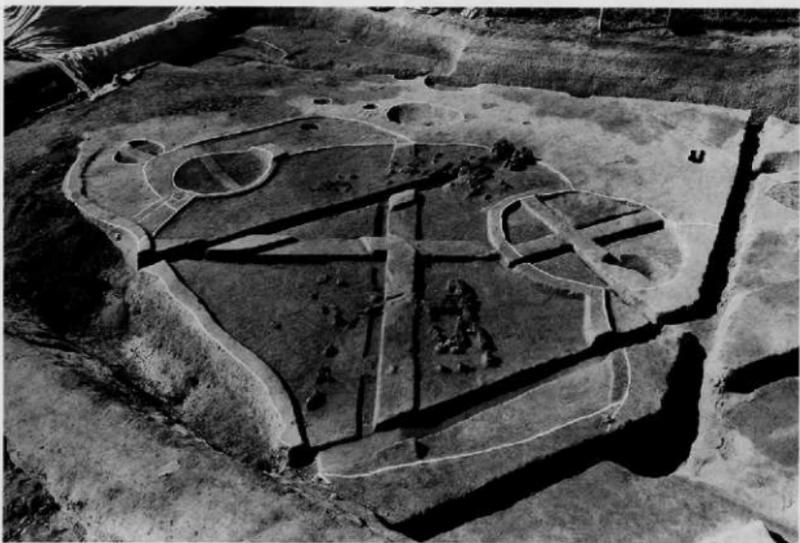
II区SX29 断面



I区SD01 断面



I区 SH04 完掘状況 南東から



I区 SH04 炭化材出土状況



I 区 SK23断面 南東から



I 区 中央畦断面の遺構 南東から



I 区 SH04炭化材出土状況 北東から



I 区 中央畦断面の遺構 南東から



I区 SK25断面 東から



II区 SK32断面 北から



II区 SK33断面 北東から



Ⅱ区 ST02断面 東から



Ⅰ区 SX04断面 西から



Ⅱ区 SX24焼土出土状況 東から



Ⅱ区 SX27断面 南東から



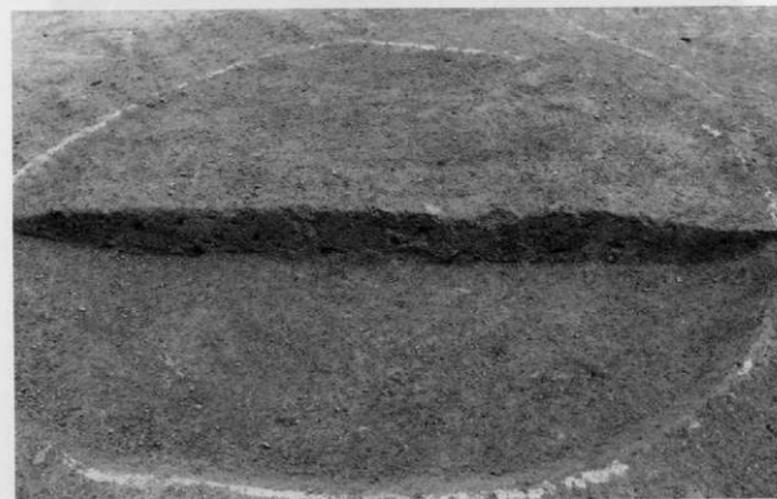
Ⅱ区 SH05・06完掘 西から



Ⅰ区 SK01土器出土状況 北から



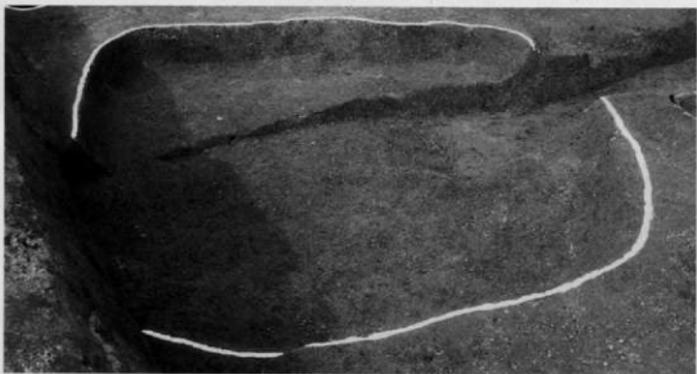
I区 SK06断面及び土器出土状況 北から



I区 SK08断面 南から



I区SK21土器出土状況 南から



I区 SX01完掘 南から



I区 SX02土器出土状況 西から



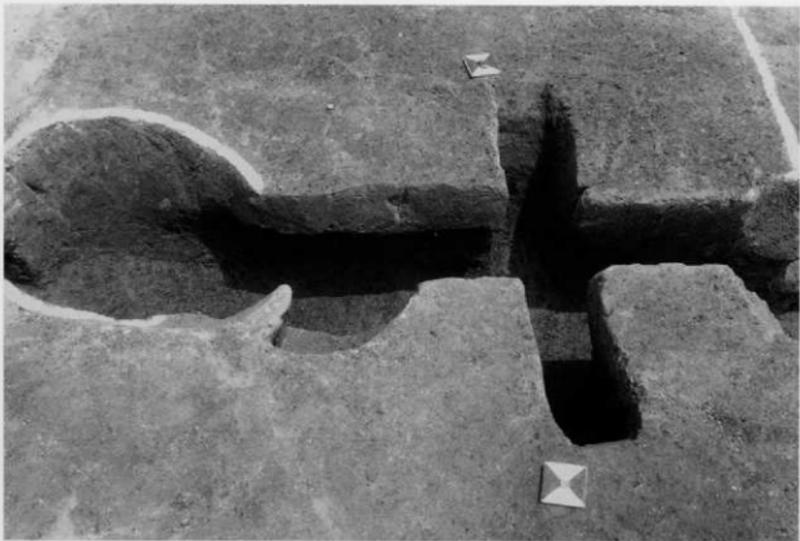
I区 SX02土器出土状況 北から



SH02完掘状況 南東から



SH02竈 南東から



SH02煙道 南西から



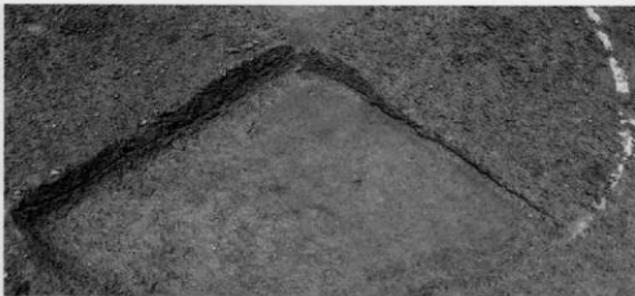
SH02K 1 遺物出土状況 南から



I区 SB01完掘 北東から



I区 SK02断面 南西から



Ⅱ区 SK26断面 南東から



Ⅱ区 SK27断面 南東から



Ⅱ区 SK28断面 北から



Ⅱ区 SK29断面 南東から



Ⅱ区 SK30断面 南東から



Ⅱ区 SX15断面 南から



Ⅱ区 SX25・26完掘 南西から



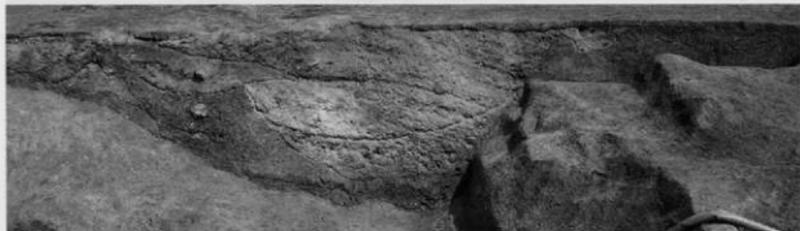
Ⅱ区 SX25東西断面(1) 南西から



Ⅱ区 SX25東西断面(2) 南西から



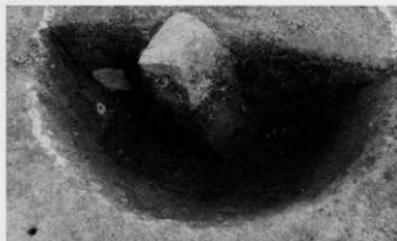
SR03断面(北) 南東から



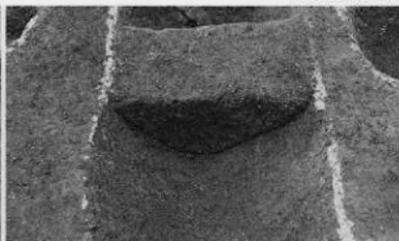
SR03断面(南) 南東から



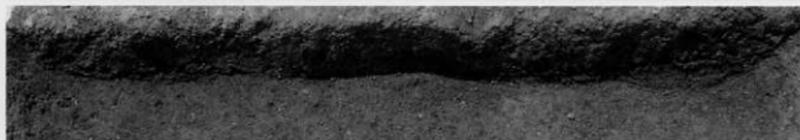
Ⅱ区 中世建物群 南西から



Ⅱ区 SK04銅銭出土状況 北から



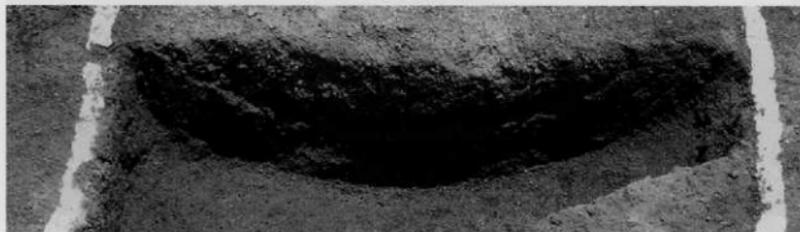
Ⅱ区 SD04断面 北から



Ⅱ区 SK01断面 北から



Ⅱ区 SK03断面 北から



Ⅱ区 SK05断面 西から